児玉町文化財調査報告書　第22集

藤　塚　遺　跡

―― B２地点の調査 ――

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書17

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

児玉町文化財調査報告書　第22集

藤塚遺跡

―― B２地点の調査 ――

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書17

1996

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

序

ふと、子どもの頃を回想するとき、日頃見慣れた風景も実は徐々に変化してきたことに気がつきます。このような変化の積み重ねが、長い年月の間に今日の地域的な景観を形作っているのでしょう。私たちの祖先の日々の努力が、児玉の環境を住み良い土地に作り替えていったのです。しかし、日頃意識されることのない「郷土」の意識は、異なった地域の人たちに接するときに、果たして「誇るべき郷土」として私たちの意識に上るでしょうか。

「地方の時代」といわれて久しい昨今、“町起こし”や“村起こし”が活発に行われています。しかし、観光等で成功した一部の町村を除いて、これらが本当に地域の活性化につながっているのでしょうか。「地方」の意識が「都会」に対するある種の劣等意識を拭いきれないでいるのなら、〈中央－地方〉の関係を乗り越えることはできないでしょう。「地方」の意識は、近代化のもつ価値意識に潜むものだと考えられるからです。

郷土の誇りとは、実はこのような近代的な都鄙意識を乗り越える枠組みの形成と表裏を成すものであるのですから、決して短時日で成し遂げられるものではないでしょう。排他的な地域ナショナリズムに根ざす頑なな郷土愛は、我々にとって決して有益なものではないはずです。それぞれの「地域」は決して孤立したものではなく、相互に他の地域と交渉し依存しあっていることを前提とするような「地域」の意識を育む努力は、地域に累積した歴史的営為の理解を基礎としなければならないでしょう。郷土の正しい理解を助けることも我々の重要な責務のひとつです。文化財の保護と活用が望まれる所以です。

このささやかな報告書は、文化財の保護と活用にとっての第一歩であるに過ぎませんが、町民の皆様をはじめ教育・研究にたずさわる皆様のご参考となりえるならば幸いです。このたびこの発掘調査報告書が刊行できましたことは、町民の皆様や埼玉県本庄土地改良事務所をはじめ多くの関係諸機関ならびに関係各位のご協力の賜と深く感謝いたします。私どもも「児玉町を愛する人間の育成」を教育目標の一つに掲げ、文化財を活用しつつ社会教育の活動に努めて参る所存ですので、皆様のこれまで以上のご協力を心よりお願い申しあげます。

平成８年２月14日

児玉町教育委員会
教育長　冨　丘　文　雄

例　言

1、本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字蛭川字柿島ほかに所在する藤塚遺跡Ｂ２地点の発掘調査報告書である。

2、発掘調査は、県営ほ場整備事業（児玉北部地区）に先立つ町内遺跡保存事業として、平成２年度に児玉町教育委員会が実施したものである。

3、調査の担当は、鈴木徳雄・徳山寿樹があたった。

4、発掘調査および整理・報告書に要した経費は、町費・国庫補助金・県費補助金（埼玉県教育委員会）および委託金（埼玉県）である。

5、本書の編集は、整理参加者の協力を得て徳山寿樹が行い、執筆分担については各文末に記した。

6、発掘調査及び本書作成にあたって下記の方々や機関から御助言・御協力を賜った。（順不同、敬称略）

赤熊　浩一、荒川　正夫、池田　敏宏、尾崎　美砂、岩瀬　　譲、岩本　克昌、梅沢太久夫
江原　　英、大倉　　潤、太田　博之、大屋　道則、金子　彰男、駒宮　史朗、小宮山克己
酒井　清治、坂本　和俊、笹森　健一、篠崎　　潔、外尾　常人、高橋　一夫、高村　敏則
瀧瀬　芳之、田村　　誠、千装　　智、利根川章彦、鳥羽　政之、永井　智教、長滝　歳康
中村　倉司、長谷川　勇、坂野　和信、菱山栄三郎、平田　重之、増田　逸朗、増田　一裕
松澤　浩一、丸山　　修、丸山　陽一、水村　孝行、宮本　直樹、矢内　　勲、山川　守男
山口　逸弘、弓　　明義、吉田　　学、渡辺　　一、埼玉県生涯学習部文化財保護課
埼玉県本庄土地改良事務所、県埋蔵文化財調査事業団、児玉北部土地改良区
児玉郡市文化財担当者会議、東海大学考古学研究会、中央大学考古学研究会

7、本書作成の主な作業分担は、次のとおりである。

土器接合・復元（赤堀俊子、新井千都子、白石敏子、野沢公代、福島礼子）
土器復元ほか（田口照代、林　和代、新井栄子、根岸富士江）
土器観察・実測（大熊季広、佐藤博之、井口泰基）
遺構原図操作（徳山寿樹、大熊季広、尾内俊彦、新井嘉人）
トレース（倉林八重子、中原好子）
遺物写真（尾内俊彦）
本文レイアウト（徳山寿樹）

発掘調査の組織

平成２年度（発掘調査）

調査主体	児玉町教育委員会	
事務局	児玉町教育委員会社会教育課	
	課長	吉川　豊
	課長補佐	立花　勲
	課長補佐	前川由雄
	主任	金子幸弘
	主事	渋谷路子
	主事	恋河内昭彦
担当者	主任	鈴木徳雄
	主事	徳山寿樹
調査員補		千装　智
		尾内俊彦

平成７年度（整理・報告）

調査主体	児玉町教育委員会	
事務局	児玉町教育委員会社会教育課	
	課長	大塚　勲
	課長補佐	関根安男
	係長	清水　満
	主任	田島賢二
	主任	倉林美恵子
	主事	恋河内昭彦
担当者	主任	鈴木徳雄
	主事	徳山寿樹
	主事補	大熊季広
調査員補		尾内俊彦
補助員		佐藤博之

目　　次

序

例　言

目　次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯……1

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境……3

1．地理的環境 ……3

2．歴史的環境 ……5

第Ⅲ章　藤塚遺跡Ｂ２地点の調査……7

1．遺跡の概要 ……7

2．遺構の概要 ……9

第Ⅳ章　ま と め －第９号住居址の遺物出土状態をめぐって－ ……131

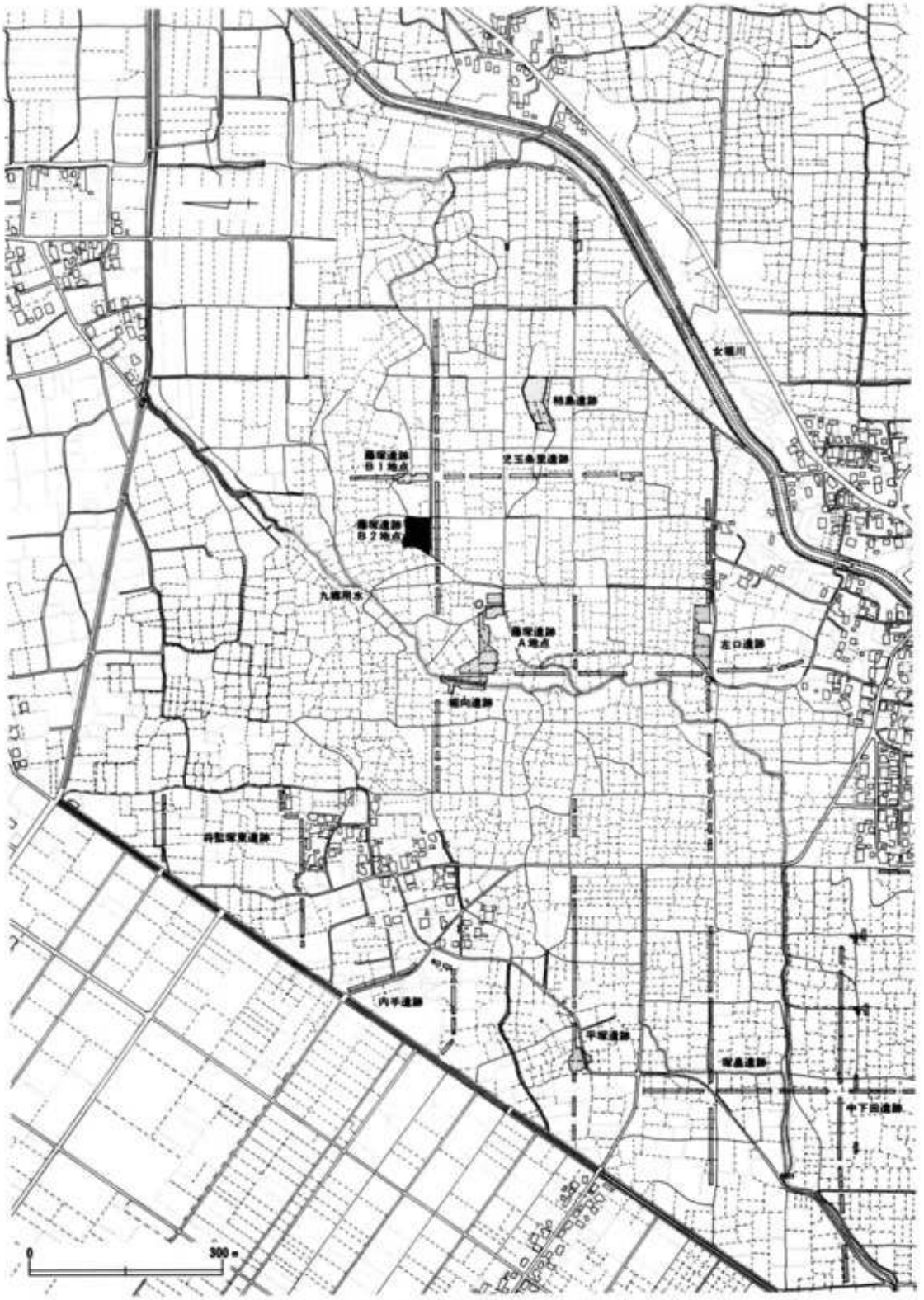
はじめに……131

1．第９号住居址について ……131

2．第９号住居址の遺骨・遺物について ……133

3．小　結……135

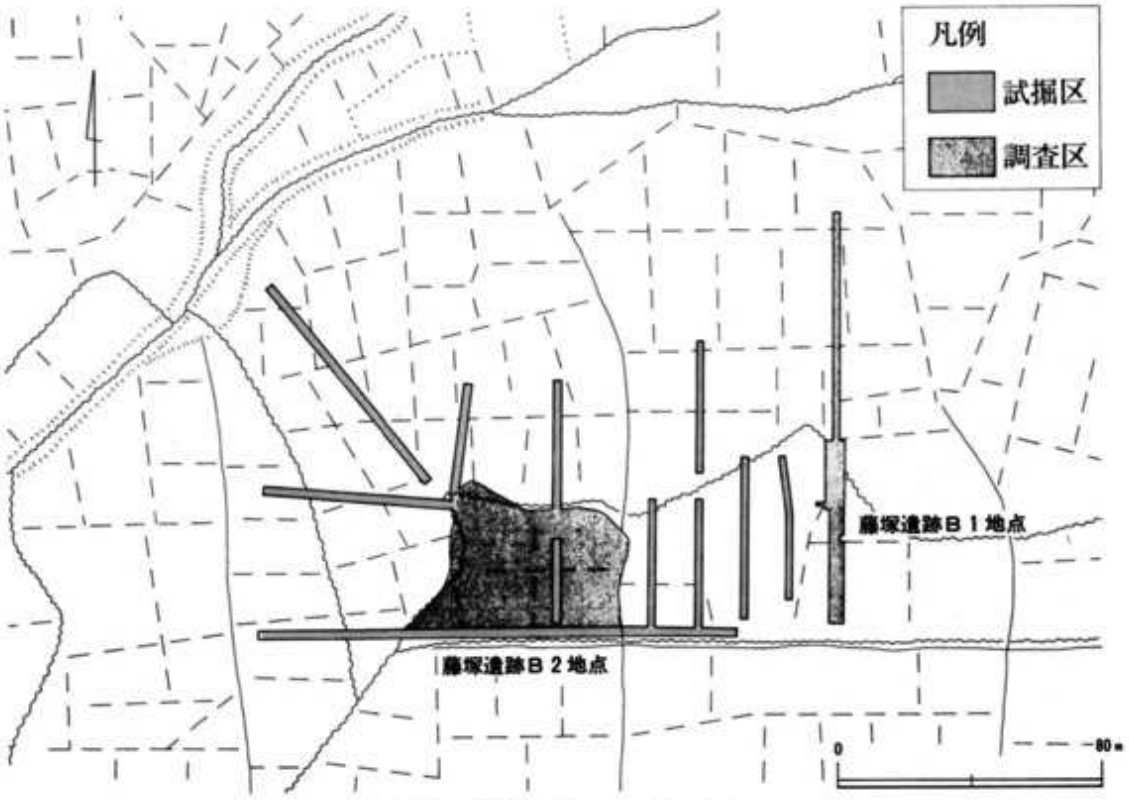
写　真　図　版



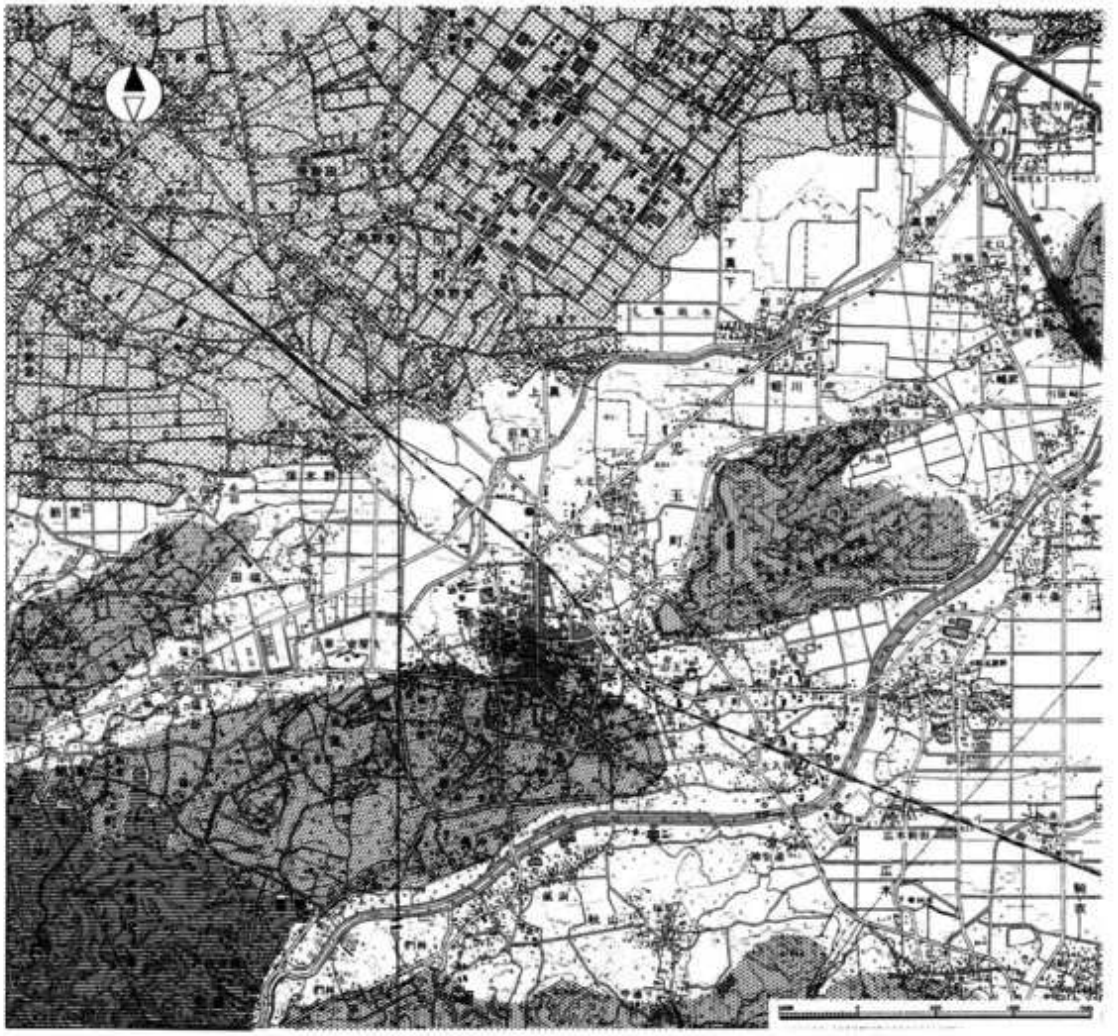
第1図　藤塚遺跡Ｂ２地点調査位置図

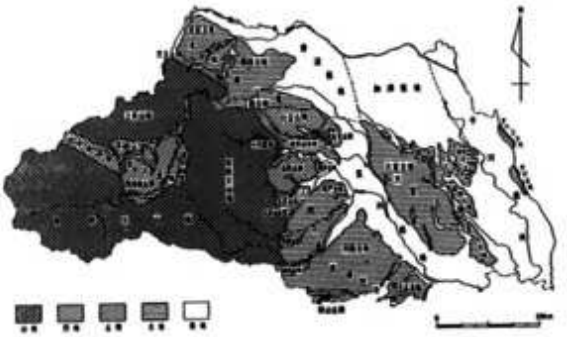
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

本報告にかかわる発掘調査は、平成２年度の県営ほ場整備事業（児玉北部地区）に先立つ埋蔵文化財保存事業として実施したものである。平成２年度事業については、上記の事前協議に基づき埼玉県教育局文化財保護課、県耕地課、本庄土地改良事務所及び町教育委員会が平成元年12月に打ち合せ会議を行った。この結果平成２年度工区のうち、今回報告の藤塚遺跡(№54-017)の現状変更される区域について発掘調査による記録保存の措置をとることになった。児玉町教育委員会より平成２年11月８日付児教社第495号で発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。文化庁からは平成３年10月11日付３委保記第5-1964号をもって発掘調査通知書の受理について通知があった。一方、平成２年９月18日付本地第1217号で埼玉県本庄土地改良事務所長より埋蔵文化財発掘の通知が提出され、教文第3-347号周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知があった。（事務局）



第２図　遺跡周辺部の試掘状況図





凡　例

山　地

丘　陵

台　地

低　地

第3図　周辺の地形区分

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境

1．地理的環境

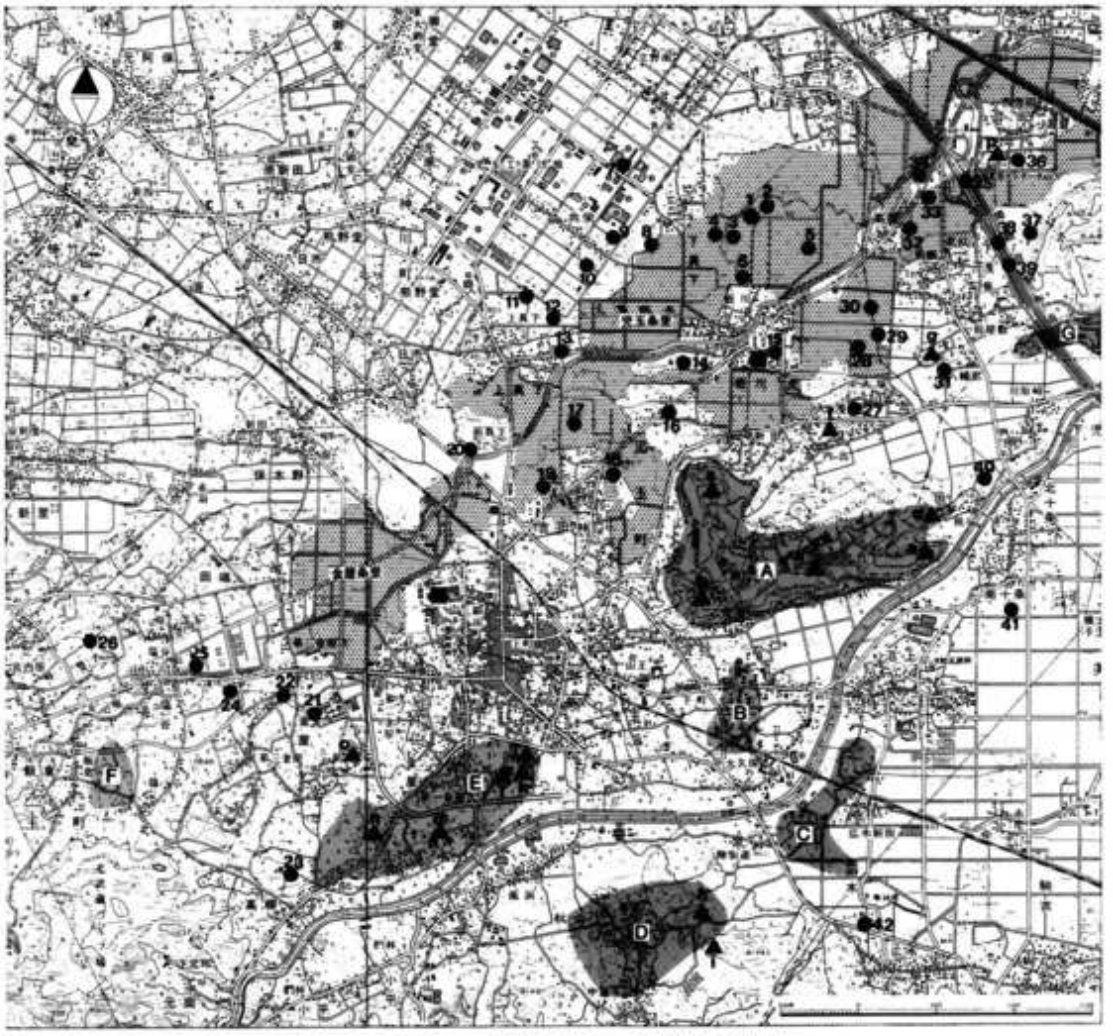
本報告の遺跡が所在する児玉町は、埼玉県北西部の一角にあり、東京都心から約85kmの所に位置する。東は美里町、西は神川町・神泉村、南は秩父郡長瀞町・皆野町、北は本庄市・上里町と接している。町は南西から北東にかけて細長い形をしており、標高は町役場付近で98.5mである。町の面積は52.93k㎡で、町全体の総面積の主体は山林と耕地で占められている。

山と平野

児玉町の地形は南西部が陣見山・不動山を主体とする上武山地の一部であり、北東部は北東方向に半島状に張り出した児玉丘陵やさらにその先に独立丘として残る生野山丘陵・大久保山丘陵などの丘陵、本庄台地等を含む平野である。町は南西部と北東部、言い換えれば山地と平野とに明確に大別することができるが、これは町を東西に横断する八王子－高崎構造線の断層線によるものである。立川ローム層に相当するとされるローム層の堆積が主である本庄台地を含む平野は、神流川により形成された神流川扇状地上に位置しており、微高地を含む台地と低地に大別することができる。しかし、微高地と低地は現在において河川の沖積作用により、明瞭に区分できない部分もあるが、畑地帯と水田地帯という土地利用の違いにより区分することも可能である。また、この水田地帯は断層崖下より流下する金鑽川・赤根川水系に属する女堀川によって開析されている。冬季の降水量が少ないという特色を有する本町は、神流川扇状地上に立地することから表流水量が少なく大半が伏流してしまう。このため大規模な灌漑が必要であり、開鑿年代が西暦700年を幾分遡るものである可能性が高い九郷用水(鈴木,1989) などの用水堀が掘削されたと推定される。

遺跡の周辺

本報告の遺跡は児玉町大字蛭川字柿島・久保田に所在し、本町北東部の本庄市との境界付近の微高地から低地にかけての沖積地に位置している。本遺跡の周辺は前述の大規模な灌漑による児玉条里と呼ばれる条里制が展開し、一面の水田地帯が広がっている。この水田地帯を含む沖積地には、女堀川により形成された自然堤防や埋没台地のような微高地が存在していると考えられ、本報告の遺跡周辺の遺跡(集落)は、主としてこれらの自然堤防や埋没台地のような微高地上に占地していると推定される。また、隣接する金屋遺跡群(鈴木,1981)においても同様に、沖積地内の自然堤防や微高地上に集落が占地していると推定されている。この地域は扇状地であるため南西から北東にかけてゆるやかに傾斜し利根川沿いにまで及んでいるが、前述のように微高地と低地の比高差は明瞭には判別できないのが現状である。しかし、古墳時代においての景観は現在よりも起伏が明瞭であったと推定される。



第4図　周辺の古墳時代中・後期主要遺跡

No	遺跡名	No	遺跡名	No	古墳・古墳群
	集落	23	ウリ山遺跡（1981調査）	A	生野山古墳群（曽谷他、1973）
1	藤塚遺跡B2地点（本報告）	24	塩谷下大塚遺跡（恋河内、1990）	B	下町・大久保古墳群
2	藤塚遺跡B1地点（1990調査）	25	ミカド遺跡（坂本・鈴木、1981）	C	広木大町古墳群（小渕・中村、1980）
3	藤塚遺跡A地点（徳山他、1995）	26	真観寺後遺跡（鈴木、1987･88/恋河内、1991）	D	秋山古墳群（坂本他、1990）
4	堀向遺跡（徳山他、1995）	27	新屋敷遺跡（1989調査）	E	長沖古墳群（金子他、1980）
5	柿島遺跡（徳山他、1995）	28	東田遺跡（1992調査）	F	飯倉古墳群
6	左口遺跡（徳山他、1994）	29	浅見境遺跡（1986調査）	G	塚本山古墳群（増田他、1977）
7	古井戸遺跡（井上他、1986）	30	浅見境北遺跡（1992調査）	a	生野山銚子塚古墳（曽谷、1984）
8	平塚遺跡（徳山他、1994）	31	鷺山南遺跡（1983調査）	b	物見塚古墳（曽谷、1984）
9	古井戸南遺跡（1984調査）	32	東牧西分遺跡（恋河内、1995）	c	生野山将軍塚古墳（柳田、1964）
10	塚品遺跡（鈴木他、1991）	33	梅沢遺跡（赤熊他、1986/恋河内、1995）	d	熊谷後1号墳（美里町、1986）
11	辻ノ内遺跡（鈴木他、1991）	34	川越田遺跡（赤熊他、1986/恋河内、1993）	e	生野山16号墳（曽谷、1984）
12	新宮遺跡（1991調査）	35	後張遺跡（立石他、1982－83）	f	金鑽神社古墳（坂本他、1986）
13	上真下東遺跡（1986確認調査）	36	四方田遺跡（増田、1989）	g	鷺山古墳（坂本他、1986）
14	鯉川坊田遺跡（1990調査）	37	根田遺跡（恋河内、1990）	h	庚申塚古墳（坂本他、1990）
15	共和小学校校庭遺跡（恋河内、1989）	38	飯玉東遺跡（駒宮他、1979/恋河内、1995）	i	瀬詰山古墳（坂本他、1990）
16	南街道遺跡（1991調査）	39	雷電下遺跡（駒宮他、1979/恋河内、1990）	j	長沖31号墳
17	鶴巻遺跡（恋河内、1995）	40	宮ヶ谷戸遺跡（1983美里町調査）	k	長沖32号墳
18	宮田遺跡（1991調査）	41	鐙之口遺跡（曽谷他、1976）	l	長沖25号墳（金子他、1980）
19	高縄田遺跡（恋河内、1995）	42	ミカ神社前遺跡（中村・磯崎、1980）	m	長沖79号墳（田口他、1975）
20	金佐奈遺跡（1992調査）		埴輪窯址	n	長沖137号墳
21	倉林後遺跡（利根川他、1981）	I	鯉川埴輪窯址	o	長沖157号墳
22	枇杷橋遺跡（曽谷・駒宮、1973）	II	八幡山埴輪窯址（柳、1961）	p	四方田古墳（増田、1989）

2．歴史的環境

本報告の遺跡は古墳時代中期(和泉期) と 古墳時代後期(鬼高期) の集落が主要なため、本章では和泉期から鬼高期にかけて存在する周辺遺跡を中心に占地形態や様相について概観していきたいと思う。

和泉期以前

本報告の遺跡周辺における和泉期以前の周辺遺跡の占地形態や様相は、弥生時代後期においては独立丘上に生野山遺跡(埼玉県、1982)や大久保山遺跡(荒川他、1986)などが形成され、低地や台地を中心に山根遺跡(増田、1990)などの集落が形成されているが、ほとんどが単一時期の小規模な集落である。この時期の立地は独立丘内の谷や台地上の開析谷が生産基盤と推定され、女堀川により開析された沖積地は開発されていないと推定される。古墳時代前期(五領期)になると女堀川により開析された沖積地内の自然堤防や台地縁辺部に後張遺跡(35)・諏訪遺跡(柿沼、1979) などの集落が形成されるようになり、沖積地の開発が盛んに行われるようになる。

和泉期

本報告の遺跡周辺における和泉期の集落は、主に女堀川によって開析された沖積地内に形成された自然堤防や微高地上に占地し、五領期とはぼ同様の占地形態を呈していると推定されている。後張遺跡のような大規模な集落も五領期から継続的に営まれ、該期の中心的な集落と考えられている。この他の沖積地内の自然堤防や微高地上に占地する遺跡として、藤塚遺跡A地点(3)、堀向遺跡(4)、柿島遺跡(5)、古井戸遺跡(7)、平塚遺跡(8)、古井戸南遺跡(9)、塚畠遺跡(10)、高縄田遺跡(19)、東牧西分遺跡(32)、梅沢遺跡(33)、川越田遺跡(34)、四方田遺跡(36)、根田遺跡(37)、飯玉東遺跡(38)、樋之口遺跡(41) などの遺跡が挙げられる。また、沖積地以外でも倉林後遺跡(21)、枇杷橋遺跡(22)、塩谷下大塚遺跡(24)、真鏡寺後遺跡(26) など独立丘裾部に占地する遺跡が確認されるようになる。これらの遺跡の中でも古井戸遺跡、高縄田遺跡、平塚遺跡、根田遺跡などの集落は和泉期単一の集落であるため、この地域の和泉期を考えていくうえで非常に重要な遺跡となってくる。

鬼高期

鬼高期は本報告の遺跡周辺で遺跡数が最も増加する時期である。占地形態は和泉期と同様に沖積地内の自然堤防や微高地上に占地する集落が多く、藤塚遺跡A地点、柿島遺跡、左口遺跡(6)、古井戸南遺跡、塚畠遺跡、辻ノ内遺跡(11)、共和小学校校庭遺跡(15)、鶴蒔遺跡(17)、梅沢遺跡、川越田遺跡、後張遺跡、四方田遺跡、飯玉東遺跡、樋之口遺跡などの集落が確認されている。また、鬼高期に入ると和泉期よりみられるようになった沖積地以外の集落も増加し、枇杷橋遺跡、塩谷下大塚遺跡、ミカド遺跡(25)、真鏡寺後遺跡などの丘陵裾部や、雷電下遺跡(39)、宮ヶ谷戸遺跡(40) など台地縁辺部にも集落が形成されるようになる。また、沖積地の集落と丘陵上の集落といった占地の違いはどのような社会的背

景によるものなのか、今後の検討が必要である。

奈良・平安

真間期に入ると沖積地内の自然堤防や微高地上の集落は衰退していき、集落は周辺の独立丘裾部や台地縁辺部などに移動していく。これは、沖積地内の集落が沖積地の大規模な灌漑による条里制の展開により、条里の周辺に設営されていったものであると推定される。堀向遺跡では真間期に開鑿された「古九郷用水」(鈴木、1989) が検出され、台地縁辺部の将監塚遺跡 (井上他、1986) などの遺跡からも真間期に開鑿されたとみられる大溝が検出されている。これら台地縁辺部の集落は「計画的集落」としての推定がなされ、当該地域における律令制の定着と条里制の展開をうかがうことができる。その後9世紀後半になると、これらの台地縁辺部の集落は縮小していき沖積地内の自然堤防上などに拡散する傾向がみられる。このような遺跡としては、新宮遺跡(1992調査) などが挙げられる。さらに10世紀以降になると集落の拡散現象はさらに広がっていき、条里施行区域外にも集落が展開するようになる。これはこの地域が古代の居住区域としてある程度安定した場所であったことがうかがえる。

古　墳

本報告の遺跡周辺は集落以外にも大型の古墳が多数築造されるなど、さまざまな遺跡が確認されている。独立丘として残る丘陵上には県内最古(五領期) の古墳の一つとして知られている全長60mを測る前方後方墳の鷺山古墳(g) が存在する。和泉期に入ると前方後円墳の可能性もあり鷺山古墳に継ぐ首長墓と推定される物見塚古墳(b) や、大型の円墳である金鑽神社古墳(f)、生野山将軍塚古墳(C) などの比較的規模の大きい古墳が見られる。このうち金鑽神社古墳や生野山将軍塚古墳などでは、叩き目を有する埴輪も多数確認されている。鬼高期も和泉期と同様に古墳は主に独立丘上に形成され、全長60m級の生野山銚子塚古墳(a) や熊谷1号墳(d)、生野山16号墳(e) などの主要古墳が築造されている。また、この時期には比較的規模の小さい円墳が継続的に造られるようになり古墳群を形成するようになる。丘陵部や独立丘上には生野山古墳群(A)、下町・大久保古墳群(B)、長沖古墳群(E)、塚本山古墳群(G)、独立丘以外にも広木大町古墳群(C)、秋山古墳群(D)、飯倉古墳群(F)、などの古墳群が確認されている。これらの古墳や古墳群は主に小山川(旧身馴川) に沿うような形で点在し、集落域と墓域との明瞭な区分が観察される。

埴輪窯址

この地域には集落や古墳のほかに蛭川埴輪窯址(I)、八幡山埴輪窯址(II) などの埴輪窯址も確認されているが、古墳や古墳群の数から推測して、この2つの埴輪窯址以外にもいくつかの埴輪窯址が存在し、それらの埴輪窯址によって周辺の古墳に埴輪を供給していたのではないかと推定されるが、現在までに明瞭には確認されておらず、今後も埴輪供給や埴輪窯址などの問題については検討を重ねて行く必要がある。　(井口泰基)

第Ⅲ章　藤塚遺跡Ｂ２地点の調査

１．遺跡の概要

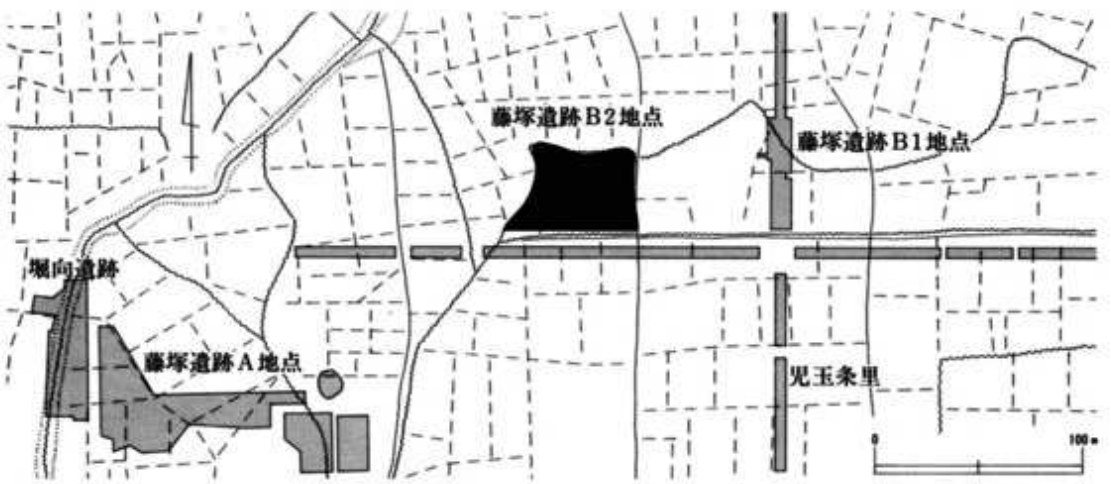
本遺跡は、大字蛭川字柿島に所在しており、本区域は藤塚遺跡（埼玉県遺跡地図№54-017）に該当している。既に県営圃場整備事業（児玉北部地区）の事前調査として藤塚Ａ地点の調査（徳山他1989）が行われていた為、地点が異なる本地区をＢ地点とした。更にＢ地点のうち取り分け事業が違う県営かんばい事業（九郷地区）をＢ１地点と呼称し、本事業である県営圃場整備（児玉北部地区）をＢ２地点と呼称した。

遺跡の立地は、旧河川によって開析された沖積地内に取り込まれた埋没台地の縁辺部にあたり、遺跡の南西から北東に展開する埋没河川址と比高差の少ない微高地に占地している。遺跡の周辺について県営圃場整備以前は、児玉条里として現代にその形状を留めていた。

検出された遺構

本遺跡からは、古墳時代前期（五領期）の竪穴式住居址が４軒、古墳時代中期（和泉期）の竪穴式住居址が９軒、古墳時代後期（鬼高期）の竪穴式住居址が18軒、平安時代（国分期）の竪穴式住居址が１軒、総数39軒のほか土壙３基、溝状遺構等が検出されている。出土遺物は、主に住居址からの出土であり、和泉式から鬼高式を主体に坏や甕数百点が出土している。その他、縄文後期の土偶頭部及び土器片・中世平瓦片等も検出されている。特に第９号住居址は、火災住居であり、多くの土器と共に遺骨が検出された。

尚、本調査区東側に続く微高地については、試掘調査（第２図）の結果よりこの地点に於いても集落の存在が明らかになった。しかし、遺構面まで工事が及ばないため盛り土工法をとり、現状を保存した。他、住居番号については藤塚Ｂ１地点と通番とし、本遺跡は第３号住居址より始まる。　　（徳山寿樹）



第５図　藤塚遺跡Ｂ２地点現況位置

第６図　藤塚遺跡Ｂ２地点全測図

2．遺構の概要

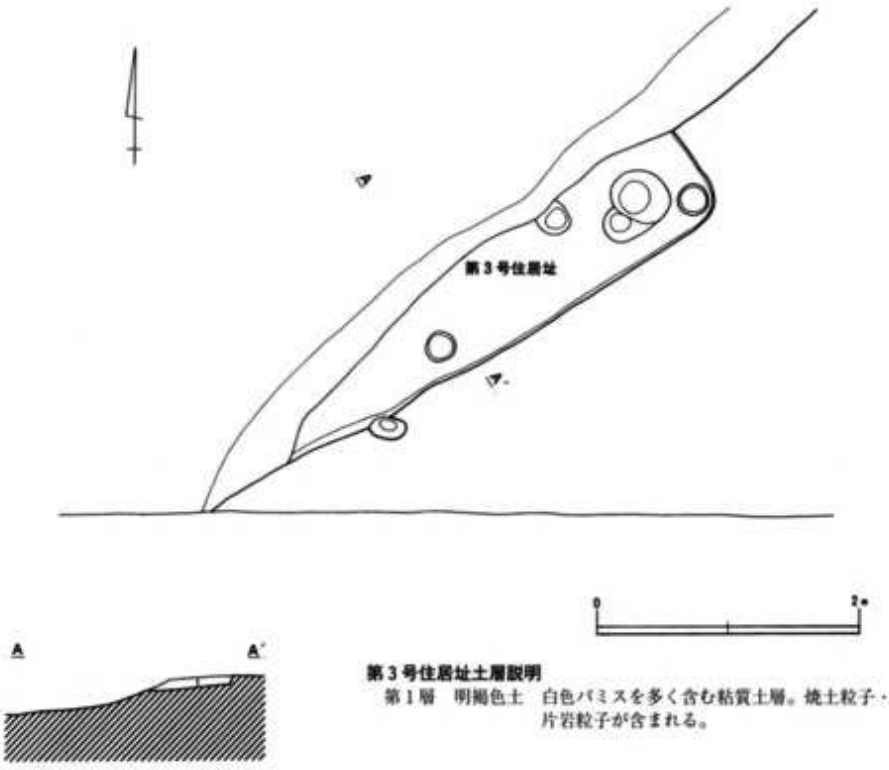
a．竪穴式住居址

第3号住居址（第7図　図版2-1）

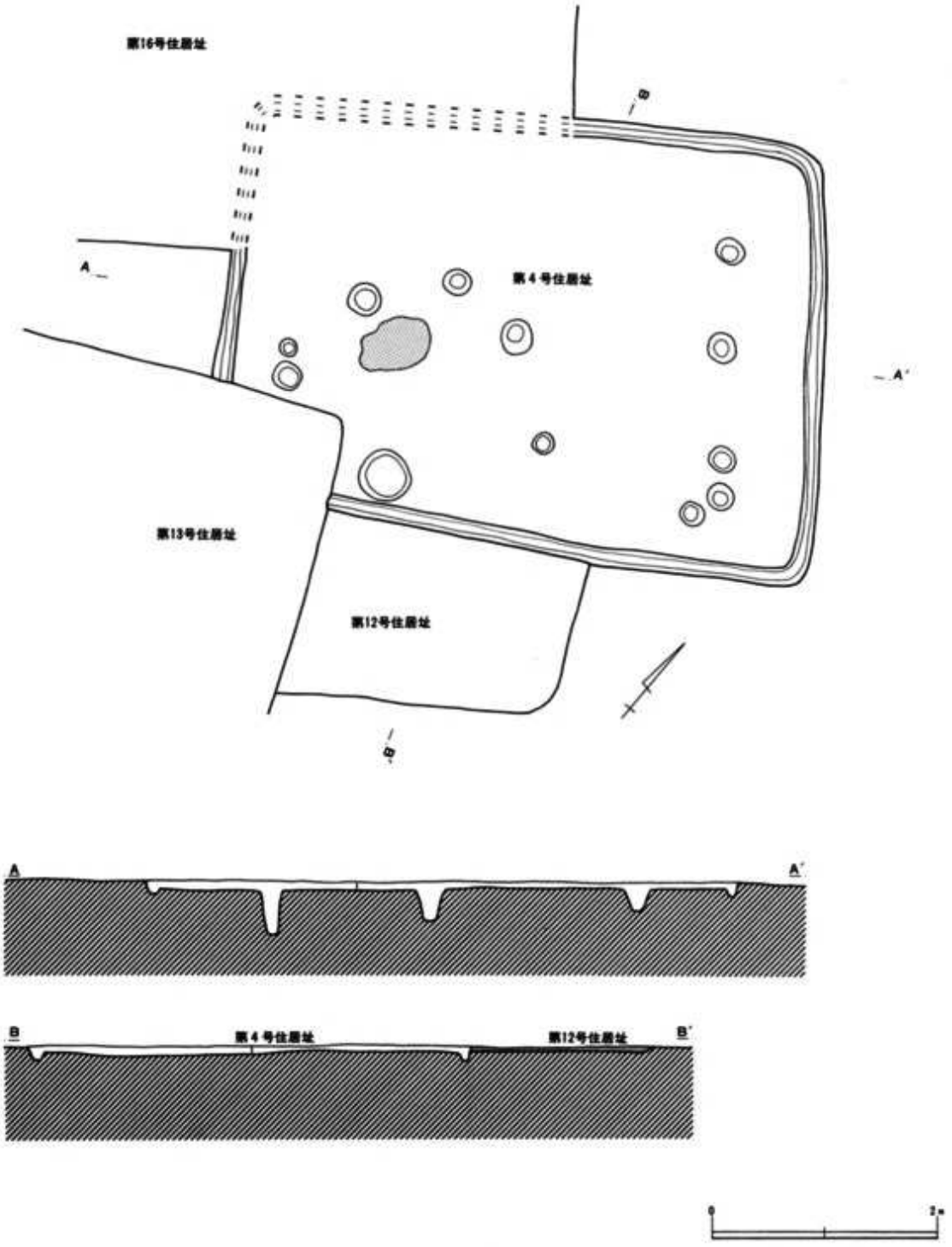
本址は、調査区南西端に南東部隅の一部が検出された。住居址の北側は消失しており、調査は全体の約2割程度に留まった。平面形態、規模共に不明で、深さは、確認面より約5cmを測る。主柱穴が1本と貯蔵穴が検出された。壁溝、カマド等の施設は検出されなかった。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ期）の所産である。

第4号住居址（第8図　図版2-2）

本址は、調査区南西部に第12・13・16号住居址と重複して検出された。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸5.4m、短軸4.0m、深さ確認面より10cmを測る。主柱穴は北東側に2本検出されており、住居址の中央部付近やや南西寄りに最大径66cmを測る不整円形の炉址が検出されている。また、壁溝は全周すると推定される。貯蔵穴は検出されなかった。覆土に焼土、炭化物などを含んでおり焼失家屋の可能性もある。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



第7図　第3号住居址



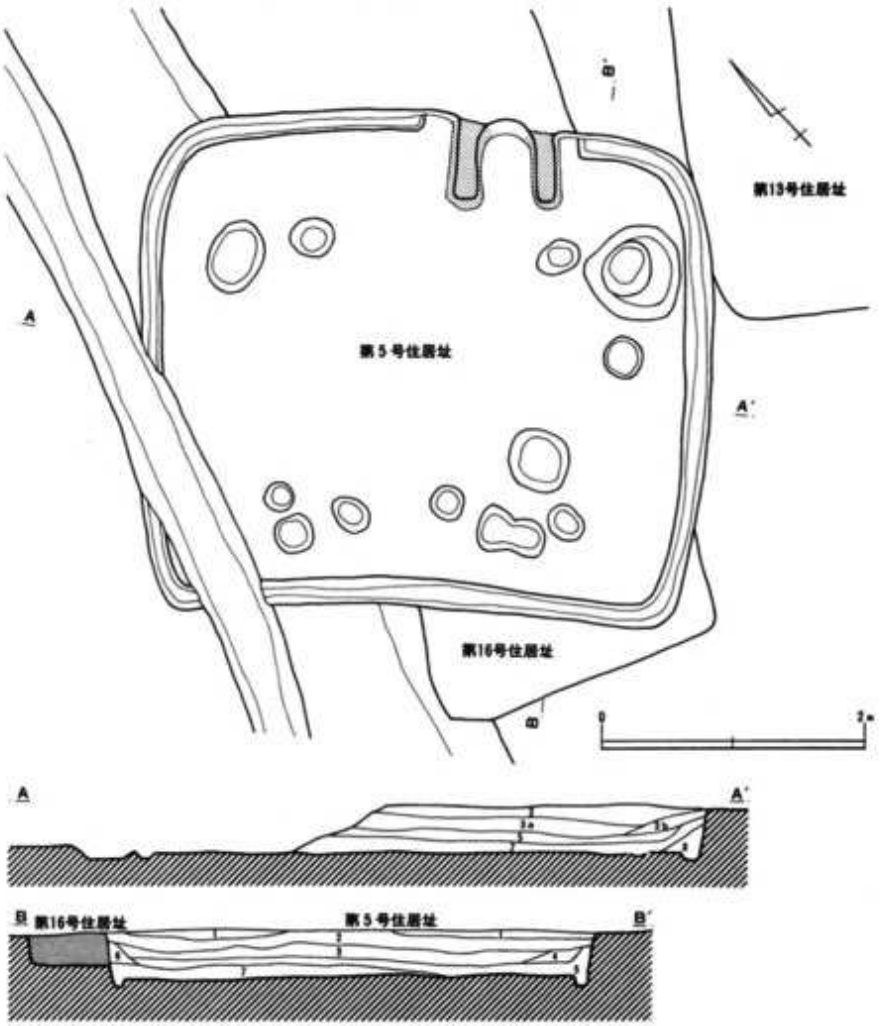
第8図　第4号住居址

第4号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　焼土・炭化物・白色粒子を含む粘質土層。

第５号住居址（第９図　図版３-１・２）

本址は、調査区南西部に第16号住居址を切って構築されている。北西隅の一部は現代の用水堀によって切られている。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸4.5m、短軸3.9m、深さ確認面より45cmを測る。カマドは東壁やや南寄りに検出されている。東南隅に貯蔵穴を検出している。また主柱穴は４本確認できた。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ期）の所産である。



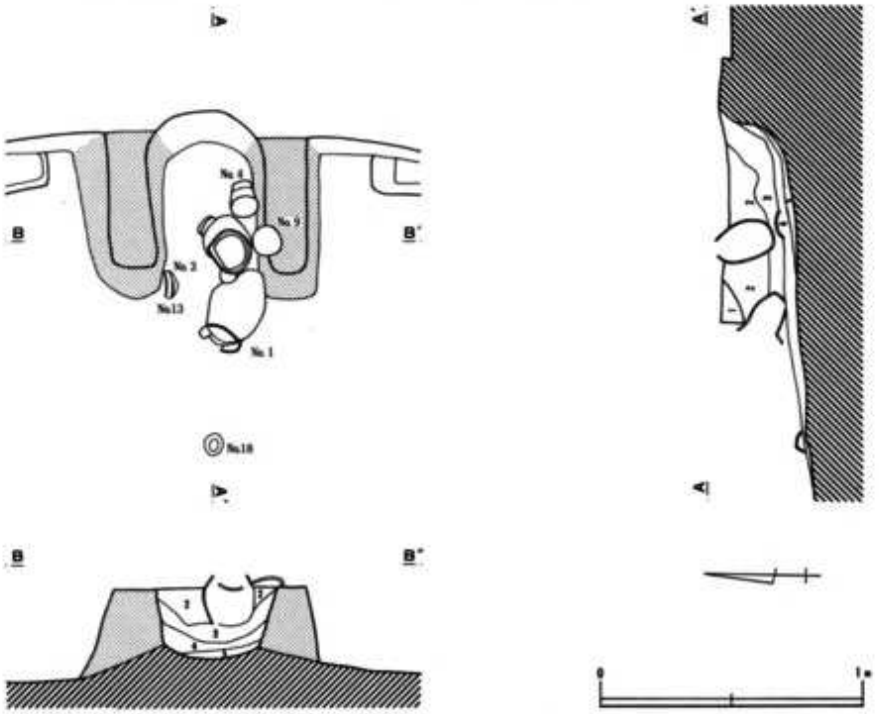
第９図　第５号住居址

第５号住居址土層説明

第１層	明褐色土	良くしまっている。白色テフラおよび白色の岩粒（径１～２㎜）を多く含む。
第２層	暗褐色土	良くしまっている。白色テフラおよび白色の岩粒（径１～２㎜）を若干含む。又、径１～５㎜の炭化粒子・焼土粒子を多く含む。
第3a層	暗褐色土	良くしまっている。第２層に準ずるが、白色テフラ・白色の岩粒子を含まず、炭化粒子・焼土粒子の量も少ない。
第3b層	暗褐色土	良くしまっている。第3a層に類似するが炭化粒子・焼土粒子の量が若干多い。
第４層	橙暗褐色土	良くしまっている。径１～10㎜の焼土粒を非常に多く含む。
第５層	暗褐色土	良くしまっている。若干の焼土粒子（１～２㎜）を含み、やや粘質である。
第６層	暗灰褐色土	良くしまっている。若干の白色テフラ・岩粒を含む粘質土
第７層	暗黄褐色土	非常に良くしまっている。カマドに近い方にはロームブロック等もみられる。白色テフラ・岩粒子・焼土・炭化粒子を比較的多く含む粘質土。
第８層	暗灰色土	非常に良くしまっている。粘性が非常に強く、きめが細かい層である。

第５号住居址カマド（第10図　図版４-１）

住居址東壁のやや南よりに付設されている。両袖と燃焼部が検出された。遺存状態は良好である。規模は全長72cm、幅90cm、袖部の長さ約64cmを測り、焚口の内径は33cmを測る。南側袖付近より甕が数点出土している。



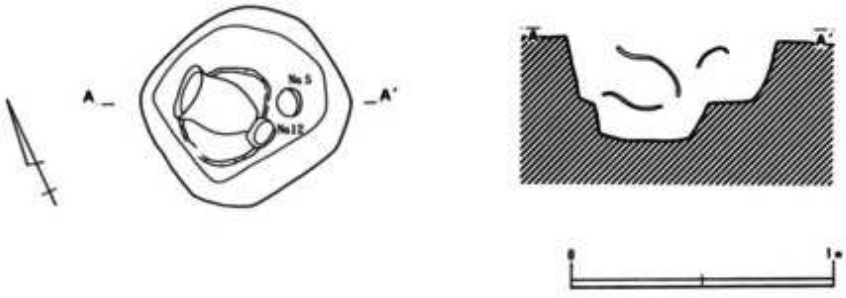
第10図　第５号住居址カマド

第５号住居址カマド土層説明

第１層	暗褐色土	しまり、粘性共にある。住居址の第１層である。	第４層	橙褐色硬質土	焼土および焼土ブロックは主体をなす。
第２層	明褐色土	径５～10mmの焼土粒を多く含む。	第５層	黒褐色土	炭化物の主体層。
第３層	明褐色土	径10～15mmの焼土粒を多く含む。			

第５号住居址貯蔵穴（第11図　図版４-２）

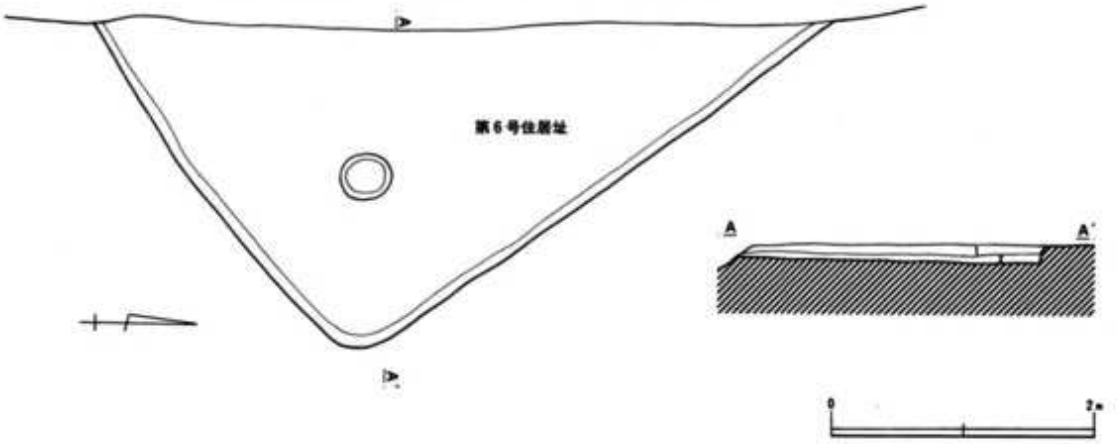
住居址南東隅に検出された。平面形態は円形を呈し、規模は直径75cmを測る。深さは確認面より最大40cmを測り、中位に段を有している。甕が出土している。



第11図　第５号住居址貯蔵穴

第６号住居址（第12図　図版５-１）

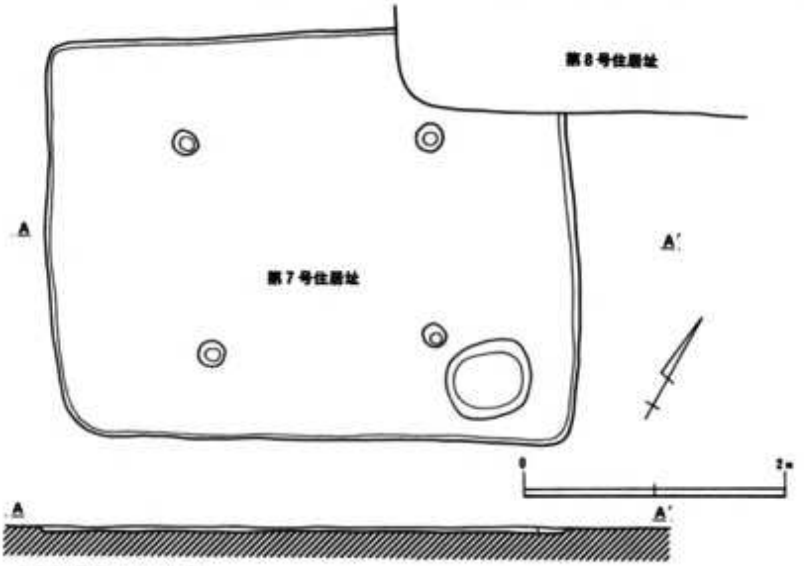
本址は、調査区北西部西側中央付近に南東隅のみが検出された。平面形態、規模共に不明であり、深さは確認面より約12㎝を測る。主柱穴は１本検出できた。出土遺物により古墳時代中期（和泉期）の所産である。



第12図　第６号住居址

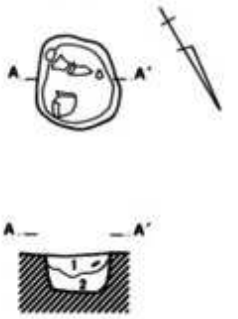
第７号住居址（第13図　図版５-２）

本址は、調査区西側ほぼ中央北寄りに第８号住居址と重複して検出された。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸4.1m、短軸3.2mを測る。深さは掘り方の３㎝のみが検出できた。主柱穴４本および直径70㎝の円形を呈する貯蔵穴を確認している。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



第７号住居址土層説明
第１層　暗褐色土　ローム・暗褐色土がまばらに含まれる。

第13図　第７号住居址



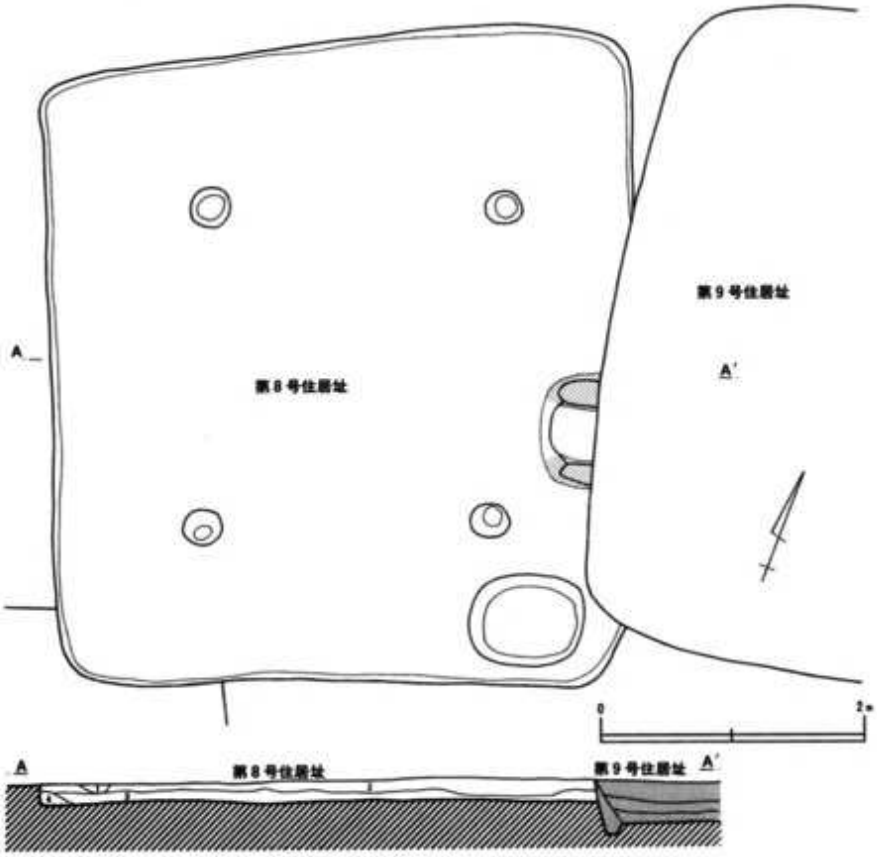
第14図　第７号住居址貯蔵穴

第７号住居址貯蔵穴土層説明

第１層	暗褐色土	やや肌理の荒い砂質である。焼土粒・炭化粒を若干含む。
第２層	明褐色土	肌理の細かい粘質土。第１層を斑状に含む。

第８号住居址（第15図　図版６-１・２）

本址は、調査区西側ほぼ中央に第７・９号住居址と重複して検出された。平面形態は正方形に近い不整形を呈し、規模は長辺最大5.0m、短辺最大4.5m、深さ12cmを測る。カマドは北東壁やや南寄りに付設されているが、第９号住居址に切られている為、両袖と燃焼部の一部が破壊されている。規模は幅84cm、焚き口の内径42cmを測る。主柱穴４本検出し貯蔵穴は長径80cm、短径65cmの長方形を呈している。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



第15図　第８号住居址

第８号住居址土層説明

第１層	黒　色　土	焼土・炭化物を含む。粘性強く、しまり良好。
第２層	黒褐色土	白色粘土を多量に含む。粘性は弱い。
第３層	暗褐色土	粘性強くしまり良好。
第４層	橙暗褐色土	粘性は第３層よりつよく、しまり良好。

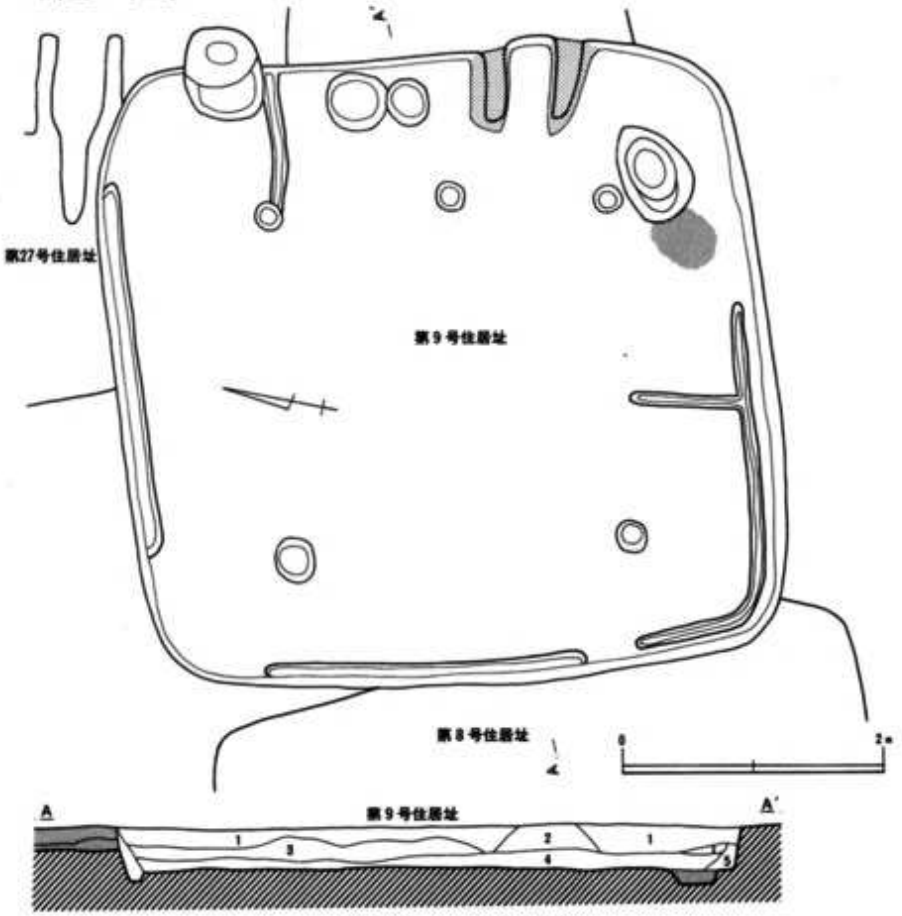
第８号住居址貯蔵穴土層説明

第１層	明灰色粘質土	しまり、粘性に富む。白色粒子を多く含む。
第２層	暗灰色粘質土	しまり、粘性に富む。焼土粒子を若干含む。土質がやや荒い。
第３層	赤褐色土	しまり、粘性に富む。焼土粒子を非常に多く含む。
第４層	暗灰褐色土	しまり、粘性に富む。ローム崩壊土を多く含む。

第16図　第８号住居址貯蔵穴

第９号住居址（第17図　図版７－１・図版27－１）

本址は、調査区西側ほぼ中央に第８・26・27号住居址を切って構築されている。平面形態は正方形を呈し、規模は一辺4.95m、深さ30cmを測る。カマドは東壁やや南寄りに検出した。住居址南側と東側に間仕切りと考えられる溝が検出されおり、南側の間仕切りから東側にかけて骨片を検出している。主柱穴は４本検出されており、貯蔵穴は南東隅に確認された。貯蔵穴の平面形態は楕円形を呈し、規模は長軸80cm、短軸53cmを測る。深さは確認面より最大40cmを測り、中位に段を有している。西側は２段有しており、緩やかな立ち上がりである。東側は１段有しているが極端な段差は見受けられない。覆土から甕、坏が出土している他、木炭が検出された。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ期）の所産である。



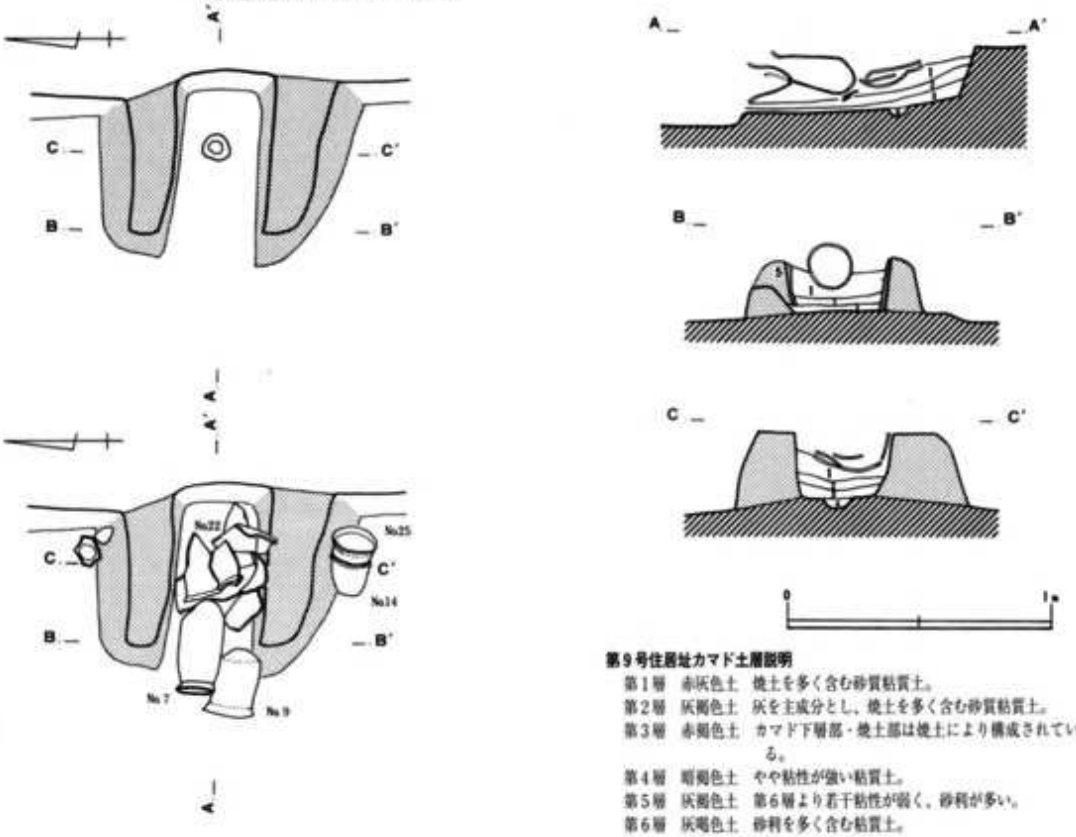
第17図　第９号住居址

第９号住居址土層説明

第１層	黒褐色土	白色粒を第２層より多く含む。
第２層	暗黒褐色土	白色粒子を少量含む。
第３層	黒褐色土	ロームブロック・白色粒を含む。
第４層	黒　色　土	粘性弱くしまり良好。
第５層	橙黒色土	焼土・炭化物を多量に含む。粘性強くしまり良好。
第６層	黒褐色土	焼土を多量に含み、白色粒を含む。
		第１層～第３層までの白色粒子の割合。　１＞２＞３

第９号住居址カマド（第18図　図版７-２・図版８-１）

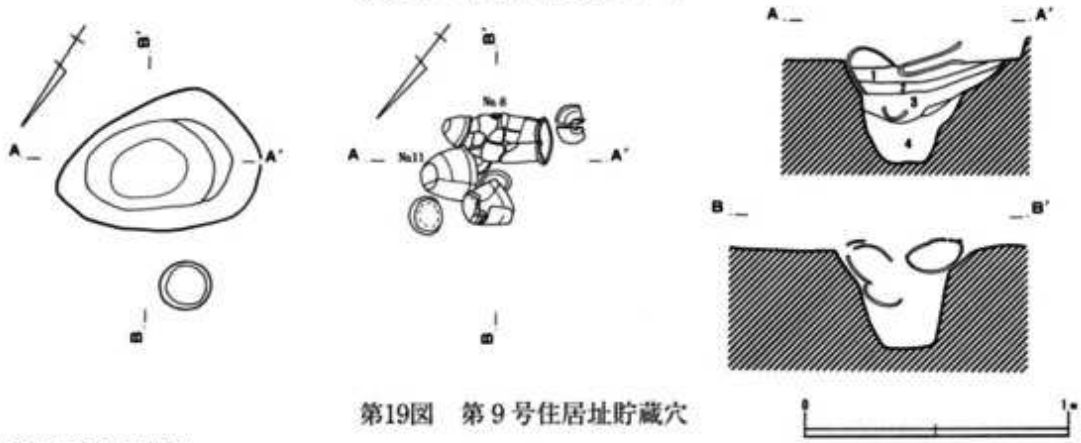
住居址東壁中央やや南寄りに付設されている。遺存状態は良好である。規模は全長75cm、幅92cm、袖部の長さ約65cm、焚口の内径35cmを測る。燃焼部の中央やや東よりに支脚の掘り方が直径12cmの円形に検出された。覆土上位より甕が数点検出されている。



第９号住居址カマド土層説明

第１層　赤灰色土　焼土を多く含む砂質粘質土。
第２層　灰褐色土　灰を主成分とし、焼土を多く含む砂質粘質土。
第３層　赤褐色土　カマド下層部・焼土部は焼土により構成されている。
第４層　暗褐色土　やや粘性が強い粘質土。
第５層　灰褐色土　第６層より若干粘性が弱く、砂利が多い。
第６層　灰褐色土　砂利を多く含む粘質土。

第18図　第９号住居址カマド



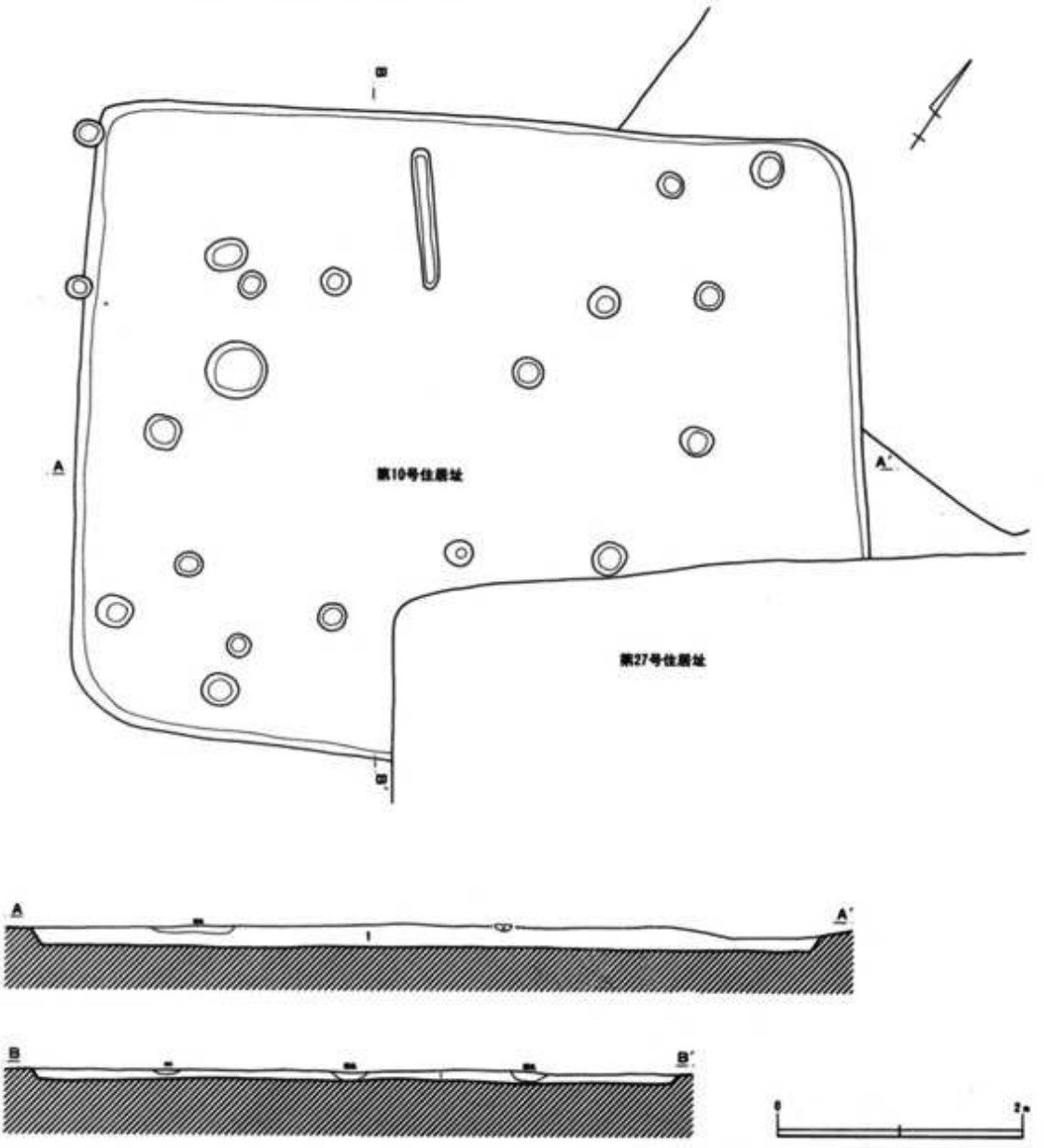
第19図　第９号住居址貯蔵穴

第９号住居址貯蔵穴土層説明

第１層　暗褐色土　白色粒子を含む。粒子の細やかな粘土の均質層
第２層　黒 色 土　木炭を主成分とする層。
第３層　赤 色 土　焼土より構成された粘質の均質層。木炭を多く含む。
第４層　暗灰褐色土　木炭・砂利を多く含む粘質の均質層。

第10号住居址（第20図　図版27 - 1）

本址は、調査区西側中央に第11号住居址を切って構築されている。また第26·27号住居址と重複している。平面形態は長方形を呈し、規模は長径6.4m、短径5.6m、深さ14cmを測る。住居址北側に南北方向の間仕切りが検出されている。カマド、主柱穴、貯蔵穴等の付属施設は検出できなかった。古墳時代の所産であると推定される。



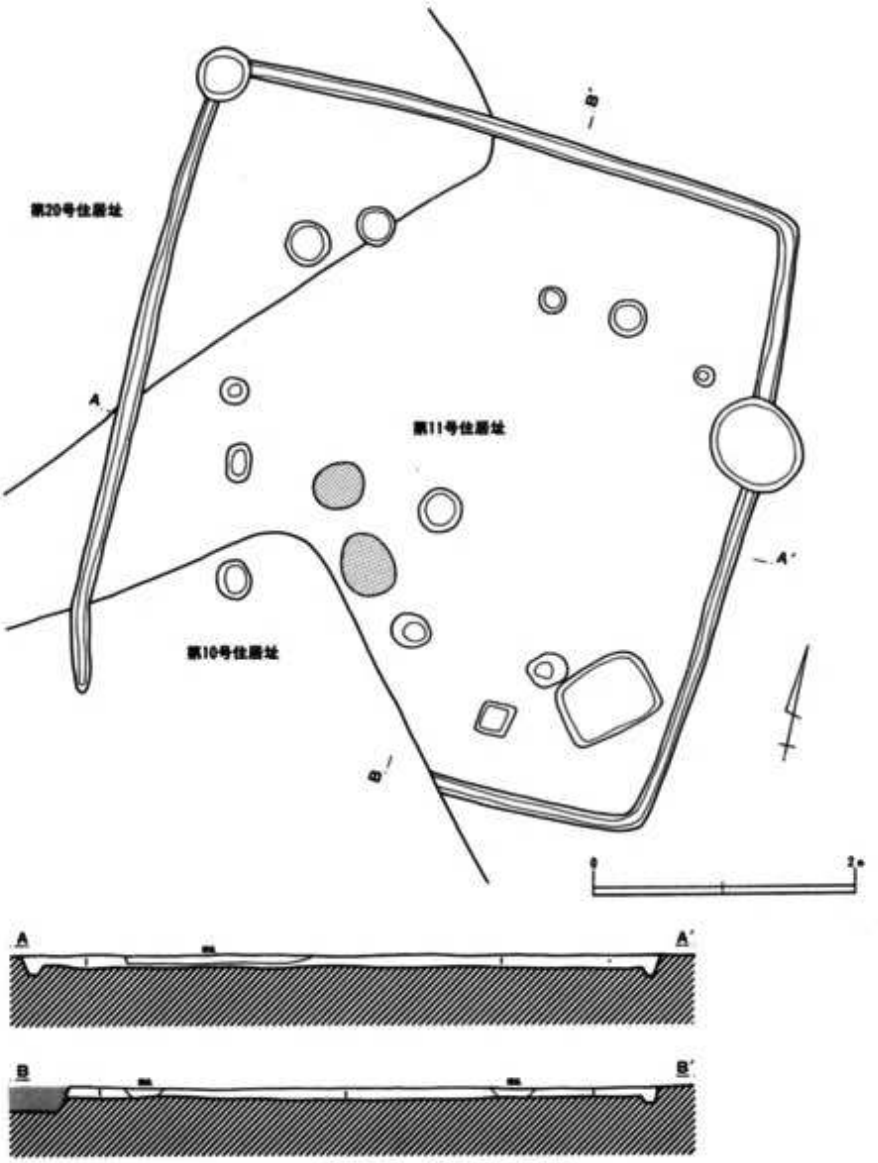
第20図　第10号住居址

第10号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　白色粒子を若干含む。

第11号住居址（第21図　図版11 - 1）

本址は、調査区西側中央やや北寄りに第10、28号住居址と重複して検出された。平面形態は正方形を呈し、規模は一辺4.9m、深さ10cmを測る。覆土に焼土、炭化物等を多く含んでおり焼失家屋の可能性もある。主柱穴は4本検出している。貯蔵穴は南東隅に確認され平面形態は長方形を呈し、規模は長径70cm、幅50cmを測る。住居址中央やや南西に炉址と推定される焼土が2カ所から検出された。出土遺物により古墳時代前期（五領期）の所産である。



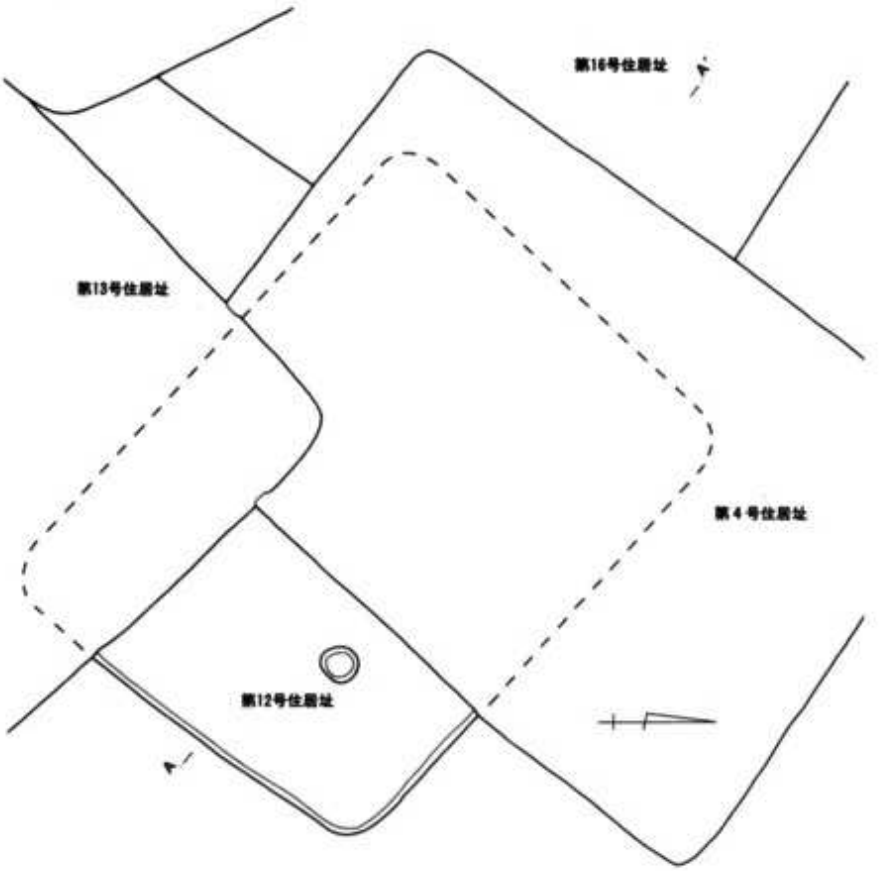
第21図　第11号住居址

第11号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　良くしまっており粘質である。炭化粒子・炭化物を多く含む。

第12号住居址（第22図）

本址は、調査区南西側に第4・13号住居址と重複して検出された。平面形態、規模共に不明で深さは確認面より6㎝を測る。第4号住居址に切られており全体の3割程度の調査に留まったため、カマド、貯蔵穴などの付属施設は検出できなかった。なお第13号住居址との切合関係は不明である。古墳時代の所産であると推定される。



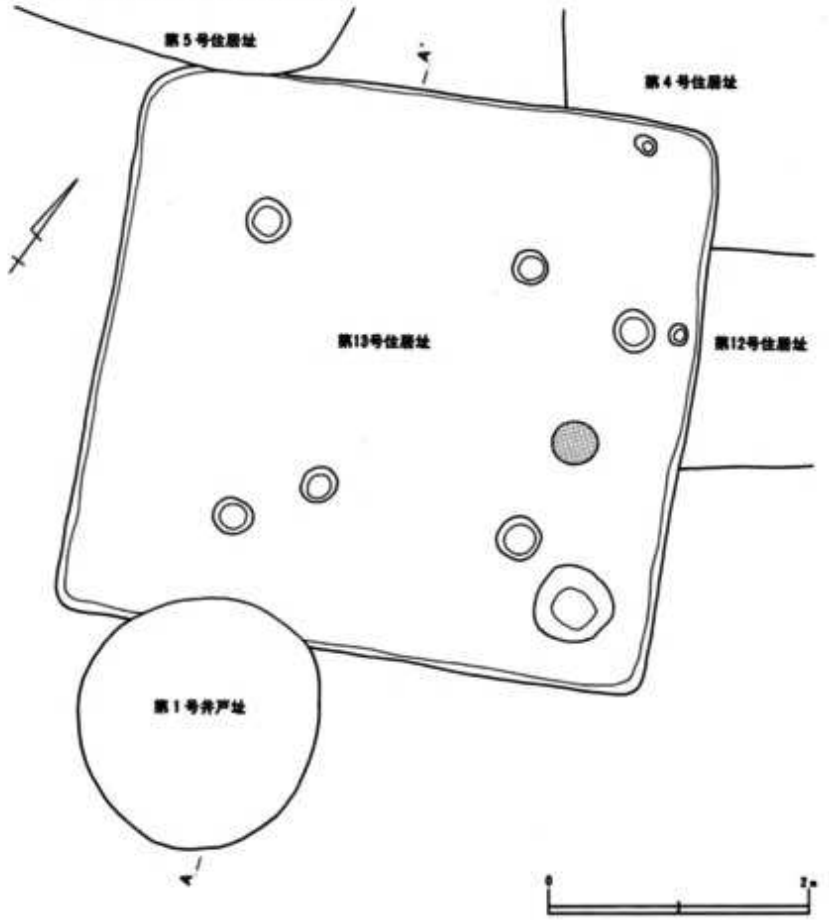
第22図　第12号住居址

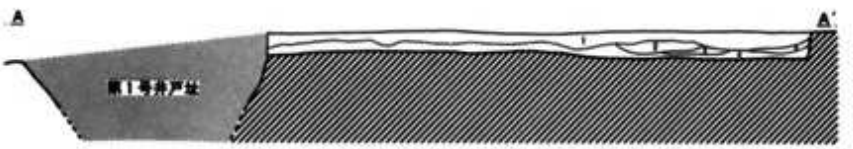
第12号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　白色粒子を多く含み、黄褐色土・焼土を含む。粘性弱く硬緻。

第13号住居址（第23図　図版12・1・2）

本址は、調査区南西側に第4・13号住居址および井戸址と重複して検出された。平面形態は正方形を呈し、規模は一辺4.6m、深さは確認面より14cmを測る。主柱穴は4本、東側隅に直径60cmの円形の貯蔵穴が検出されている。住居址北東部中央に直径36cmの円形の炉址が検出されている。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。





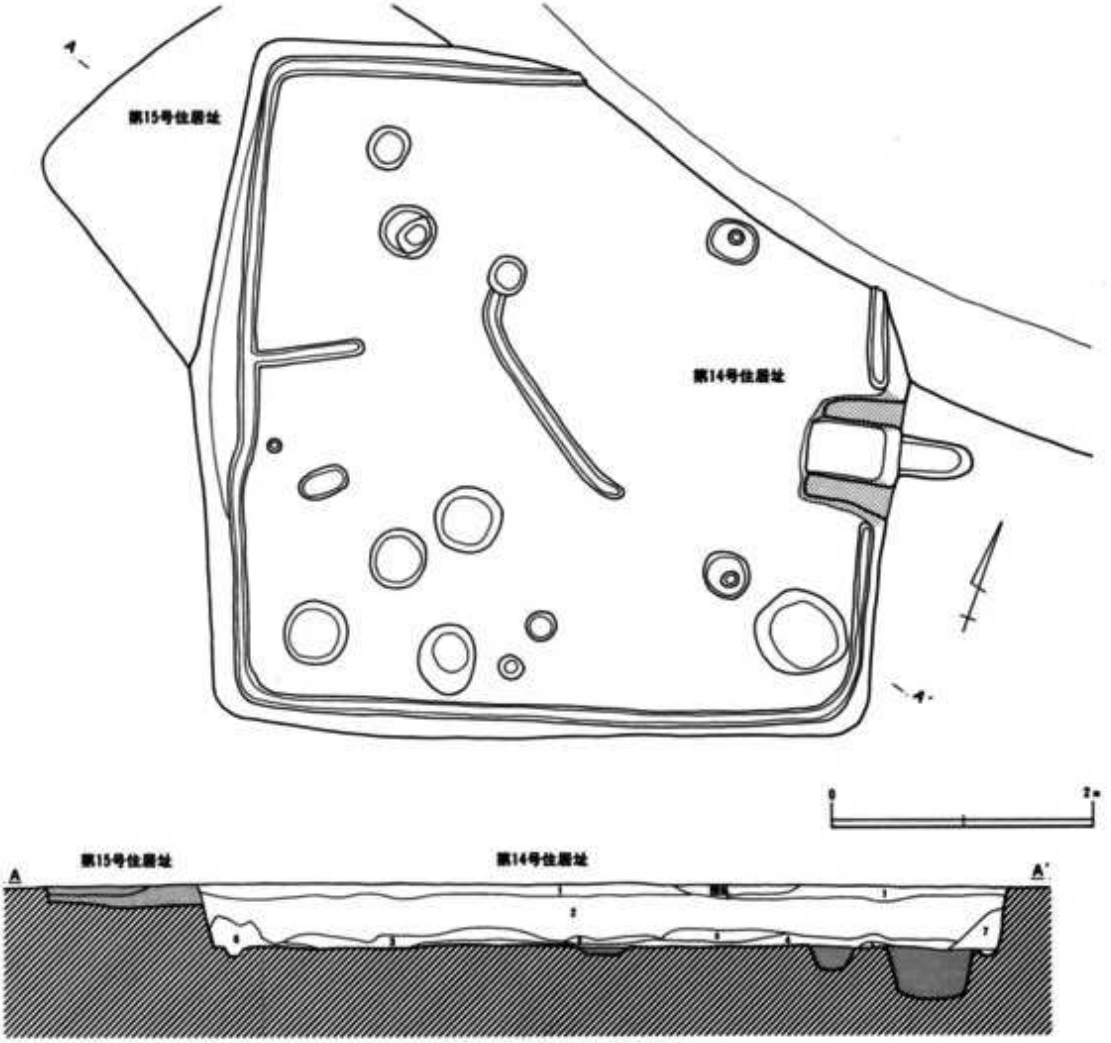
第23図　第13号住居址

第13号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　白色粒子を多量に含む。橙色粒子を含む。
第2層　暗褐色土　焼土を多量に含む。
第3層　暗褐色土　白色粒子を含む。
第4層　暗褐色土　粘性強く、しまり良好。
第1層、第3層の白色粒子の割合。　1＞3

第14号住居址（第24図　図版13・1・2）

本址は、調査区北側中央やや西寄りに第15号住居址を切って構築されている。平面形態は正方形を呈し、規模は一辺5.3m、深さは確認面より47cmを測る。北東壁中央にカマドが検出されている。主柱穴は4本、貯蔵穴は南東部隅に検出され、直径60cmの円形を呈している。壁溝が全周してをり、西壁付近に東西方向に、中央付近に北西から南東にかけての間仕切り状の溝が検出された。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅱ期）の所産である。



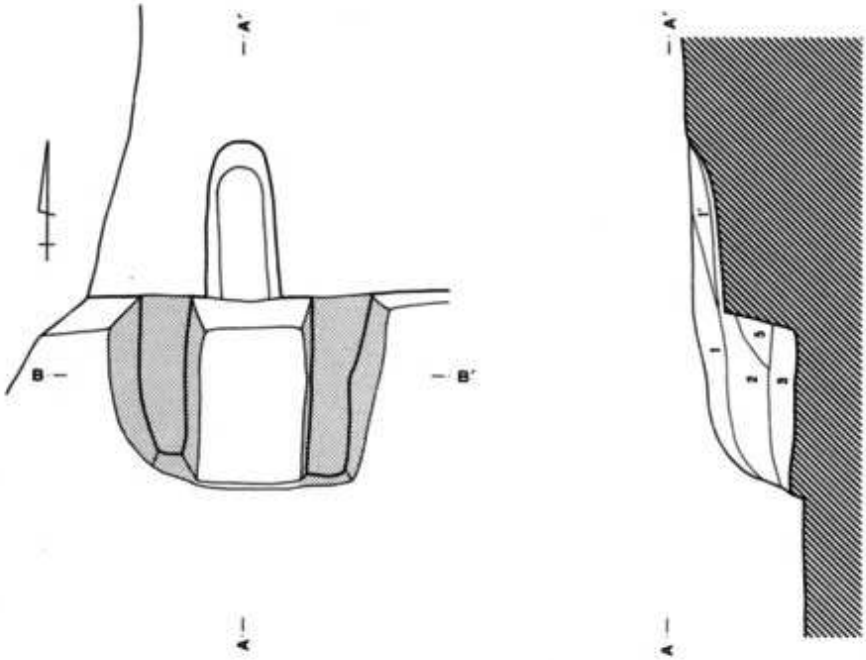
第24図　第14号住居址

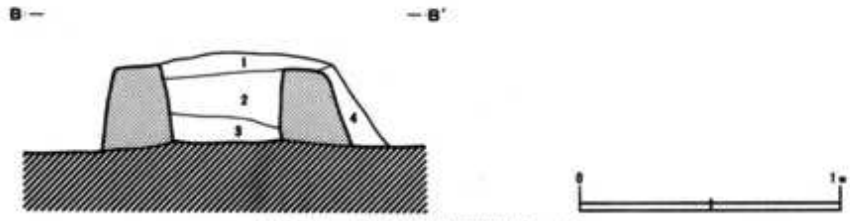
第14号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　粘質・しまり共に強い。マンガン粒を多く含む。
第2層　暗褐色土　第1層より色調がやや明るい。炭化・焼土粒子を非常に多く含む。
第3層　暗褐色土　粘性の非常に強い粘質土である。若干の炭化・焼土粒子を含む。
第4層　暗褐色土　粘性、しまり共に強い。若干の炭化・焼土粒子と多くのローム粒子を含む。
第5層　明褐色土　粘性、しまり共に有するローム層（床の一部）
第6層　暗褐色土　粘性、しまり共に有する。白色テフラを若干含む。
第7層　暗褐色土　第6層に準ずるが、焼土粒子を多く含む。

第14号住居址カマド（第25図　図版14 - 1）

住居址北東壁のほぼ中央に付設されている。遺存状態はやや不良である。規模は全長135cm、幅104cm、煙道部の長さ74cm、袖部の長さ約74cmを測る。焚口の内径は長方形で規模は内幅42cmを測る。本カマドは、大規模な破壊を受けており、土層の堆積の様相はあまり明瞭ではなかった。このほか、カマド内より遺物は検出されず廃する時に運ばれた可能性もある。





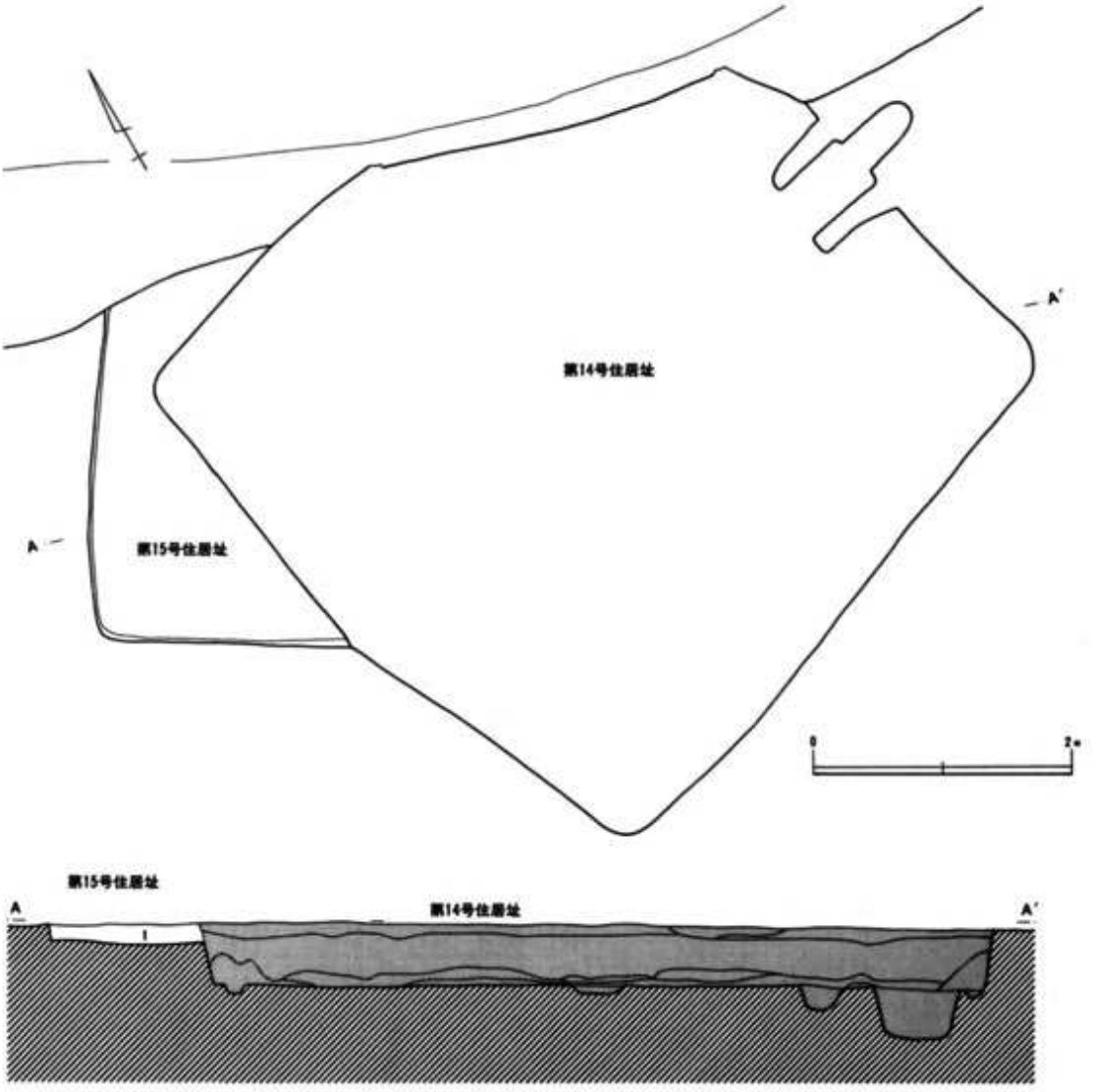
第25図　第14号住居址カマド

第14号住居址カマド土層説明

第1層　暗褐色土　砂利・白色粒子を多く含む。焼土・炭化物の含まれていない不均質層。
第1層　暗褐色土　第1層に比べ白色粒子・砂利を含まない。焼土を含む均質層
第2層　暗褐色土　砂利・白色粒子を多く含む。焼土・炭化物を所々に含む均質層。
第3層　暗褐色土　白色粒子・砂利を含まない。緻密で粒子の細かい均質の粘土層。焼土・炭化物を含む。
第4層　暗褐色土　砂利を多く含み、若干の焼土・炭化物を含む粘質土。
第5層　黒褐色土　白色粒を少し含む。炭化物・焼土の多い不均質層。

第15号住居址（第26図）

本址は、調査区北側中央やや西寄りに西隅のみが検出された。後の開墾等により北側が削平されており、東側は第14号住居址に切られているため、調査は全体の約２割程度に留まった。平面形態および規模は不明であり深さは確認面より16cmを測る。カマド、主柱穴、貯蔵穴等の付属施設は確認できなかった。出土遺物により古墳時代中期（和泉期）の所産である。



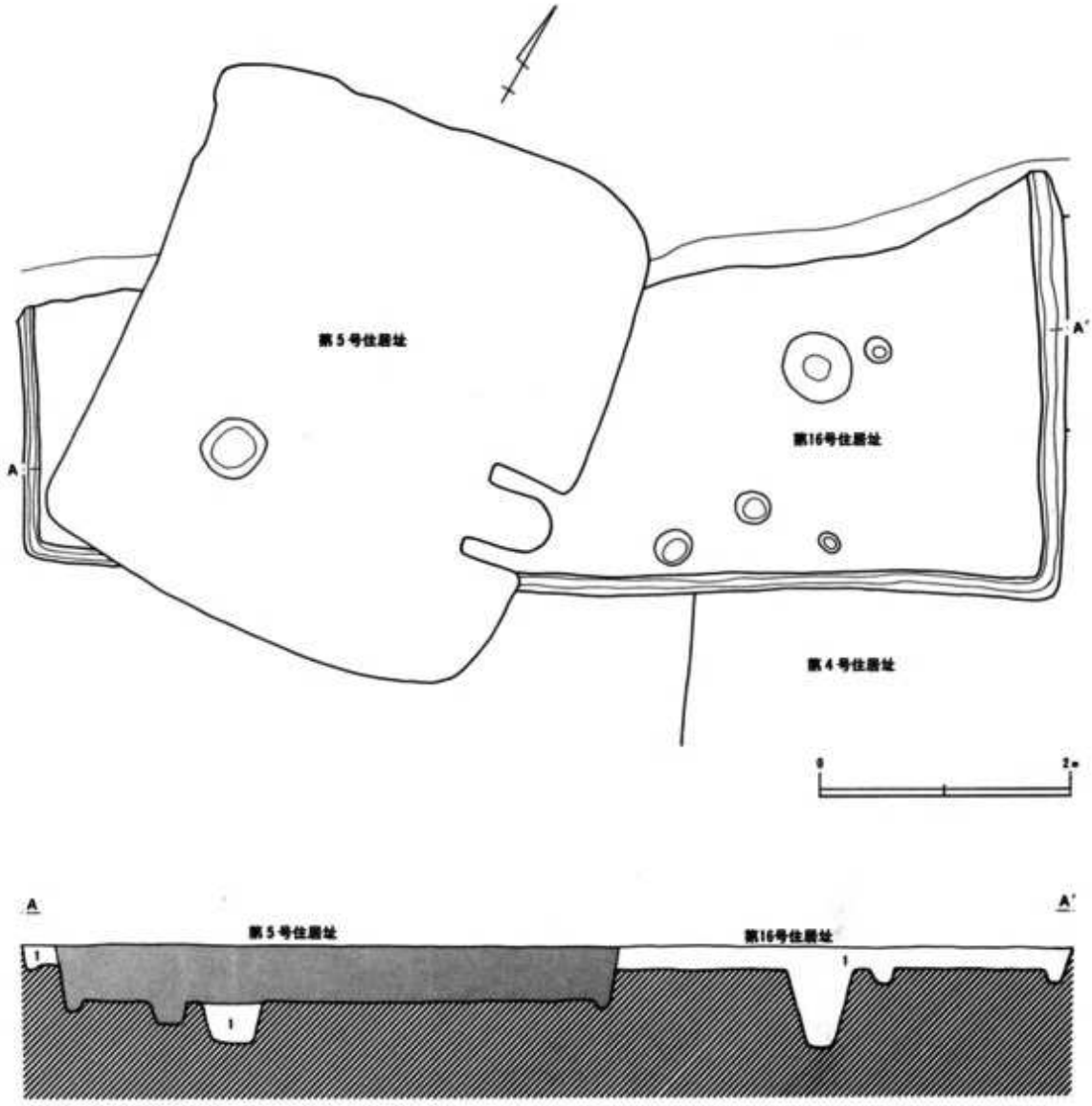
第26図　第15号住居址

第15号住居址土層説明

第１層　暗褐色土　粘質・しまり共に強い。　白色テフラを若干含む。

第16号住居址（第27図）

本址は、調査区南西に第4・5号住居址に切られて検出された。北西側は開墾等により削平されており、調査は全体の約3程度に留まった。平面形態は不明。規模は北東から南西方向に8.6m、深さは確認面より42cmを測る。柱穴は2本検出されている。貯蔵穴や炉址等については検出されていない。また確認された部分全てに壁溝が巡っており、全体に周わる可能性が高い。出土遺物により古墳時代中期（和泉期）の所産である。



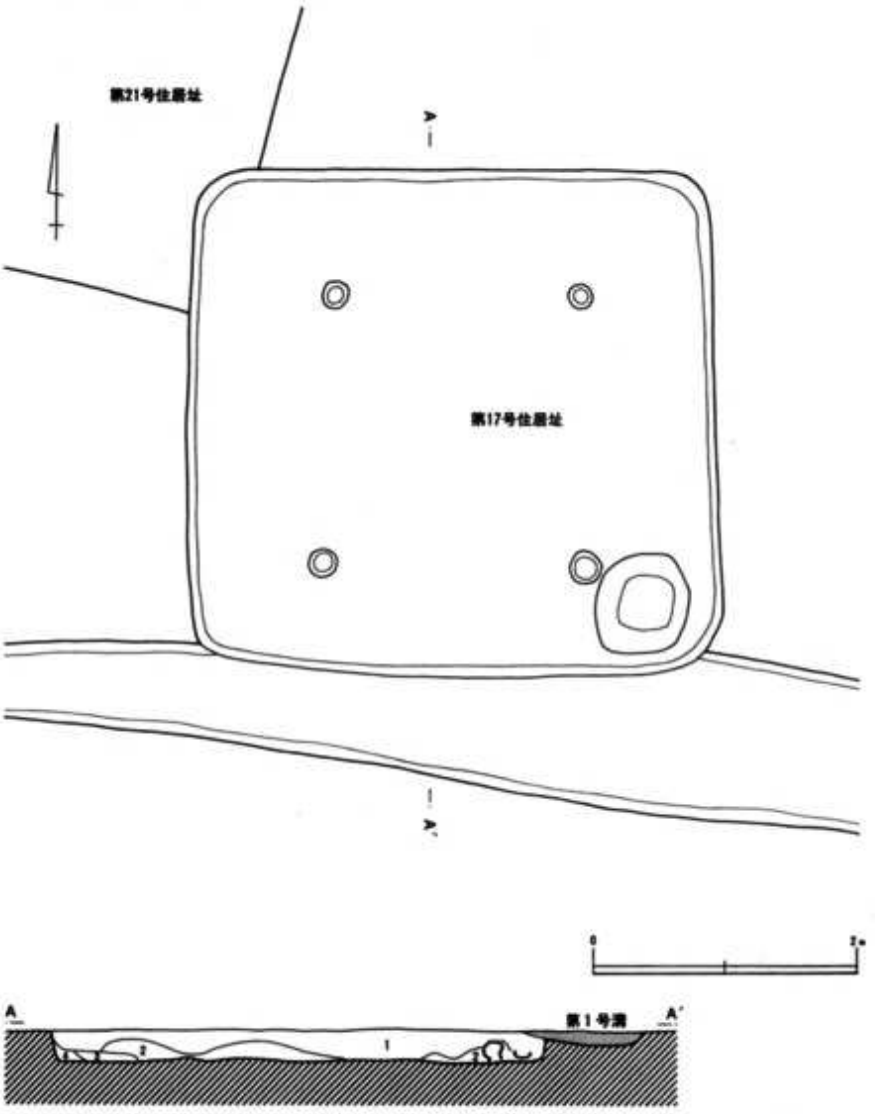
第27図　第16号住居址

第16号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　白色粒子を多量に含む。焼土粒子・炭化物粒子・マンガン粒子を含む。黄褐色土ブロックをわずかに含む。粘性弱く硬緻。

第17号住居址（第28図　図版15・1・2）

本址は、調査区ほぼ中央に検出された。第21号住居址の南東隅を切る形で構築されている。平面形態は正方形を呈しており、規模は一辺4.0m、深さは確認面より24cmを測る。主柱穴は4本確認されている。貯蔵穴は南東隅に検出され一辺約70cmの正方形を呈しており、軸は住居の壁とほぼ一致している。炉址及び壁溝等の付属施設は確認できなかった。出土遺物により古墳時代中期（和泉期）の所産である。



第28図　第17号住居址

第17号住居址土層説明

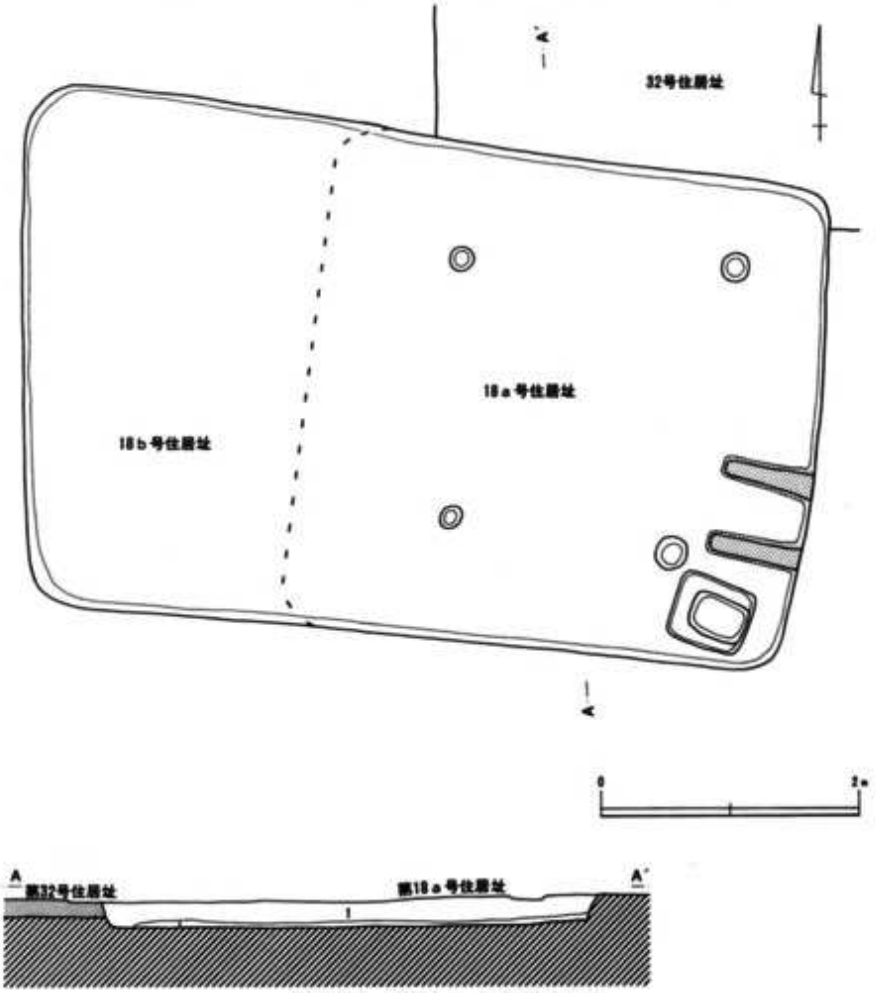
第1層　黒褐色土　白色粒子や細かい砂利を多く含む。土質は粘性が強い。
第2層　暗褐色土　白色粒子や細かい砂利を若干含む。焼土粒子も若干含む。
第3層　暗褐色土　白色粒子や細かい砂利を若干含む。
第4層　暗褐色土　比較的多くの細かい砂利を含む。
砂利の割合　4＞1＞3＞2

第18ａ号住居址（第29図　図版16－1・2）

本址は、調査区中央やや北東寄りに第18b、34号住居址を切って構築されている。平面形態は正方形を呈しており、規模は一辺4.0m、深さは確認面より22㎝を測る。主柱穴は４本確認されている。カマドは東壁やや南寄りに構築されており、貯蔵穴は南東隅に検出され一辺60㎝の正方形を呈している。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。

第18ｂ号住居址（第29図　図版16－1）

本址は、調査区中央やや北東寄りに第18a号住居址に切られて検出された。調査は全体の５割程度に留まった。平面形態は不明で、規模は南北に4.0mを測る。深さは確認面より22㎝を測る。主柱穴、貯蔵穴等の付属施設は確認できなかった。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



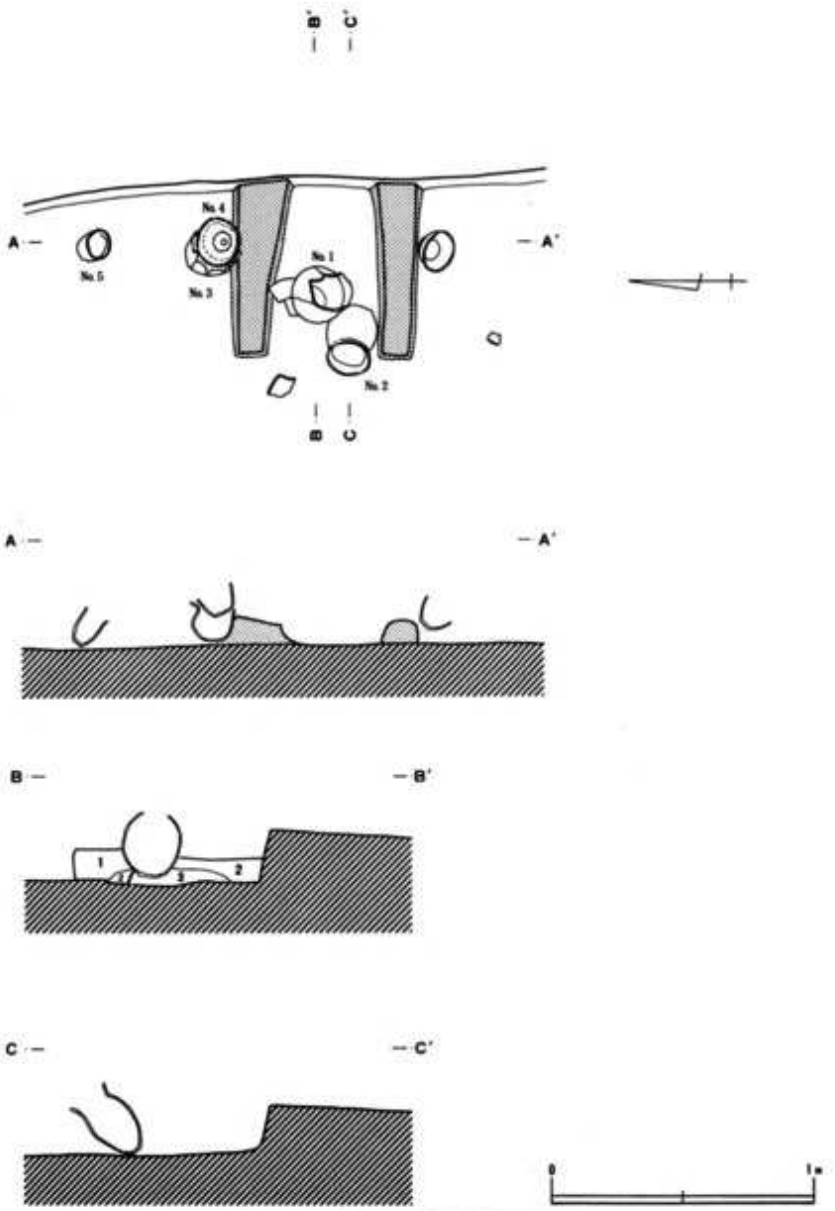
第29図　第18ａ・ｂ号住居址

第18号住居址土層説明

第１層　暗灰色土　良くしまっているが粘性は少ない。白色粒子・炭化粒子・焼土粒子を多く含む砂質層。
第２層　暗褐色土　第１層に準ずるが、白色粒子が多くさらに砂質である。

第18ａ号住居址カマド（第30図　図版17－1）

住居址東壁中央やや南よりに付設されている。遺存状態は不良である。規模は、全長69cm、幅71cm、袖部の長さ約69cmを測る。焚口の内径は45cmを測るが、燃焼部は明瞭ではなかった。支脚や煙道などのその他の施設は検出できなかった。

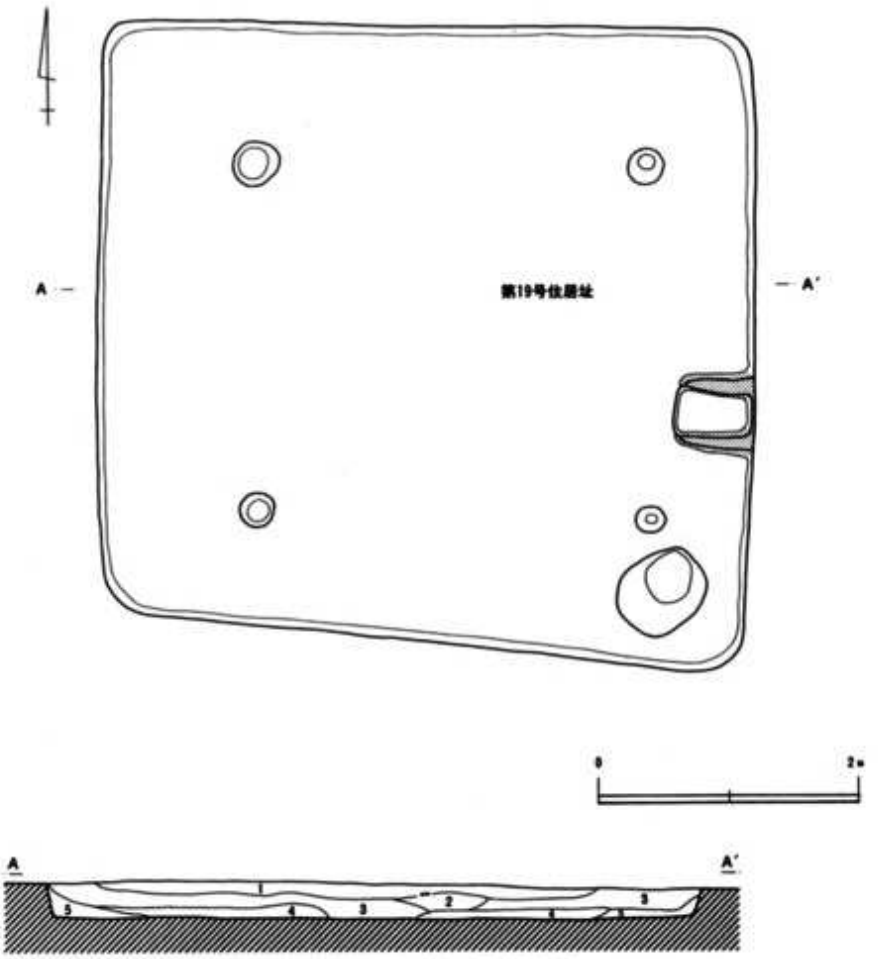


第30図　第18ａ号住居址カマド

第18号住居址カマド土層説明
第１層　灰褐色土　炭化物・焼土を含まない粘質層。
第２層　赤 色 土　焼土により構成された層。
第３層　褐 色 土　炭化物・焼土を多く含む砂質粘土層。

第19号住居址（第31図　図版18 - 1）

本址は、調査区中央南寄りに検出された。平面形態は正方形に近いが、西側がやや短く台形を呈している。規模は東壁は約5.1m、西壁は4.5mを測る。深さは確認面より28cmを測る。カマドは東壁中央やや南寄りに構築されている。主柱穴は4本確認されているが、壁溝や間切り等の他の施設は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に検出されている。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



第31図　第19号住居址

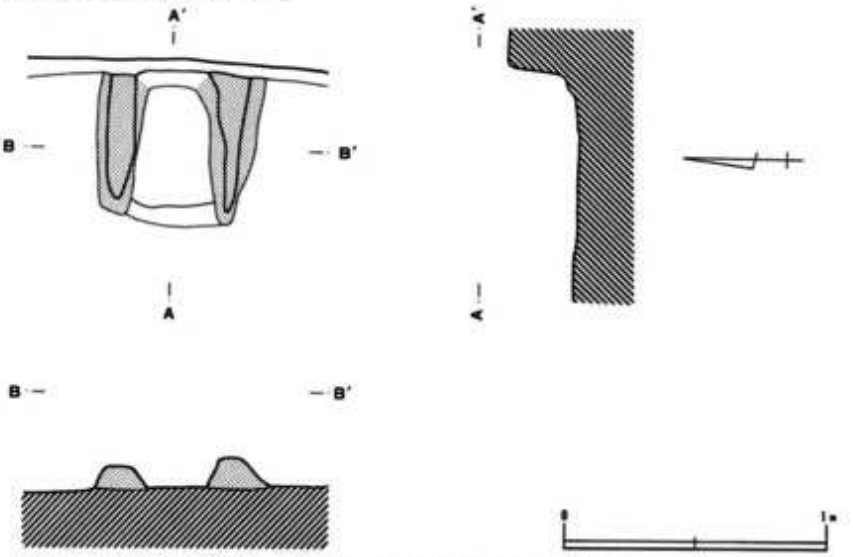
第19号住居址土層説明

第1層　黒褐色土　砂利（1.5~0.3cm）・白色粒子を多く含む粘質層。焼土は少ない。
第2層　暗褐色土　オレンジの粒子・白色粒子を少し含む粘性の高い層。焼土は見られない。
第3層　暗褐色土　砂利を含む粘性の高い層。焼土粒子をわずかに含む。
第4層　黒褐色土　砂利を多く含む粘性の高い層。白色粒子・焼土粒子をわずかに含む。
第5層　暗褐色土　第2層に準じて、砂利をほとんど含まない粘性の高い層で白色粒子を多く含む。

明度　(暗) 1<4<3<5<2 (明)　　砂利(少) 5·2<3<4<1 (多)

第19号住居址カマド（第32図　図版18 - 2）

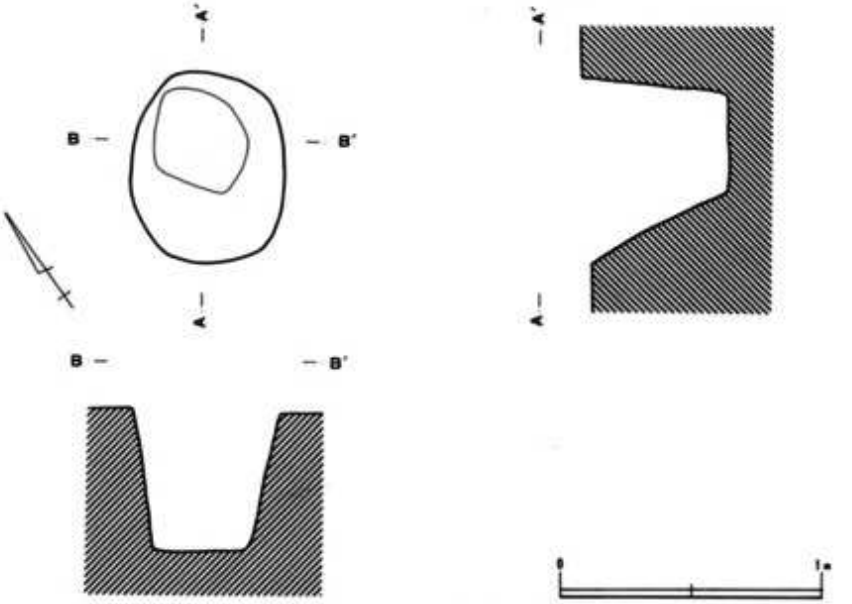
住居址東壁中央やや南寄りに付設されている。遺存状態は不良である。規模は全長65cm、幅62cmを測り、袖部の長さは約60cm、焚口の内径は30cmを測る。燃焼部は浅くわずかに断面に段が確認できただけであった。煙道部、支脚等の施設は確認されなかった。



第32図　第19号住居址カマド

第19号住居址貯蔵穴（第33図）

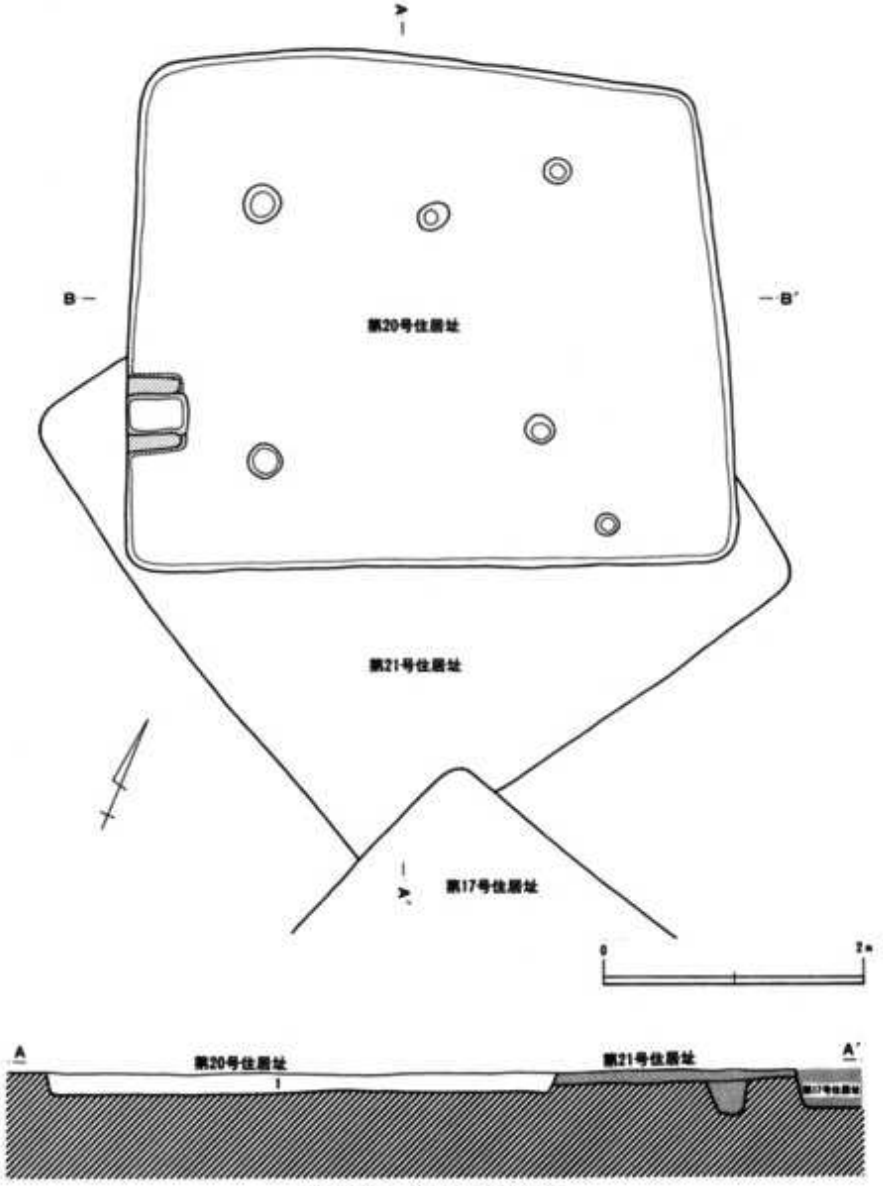
住居址の南東隅に検出されている。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長径80cm、短径50cmを測る。北側の立ち上がりはほぼ垂直である。



第33図　第19号住居址貯蔵穴

第20号住居址（第34図　図版19 - 1）

本址は、調査区中央北寄りに第21号住居址の北西部の約半分を切る形で構築されている。平面形態は長方形を呈しており、規模は長径が北東から南西方向に4.6m、短径は北西から南東方向に3.9mを測る。深さは確認面より14cmを測る。カマドは南西壁やや北寄りに検出しており、主柱穴は4本確認されている。貯蔵穴は確認されなかった。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



第34図　第20号住居址

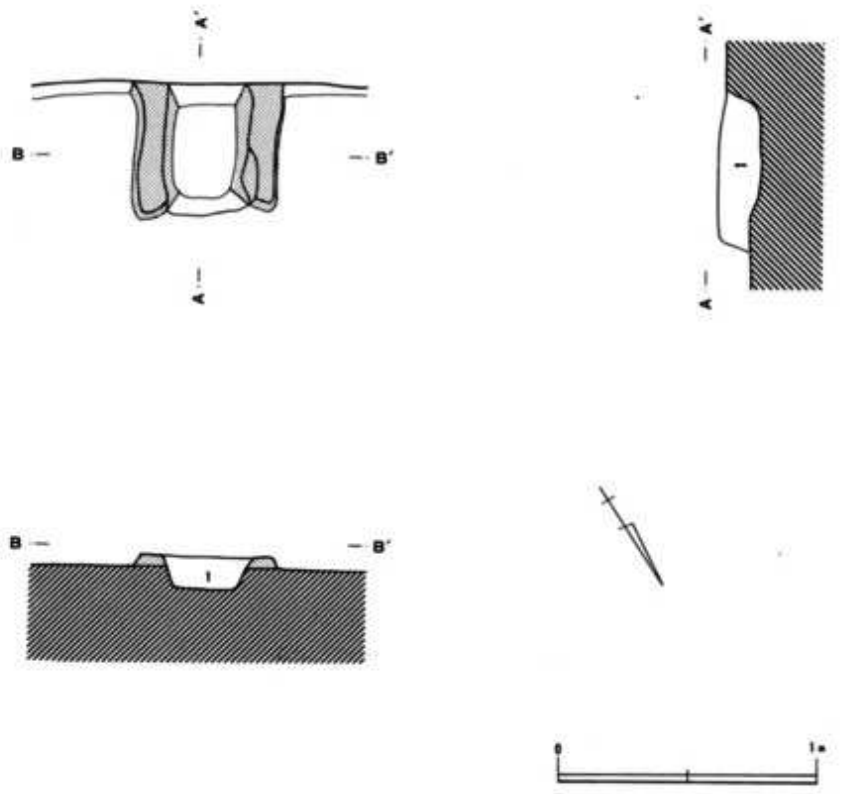
第20号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。やや砂質である。

第35図　第20号住居址断面図

第20号住居址カマド（第36図　図版19 - 2）

住居址南西壁やや北よりに付設されている。遺存状態は不良である。規模は全長54cm、幅55cm、袖部の長さ約54cmを測る。焚口の内径は32cmで、燃焼部は長方形を呈しており、浅い窪みを有している。煙道部、支脚等の施設は確認されなかった。



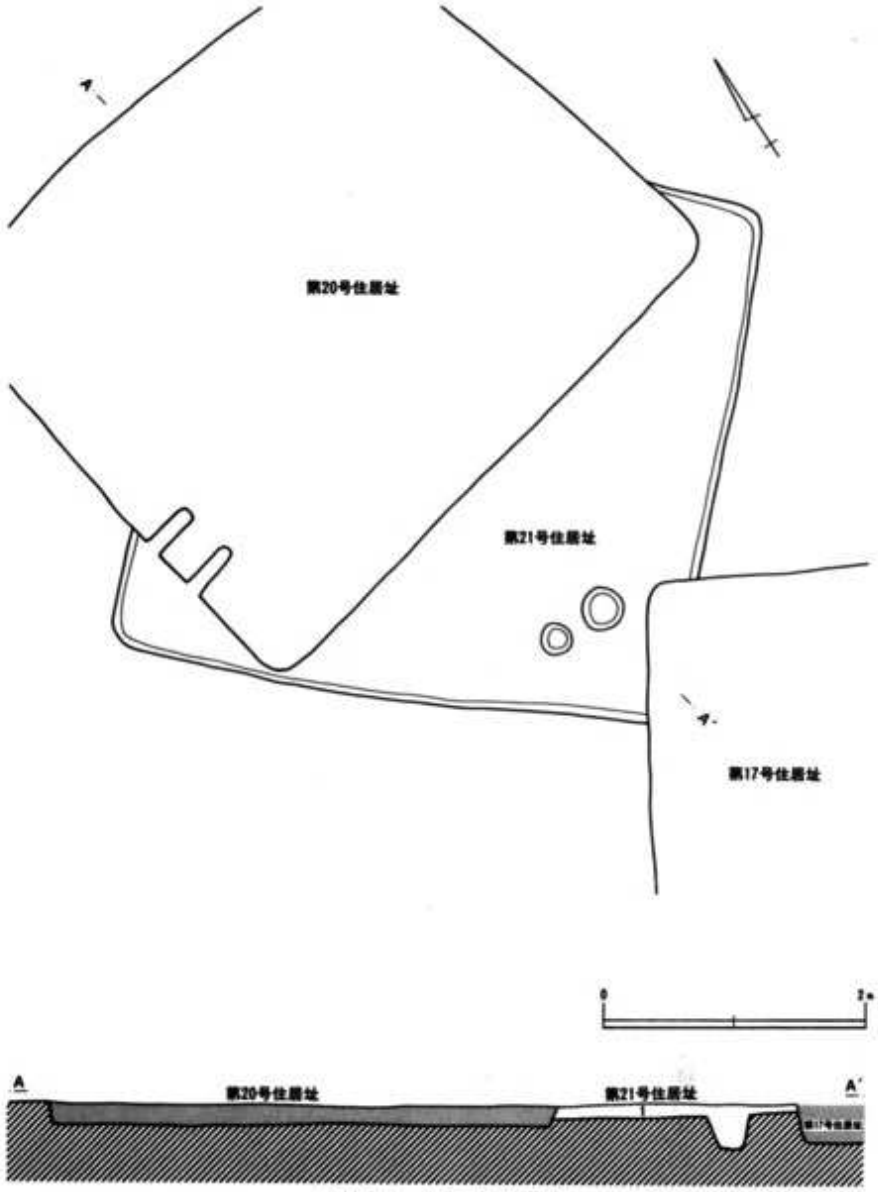
第36図　第20号住居址カマド

第20号住居址カマド土層説明

第１層　暗褐色土　白色粒子を多く含み、焼土・炭化物を若干含む。

第21号住居址（第37図　図版19 - 1）

本址は、調査区中央やや北寄りに検出された。第17号住居址に南隅を切られ、第20号住居址に北西部分を約半分切られているため、調査は全体の約４割程度に留まった。平面形態は正方形を呈しており、規模は一辺約4.4mを測り、深さは確認面より10cmを測る。主柱穴は１本確認されている。炉址、貯蔵穴などの付属施設は確認されていない。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



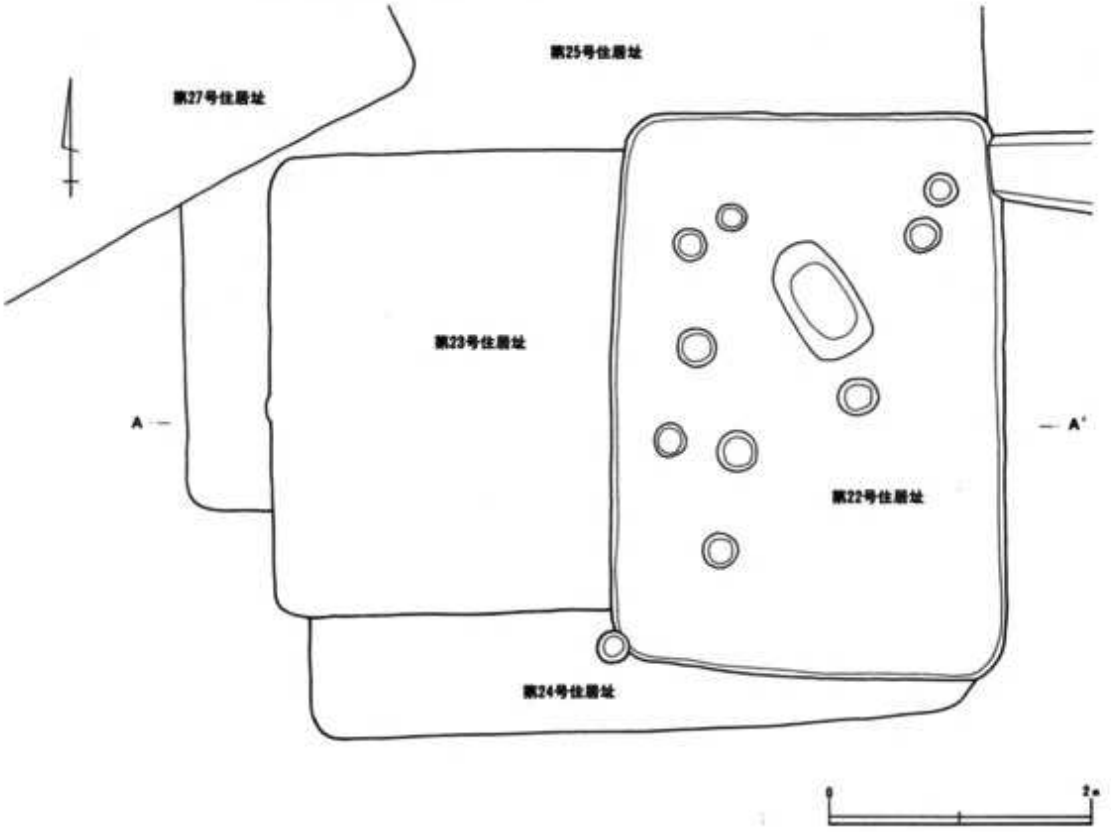
第37図　第21号住居址

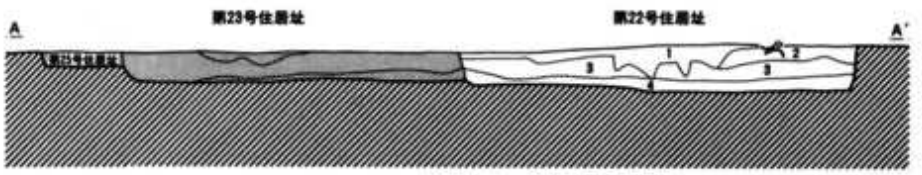
第21号住居址土層説明

第１層　暗褐色土　しまりは有するが粘性をやや欠く。砂質であり白色粒子を多く含む。

第22号住居址（第38図　図版20・1・2）

本址は、調査区中央やや西北寄りに検出された。第23・24・25号住居址を切って構築されている。平面形態は長方形を呈しており、規模は長径4.4m、短径に3.0mを測り、深さは確認面より34cmを測る。主柱穴は3本、貯蔵穴は中央やや北寄りに位置し、長径100cm、短径60cmを測る長方形を呈している。炉址、カマド、壁溝等の付属施設は検出されていない。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。尚、第22から24号住居址の出土遺物は本址の一部が相当するものと思われる。





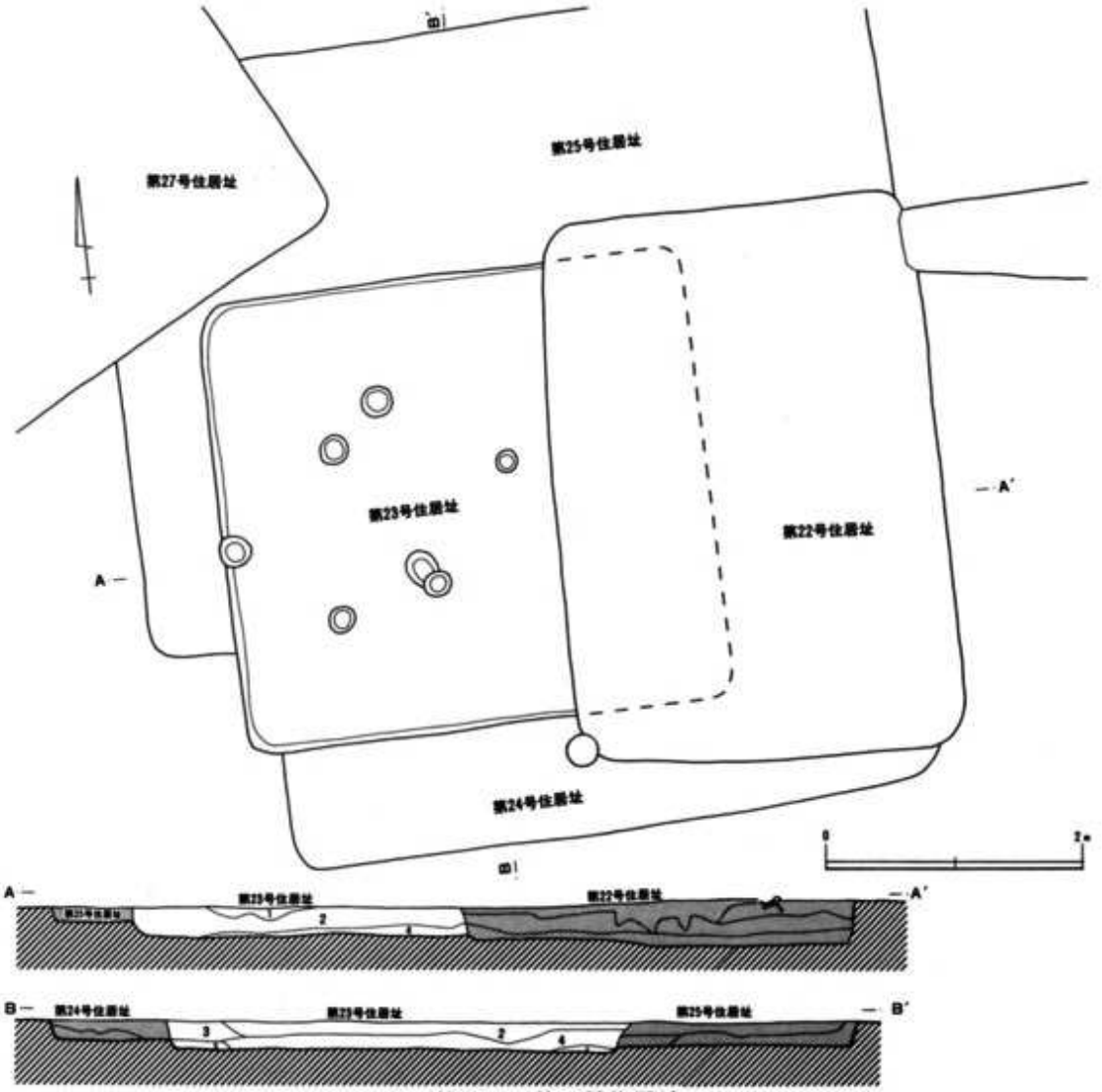
第38図　第22号住居址

第22号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。炭化物粒及び焼土粒を比較的多く含む。
第2層　橙褐色土　焼土面や焼土塊である。
第3層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。やや砂質である。
第4層　暗褐色土　砂質であり、鉄分を若干含む。

第23号住居址（第39図　図版20－2）

本址は、調査区中央やや西北寄りに検出された。第24・25号住居址を切って構築されている。また、第22号住居址に西側を切られているため調査は全体の7割程度に留まった。平面形態はほぼ正方形を呈すると推測され、規模は南北に3.6m、深さは確認面より23cmを測る。主柱穴は2本確認されている。その他の炉址、貯蔵穴等の付属施設は検出されていない。古墳時代の所産であると推定される。



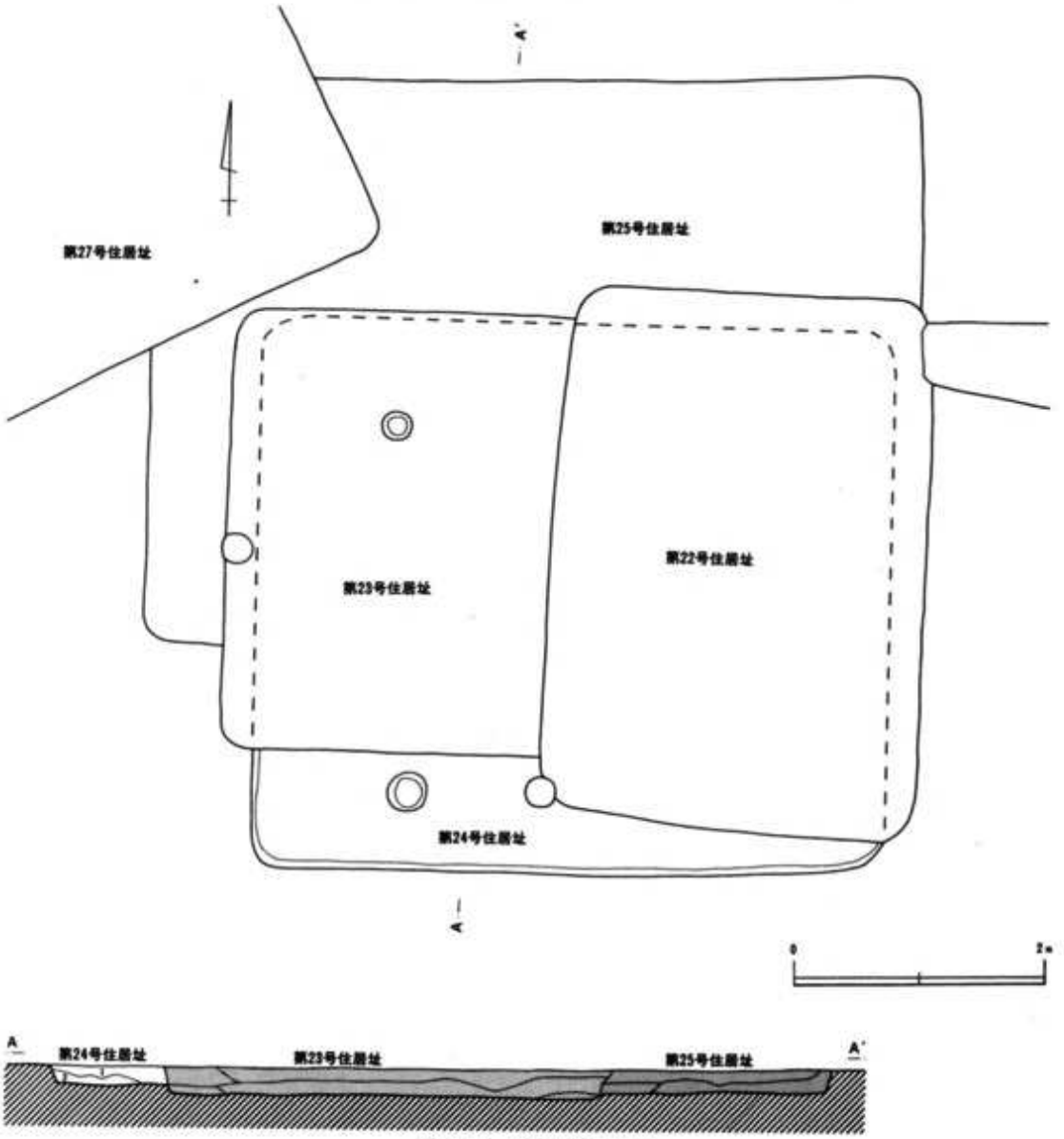
第39図　第23号住居址

第23号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。
第2層　暗褐色土　しまり、粘性を有する。白色粒子を多く含む。
第3層　黄褐色土　しまっており粘性が強い。ローム質土の風化土が主体である。
第4層　暗褐色土　しまっているがやや粘性に欠く。やや砂質である。
第5層　暗褐色土　第4層に準ずるが、砂質に欠く。

第24号住居址（第40図　図版20 - 2）

本址は、調査区中央やや西北寄りに検出された。第22・23号住居址にきられており、調査は全体の２割程度に留まった。また第25号住居址とも重複している。平面形態はほぼ正方形を呈すると推測され、規模は東西に5.3mを測り、深さは確認面より14cmを測る。主柱穴は２本確認されている。その他の貯蔵穴等の付属施設は検出されなかった。古墳時代の所産であると推定される。



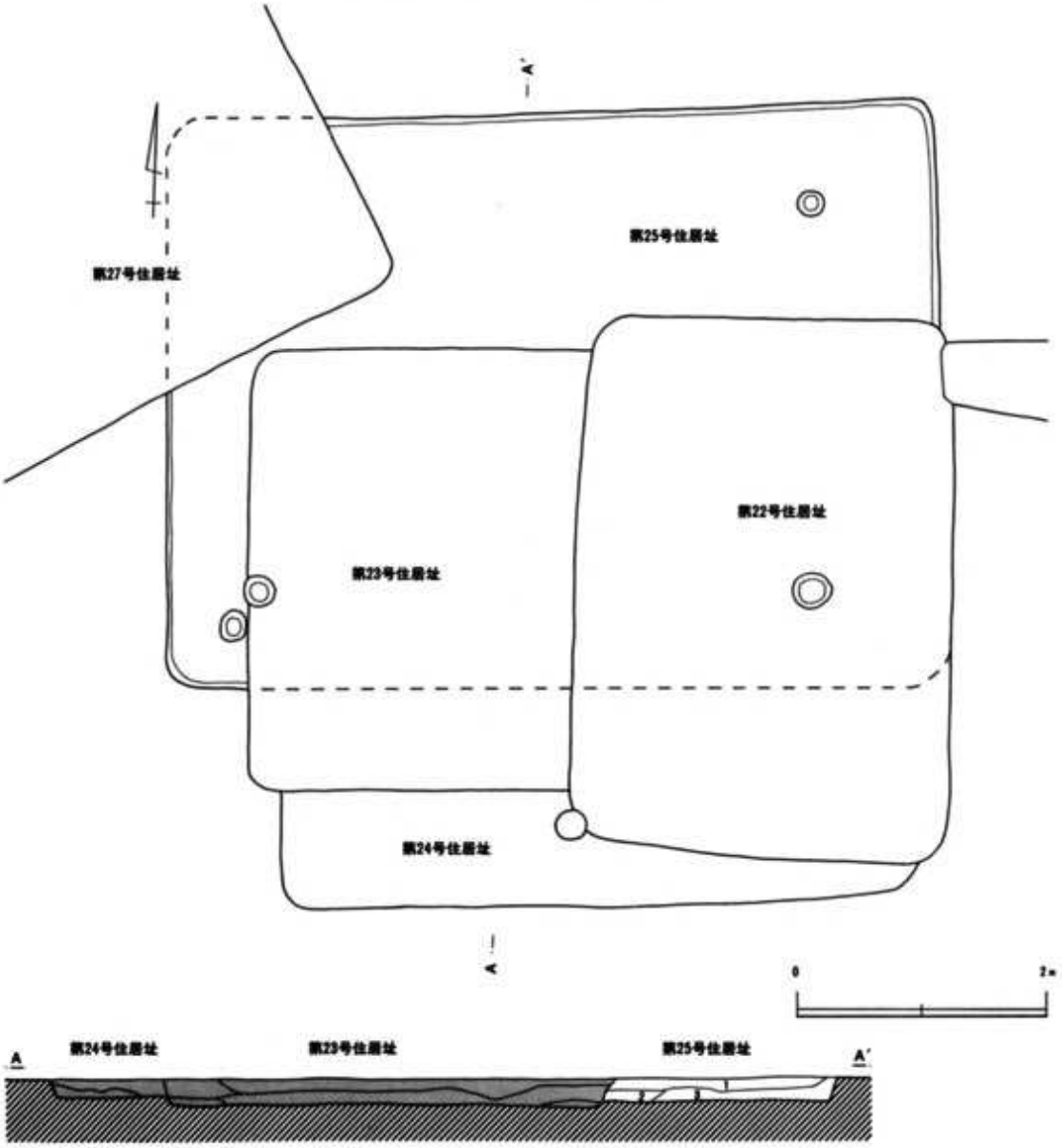
第40図　第24号住居址

第24号住居址土層説明

第１層　暗褐色土　良くしまっている。白色・黄色粒を若干含む。
第２層　暗褐色土　しまっているがやや粘性に欠く。やや砂質である。

第25号住居址（第41図　図版20－2）

本址は、調査区中央やや北寄りに検出された。第22・23・27号住居址によって切られている。また第24号住居址とも重複している。平面形態は長方形を呈し、規模は長径6.2m、短径4.7m、深さは確認面より20cmを測る。主柱穴は3本検出された。出土遺物により古墳時代中期（和泉期）の所産である。



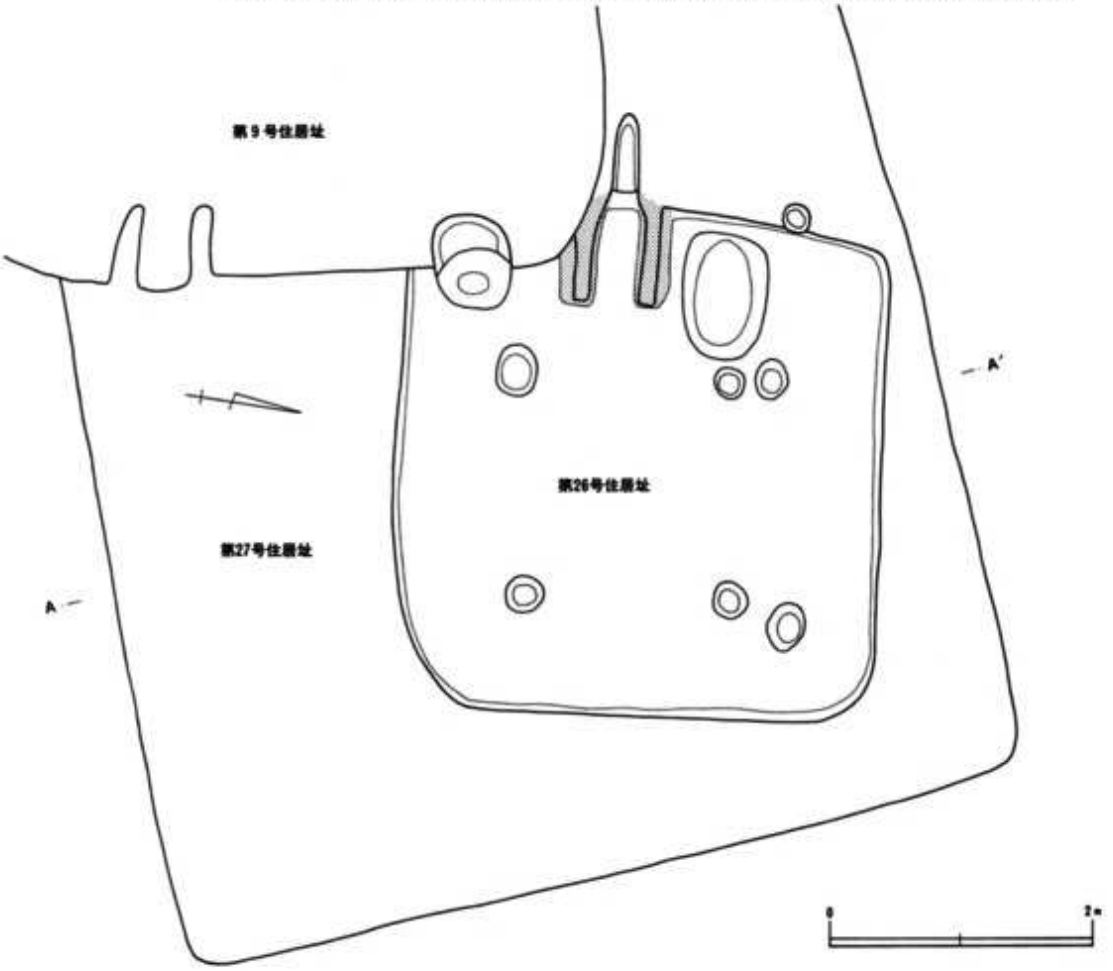
第41図　第25号住居址

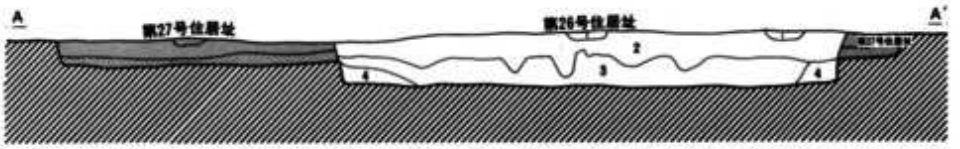
第25号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。白色粒子・鉄分を若干含む。
第2層　暗褐色土　白色粒子・鉄分を若干含む。
第3層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。白色粒子・鉄分を若干含む。
粘性・白色粒子・鉄分　(多)3＞2＞1(少)

第26号住居址（第42図　図版21 - 1）

本址は、調査区中央西寄りに検出された。第27号住居址を切って構築されている。カマドの一部を第９号住居址に切られている。平面形態は正方形を呈し、規模は一辺約3.8m、深さは確認面より36cmを測る。カマドは西壁に構築されている。主柱穴は４本確認されており、貯蔵穴は直径60cmの円形のものが南西隅に検出された。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。





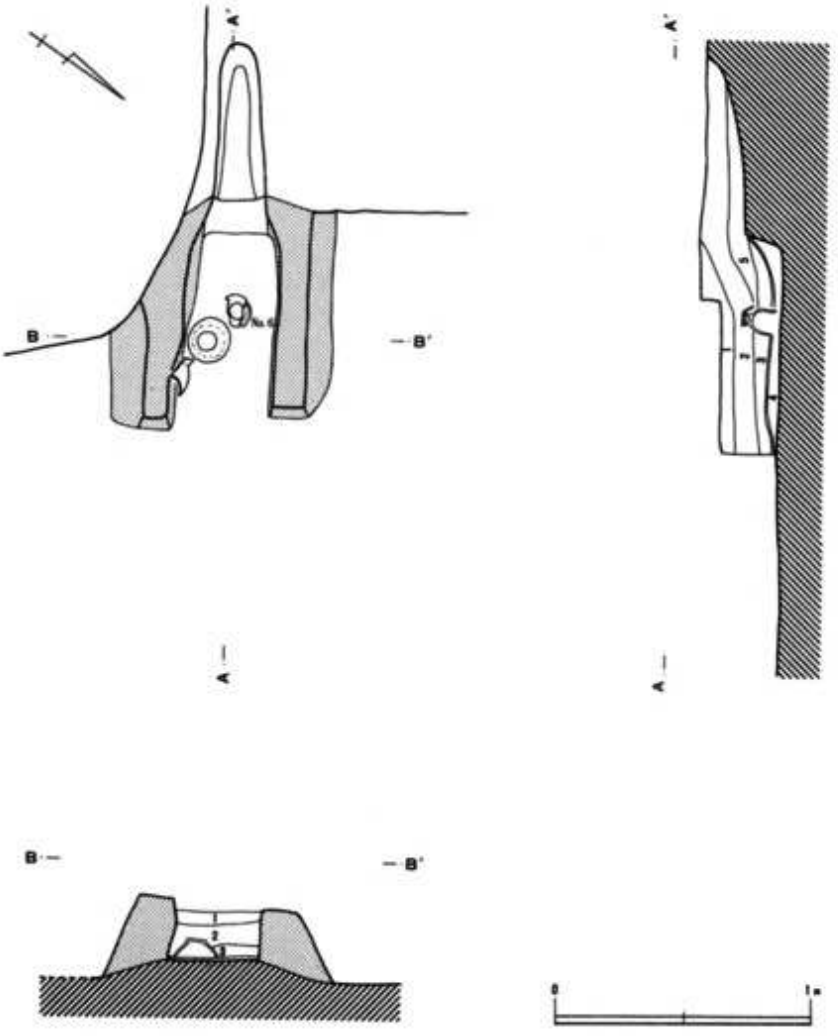
第42図　第26号住居址

第26号住居址土層説明

第１層　明灰色土　しまり、粘性共になし。（As−A）を非常に多く含む。
第２層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。焼土・炭化粒子を含む。
第３層　暗褐色土　第２層に準ずるが、焼土・炭化粒子を含まない。
第４層　明褐色土　ややローム質土である。しまり、粘性共に強い。

第26号住居址カマド（第43図　図版21－2）

住居址西壁ほぼ中央に付設されている。遺存状態は良好であるが南側の袖の一部を第９号住居址に切られている。全長150cm、幅85cmを測る。煙道部は61cm、袖部の長さ約83cmを測る。焚口の内径は40cmを測る。覆土第２層は天井部の崩壊土層と考えられる。また燃焼部の覆土第４層直上より坏の破片をのせた状態の伏せた台付鉢が出土している。



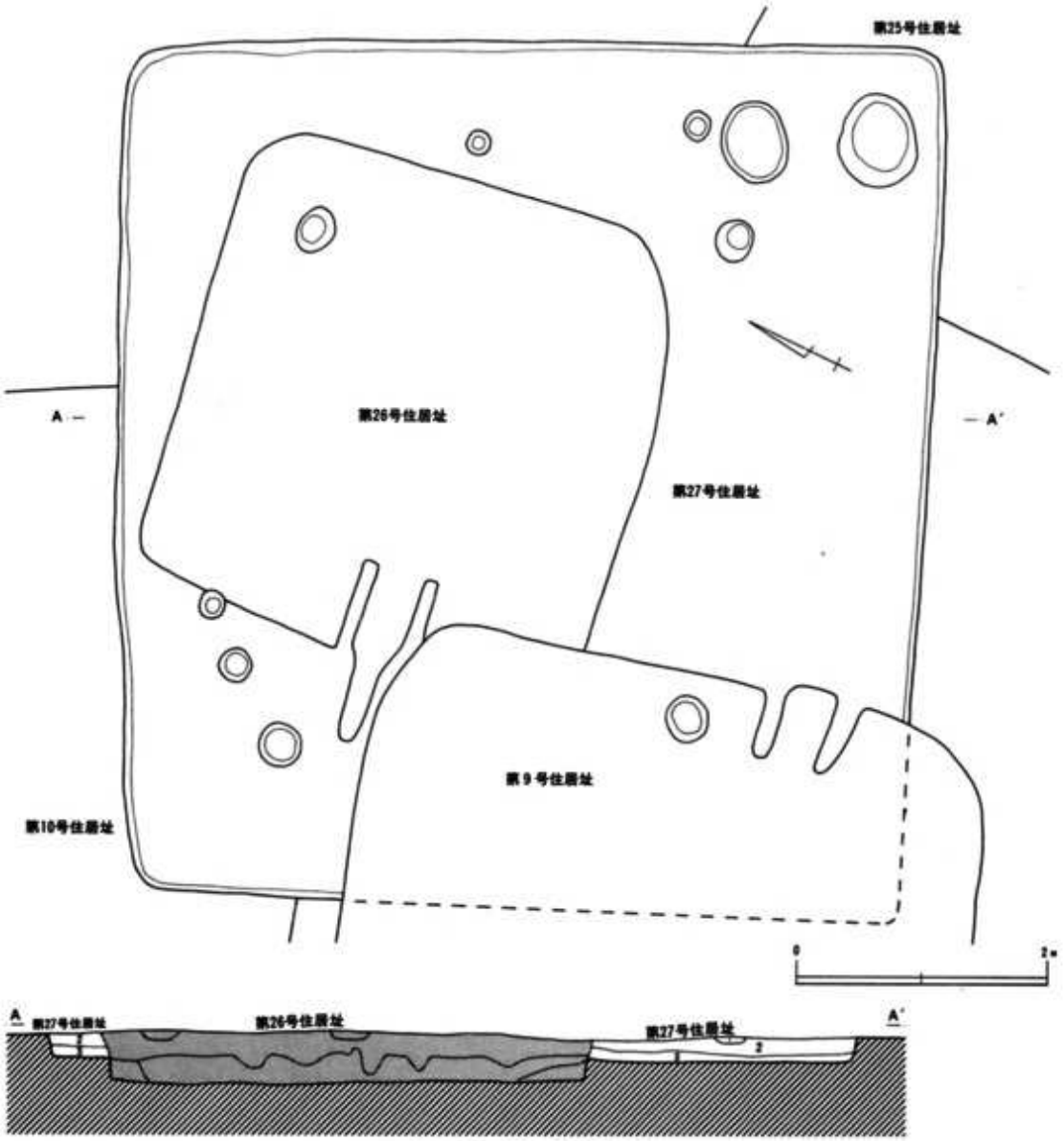
第43図　第26号住居址

第26号住居址カマド土層説明

第１層　暗褐色土　砂利を多く含む粘質土層。所々に焼土粒子を含む。
第２層　灰褐色土　砂利を少し含む粘質層。所々に焼土（径1.5cm）を含む。第１層より明るい均質土である。
第３層　焼土層　ブリッジ下部の焼土の堆積。
第４層　灰褐色土　炭化物・焼土により構成される。不均質でしまりのない粘土層。層の上端は炭化物層である。
第５層　灰褐色土　炭化物・焼土・砂利を含む。第４層に準じた不均質の粘質土層。

第27号住居址（第44図　図版21－1）

本址は、調査区中央西寄りに検出された。第10・25号住居址を切って構築している。また第9・26号住居址に切られている。平面形態は正方形を呈しており、規模は一辺約6.7m、深さは確認面より20cmを測る。主柱穴は4本検出され、貯蔵穴は南東隅に2ヶ所検出された。その他炉址等の付属施設は確認できなかった。出土遺物により古墳時代中期（和泉期）の所産である。



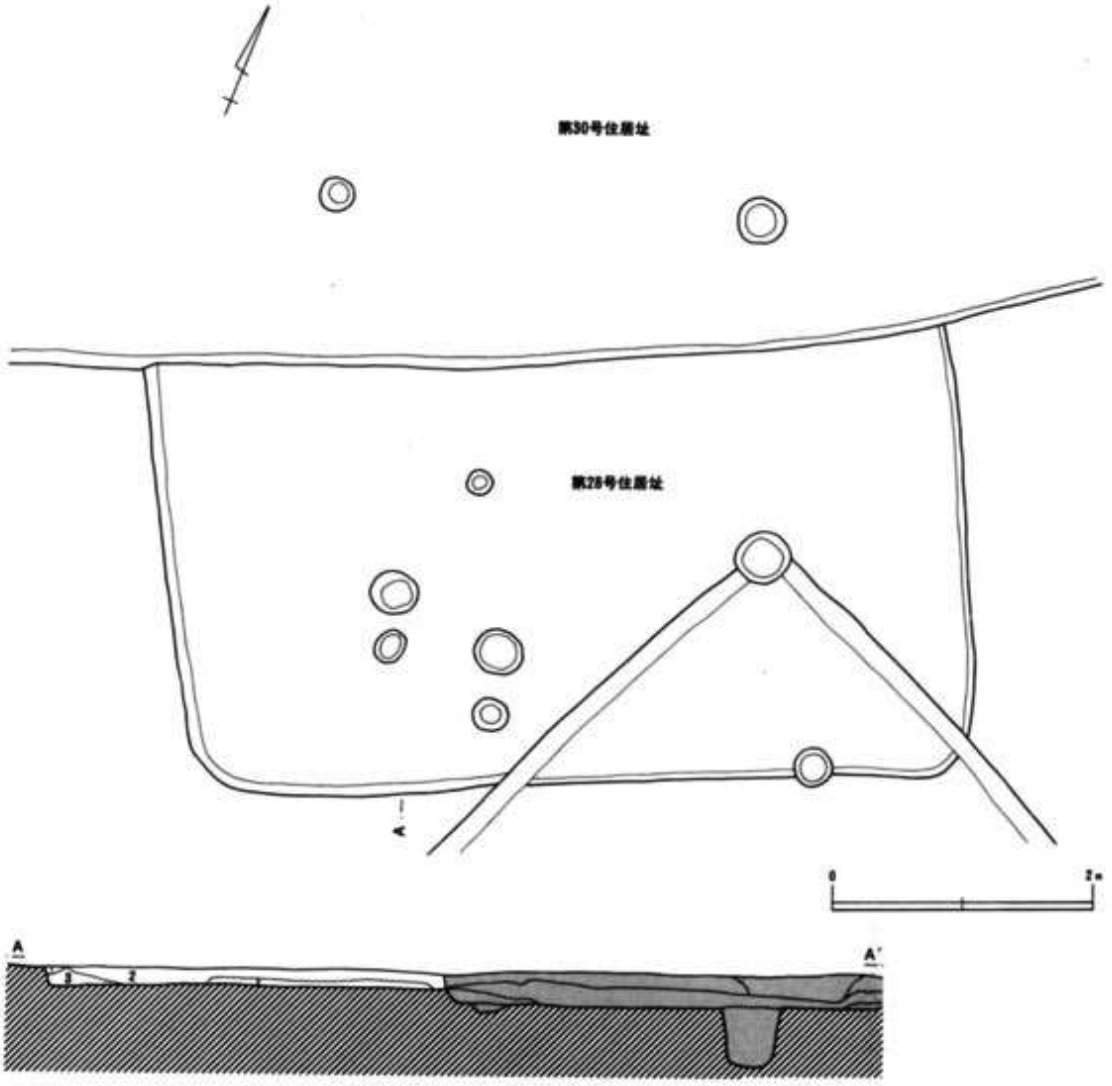
第44図　第27号住居址

第27号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。
第2層　明灰褐色土　しまり、粘性共に強いローム質土。

第28号住居址（第45図　図版23 - 1）

本址は、調査区北西隅に検出された。第29・30号住居址に北東部分を切られているため、調査は全体の５割程度に留まった。また第11号住居址とも重複している。平面形態はほぼ正方形を呈すると推測され、規模は一辺約6.3mを測り、深さは確認面より24cmを測る。主柱穴は４本確認されている。炉址、貯蔵穴等のその他の付属施設は確認できなかった。出土遺物により古墳時代前期（五領期）の所産である。



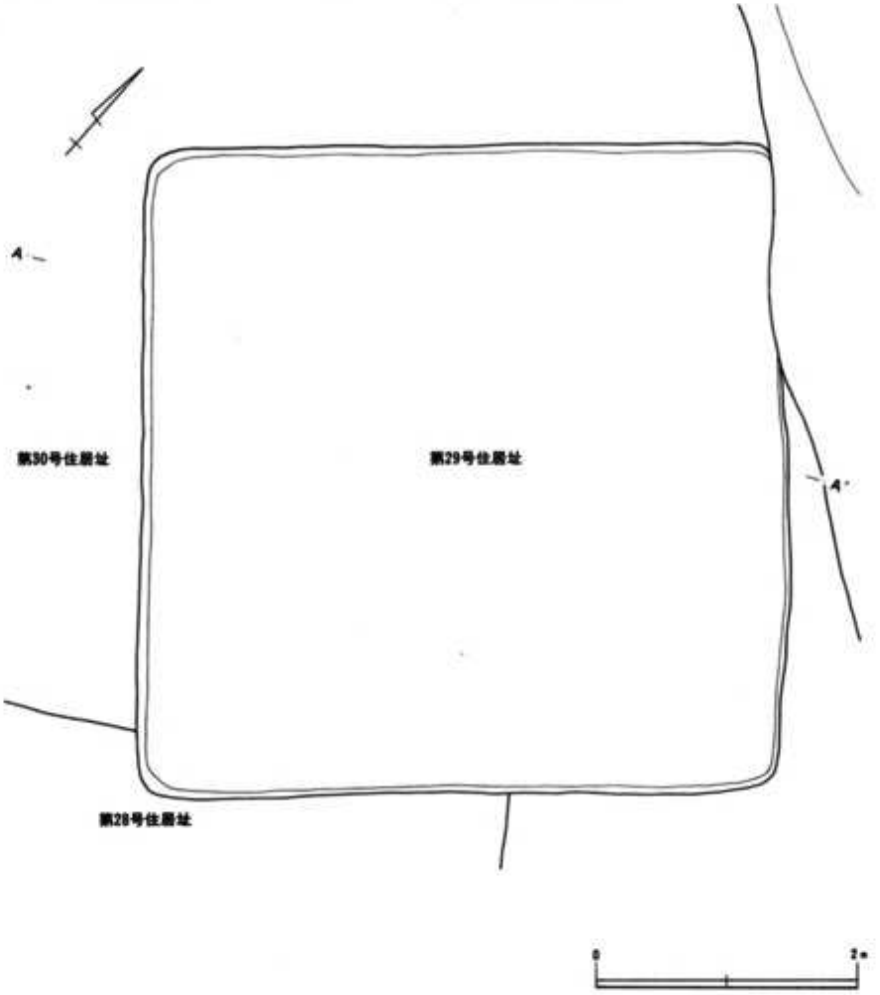
第45図　第28号住居址

第28号住居址土層説明

第１層　明灰色土　しまり、粘性共になし。（As-A）を非常に多く含む。
第２層　暗灰褐色土　しまり、粘性共に有する。焼土粒子・炭化粒子を若干含む。
第３層　暗灰褐色土　第１層に準ずるが粘性が高く、焼土・炭化粒子を含まない。

第29号住居址（第46図　図版23－1）

本址は、調査区北西隅に検出された。第28・30号住居址を切って構築されている。遺構が浅いため、調査は西隅のみの確認に留まった。平面形態は断面によりほぼ正方形を呈すると推測され、規模は一辺約3.0mを測ると考えられる。深さは確認面より10cmを測る。主柱穴、貯蔵穴などの付属施設は確認できなかった。出土遺物により平安時代（国分期）の所産である。



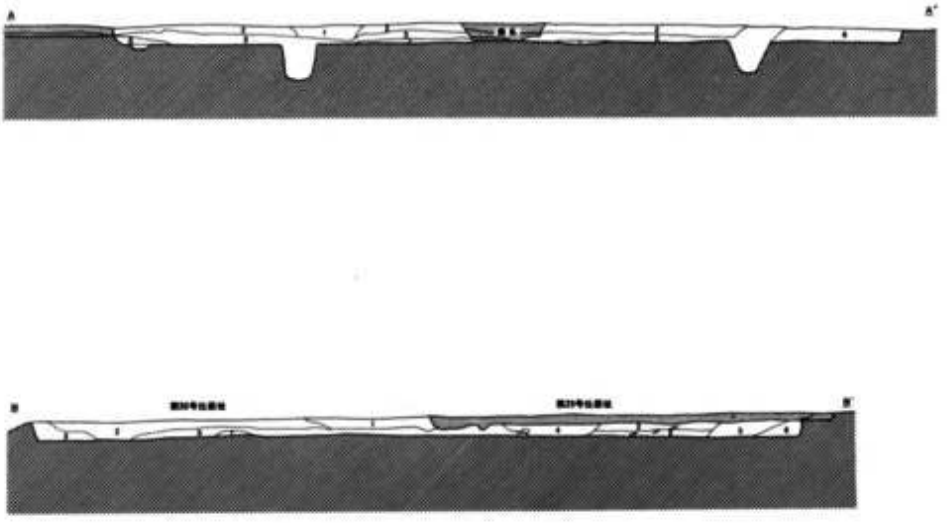
第46図　第29号住居址

第29号住居址土層説明

第１層　暗灰色土　しまり、粘性共に有する。焼土・炭化粒子を若干含む。
第２層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。粘性は特に強く、土質が細かい。

第30号住居址（第48図　図版23－1・図版24－1）

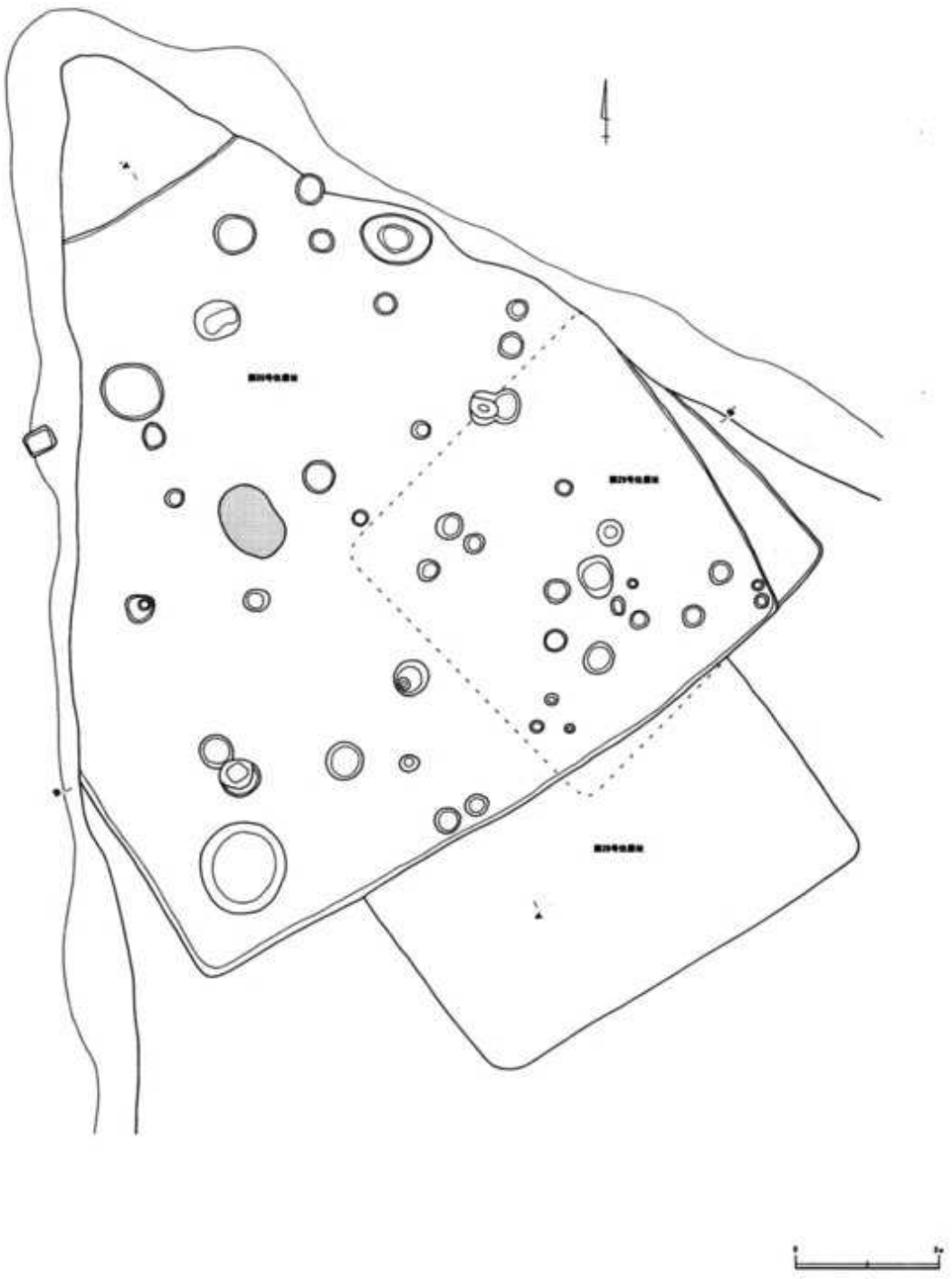
本址は、調査区北西隅に検出された。第28・29号住居址に重複しており、また後の開墾等により北西側が削平により、調査は全体の８割程度に留まった。平面形態は１辺10mの正方形を呈しており、深さは確認面より12cmを測る。中央やや北西よりに炉址が検出されている。主柱穴は４本、貯蔵穴は南西隅に直径120cmの円形を呈するものが検出された。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



第47図　第30号住居址断面図

第30号住居址土層説明

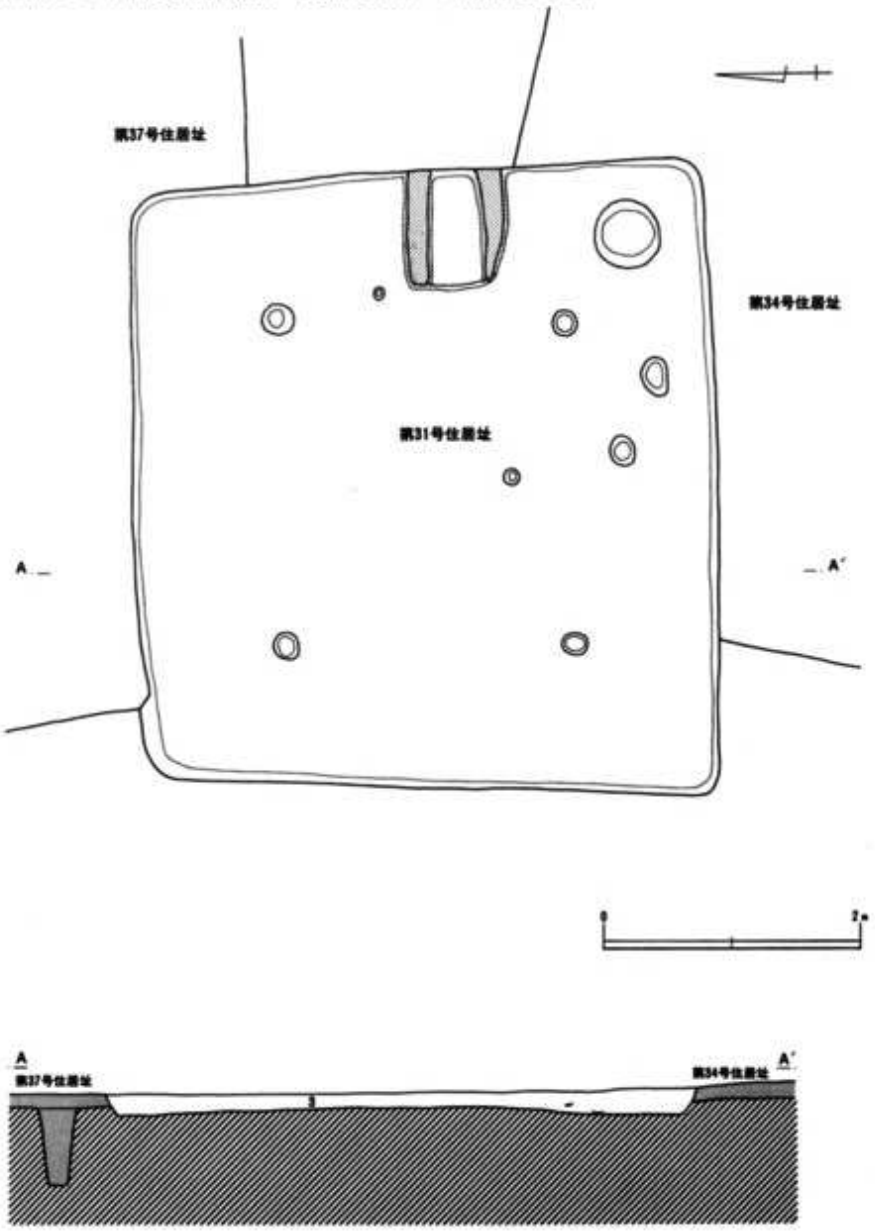
第１層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。炭化・焼土粒子を若干含む。
第２層　明褐色土　しまり、粘性共に有する。白色粒子を比較的多く含む。
第３層　暗褐色土　第４層に準ずるが、白色粒子がやや少なく色調がやや明るい。
第４層　暗茶褐色土　焼土・炭化粒子を多く含む。
第５層　暗茶褐色土　しまり、粘性共に有するが特に粘性が強い。肌理が細かい土質である。
第６層　暗茶褐色土　第７層に準ずるが、色調がやや暗い。
第７層　黄褐色土　ローム質土である。
第８層　黒褐色土　しまりが弱いが粘質である。炭化物が主体であるが焼土も多い。



第48図　第30号住居址

第31号住居址（第49図　図版24－2）

本址は、調査区北側中央よりやや西側よりに検出された。第34・37号住居址を切って構築されている。平面形態は正方形を呈しており、規模は1辺4.6m、深さは確認面より20cmを測る。西壁中央よりカマドが検出されている。主柱穴は4本検出し、貯蔵穴は南東隅に検出され直径60cmの円形を呈している。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



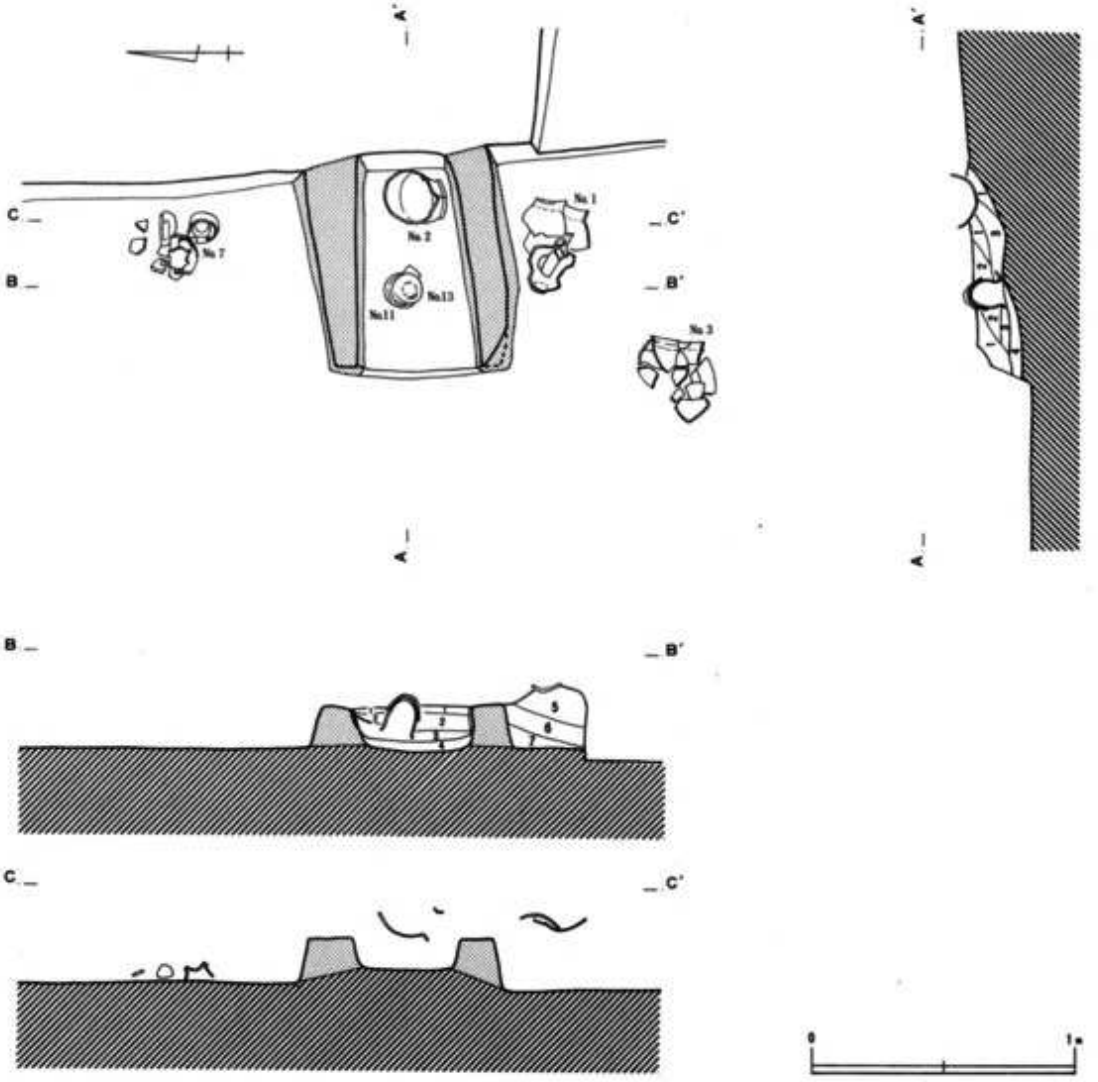
第49図　第31号住居址

第31号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。砂を多く含む。

第31号住居址カマド（第50図　図版25・1）

住居址西壁ほぼ中央に付設されている。遺存状態は良好である。規模は全長86cm、幅80cmを測る。袖部は地山の掘り残して形成されており、長さ約84cmを測る。焚口の内径は46cmである。覆土の第1層が天井部の崩壊層と考えられ、第3層、第2層の順序で崩落し、最後に天井部第1層が崩壊したと推定できる。



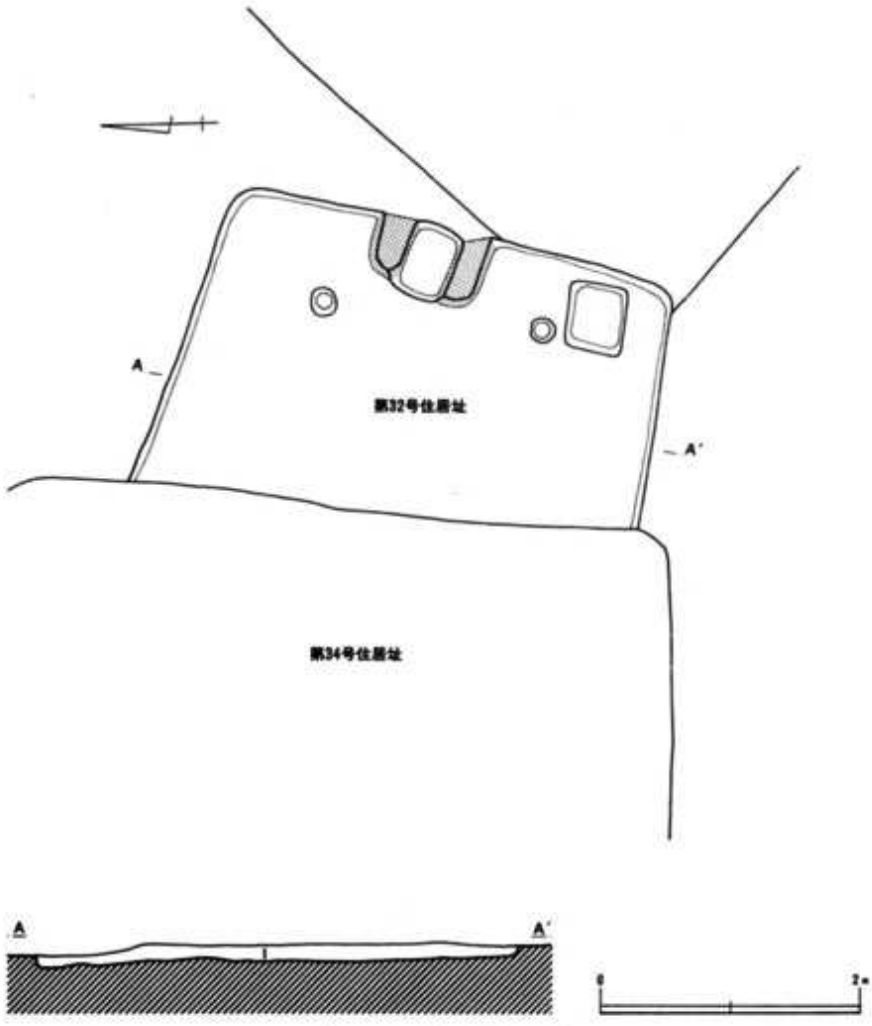
第50図　第31号住居址カマド

第31号住居址カマド土層説明

第1層　焼土層　焼土層中に多くの砂利を含む不均質層。
第2層　暗褐色土　焼土粒（径1.5cm）をまだらに含む粘質層。
第3層　灰褐色土　若干の焼土粒子を含む粘土層。砂利は少ない。
第4層　褐色土　焼土・炭化物は含まない。砂利を多く含む粘質層。
第5層　黒褐色土　砂利・焼土を多く含む不均質層
第6層　褐色土　焼土を多く含む粘土層。砂利は少ない。
第7層　暗褐色土　焼土を多く含む粘質層。焼土は少ない。

第32号住居址（第51図）

本址は、調査区北東側に検出された。第34・39号住居址を切って構築されている。平面形態は不明である。規模は南北に3.9mを測り、深さは確認面より13cmを測る。西壁中央よりカマドが検出されている。主柱穴は２本検出された。貯蔵穴は南東隅に検出されており、長径60cm、短径40cmの長方形を呈している。出土遺物により古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



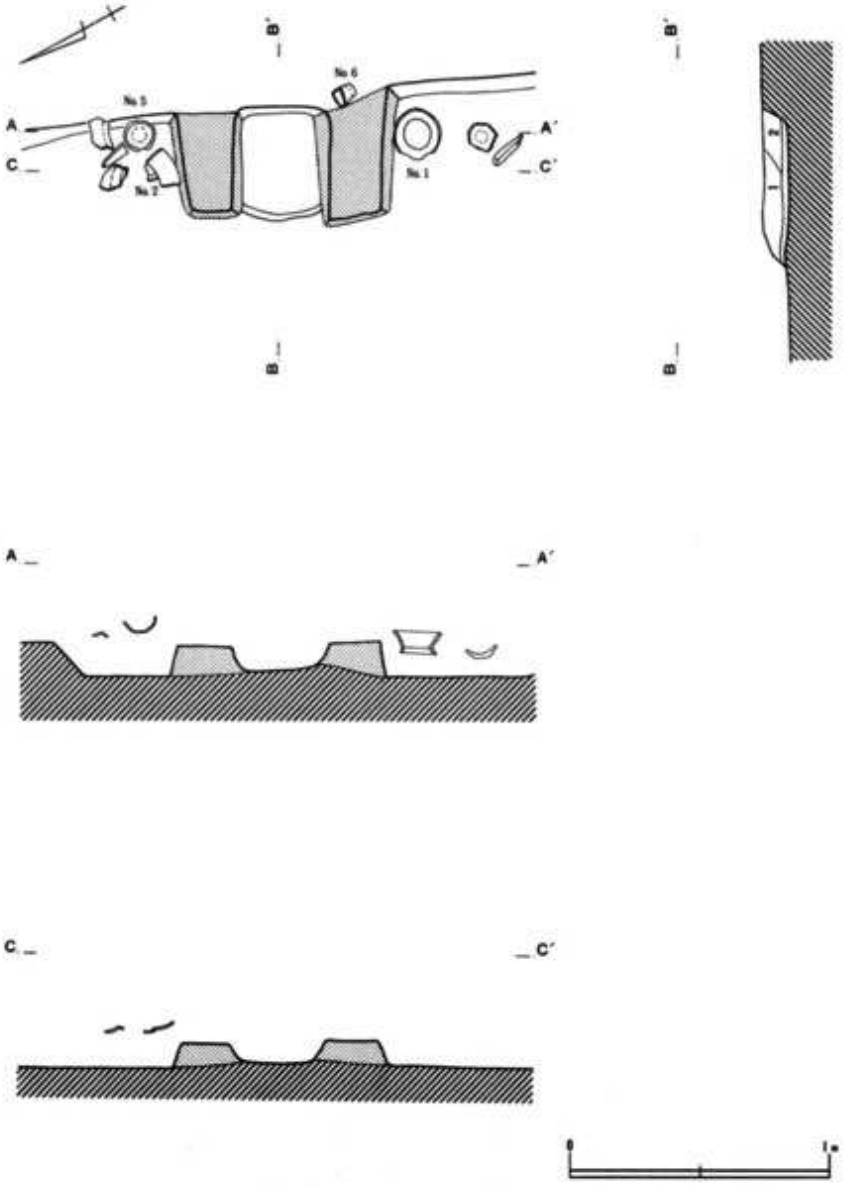
第51図　第32号住居址

第32号住居址土層説明

第１層　暗灰褐色土　しまりは有するが、粘性をやや欠く砂質土層。

第32号住居址カマド（第52図）

住居址東壁ほぼ中央に付設されている。遺存状態は不良である。規模は全長45cm、幅80cm、焚口の内径は38cmを測る。袖部の長さ約45cm、高さ12cmを測る。袖部は砂利を多く含んでいることから地山を掘り残して構築したものと推定できる。奥壁に炎を受けた痕跡は見受けられなかった。



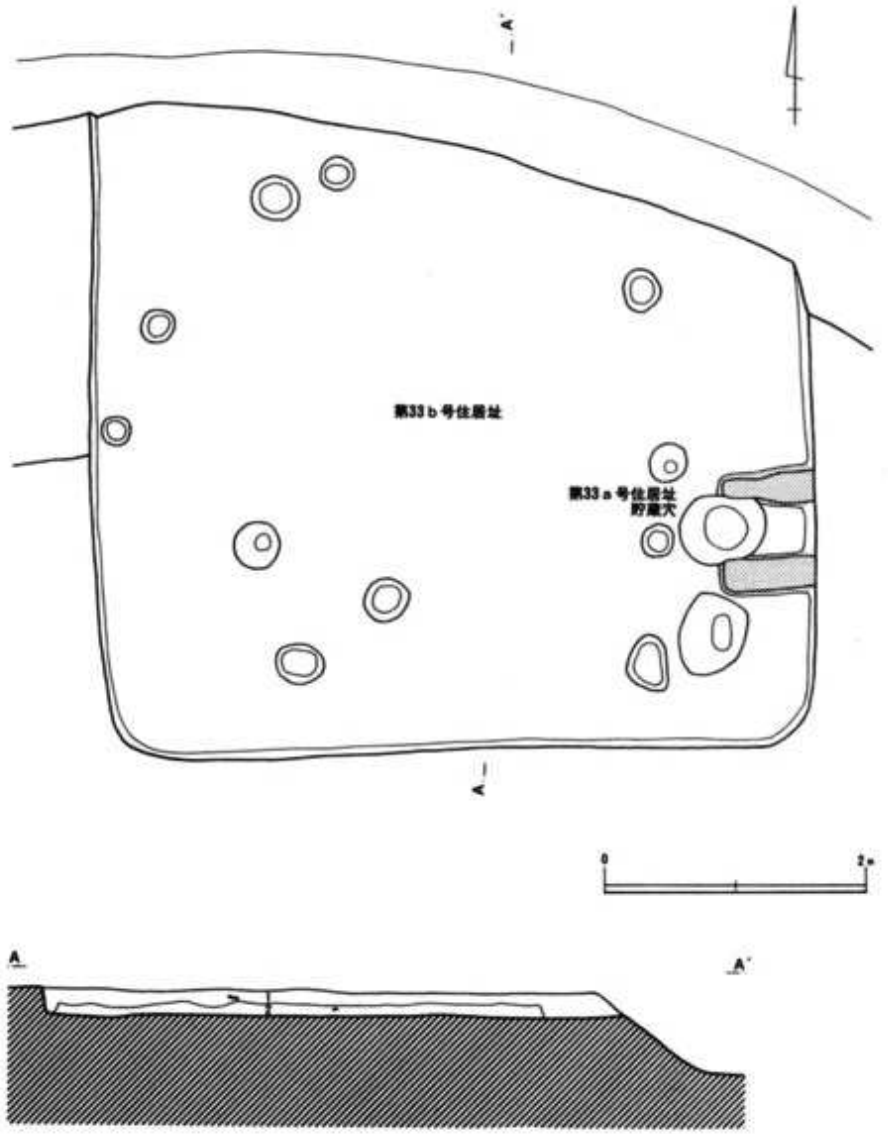
第52図　第32号住居址カマド

第32号住居址カマド土層説明

第1層　暗褐色土　砂利を多く含む粘質層。焼土・炭化物は含まない。
第2層　褐 色 土　砂利は少なく、焼土を多く含む均質な粘土層。

第33a・b号住居址（第53図　図版25－2）

本址は、調査区北側に検出された。第34・37号住居址を切って構築されている。平面形態は正方形を呈しており、規模は1辺4.6m、深さは確認面より20cmを測る。西壁中央よりカマドが検出されている。主柱穴は4本、貯蔵穴は南東隅に検出され直径60cmの円形を呈する。出土遺物により第33a号住居址は古墳時代中期（和泉期）の所産であり、第33b号住居址は古墳時代後期（鬼高Ⅰ期）の所産である。



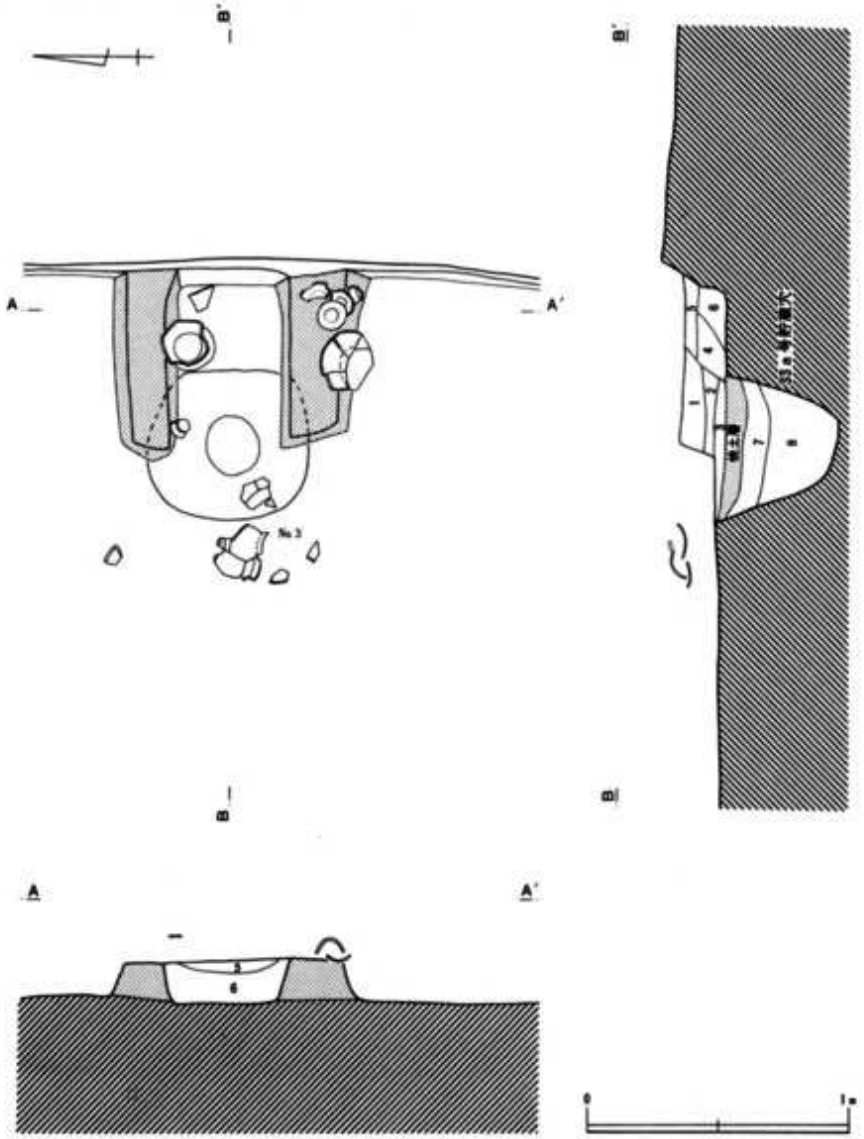
第53図　第33号住居址

第33号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。やや砂質である。
第2層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。焼土ブロック・焼土・炭化粒子を含む。

第33a号住居址カマド（第54図　図版26-1）

住居址東壁やや南よりに付設されている。遺存状態は普通である。全長100cm、幅90cm、袖部の長さ約75cm、焚口の内径は40cmを測る。下部に第33b号住居址の貯蔵穴が検出された。



第54図　第33号住居址カマド

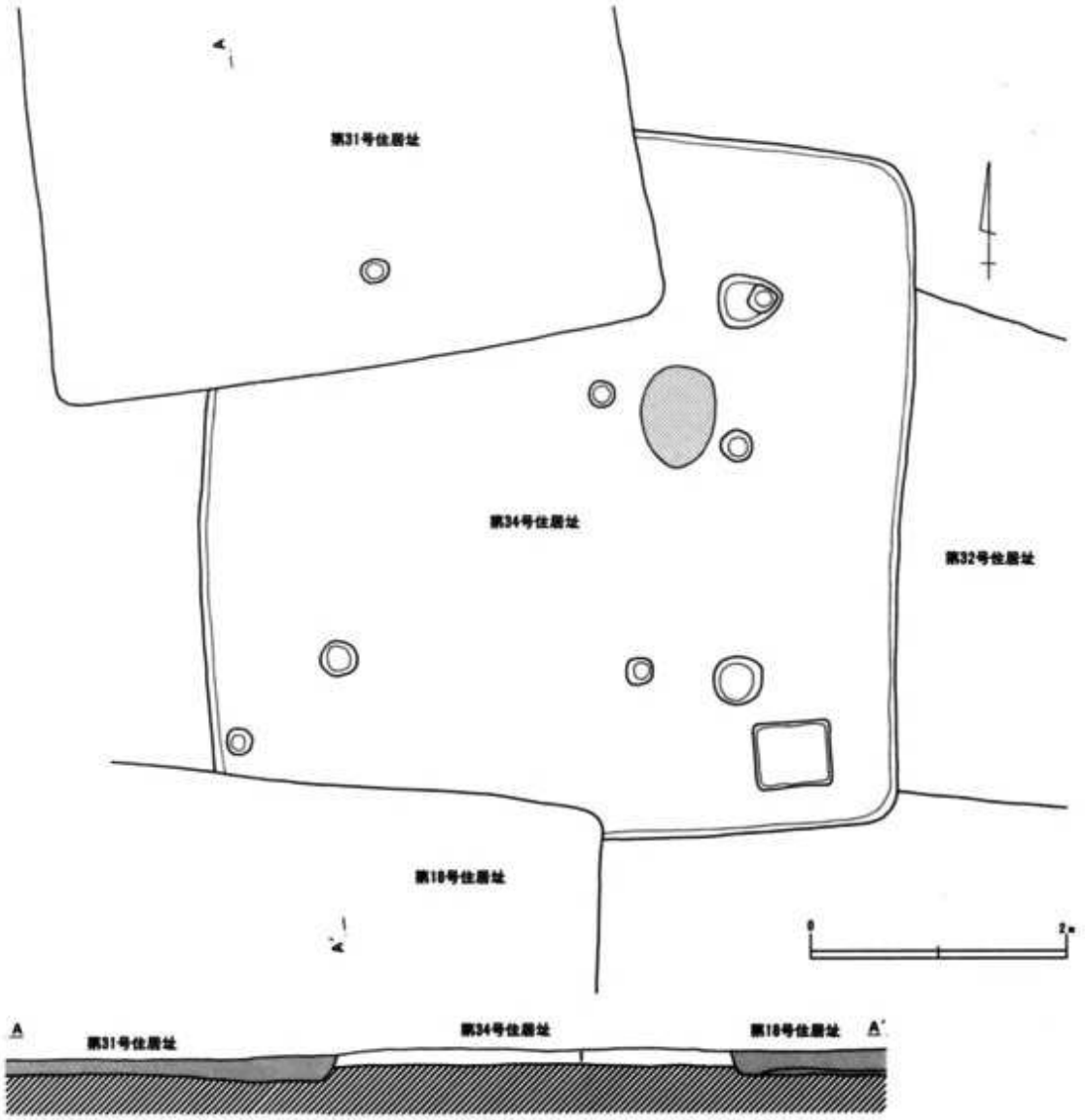
第33号住居址カマド土層説明

第1層	暗灰褐色土	砂利・焼土を多く含む不均質な粘質層。
第2層	暗褐色土	砂利・焼土を少し含む不均質な粘土層。
第3層	橙褐色土	焼土だけの層。
第4層	暗褐色土	焼土をわずかに含み、砂利を多く含む均質土層。
第5層	褐色土	砂利・砂利を含まない粘土層。
第6層	暗褐色土	砂利を少し含む粘土層。第4層と第5層の中間の様相。
第7層	灰褐色土	砂利・焼土の少ないカマド材と思われる。比較的良質な粘土。
第8層	灰褐色土	第7層より、砂利の少ない層。

明度(M) 6＜5＜4　　2＜1＜3(M)　　砂利(S) 6＜5＜4＜2＜1(S)

第34号住居址（第55図　図版28－1）

本址は、調査区北東側に検出された。第18a・31・32号住居址に切られているため調査は全体の８割程度に留まった。平面形態は正方形を呈しており、規模は１辺5.5mを測り、深さは確認面より12cmを測る。住居址内中央やや北東寄りに炉址が検出されている。主柱穴は４本検出されている。貯蔵穴は南東隅に検出され、直径55cmの正方形を呈する。出土遺物により古墳時代前期（五領期）の所産である。



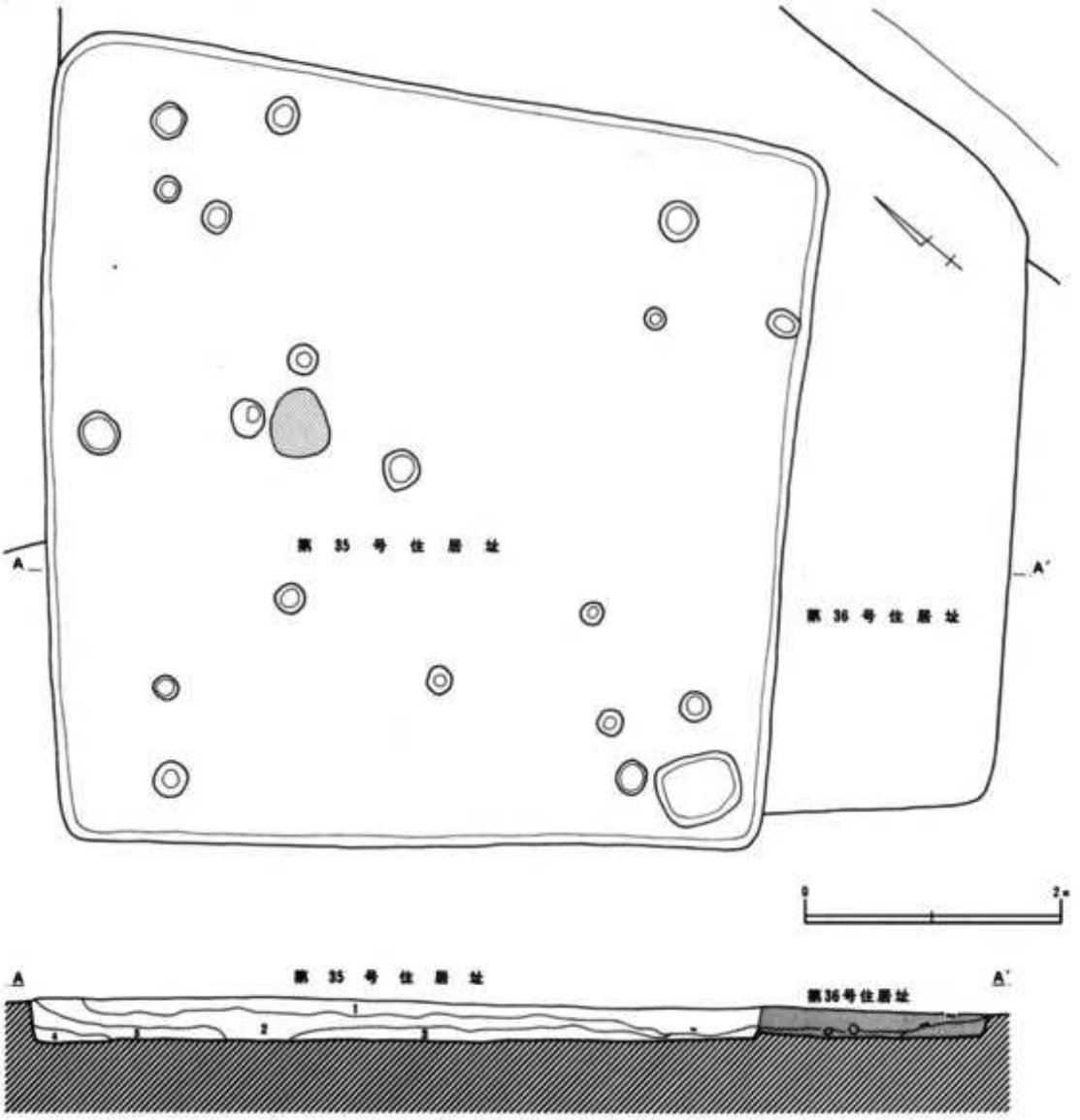
第55図　第34号住居址

第34号住居址土層説明

第１層　明褐色土　しまり、粘性共に有する。

第35号住居址居址（第56図　図版28 - 2）

本址は、調査区東側ほぼ中央に検出された。第36・39号住居址を切って構築されている。平面形態は北壁が短い台形を呈しており、規模は南壁で5.8m、北壁で5.5mを測り、深さは確認面より30cmを測る。本址内中央やや北寄りに炉址が検出されている。主柱穴は4本検出されている。貯蔵穴は南隅に検出され、長軸75cm、短軸60cmの楕円形を呈している。出土遺物により古墳時代中期（和泉期）の所産である。



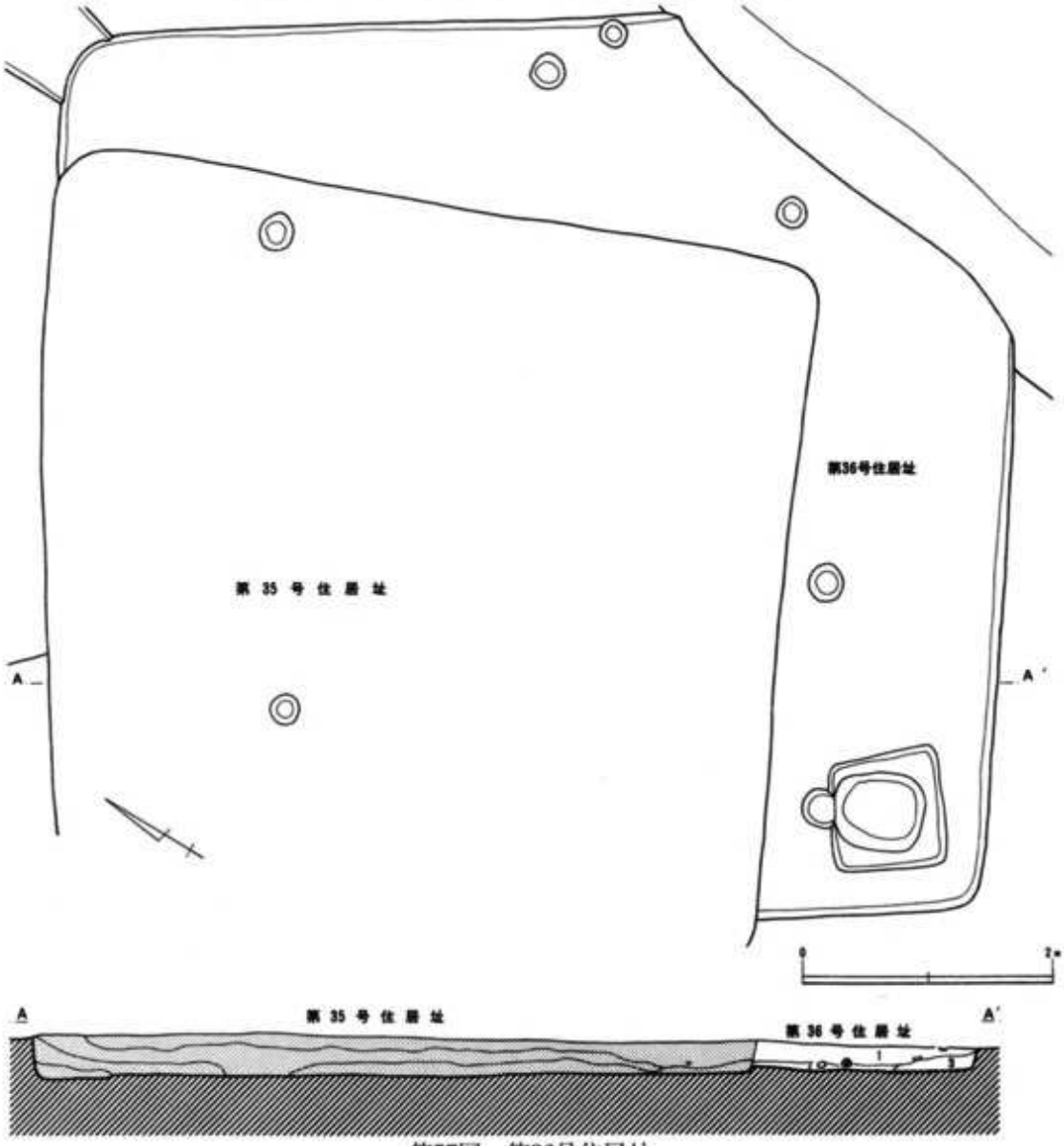
第56図　第33号住居址カマド

第35号住居址土層説明

第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。白色粒子を多く含む。
第2層　暗褐色土　しまり、粘性に富み、土質が細かく色調が第1層に比べると暗い。
第3層　黄茶褐色土　しまり、粘性に富み、を多量に含む粘質土層。
第4層　暗茶褐色土　しまりは有するが、粘性を欠く。やや砂質の層である。

第36号住居址（第57図　図版28 - 2）

本址は、調査区西側中央に検出された。第35号住居址に切られており、また東隅は開墾等により削平されているため、調査は全体の４割程度に留まった。第39号住居址とも重複している。平面形態は正方形を呈しており、規模は１辺７m、深さは確認面より22cmを測る。主柱穴は４本、貯蔵穴は南隅に検出され、貯蔵穴は上部が長軸90cmの長方形、底部が長軸70cmの楕円形を呈している。出土遺物により古墳時代中期（和泉期）の所産である。



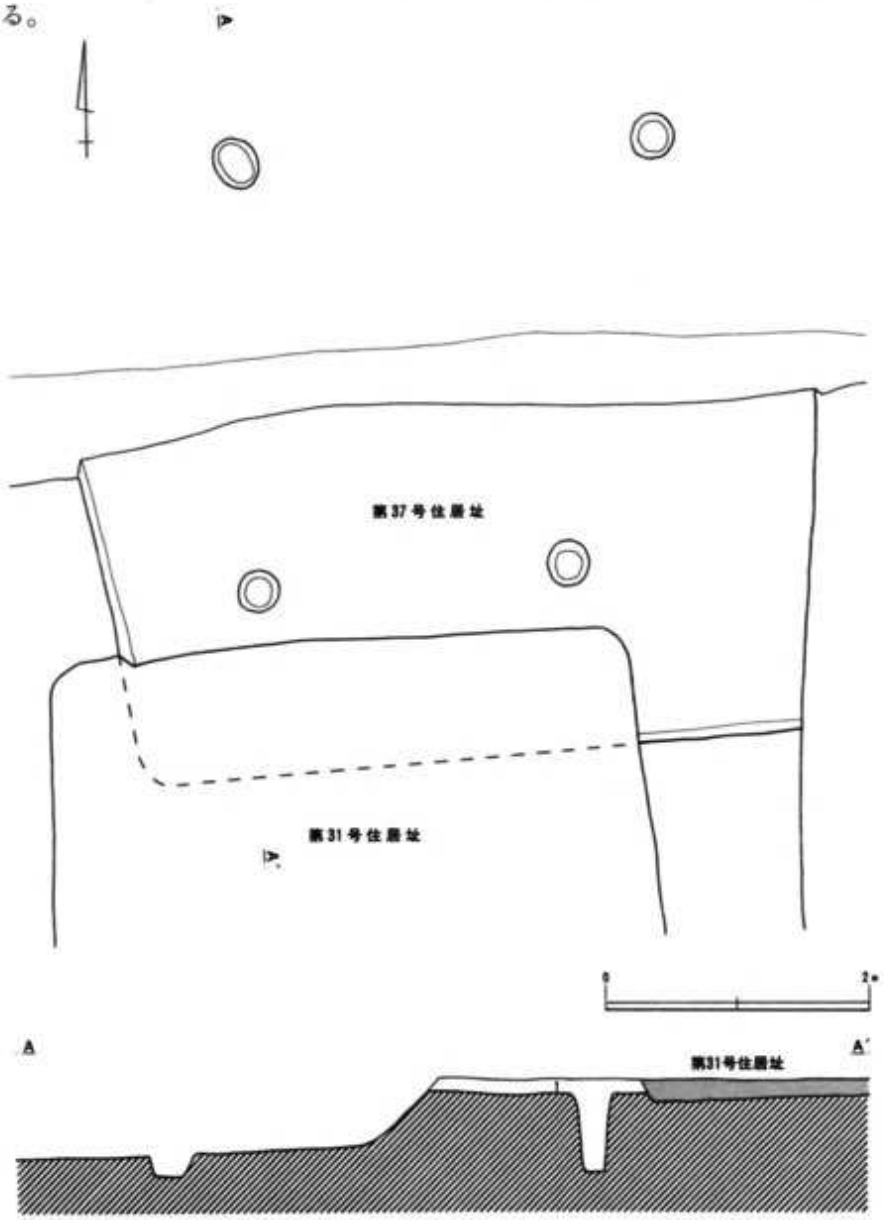
第57図　第36号住居址

第36号住居址土層説明

第１層　暗茶褐色土　しまり、粘性共に有する。白色粒子を多く含む。
第２層　暗茶褐色土　焼土・炭化粒子を面状に含む。
第３層　茶褐色　しまり、粘性に富む。ローム質土風化土

第37号住居址（第58図）

本址は、調査区北側中央よりやや東側寄りに検出された。南側は第31・33号住居址に切られており、また北側は開墾等により削平されており、調査は全体の3割程度に留まった。平面形態は正方形を呈すると推定され、規模は不明である。深さは確認面より10cmを測る。主柱穴が4本検出された。貯蔵穴等の付属施設の検出はなかった。出土遺物により古墳時代前期（五領期）の所産である。

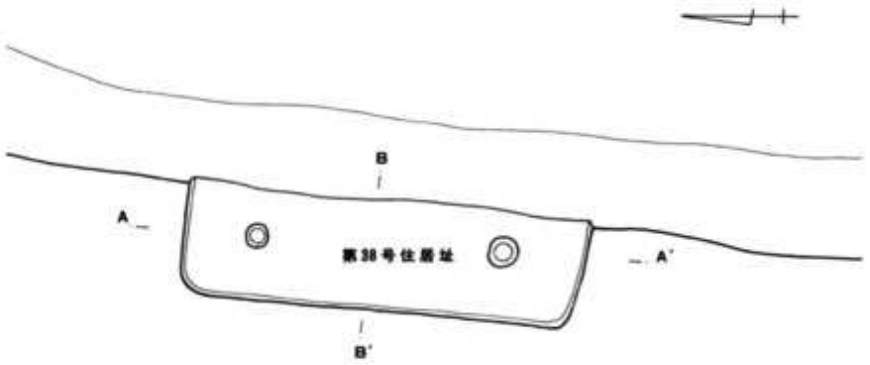


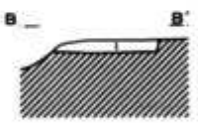
第58図　第37号住居址

第37号住居址土層説明
第1層　暗褐色土　しまり、粘性共に有する。やや砂質である。

第38号住居址（第59図）

本址は、調査区東側中央に検出された。東側のほとんどが開墾等により削平されており、調査は西側壁付近の２割程度に留まった。平面形態は不明、規模は南北に約３m、深さは確認面より10cmを測る。西側の主柱穴が２本検出されている。その他貯蔵穴等の付属施設は検出されなかった。古墳時代の所産であると推定できる。





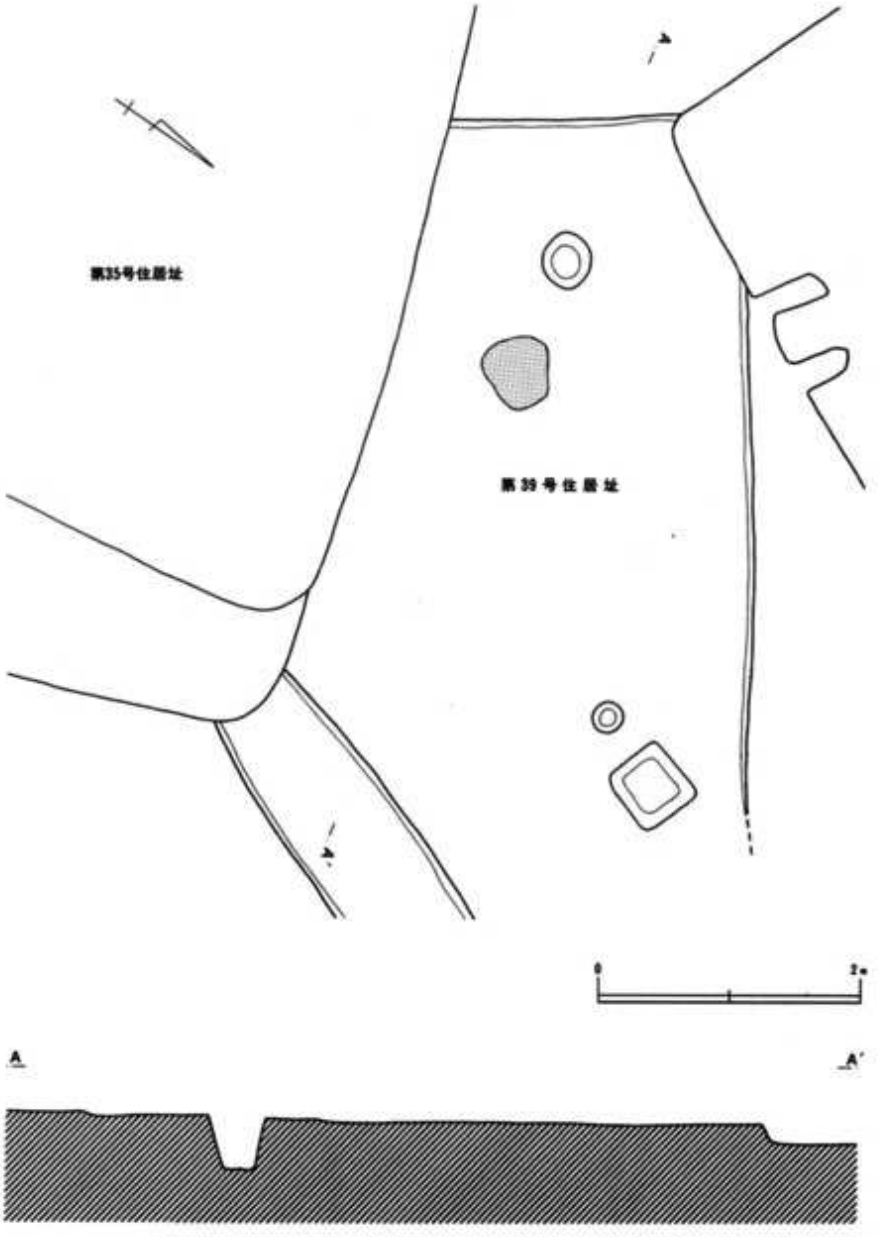
第59図　第38号住居址

第38号住居址土層説明

第１層　暗褐色土　上部はやや明るく白色粒をまばらに含む。粘性弱く、しまりは非常に強い。赤色粒子を若干含む。

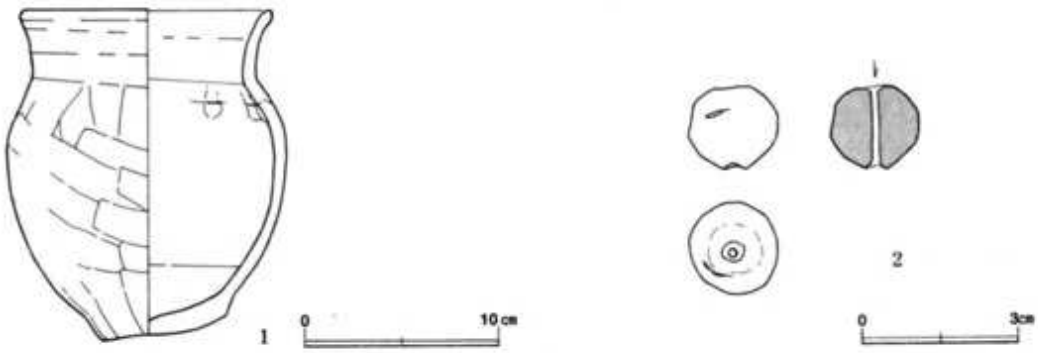
第39号住居址（第60図）

本址は、調査区北東側に検出された。第32・35・36号住居址に切られており、また全体的に浅く東側は流失しているため調査は全体の３割程度でに留まった。平面形態、規模共に不明。本址内中央やや西寄りに炉址が検出されている。主柱穴は２本、貯蔵穴は北東側に検出され、一辺60cmの正方形を呈している。古墳時代の所産であると推定できる。

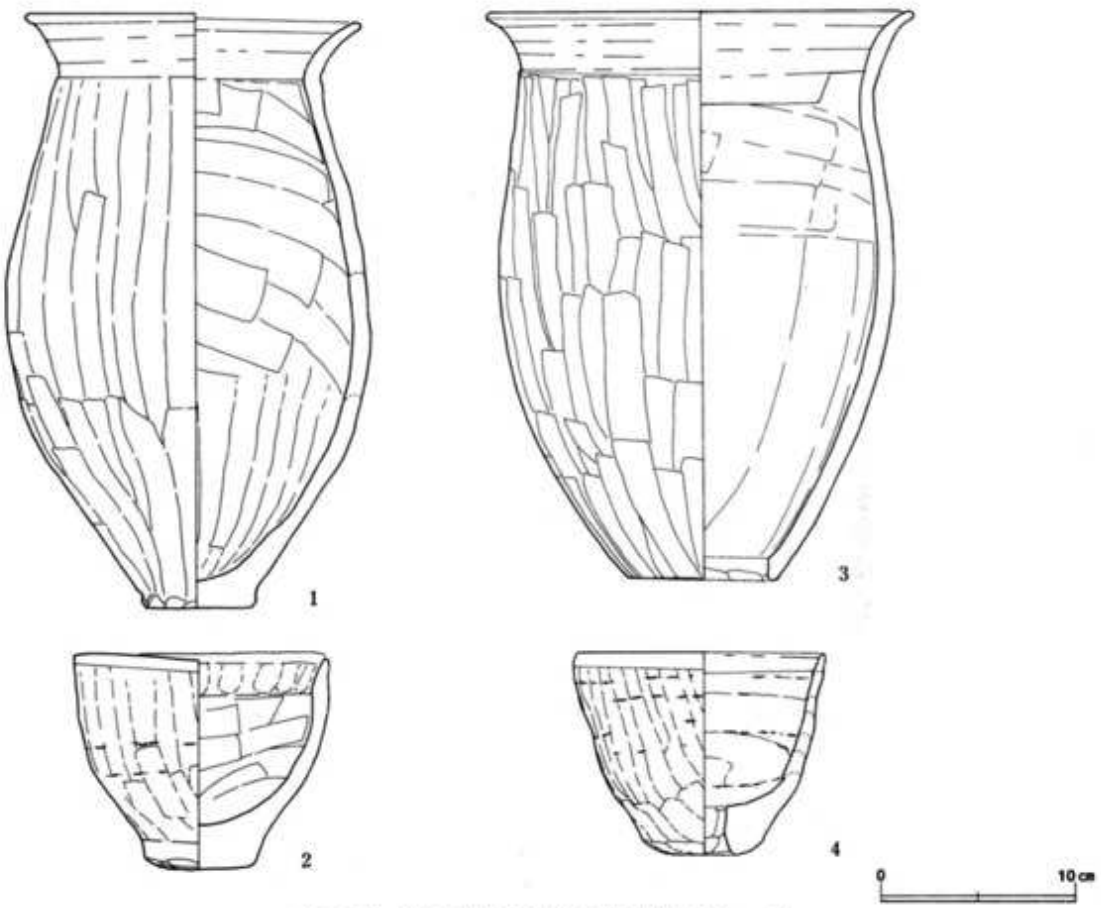


第60図　第33号住居址カマド

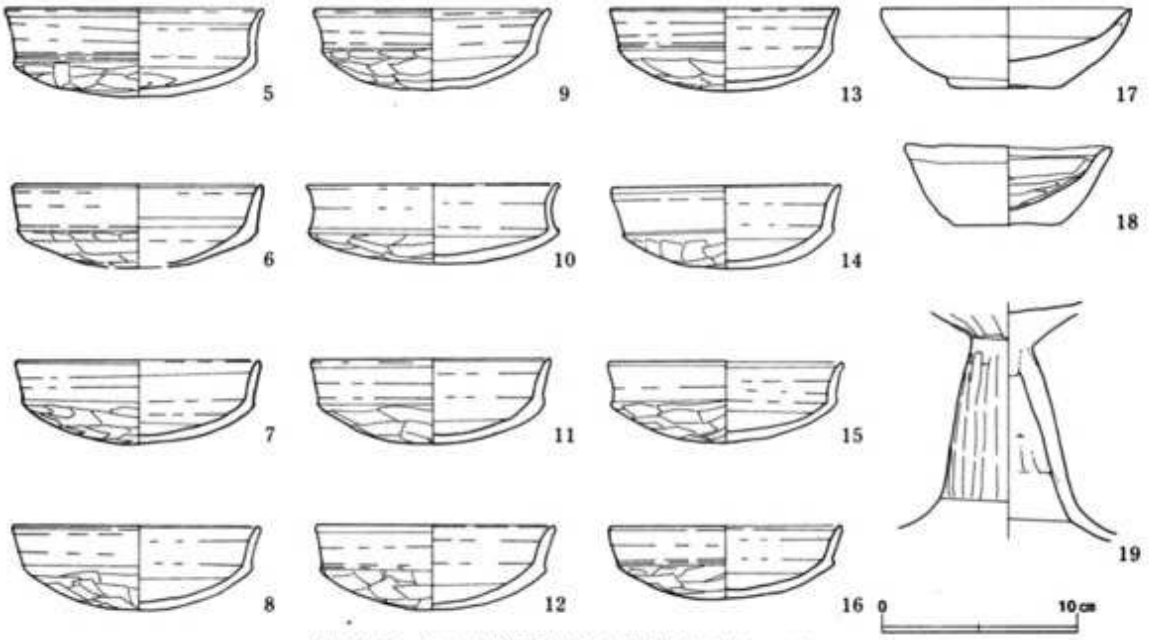
第61図　第３号住居址出土遺物（表－１）



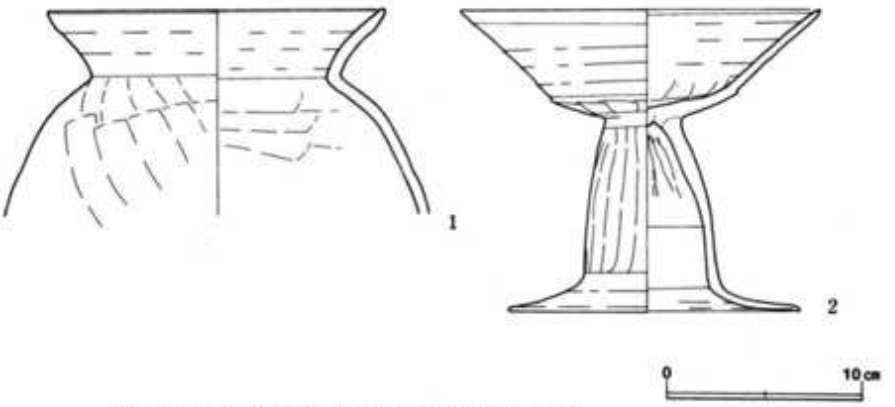
第62図　第４号住居址出土遺物（表－２、３）



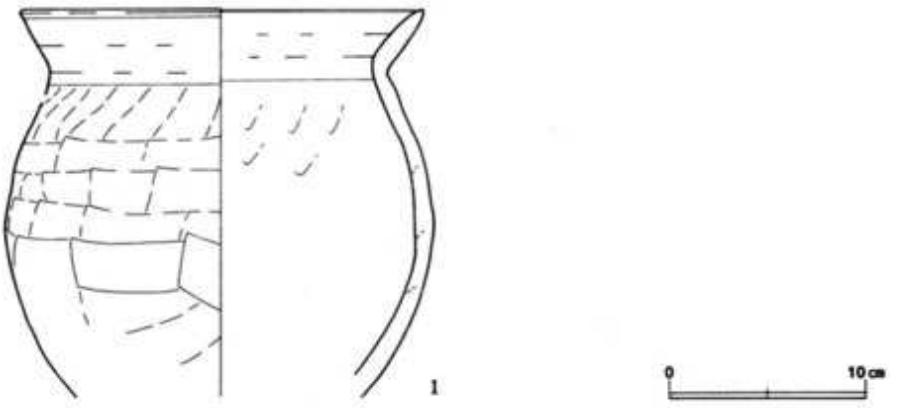
第63図　第５号住居址出土遺物(1)（表－４）



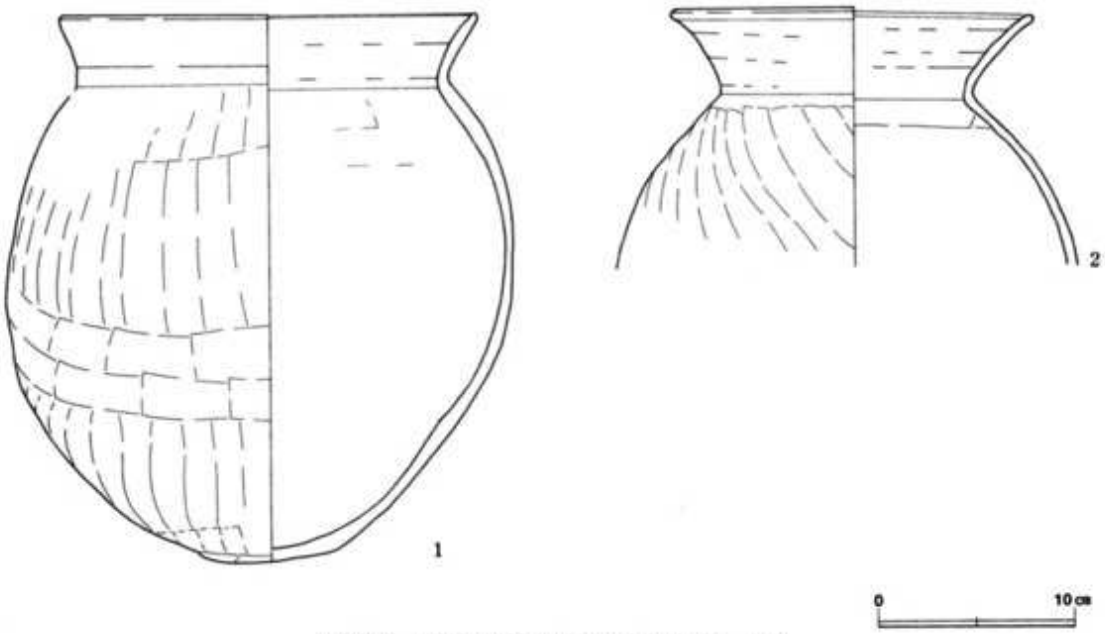
第64図　第５号住居址出土遺物(2)（表－４）



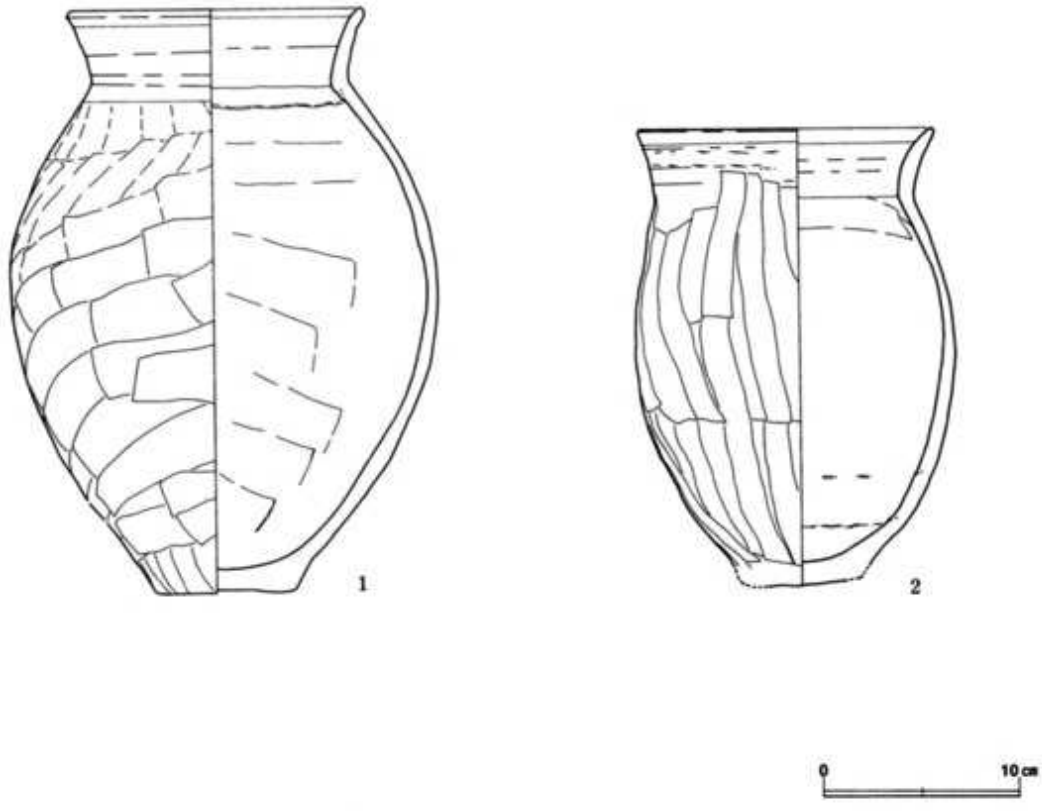
第65図　第６号住居址出土遺物（表－５）



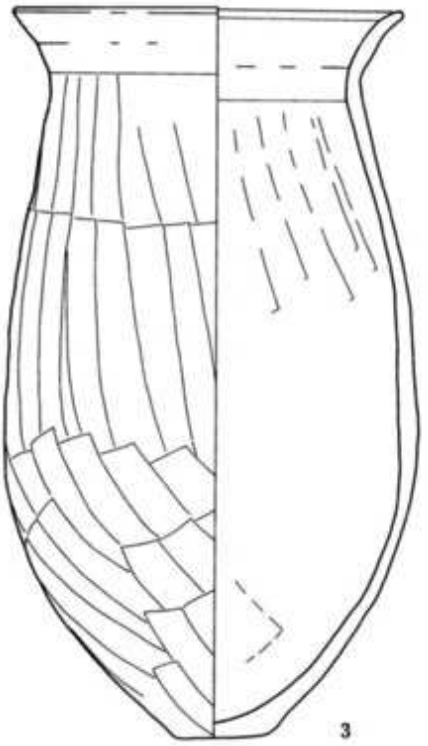
第66図　第７号住居址出土遺物（表－６）

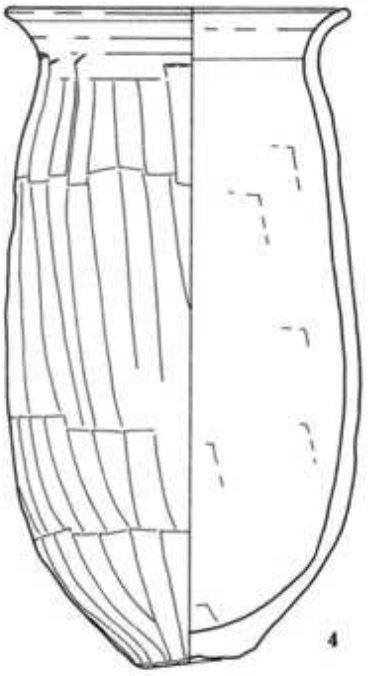


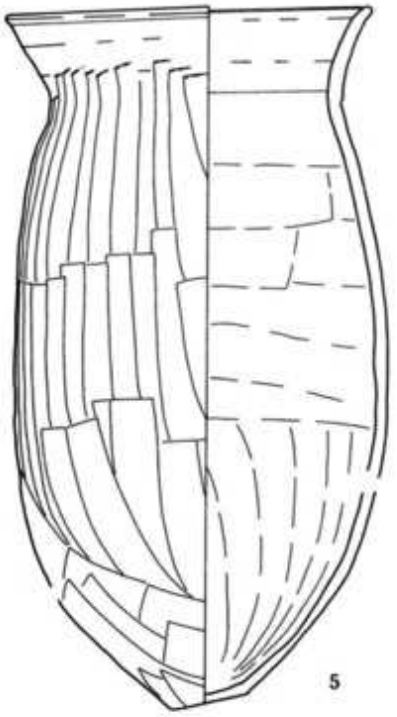
第67図　第８号住居址出土遺物（表－７）

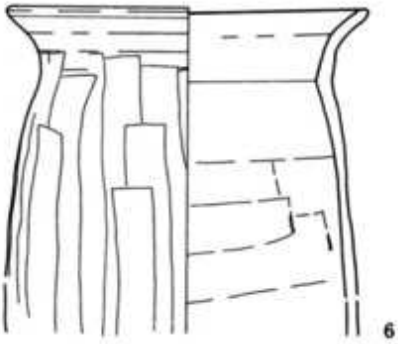


第68図　第９号住居址出土遺物(1)（表－８）

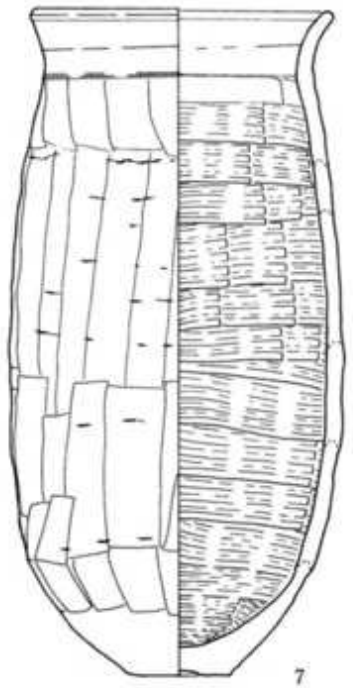


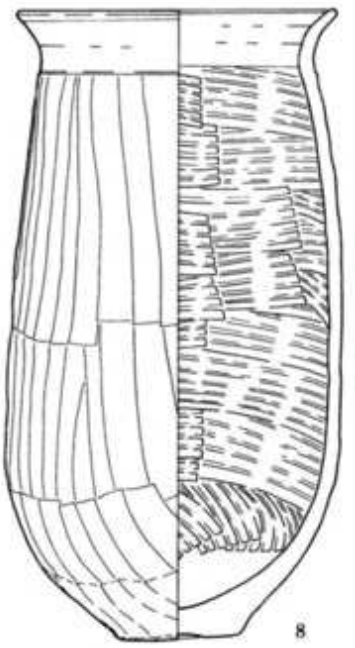


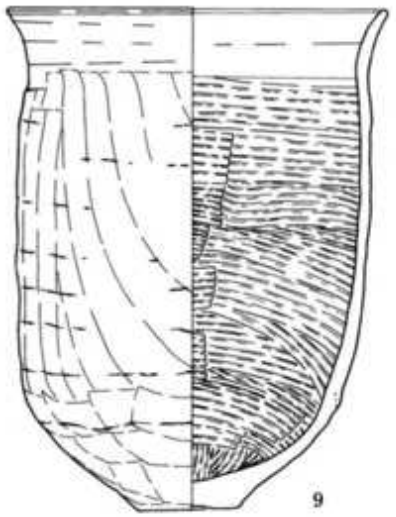


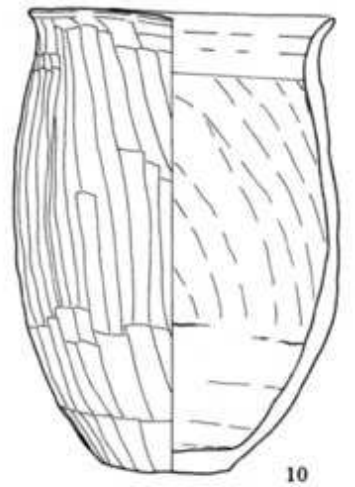


第69図　第９号住居址出土遺物(2)（表－８）

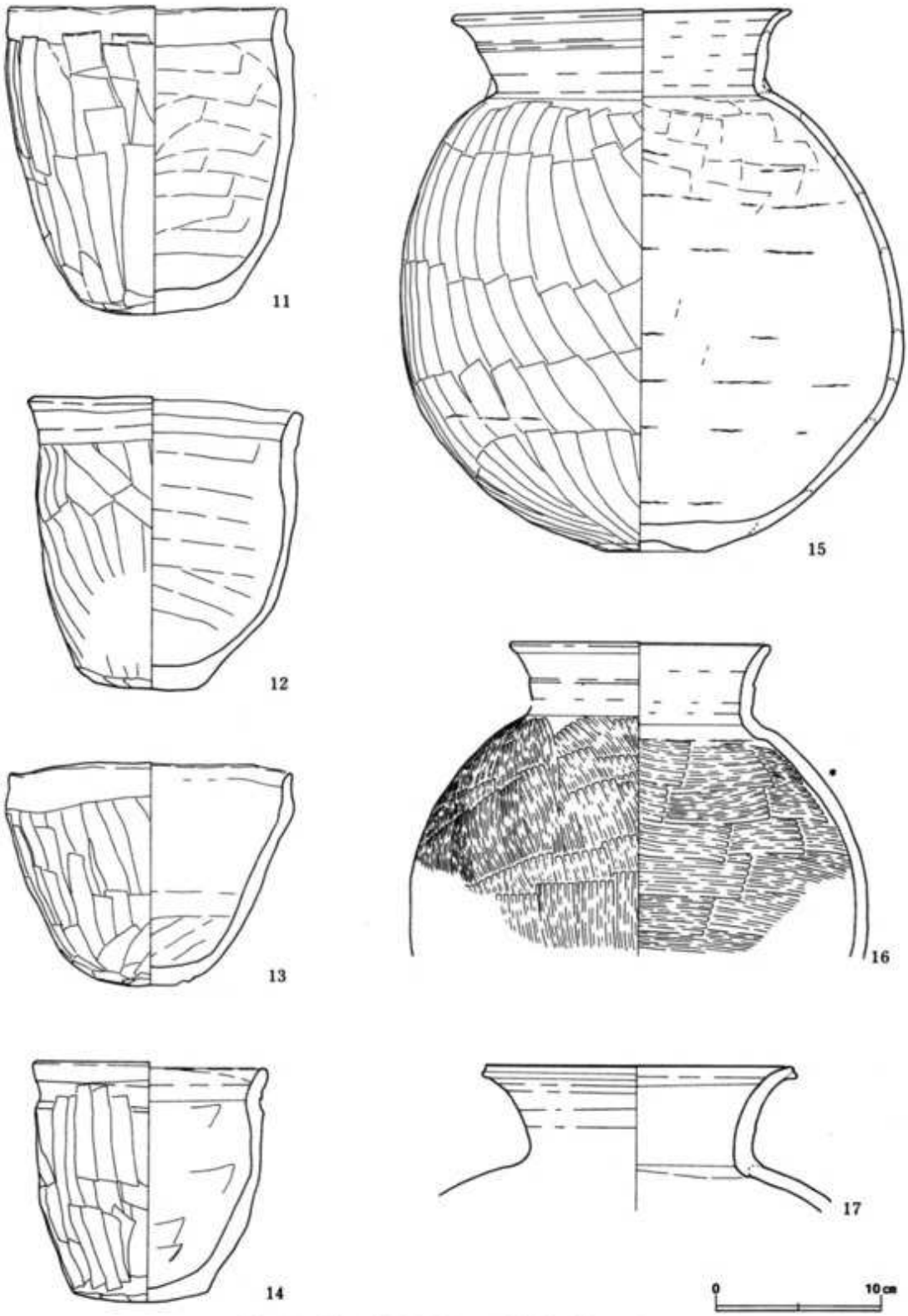




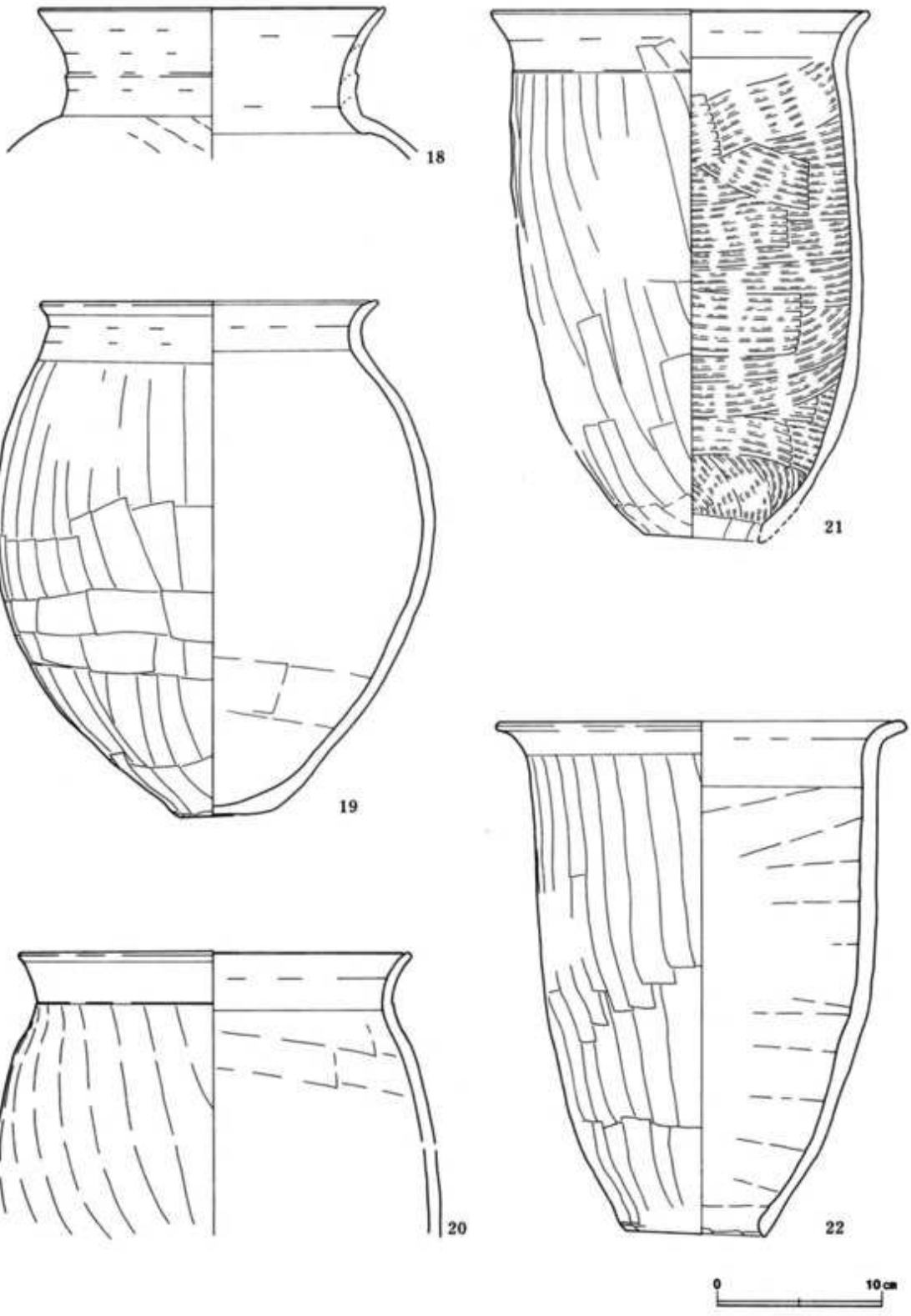




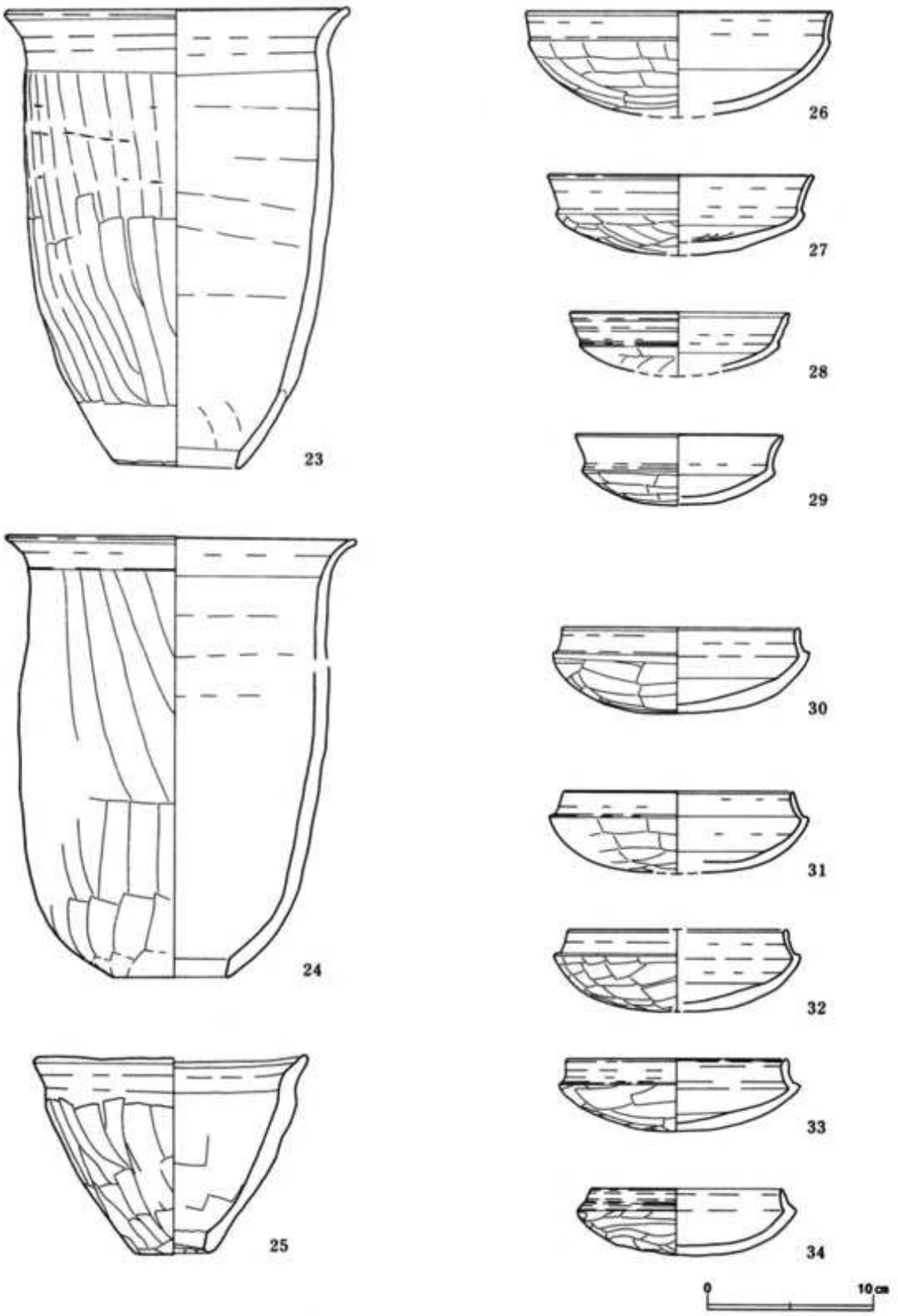
第70図　第９号住居址出土遺物(3)（表－８）



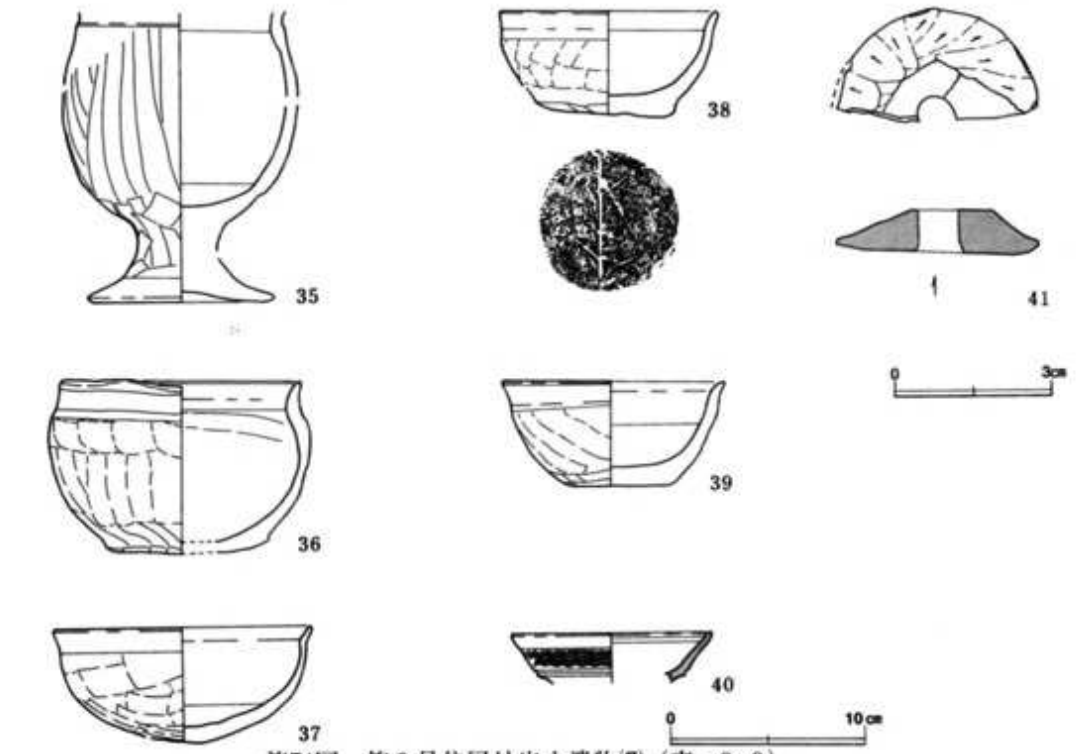
第71図　第９号住居址出土遺物(4)（表－８）



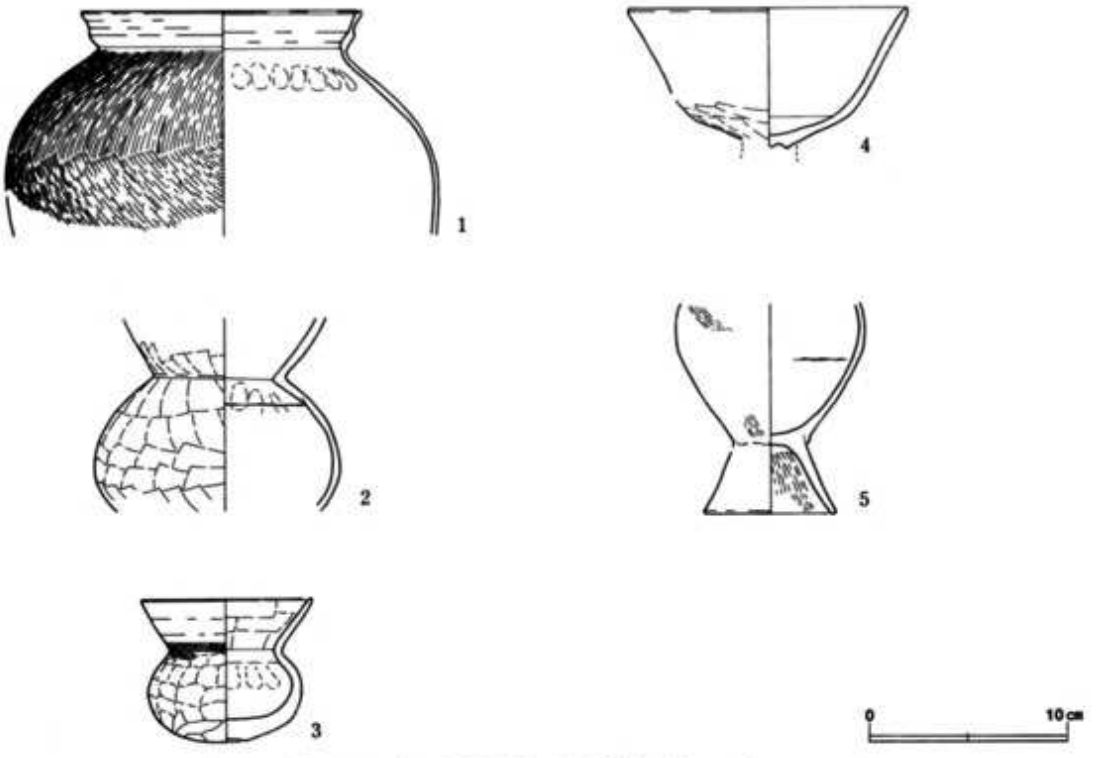
第72図　第９号住居址出土遺物(5)（表－８）



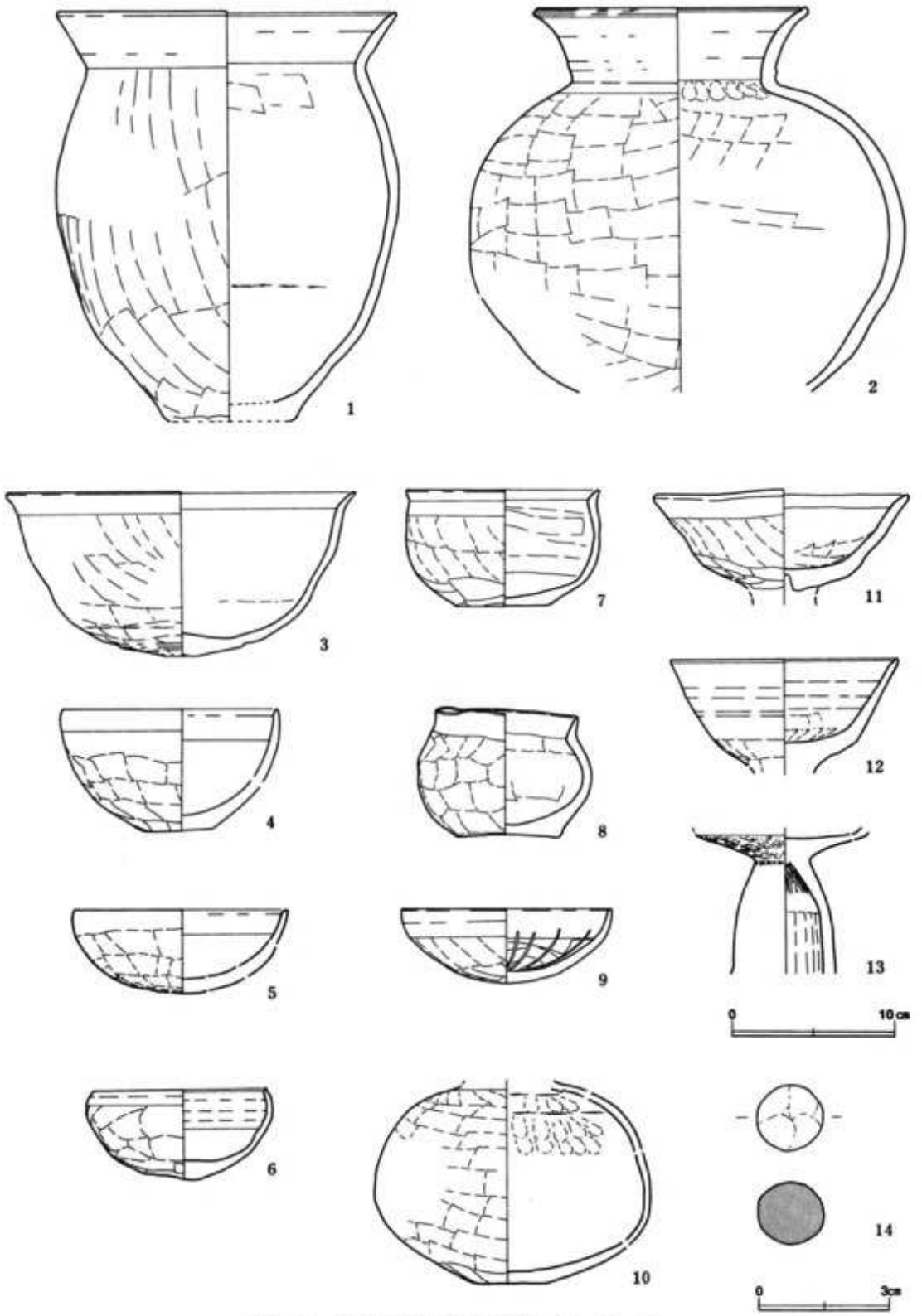
第73図　第９号住居址出土遺物(6)（表－８）



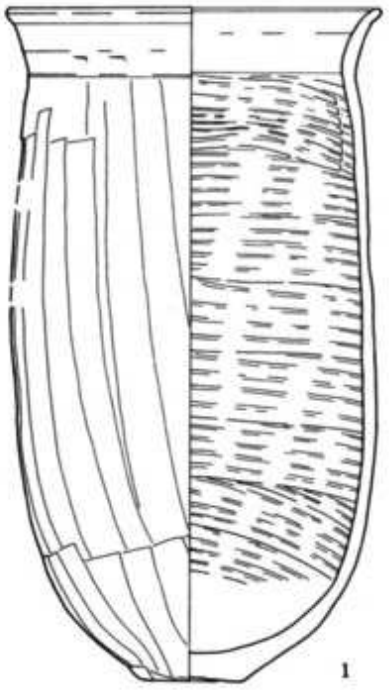
第74図　第９号住居址出土遺物(7)（表－8、9）

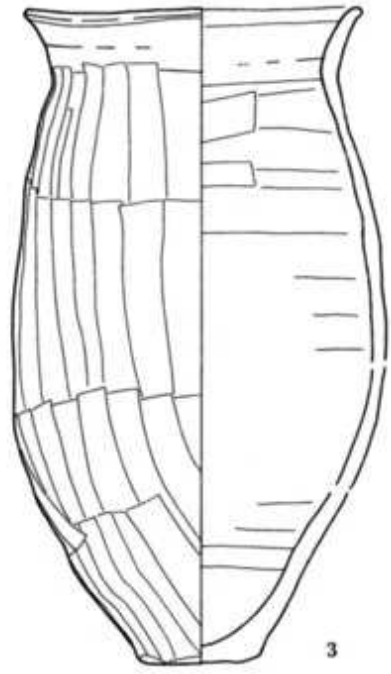


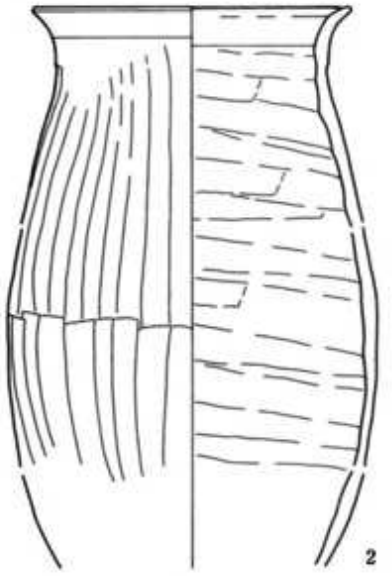
第75図　第11号住居址出土遺物（表－10）

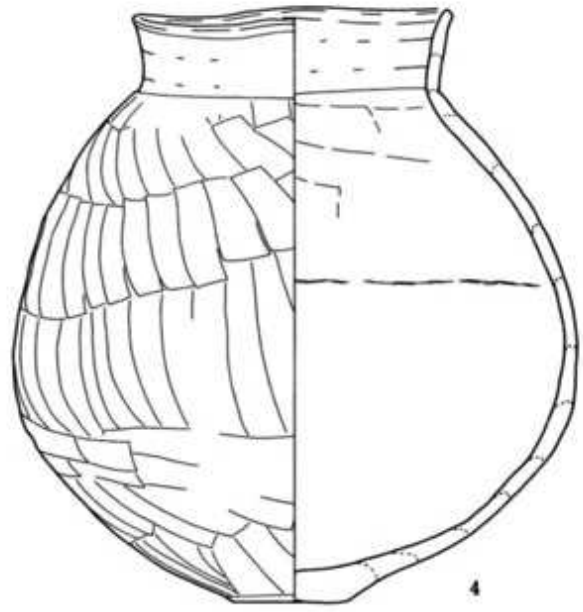


第76図　第13号住居址出土遺物（表－11、12）

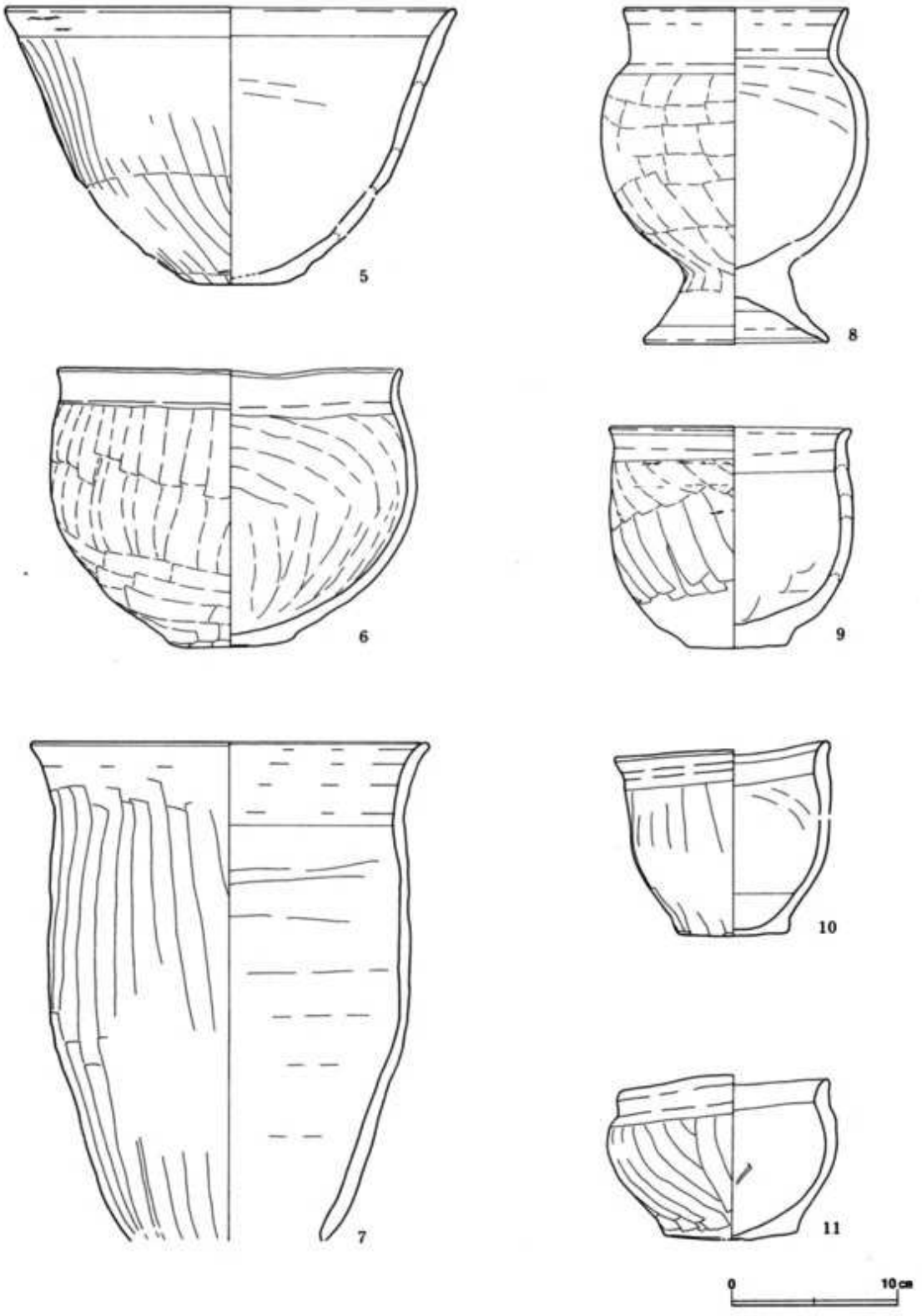




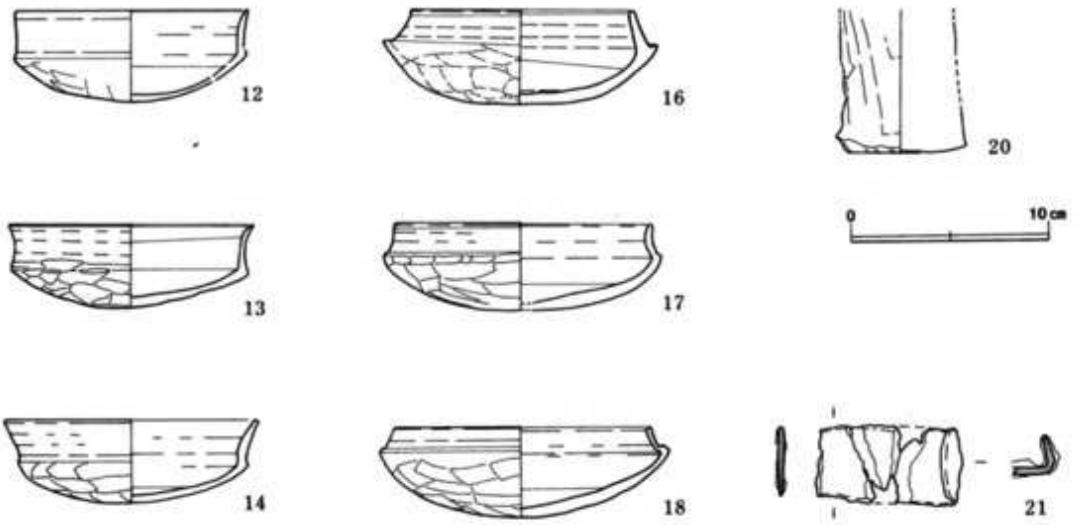




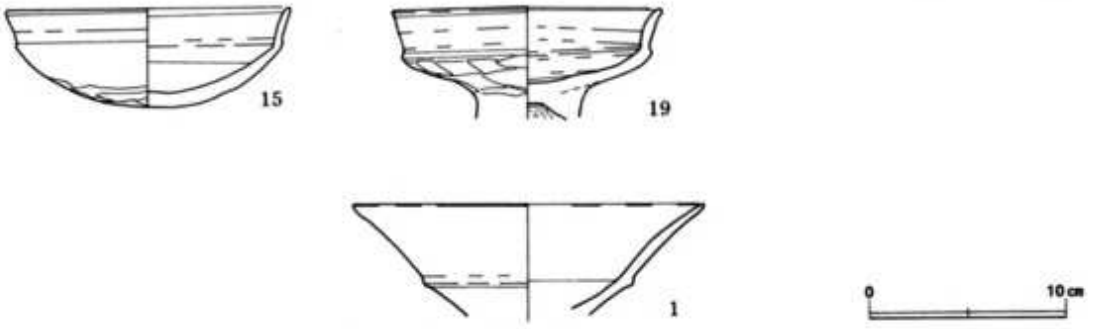
第77図　第14号住居址出土遺物(1)（表－13）



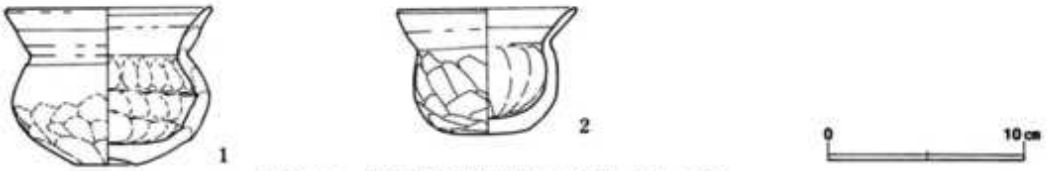
第78図　第14号住居址出土遺物(2)（表－13）



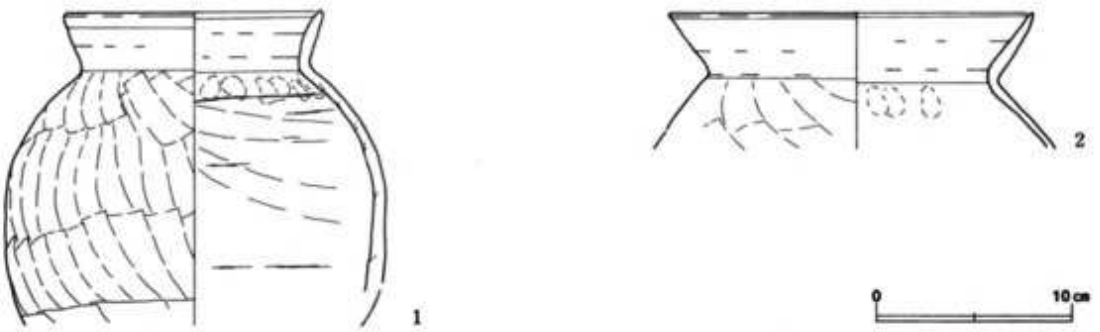
第79図　第14号住居址出土遺物(3)（表－13, 14）



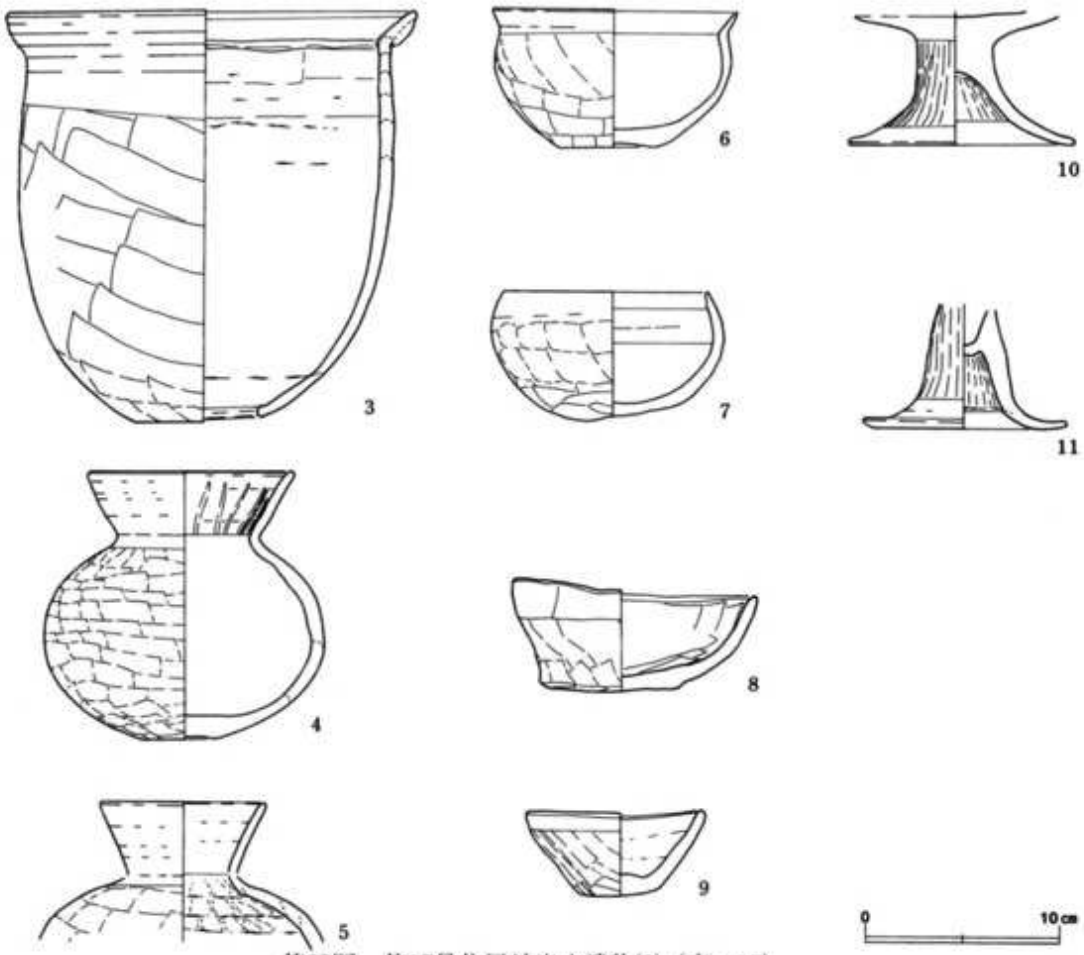
第80図　第15号住居址出土遺物（表－15）



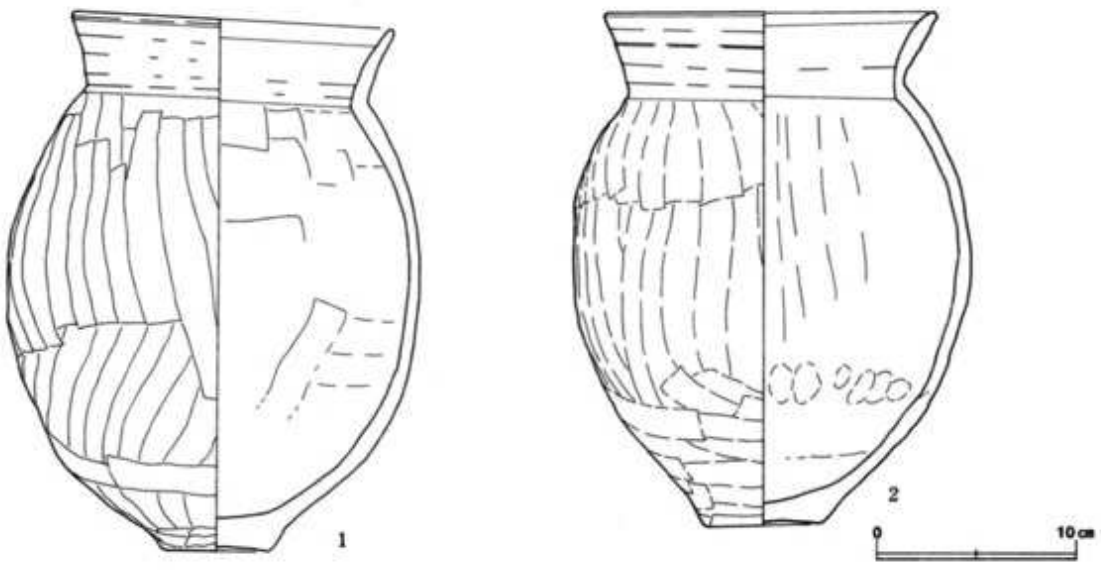
第81図　第16号住居址出土遺物（表－16）



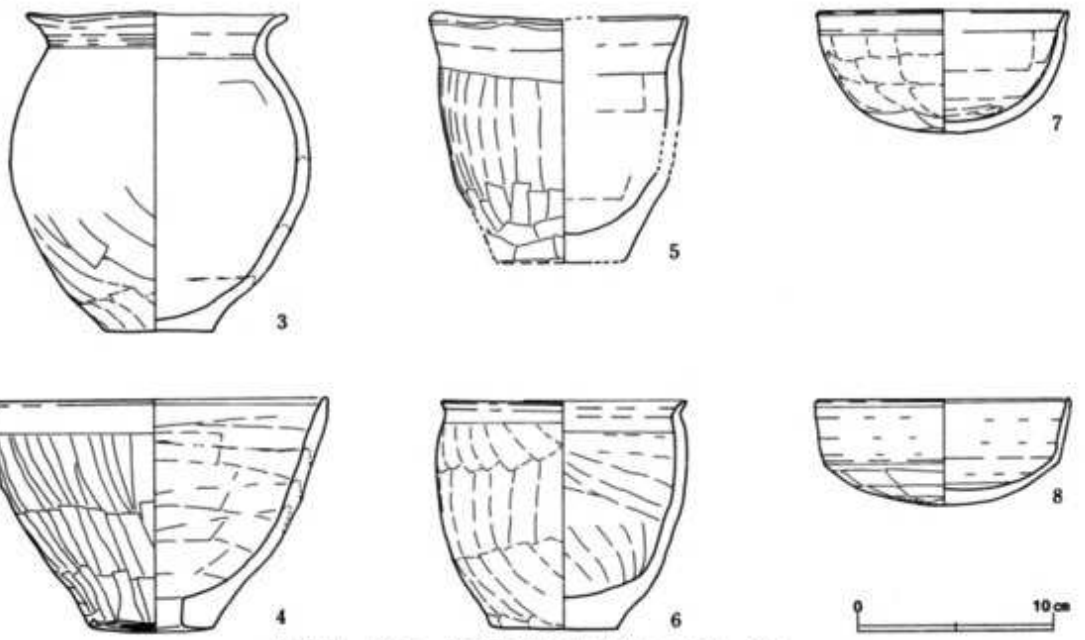
第82図　第17号住居址出土遺物(1)（表－17）



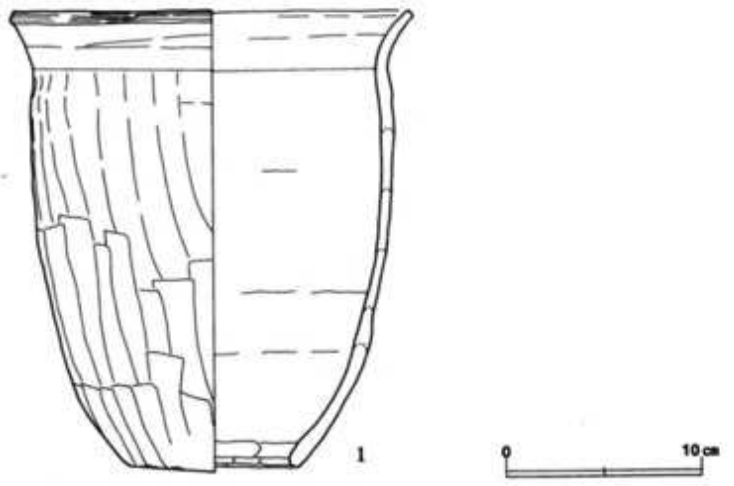
第83図　第17号住居址出土遺物(2)（表－17）



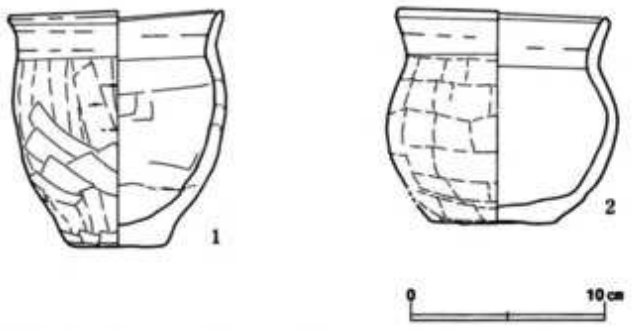
第84図　第18ａ号住居址出土遺物(1)（表－18）



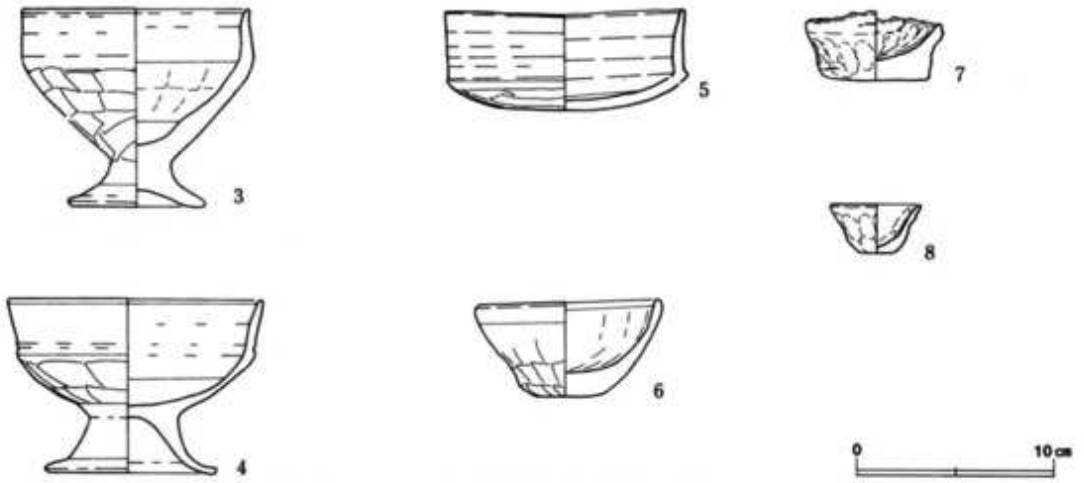
第85図　第18ａ号住居址出土遺物(2)（表－18）



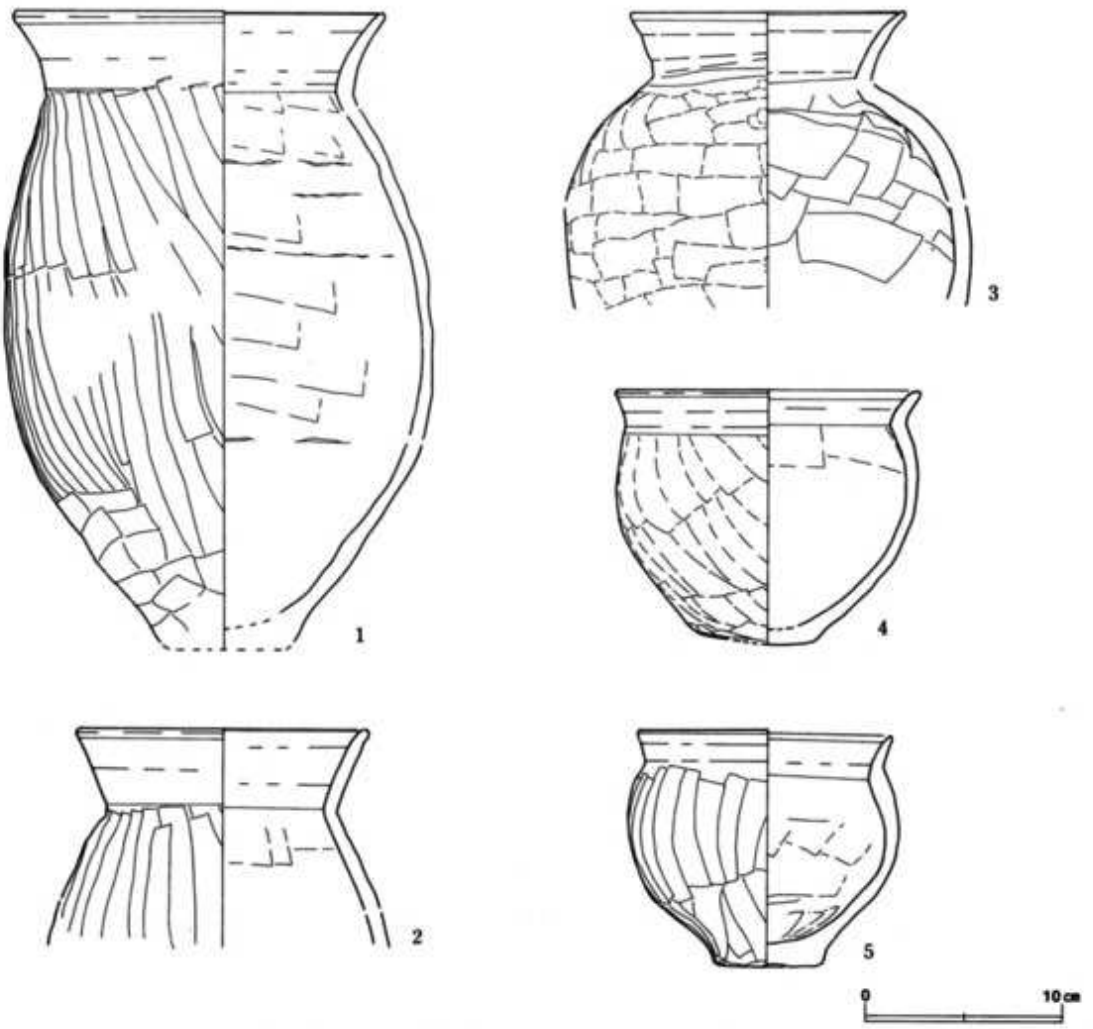
第86図　第18ａ・ｂ号住居址出土遺物（表－19）



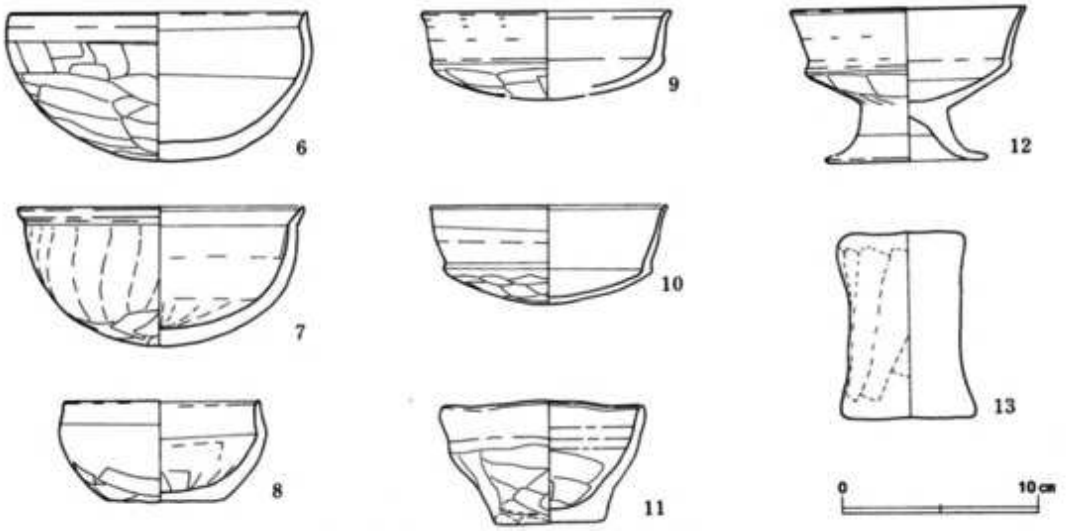
第87図　第19号住居址出土遺物(1)（表－20）



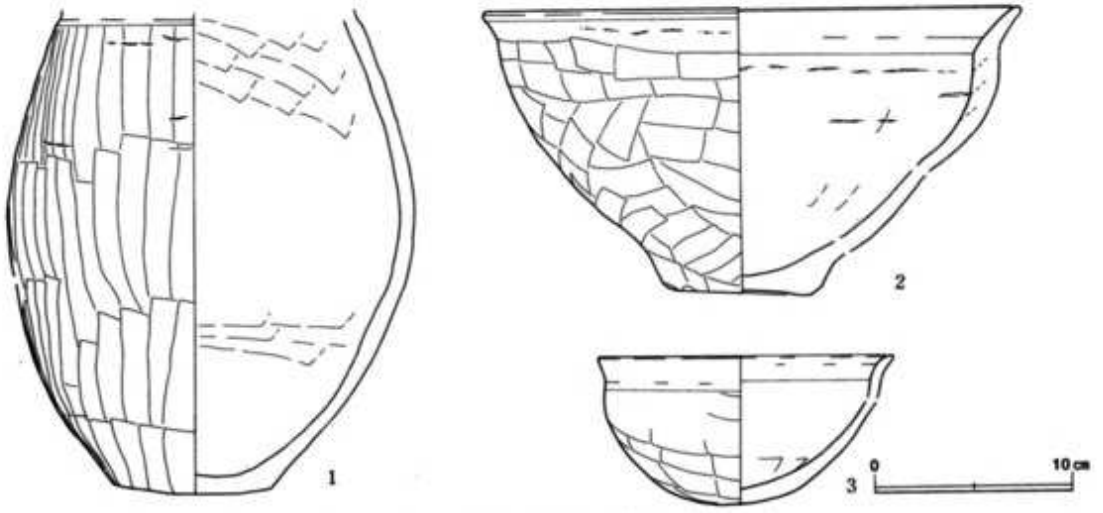
第88図　第19号住居址出土遺物(2)（表－20）



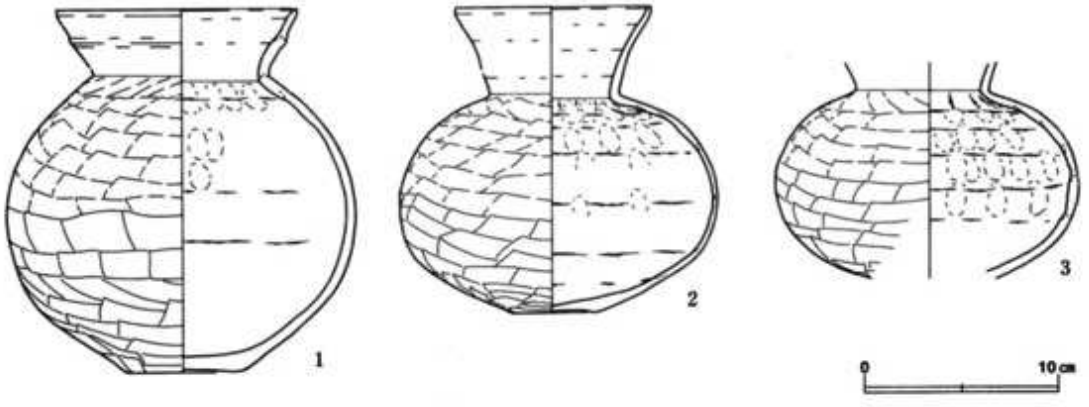
第89図　第20号住居址出土遺物(1)（表－21）



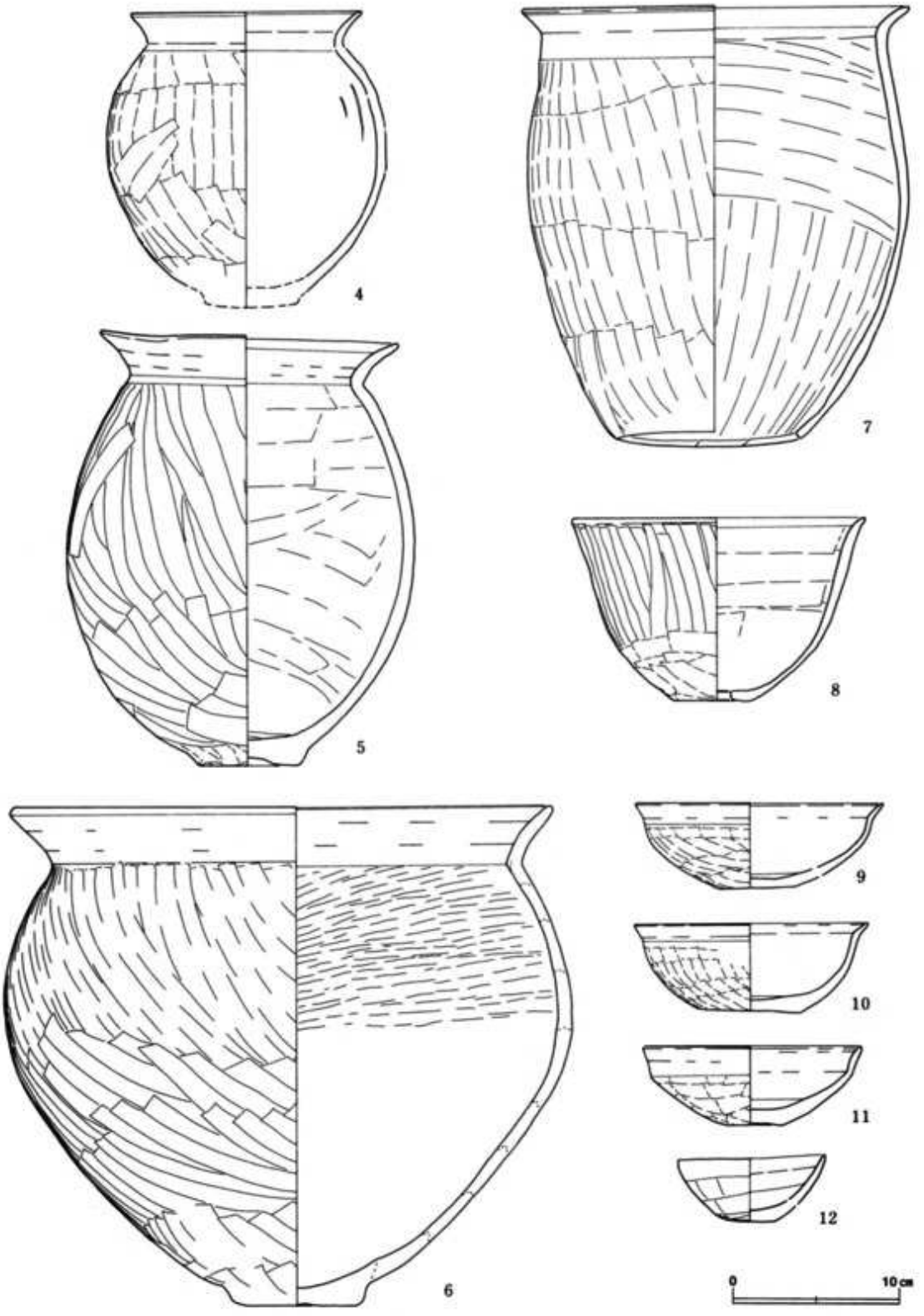
第90図　第20号住居址出土遺物(2)（表－21）



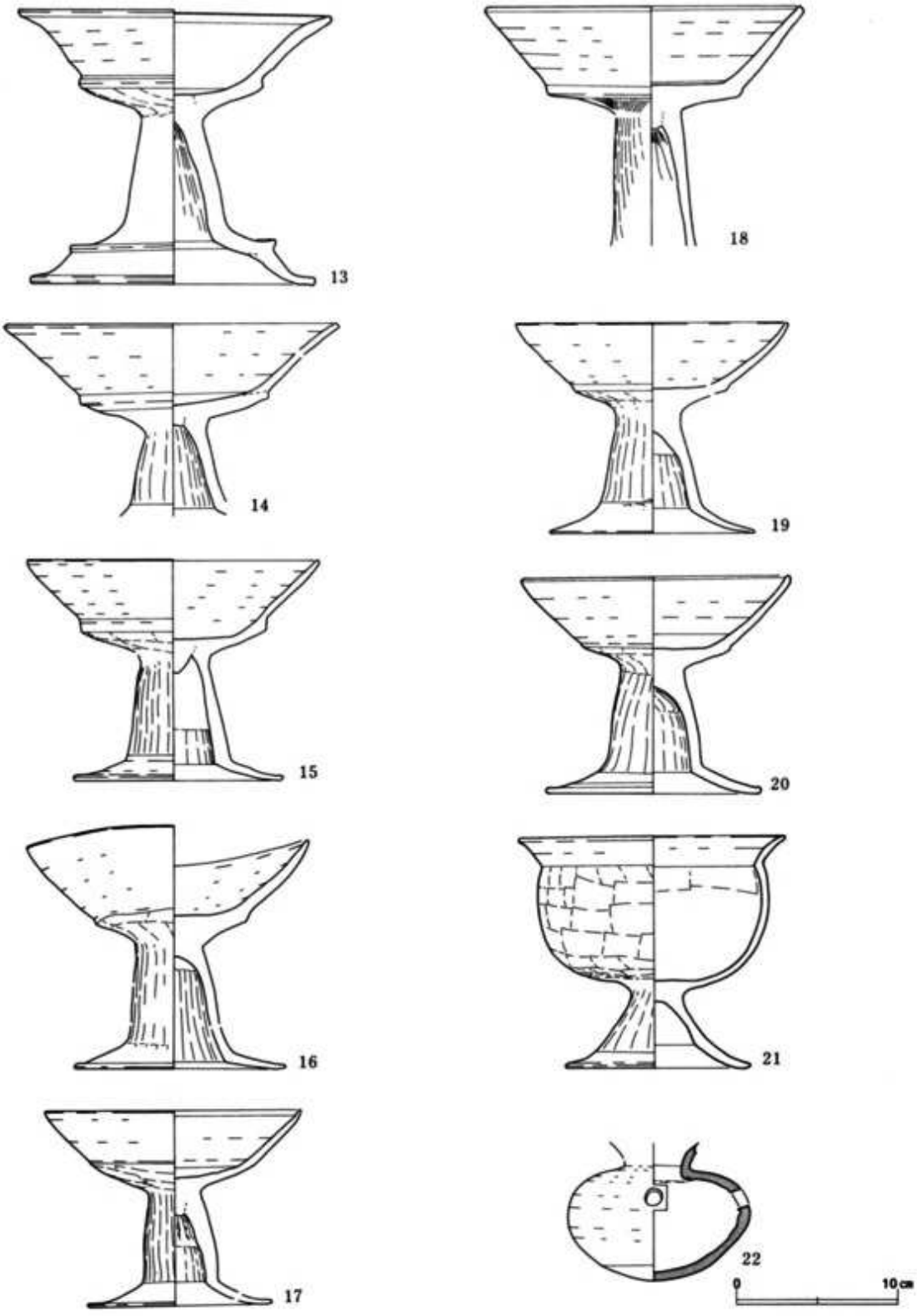
第91図　第21号住居址出土遺物（表－22）



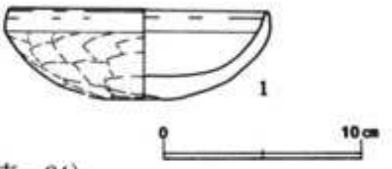
第92図　第22号住居址出土遺物(1)（表－23）



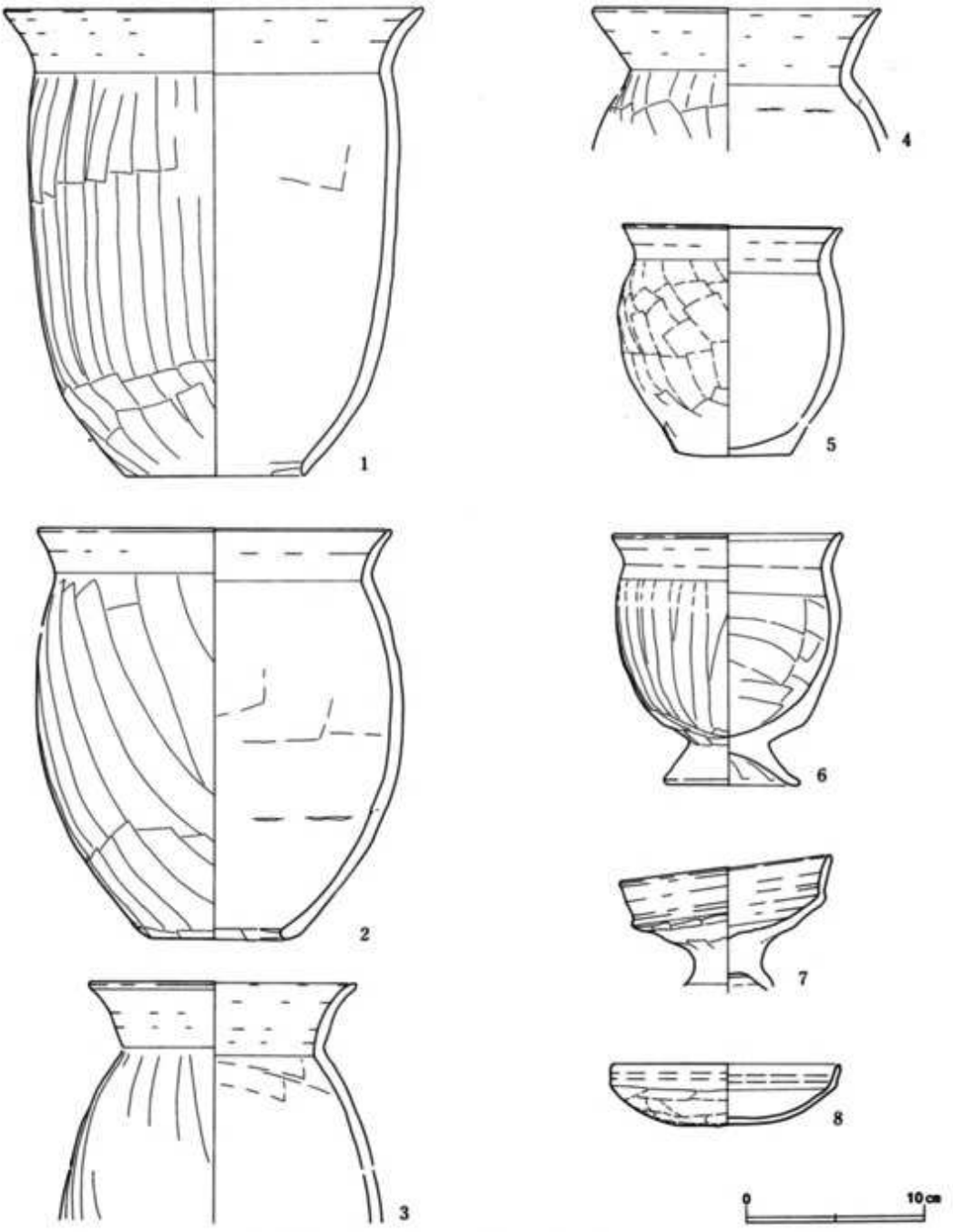
第93図　第22号住居址出土遺物(2)（表－23）



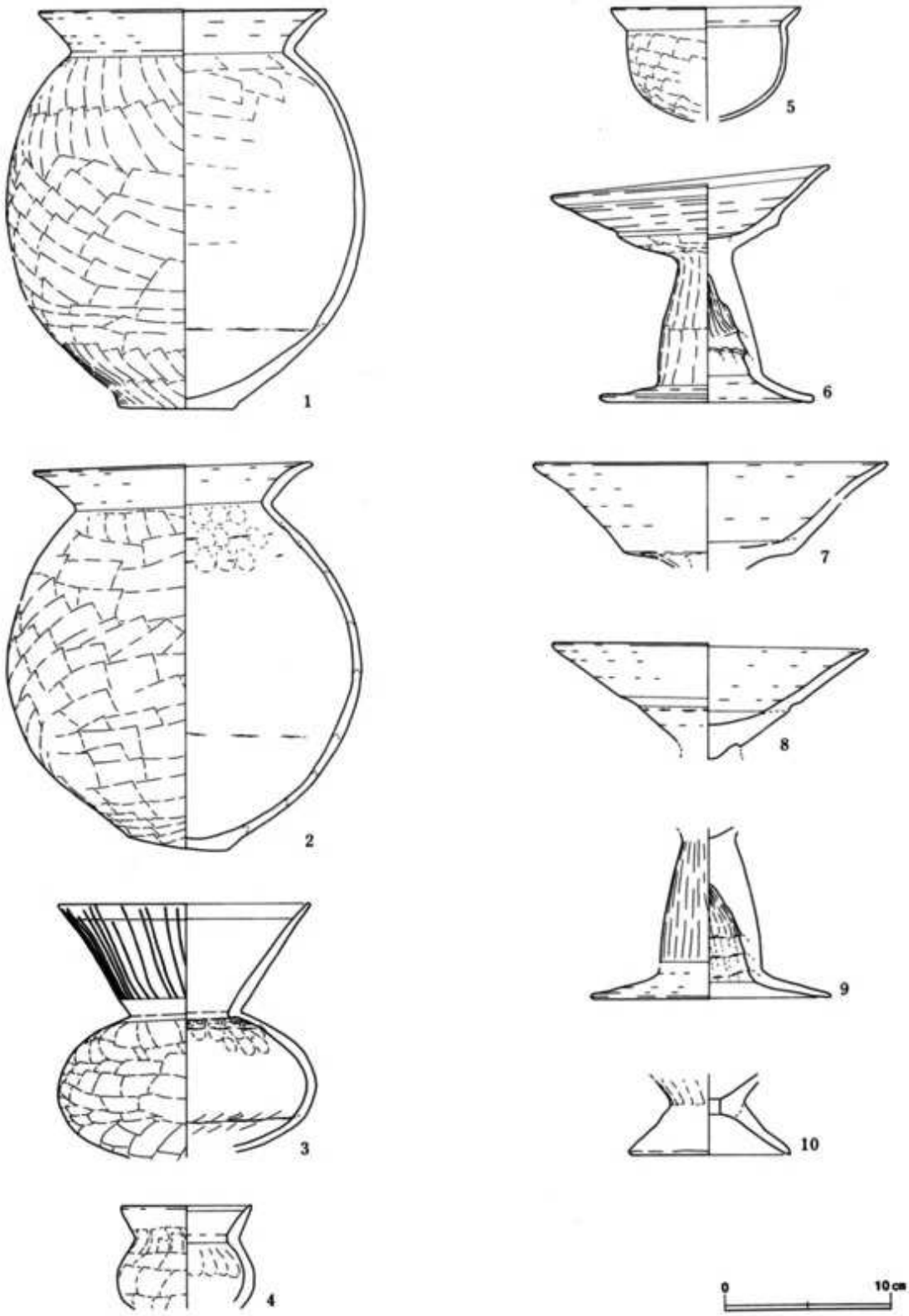
第94図　第22号住居址出土遺物(3)（表－23）



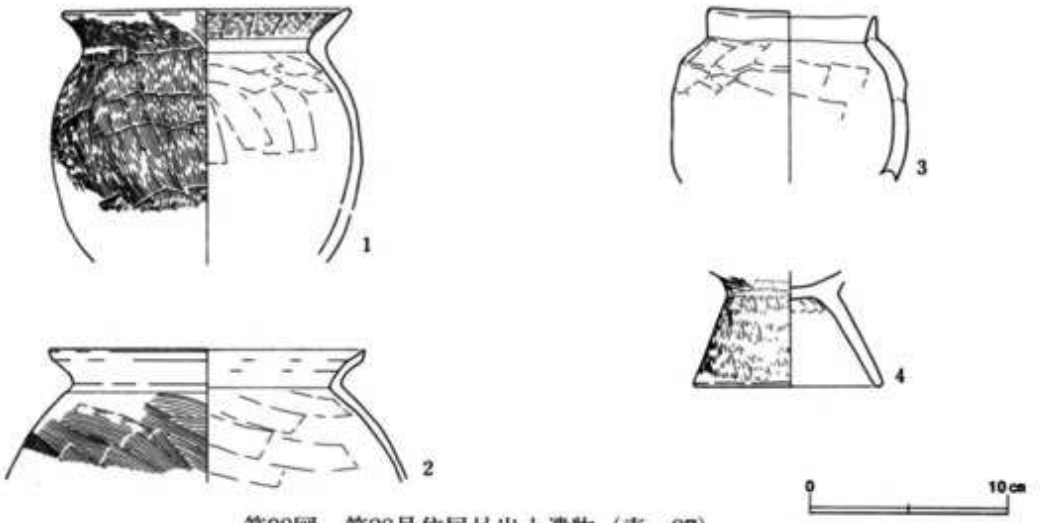
第95図　第25号住居址出土遺物（表－24）



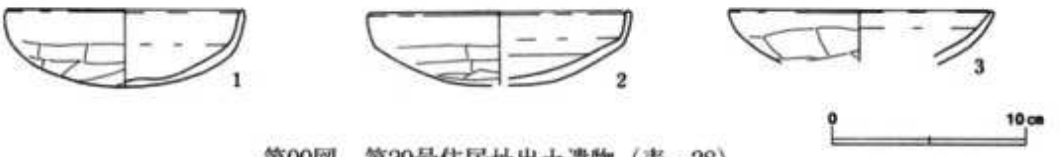
第96図　第26号住居址出土遺物（表－25）



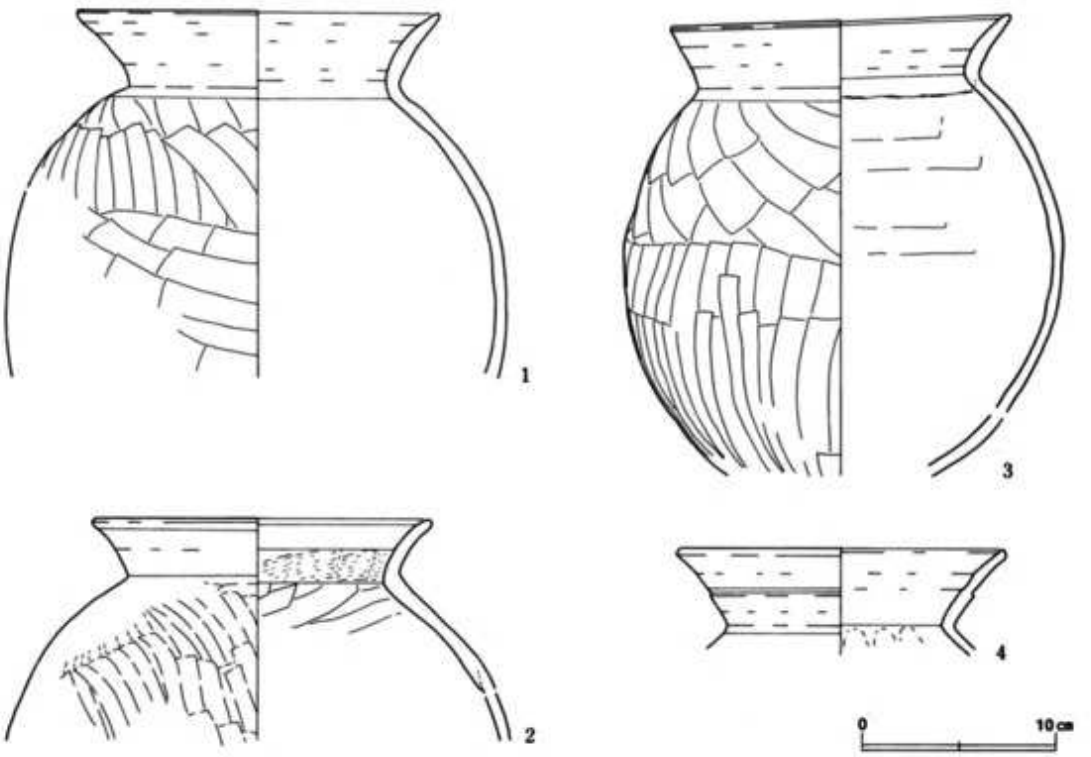
第97図　第27号住居址出土遺物（表－26）



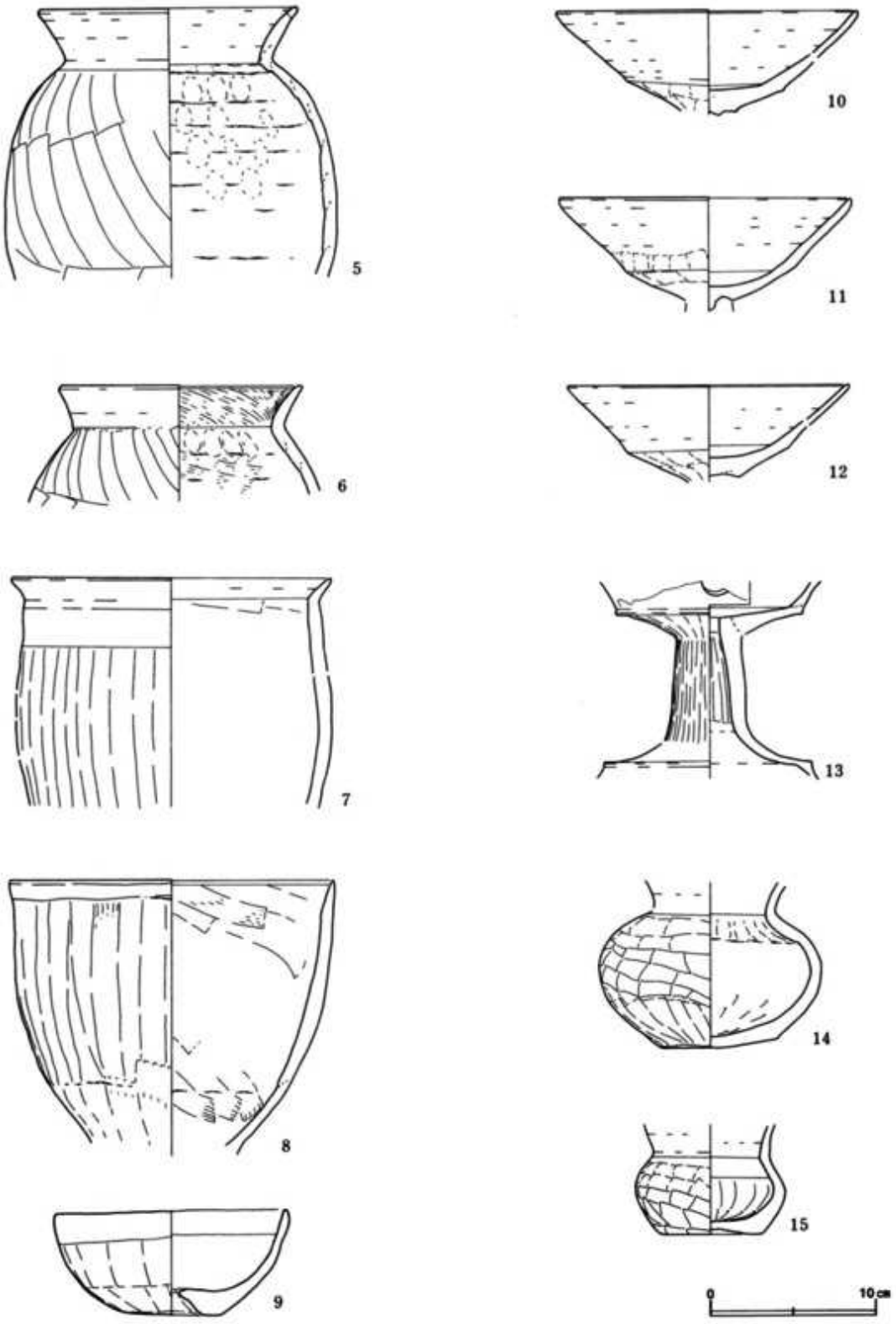
第98図　第28号住居址出土遺物（表－27）



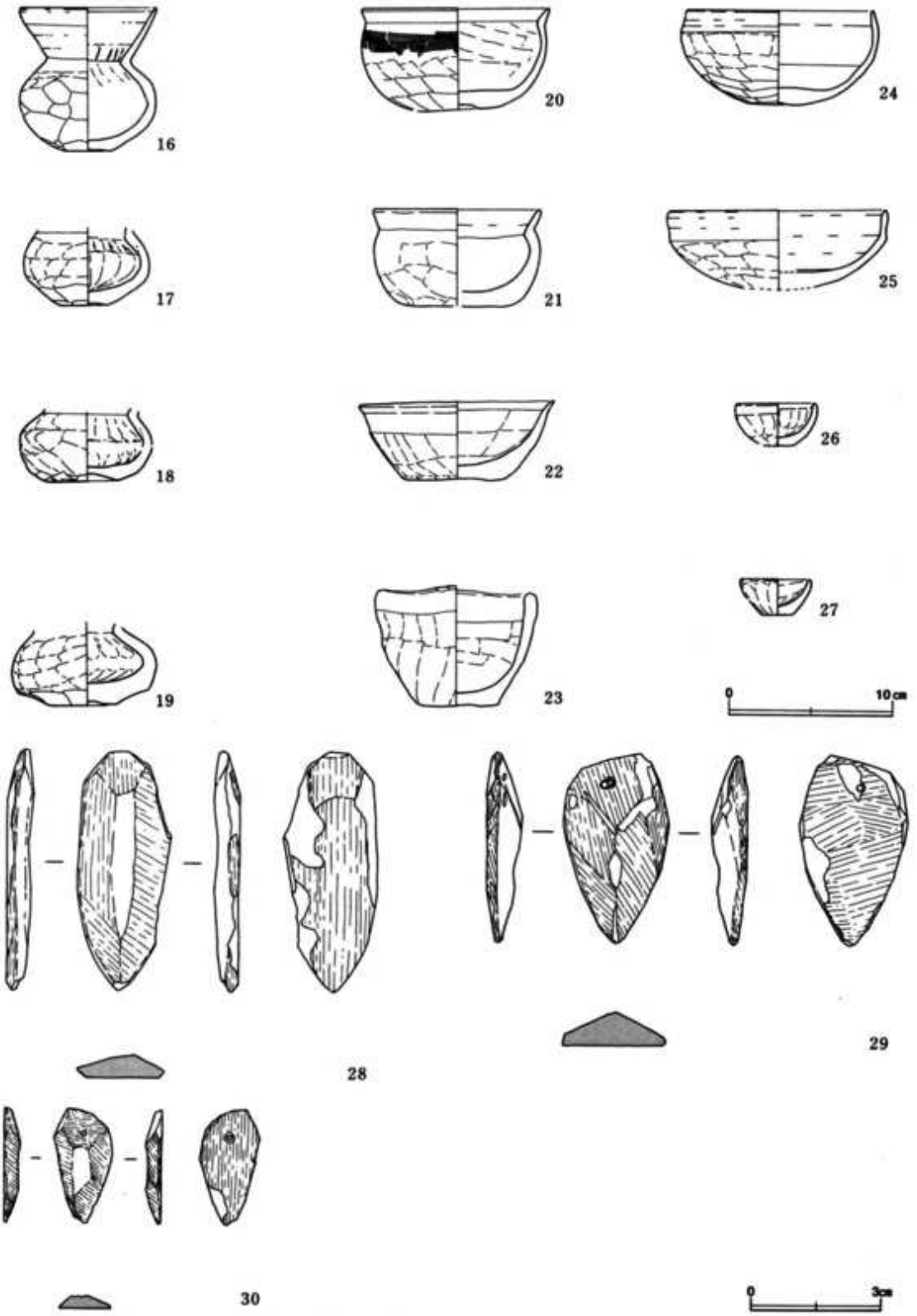
第99図　第29号住居址出土遺物（表－28）



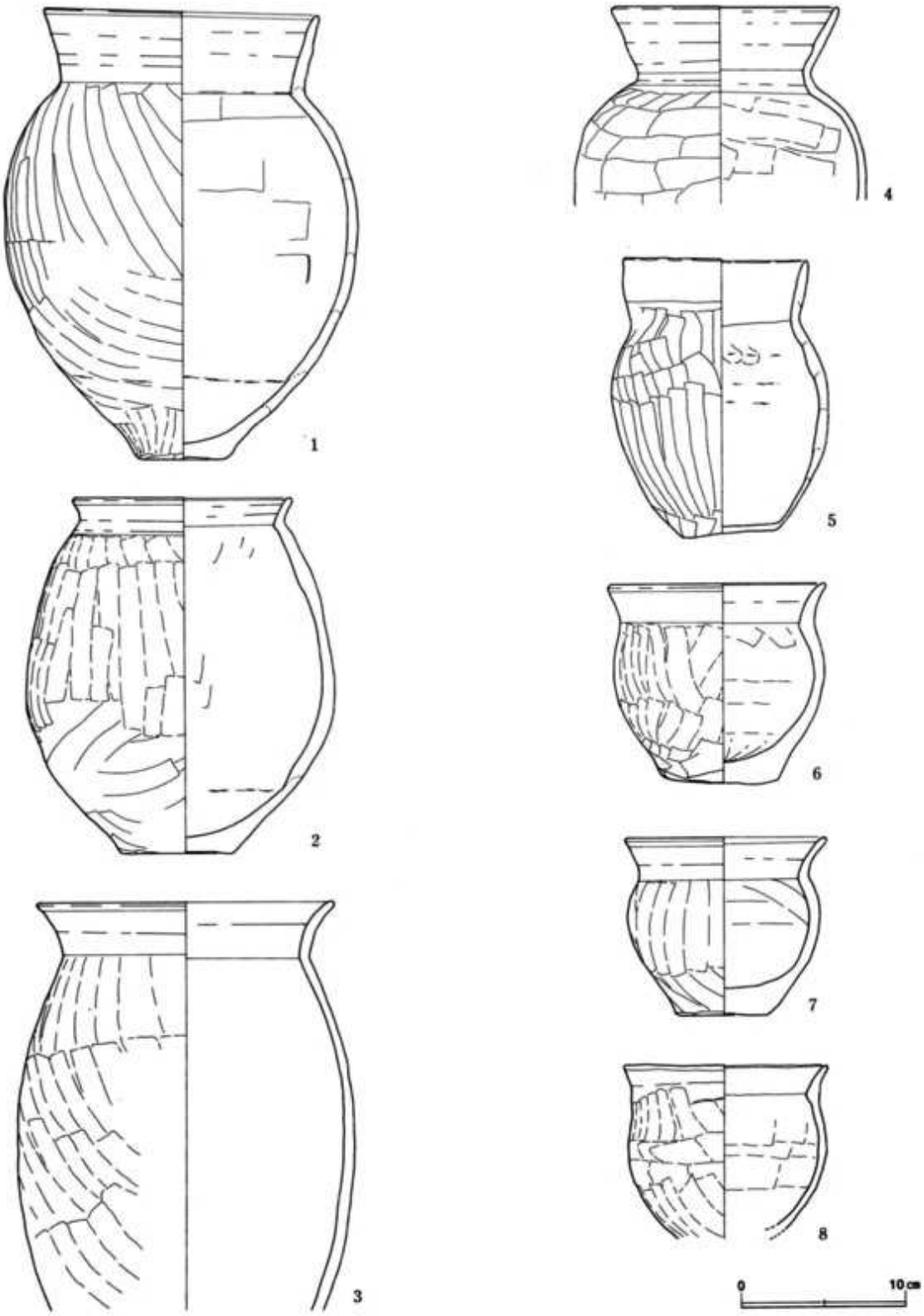
第100図　第30号住居址出土遺物(1)（表－29）



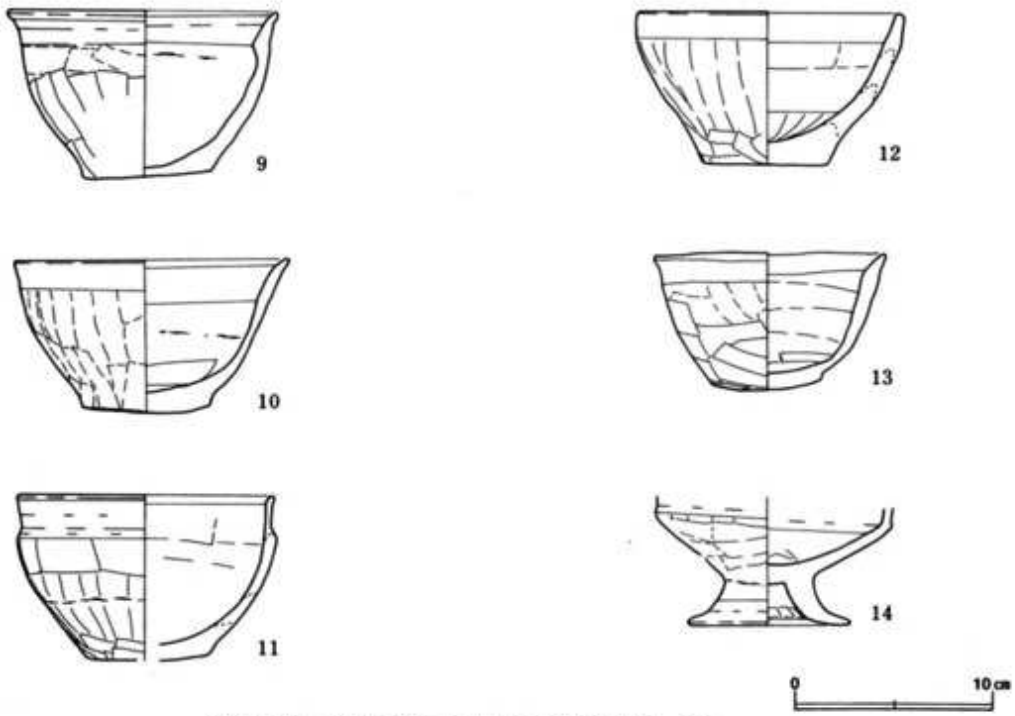
第101図　第30号住居址出土遺物(2)（表－29）



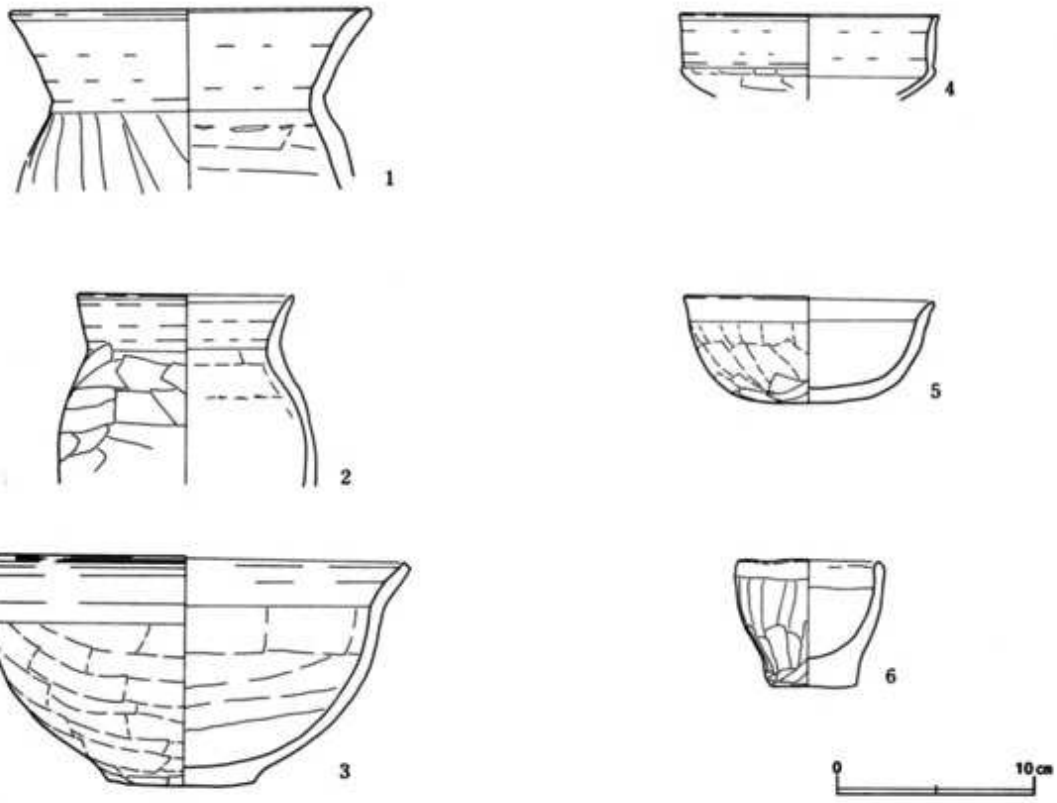
第102図　第30号住居址出土遺物(3)（表－29、30）



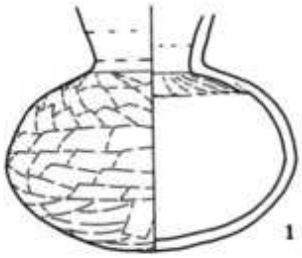
第103図　第31号住居址出土遺物(1)（表－31）

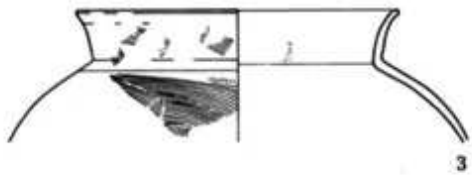


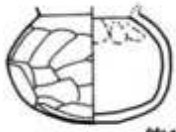
第104図　第31号住居址出土遺物(2)（表－31）



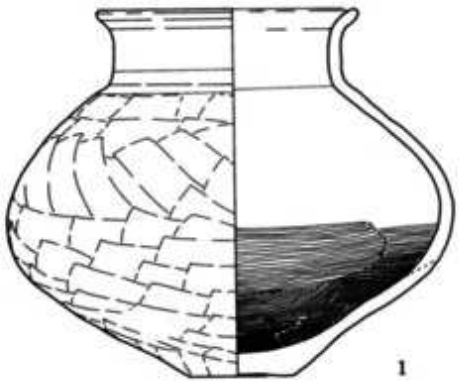
第105図　第32号住居址出土遺物（表－32）

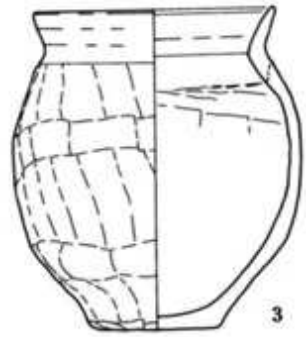


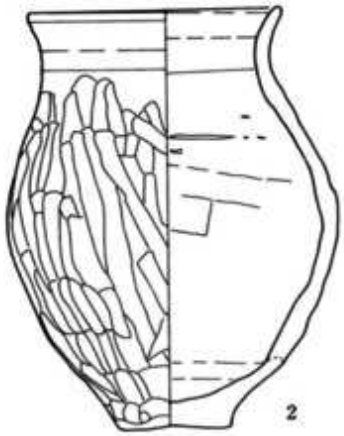


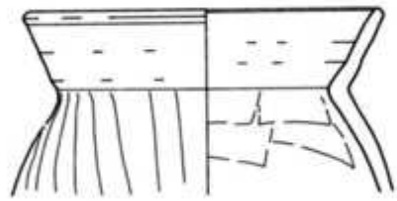


第106図　第33 a 号住居址出土遺物（表－33）

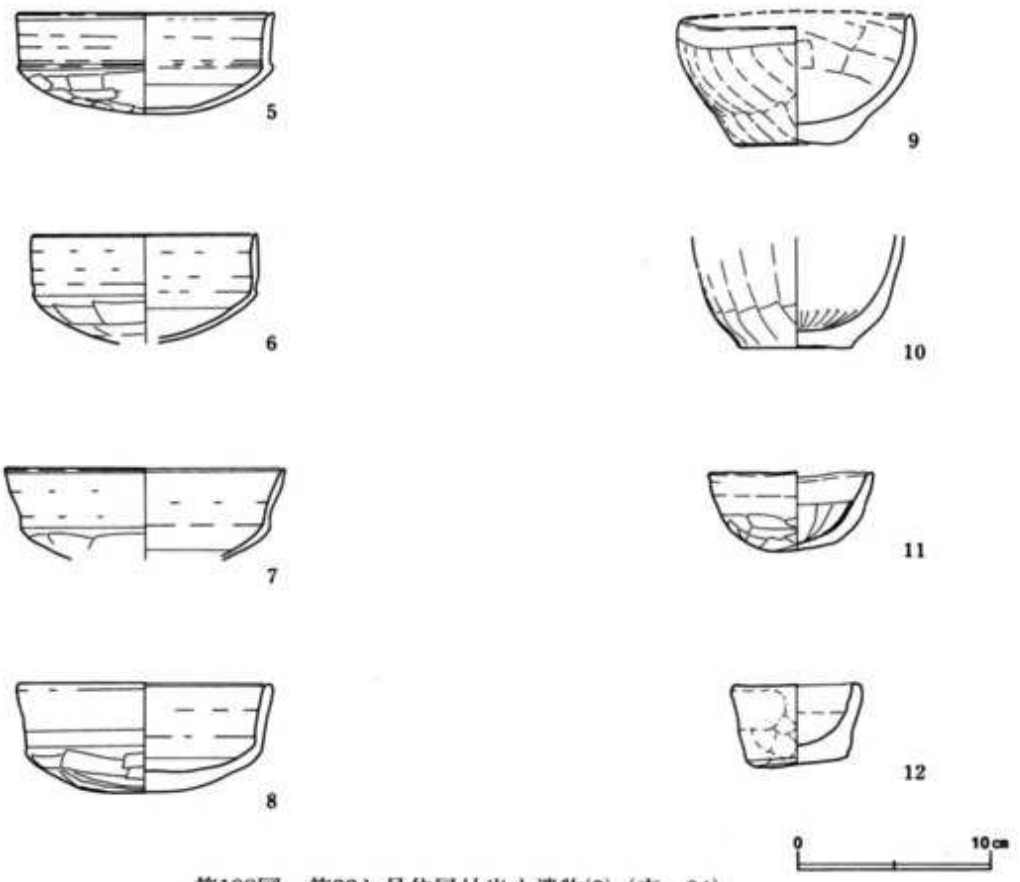




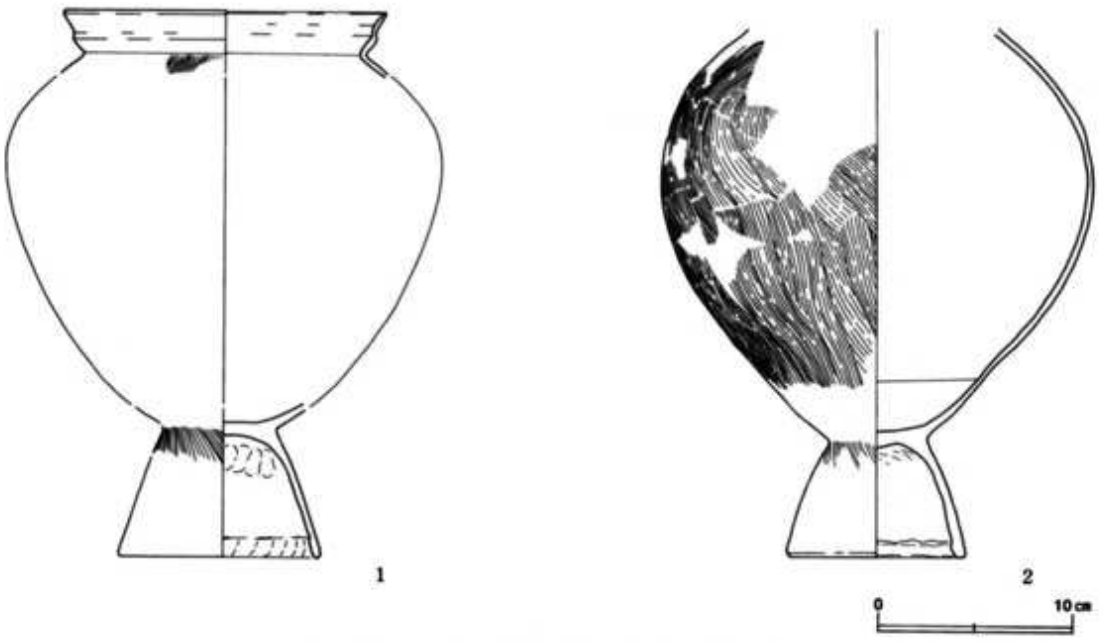




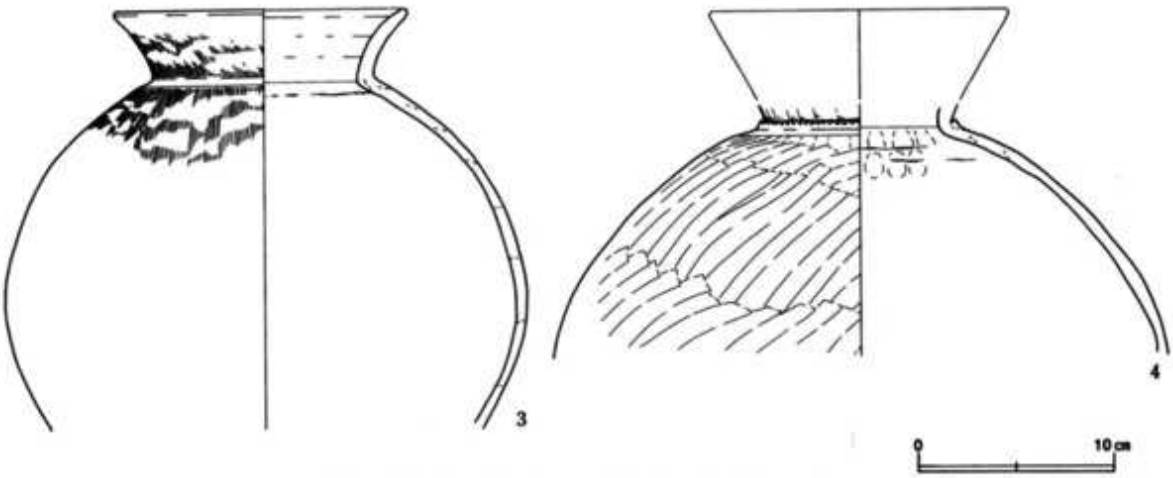
第107図　第33 b 号住居址出土遺物(1)（表－34）



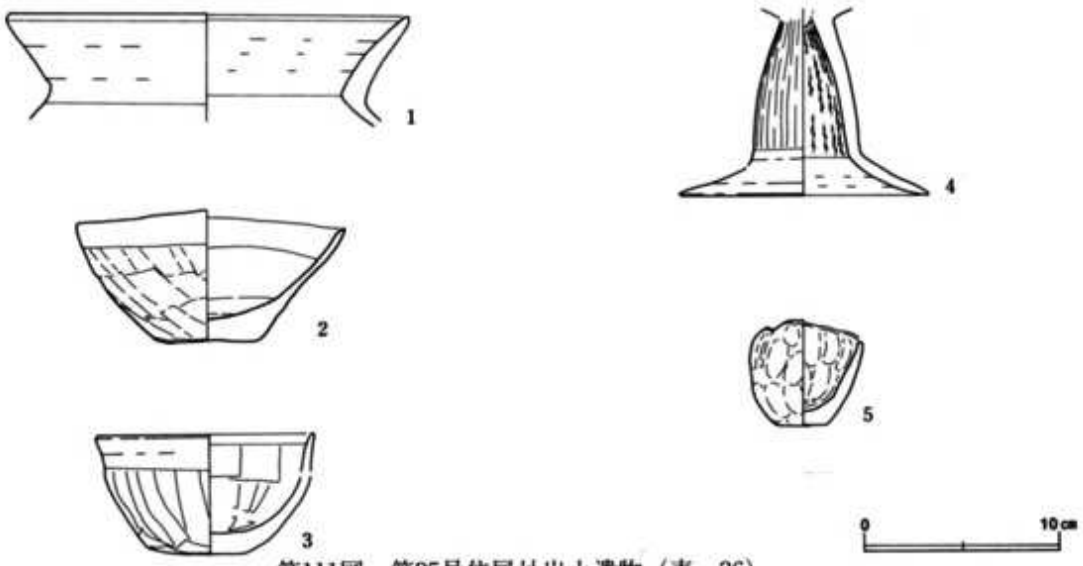
第108図　第33ｂ号住居址出土遺物(2)（表－34）



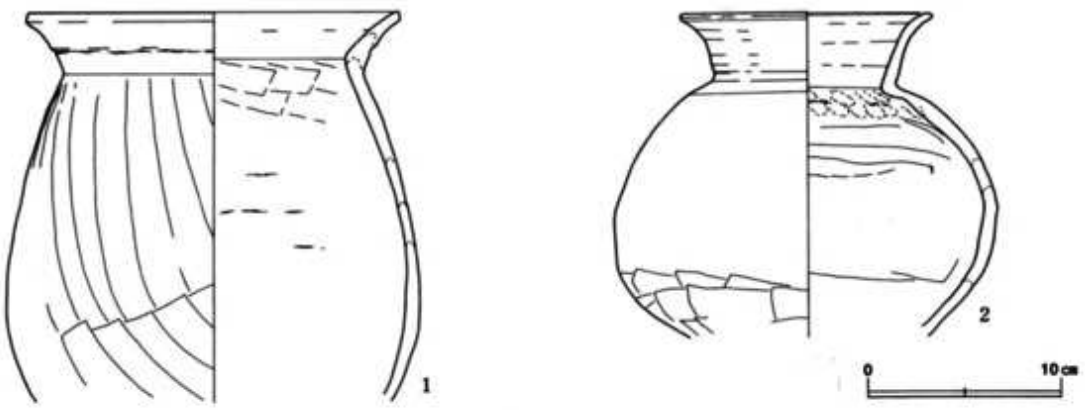
第109図　第34号住居址出土遺物(1)（表－35）



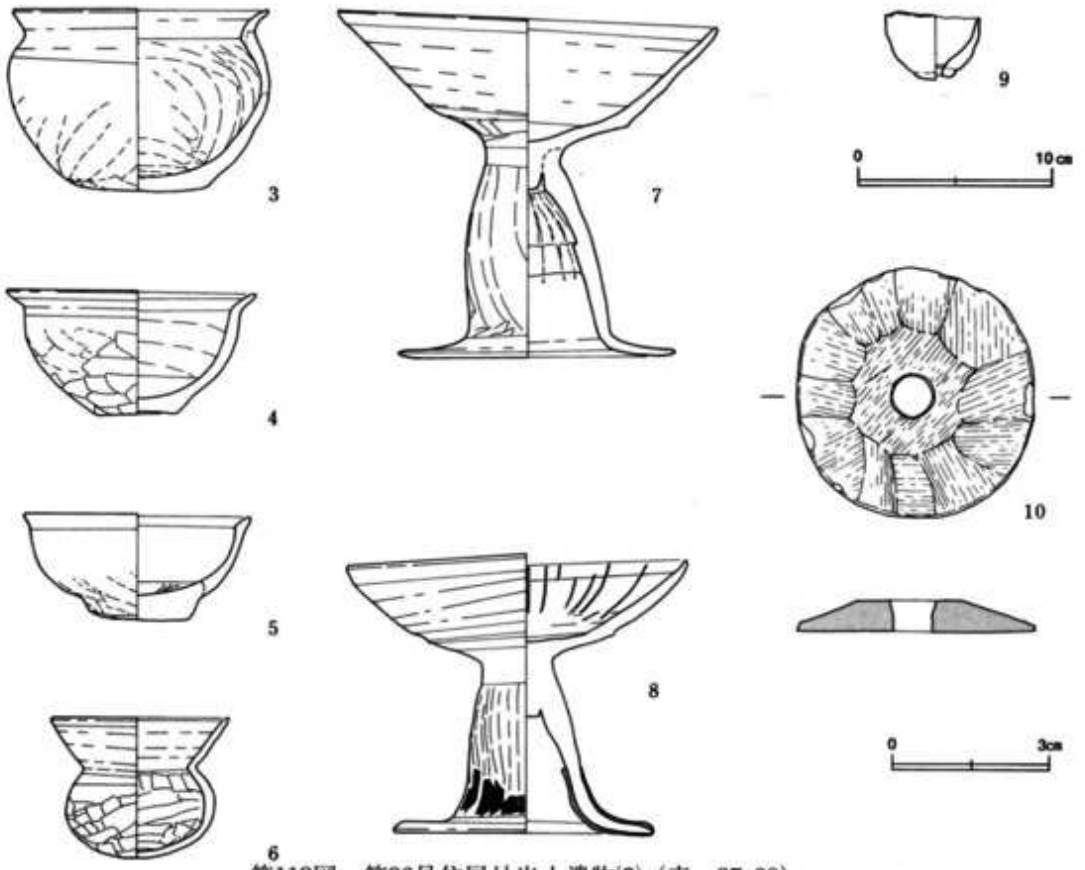
第110図　第34号住居址出土遺物(2)（表－35）



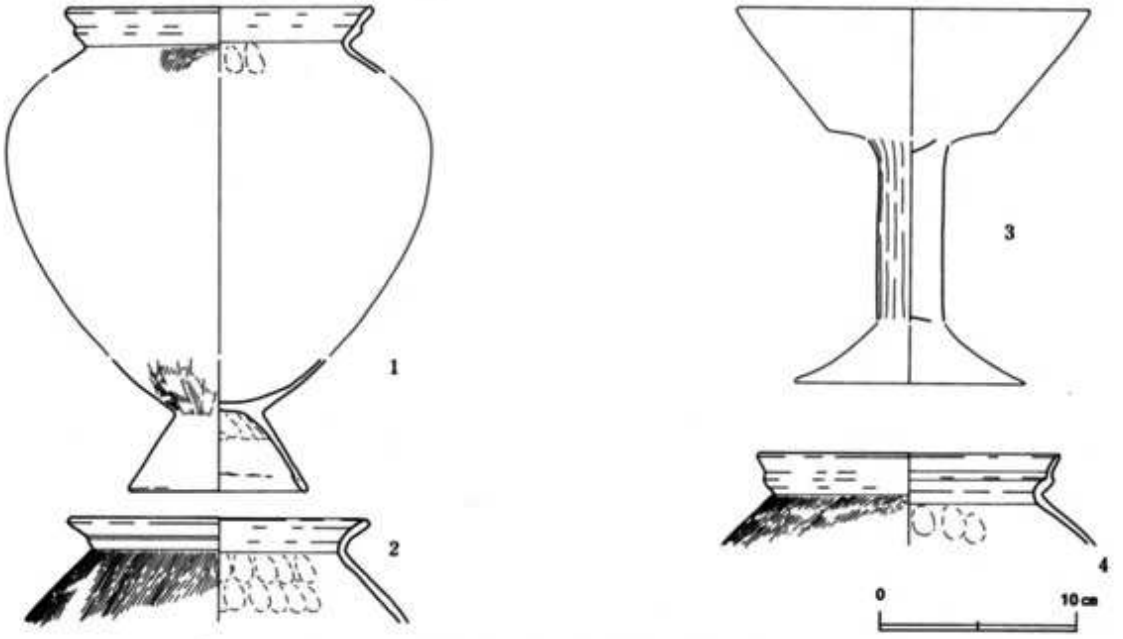
第111図　第35号住居址出土遺物（表－36）



第112図　第36号住居址出土遺物(1)（表－37）



第113図　第36号住居址出土遺物(2)（表－37、38）



第114図　第37号住居址出土遺物（表－39）

表－1　第3号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	坏	ko　12.7 h　5.0	口端部は内側に肥厚する。	外側は口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㋐明橙褐色 ㋑暗橙褐色	残　100% 焼　良 片・石・Fe ㋐ 白粒・角　㋒

表－2　第4号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　(12.9) t　(6.5) h　(17.1)	口唇部は外側にやや肥厚し、口辺部はゆるやかに外反する。 肩部はやや張る。 器形の歪みが大きい。 器外面に黒斑あり。	外側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、肩部はタテヘラケズリ、胴部はナナメヘラケズリ、底部はタテヘラケズリ。 内側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、頸部は指頭による押捺ナデ、胴部はヨコナデ、底部はナデ。	㋐明橙褐色 ㋑淡橙褐色	残　40% 焼　普 片・石・Fe ㋐

表－3　第4号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	残存率	特　徴
2	土　玉	径　1.7 厚　1.6 孔　1.0	完	不整球状を呈しやや偏平気味である。ナデによる整形。焼成前片側一方向より穿孔。色調は暗橙褐色を呈し焼成は普通、胎土中には片岩粒・砂粒を中量含む。

表－4　第5号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　17.2 t　5.4 h　31.1	口辺部はゆるやかに外反する。 胴部中位に最大径をもつ。 胴部外面に黒斑あり。 胴部下位にスス付着。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部から頸部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から頸部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、頸部から胴部中位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部中位から底部は木口状工具によるタテナデのちナデ。	㋐　橙褐色 ㋑　褐色	残　90% 焼　良 片・石・チャ・角・Fe　㋐ 「カマド内出土」
2	鉢	ko　13.2 t　5.2 h　11.1	口端部外側がやや肥厚し、頸部内面にわずかに稜をもつ。 器外面に輪積痕が残る。 底部は非常に厚い。	外側は口辺部はヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、胴部下位はナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口唇部は指頭による押捺ナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデ。	㋐㋑橙褐色	残　完 焼　良 Fe・片・石 ㋐ 角　㋒

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
3	甕	ko 22.0 t 7.7 h 29.2	口縁部はゆるやかに外反する。 器外面に黒斑あり。 胴部下位の器表面はやや荒れている。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、頸部から胴部上位は木口状工具によるヨコナデのち指腹によるナデ、胴部上位から下端部は木口状工具によるタテナデのち指腹によるナデ、下端部はヘラ状工具による面トリ。	㊎ 淡褐色 ㊐ 淡褐色 明橙褐色	残　完 焼　良 Fe・片・石・チャ ㊥ 角 ㊦ 「カマド内出土」
4	甕	ko 12.8 t 6.2 h 10.4	口辺部はわずかに内湾する。 胴部中位はやや張りをもつ。 器内外面に輪積痕あり。	外側は口辺部はヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はヨコナデ、穿孔部はヘラケズリ。	㊎㊐橙褐色 淡褐色	残　80% 焼　良 片・石・チャ・Fe ㊥ 角 ㊦ 「カマド内出土」
5	坏	ko 13.2 h 4.5	口端部は外側に肥厚する。 接合部に工具痕が明瞭に残る。	外側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部上端はナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊎㊐ 明橙褐色	残　完 焼　良 片・石・チャ・Fe ㊥ 「貯蔵穴内出土」
6	坏	ko 12.8 h 4.3	口端部はやや尖る。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、口辺部と底部の屈曲部は指頭によるヨコナデ、底部はナデ。	㊎㊐橙褐色	残　30% 焼　普 砂粒・雲 ㊥ 片・Fe ㊦
7	坏	ko 12.5 h 4.3	口唇部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部に黒斑あり。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口唇部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部下位はナデ。	㊎㊐橙褐色	残　90% 焼　普 片・石・チャ・白粒 ㊥
8	坏	ko 12.2 h 4.3	口端部はわずかに外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部は指頭によるナデ。	㊎㊐ 明橙褐色	残　95% 焼　普 砂粒・白粒㊥
9	坏	ko 12.2 h 4.1	口端部はやや外側に肥厚する。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上半は木口状工具によ	㊎㊐橙褐色	残　完 焼　普 片・チャ・角・白粒 ㊦

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				るヨコナデ、底部下半はナデ。		「カマド内出土」
10	坏	ko 13.0 h 4.1	口端部は外側に肥厚する。 口辺部は中位で「く」字状に外反する。 底部外面に黒斑あり。	外側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。 内側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部上位はヨコナデ、底部下位はナデ。	㊎㊎ 淡橙褐色	残　90% 焼　良 片・石・白粒 ㊍ Fe　㊍
11	坏	ko 12.3 h 4.4	口辺部は直線的に開く。 器内面に炭化物が付着する。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上半は木口状工具によるヨコナデ、底部下半はナデ。	㊎㊎ 明橙褐色 淡黄褐色	残　完 焼　普 片・石・白粒 ㊍ 「カマド内出土」
12	坏	ko 12.3 h 4.3	口端部は外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㊎㊎ 明橙褐色	残　95% 焼　普 片・石・白粒 ・Fe　㊍ 「貯蔵穴内出土」
13	坏	ko 11.9 h 4.3	口端部はわずかに内側に肥厚する。 底部外面に黒斑あり。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部上位はナデ、底部中位から下位はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部下位はナデ。	㊎㊎ 淡橙褐色	残　95% 焼　普 片・石・チャ㊍ Fe　㊍ 「カマド内出土」
14	坏	ko 11.9 h 4.3	口辺部は直線的に開く。 器厚はやや厚い。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㊎㊎ 淡橙褐色	残　90% 焼　普 片・石・白粒・雲　㊍
15	坏	ko 12.2 h 4.2	口端部はわずかに外側に肥厚する。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部下位はナデ。	㊎㊎ 明橙褐色 淡黄褐色	残　完 焼　普 片・チャ・石㊍ Fe　㊎
16	坏	ko 12.1 h 3.7	口端部はわずかに内側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部は指頭によるナデ。 内側は口辺部はヨコナデ、底部はヘラケズリ。	㊎㊎ 明橙褐色	残　90% 焼　普 片・白粒・砂粒 ㊍
17	坏	ko (12.8) t 6.1 h 4.1	全体的に粗雑なつくり。 底部に黒斑あり。	外側は口唇部はヨコナデ、下位はナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、底部はナデ。	㊎㊎ 明橙褐色	残　80% 焼　普 Fe・片・石・チャ　㊎ 角　㊍ 「カマド内出土」

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
18	鉢	ko 10.5 t 5.7 h 4.2	全体に厚いつくり。 器外面に黒斑あり。 器内面に炭化物が微量付着。 坏製作途中のものを焼成したものか。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部は指頭でおさえながらヨコナデ、底部は未調整。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるナデ。	㊗ 橙褐色 ㊇淡橙褐色	残 完 焼 良 Fe・片・石・チャ ㊥ 白粒 ㊦ 角 ㊩ 「カマド内出土」
19	高坏	ko —— t —— h 〈12.2〉	脚部は弱く張る。 脚裾部はゆるやかに開く。 脚内部に絞り込み痕が若干残る。 脚外面に黒斑あり。	外側は坏底部はヘラケズリ、接合部はヨコナデ、脚部はヘラナデ、裾部はヨコナデ。 内側は坏底部はナデ、脚部はヘラケズリ、裾部はヨコナデ。	㊗㊇淡褐色	残 60% 焼 普 片・石・チャ ㊦ Fe ㊩

表－5　第6号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko 〈17.3〉 t —— h 〈10.5〉	口唇部はやや内湾する。 肩部はわずかに張る。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㊗㊇淡褐色	残 30% 焼 普 片・Fe・チャ・石 ㊦ Mn ㊦
2	高坏	ko 18.5 t 15.1 h 15.6	坏部は直線的に開く。 脚部はやや強く張る。 裾端部は内屈し、また下側に肥厚する。	外側は口唇部はヨコナデ、坏部は木口状工具によるヨコナデ、坏底部はヘラケズリ、接合部はヨコナデ、脚部はヘラナデ、裾部はヨコナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、坏部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ、脚部上半は指頭によるナデ、脚部下半は指頭によるヨコナデ、裾部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ。	㊗㊇淡褐色	残 70% 焼 普 Fe ㊦ 片・石・白粒 ㊦

表－6　第7号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko 20.7 t —— h 〈19.9〉	口端部は丸いが一部外側に肥厚する部分あり。 口縁部は直線的に外反する。 器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位はヘラケズリのちナデ、胴部中位はヘラケズリ、胴部下位はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊗ 淡褐色 ㊇ 淡褐色 暗褐色	残 40% 焼 良 片・石・Fe ㊦ Mn・角 ㊦ 「貯蔵穴内出土」

表－7　第8号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko 21.9 t 7.0 h 28.1	口端部は丸く、口唇部はわずかに内湾する。 口縁部は直線的に外反する。 胴部中位やや上に最大径をもつ。 器外面の剥落顕著。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㋐淡橙褐色 ㋑　暗褐色	残　50% 焼　悪 片・石・Fe ㋐
2	甕	ko 18.5 t —— h 〈13.3〉	口端部は外側にわずかに肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部はナデ。	㋐㋐淡褐色	残　40% 焼　普 片・石・チャ・Fe ㋐ 角　㋑

表－8　第9号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko 15.2 t 7.2 h 30.0	口端部は外側に肥厚する。 胴部中位やや上に最大径をもつ。 胴部中位に内面からの打撃による不整円形の穿孔あり。 土器穿孔後の廃棄か。 器外面底部付近に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位はヘラケズリのちナデ、胴部中位から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上端は指頭による押捺ナデ、胴部は木口状工具による斜位・横位ナデのちナデ、底部はナデ。	㋐　橙褐色 ㋑　淡褐色	残　70% 焼　良 片・石・チャ ㋐ Fe・角　㋑
2	甕	ko 15.2 t (6.4) h 23.5	口縁部はゆるやかに外反する。 胴部下半の器外面にスス付着。 底部付近の器外面に剥落あり。 被熱によるものか。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はタテナデ、底部はナデ。	㋐㋐ 淡橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・チャ ㋐ Fe・角　㋑
3	甕	ko 20.3 t 4.7 h 37.6	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部は大きく外反する。 胴部下位に最大径をもつ。 被熱により器外面は荒れている。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるタテナデのちナデ、底部は木口状工具によるナナメナデのちナデ。	㋐　橙褐色 淡褐色 ㋑　暗褐色	残　80% 焼　普 片・石・チャ ㋐ 砂粒　㋑
4	甕	ko 17.8 t 6.2 h 33.1	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部下位に最大径をもつ。 凹底を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工	㋐暗橙褐色 橙褐色 ㋑　淡褐色	残　80% 焼　良 片・石・チャ・Fe・砂粒 ㋐

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。		角　⑨
5	甕	ko　18.3 t　4.1 h　36.0	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部中位やや下に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部下半から底部は木口状工具によるナナメナデのちナデ。	⑧淡橙褐色 ⑧　淡褐色	残　60% 焼　良 片・石・チャ・砂粒　⑧ Fe・角　⑨
6	甕	ko　18.1 t　—— h　〈17.8〉	口端部は外側にわずかに肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 器外面、胴部中位にスス付着。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、頸部の一部から胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	⑧淡橙褐色 ⑧　淡褐色	残　40% 焼　普 片・石・チャ⑧ Fe　⑨
7	甕	ko　15.1 t　5.9 h　34.7	口縁部はゆるやかに外反する。 胴部下位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、胴部下位から底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具による横位ナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	⑧　淡褐色 ⑧　暗褐色	残　95% 焼　普 片・石・チャ・Fe　⑧ 「カマド内出土」
8	甕	ko　16.4 t　6.3 h　32.3	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部下位に最大径をもつ。 凹底を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、胴部下位及び底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのち軽いナデ、胴部下位は木口状工具によるナナメナデのち軽いナデ、底部はナデ。	⑧　暗褐色 橙褐色 ⑧　淡褐色	残　95% 焼　良 片・石・チャ・砂粒　⑧ Fe・角　⑨
9	甕	ko　19.1 t　5.2 h　25.8	口端部は直立気味にやや尖り、外側はわずかに肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部は直線的でわずかに弧を描く。 底部は凹底状を呈する。 胴部器外面の一部中位以上にスス付着。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのち軽いナデ、底部は木口状工具によるタテナデのち軽いナデ。	⑧　橙褐色 ⑧　淡褐色	残　90% 焼　普 片・石　⑧ Fe・角　⑨ 「カマド内出土」
10	甕	ko　15.6 t　6.5 h　23.9	口縁部はゆるやかに外反する。 最大径を胴部のやや下位にもつ。 器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、頸部から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部はヨコナデ、胴部上半は木口状工具による斜位のナデのちナデ、胴部下半か	⑧⑧橙褐色	残　90% 焼　普 片・石・Fe⑧ 角　⑨

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				ら底部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。		
11	甕	ko 17.1 t 9.7 h 19.0	口端部はわずかに面をなす。 口縁部は立ち気味に開く。 器外面に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㋑ 橙褐色 淡橙褐色 ㋒ 暗褐色	残　完 焼　普 片・石・チャ ㋐ Fe・角 ㋑ 「貯蔵穴内出土」
12	甕	ko 16.9 t 6.9 h 18.0	器形の歪みが大きい。 口端部は外側にやや肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㋑㋒ 暗橙褐色	残　60% 焼　普 片・石・Fe ㋐ 角　㋑
13	甕	ko 17.4 t 5.7 h 13.3	器形の歪みが大きい。 口縁部は内屈して口唇部で外反する。 器外面胴部に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部は木口状工具によるナナメナデのちナデ。	㋑暗橙褐色 ㋒ 暗褐色	残　70% 焼　良 片・石・チャ ㋐ Fe・角 ㋑ 「貯蔵穴内出土」
14	甕	ko 14.5 t 8.2 h 14.8	口唇部はゆるやかに外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㋑ 橙褐色 ㋒ 暗褐色	残　完 焼　良 片・石　㋐ 角・Fe　㋑ 「カマド内出土」
15	甕	ko 20.9 t 6.3 h 33.4	口端部は外側に肥厚する。 口唇部は大きく外反する。 口縁部は直線的に開く。 口縁部中位には2条の凹線が巡り鈍い稜をなす。 頸部器外面は粘土紐貼付により補強されている。 胴部中位やや下に最大径をもつ。 胴部中位やや下にススが帯状に付着する。 底部は凹底を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は中位に2条の凹線を巡らした後に木口状工具によるヨコナデ、口縁部下位から頸部にかけて粘土紐貼付による補強を行っている。胴部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるナデのち軽いナデ、胴部中位から底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	㋑㋒橙褐色 暗橙褐色	残　80% 焼　良 片・石・Fe・砂粒　㋐ チャ・角 ㋑
16	甕	ko 16.1 t —— h 〈19.4〉	口端部は外側に肥厚し、内側に凹線が巡る。 口縁部はゆるやかに外反する。 口縁部中位には稜が巡る。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は荒いハケによる縦位ナデ。 内側は口端部は工具による凹線が巡る。口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は荒いハケによる横位ナデ。	㋑ 橙褐色 ㋒暗橙褐色	残　40% 焼　良 片・石・砂粒　㋐ Fe　㋑

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
17	甕	ko 19.4 t —— h 〈 9.0〉	口端部は突帯状の張り出しをもつ。	外側は口端部は工具により凹線を巡らした後ヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、肩部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、頸部は指頭によるナデツケのちナデ、肩部はナデ。	㋑㋒淡褐色	残　30% 焼　普 片・石・チャ ㋐ Fe・角　㋑
18	甕	ko (21.3) t —— h 〈 9.3〉	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。 口縁部中位に稜をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はナデ。	㋑㋒淡褐色	残　10% 焼　普 Fe　㋐ 片・石　㋑
19	甕	ko 20.8 t 5.8 h 31.7	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部上位に最大径をもつ。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位から中位は指頭によるヨコナデ、胴部下位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㋑暗淡褐色 ㋒淡橙褐色	残　60% 焼　普 片・石・Fe・チャ・砂粒 ㋐ 角　㋑
20	甕	ko 24.2 t —— h 〈17.4〉	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 肩部の張りは弱い。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㋑㋒橙褐色	残　30% 焼　良 片・石・Fe・チャ　㋐
21	甕	ko 23.2 t 7.4 h 32.4	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部下位は被熱により器外面が荒れている。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、胴部下位はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、下端部はヘラケズリ。	㋑　橙褐色 暗褐色 ㋒暗橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・チャ・Fe・砂粒 ㋐ 角　㋑
22	甕	ko 25.2 t 8.5 h 31.8	口縁部は大きく外反する。 下端部やや上でわずかに外側に開く。	外側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部及び下端部はヘラケズリ。 内側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、下端部はヘラケズリ。	㋑㋒淡褐色 暗褐色	残　60% 焼　普 片・石　㋐ Fe・チャ・角㋑ 「カマド内出土」
23	甕	ko 21.2 t 7.9 h 28.1	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部上位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部中位から下位はヘラケズリ、胴部下位はナデ、下端部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部下位は	㋑　淡褐色 ㋒　橙褐色	残　90% 焼　良 片・石・雲 ㋐ Fe・角　㋑

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				木口状工具によるタテナデのちナデ、下端部はヘラケズリ。		
24	甕	ko (21.6) t (7.0) h 27.3	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、胴部下位はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、下端部はヘラケズリ。	㋑㋒淡褐色	残　60% 焼　普 片・石　㋐ 砂粒　㋑
25	甕	ko 17.0 t 4.5 h 12.3	器形はやや歪む。 口端部はやや内屈する。 単孔。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、孔部はヘラケズリによる面トリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ。	㋐㋐ 暗橙褐色	残　90% 焼　良 片・石・チャ㋐ Fe・角　㋑ 「カマド内出土」
26	坏	ko (18.8) h (6.5)	口端部は内向気味に尖る。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部下位はナデ。	㋐　橙褐色 ㋒暗橙褐色	残　30% 焼　良 Fe・片・石・ 砂粒　㋐ 角　㋑
27	坏	ko (16.4) h (5.0)	口端部は外側に肥厚する。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部下位は木口状工具によるナデのちナデ。	㋐㋒橙褐色	残　30% 焼　普 片・石・Fe・ 砂粒　㋐ 角　㋑
28	坏	ko (13.6) h (3.9)	口端部は丸い。 口辺部は直線的に外反する。 口辺部外面には4本の凹線を巡らし稜をつくりだしている。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部上位は木口状工具によるヨコナデ、口辺部下位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部下位はナデ。	㋐㋒ 淡橙褐色	残　20% 焼　普 片・石・砂粒 ㋑
29	坏	ko (12.7) h (4.4)	口端部はやや尖る。 口辺部は大きく外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部下位はナデ。	㋐㋒橙褐色	残　30% 焼　普 砂粒・Fe　㋑
30	坏	ko 14.7 h 5.2	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部は内傾しながら立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部上位はヨコナデ、体部中位から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部中位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、	㋐暗橙褐色 ㋒　橙褐色	残　50% 焼　良 片・石・Fe㋐ 角　㋑

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				底部はナデ。		
31	坏	ko (14.2) h (5.1)	口辺部は内傾して立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部下位はナデ。	㋑暗橙褐色 ㋺　橙褐色	残　20% 焼　良 片・石・砂粒 ㋭
32	坏	ko (13.7) h (5.1)	口端部は内側に面をもち直立気味に尖る。 口縁部は内傾しながら立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部上端はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部中位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部下位から底部はナデ。	㋑㋺橙褐色	残　60% 焼　良 片・石・チャ・Fe　㋭ 角・雲　㋩
33	坏	ko 13.7 h 4.5	口端部は内傾した面をもつ。 口縁部は内傾し、口唇部はやや外反気味に開く。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口縁部から体部中位まではヨコナデ、底部はナデ。	㋑㋺暗褐色	残　70% 焼　良 片・石・Fe 角　㋩
34	坏	ko 11.8 h 4.1	口辺部はやや内湾し、口縁部内面に段差あり。	外側は口辺部は木口状工具によるナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部から底部はナデ。	㋑㋺ 暗赤褐色	残　80% 焼　普 雲・白粒・片 ㋭ Fe・チャ　㋩
35	台付鉢	ko —— t 9.1 h 〈15.0〉	胴部中位やや下に最大径をもつ。 台裾部は大きく開き、下端部は丸い。	外側は頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び台部はヘラケズリ、台裾部はヨコナデ。 内側は頸部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ、台部はナデ。	㋑淡橙褐色 ㋺　暗褐色	残　40% 焼　良 砂粒・Fe　㋭
36	壺	ko 12.4 t 8.0 h 8.8	口縁部は肩部より内湾気味に立ち上がり、口唇部で外反する。 器形の歪みが大きい。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、肩部はヨコナデ、体部上位から中位はヘラケズリのちナデ、体部下位及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部上位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部中位から底部はナデ。	㋑㋺ 淡橙褐色	残　60% 焼　普 片　㋭ 石・チャ・角　㋮ Fe　㋩
37	壺	ko (13.3) t 2.7 h 6.0	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内湾する。 器形の歪みが大きい。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部及び体部中位はヨコナデ、底部下位はナデ。	㋑㋺橙褐色	残　60% 焼　普 Fe・砂粒　㋭ 片　㋮
38	壺	ko (11.2) t 7.2	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、体部上半はヘラケズリのちナデ、体部下位はナデ、	㋑　暗褐色 ㋺　淡褐色	残　40% 焼　普

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
		h　5.3	口縁部と体部の境目がやや張る。 底部に木葉痕あり。	底部外周部はヘラケズリ。 内側は口縁部は指頭によるヨコナデ、体部から底部はナデ。		片・石　㊉
39	埦	ko　11.4 t　5.0 h　5.4	口縁部はゆるやかに外反する。 器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、体部下位から底部はヘラケズリ。 内側は口端部から体部中位はヨコナデ、体部下位から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊍橙褐色 淡褐色 ㊊淡褐色	残　80% 焼　普 片・石・チャ㊉ Fe　㊈
40	須恵器 甕	ko　(10.3) t　—— h　〈2.6〉	口端部は内側に肥厚する。 口縁部と頸部の境目は段状を呈し、かつ鈍い稜と凹線が巡る。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部中位はヨコナデのち櫛描波状文施文、口縁部下位は工具をあて、凹線を巡らす。頸部上位はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口唇部上位は工具をあて、凹線を巡らす。口縁部中位から頸部上位はヨコナデ。	㊍暗灰褐色 ㊊灰褐色	残　10% 焼　良 石・白粒　㊎

表－9　第9号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	残存率	特　徴
41	石製紡垂車	大径　〈3.9〉 厚　0.9 孔　0.7	50%	滑石製。濃緑色を呈するが一部明茶褐色の部位あり。大円端部、小円端部ともに研磨により滑らかな面を形成。側面は刃物状工具による加工痕が明瞭に観察出来る。側面端部は研磨により仕上げられている。

表－10　第11号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	台付甕	ko　14.4 t　—— h　〈11.6〉	口端部は尖り気味である。 口唇部内側はわずかに窪む。 屈曲部はやや丸味をもち稜は明瞭ではない。 肩部がやや張る。 器外面の剥落顕著。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はナナメハケ。 内側は口端部内側は工具ヨコナデによる凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭によるヨコナデ、胴部はナデ。	㊍㊍ 淡橙褐色	残　40% 焼　普 片・石・チャ・ 砂粒　㊉ 角　㊎
2	坩	ko　—— t　—— h　〈9.9〉	口縁部はゆるやかに内湾する。 胴部やや下位に最大径をもつ。	外側は口縁部上半はヨコナデ、口縁部下位から頸部はヘラケズリのちヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ、胴部中位から下位はナデ。	㊍㊍橙褐色	残　40% 焼　良 片・石・Fe㊈
3	坩	ko　(8.8) t　2.0	口唇部はわずかに内湾する。 口縁部は直線的に外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部はタテハケ、胴部上	㊍㊍橙褐色	残　60% 焼　良

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
		h　7.3	底部は凹底を呈する。	半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、頸部はヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ、胴部下半から底部は指頭によるナデ。		片・石・チャ㊦ Fe・角　㊧
4	高　坏	ko (14.3) t　—— h 〈 7.2〉	口端部は尖る。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口縁部はヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。	㊨㊨ 淡橙褐色	残　50% 焼　普 Fe・片　㊦ 砂粒　㊦
5	ミニチュア 台付甕	ko t 〈 6.8) h 〈10.7〉	胴部上位が張る。 台脚部はゆるやかに開く。	外側は胴部はハケナデのちナデ、台部はナデ。 内側は胴部はナデ、台部はハケナデ。	㊨㊨橙褐色	残　40% 焼　普 片・石・砂粒 ㊦

表－11　第13号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko (21.0) t 〈 7.8) h　25.5	口端部は尖り気味である。 口縁部は直線的に開く。 胴部中位やや上に最大径をもつ。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部中位から底部はナデ。	㊨㊨暗褐色 淡褐色	残　50% 焼　悪 片・石・チャ・ 砂粒　㊦
2	甕	ko　17.1 t　—— h 〈23.9〉	口端部は外側に面をもちやや直立気味に立つ。 また口端部外面及び口唇部内面には凹線が巡る。 胴部は中位に最大径をもち偏平気味である。 胴部上位の器内面に残る木口状工具痕の角度から分割成形の可能性あり。	外側は口端部はヨコナデのち外面部は凹線を巡らす。口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口唇部は凹線を巡らす。口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上端は指頭による押捺ナデ、胴部上位は木口状工具によるナナメナデ、胴部中位から下位は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㊨㊨ 淡橙褐色 暗橙褐色	残　60% 焼　普 片・石・チャ㊦ 砂粒・雲　㊧
3	鉢	ko　21.6 t　1.6 h　10.2	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口縁部はヨコナデ、体部及び底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部及び底部はナデ。	㊨㊨橙褐色 淡褐色	残　30% 焼　良 Fe　・砂粒㊦
4	鉢	ko　13.4 t　4.2 h　7.6	口端部はやや尖り気味。 口唇部はわずかに内湾する。	外側は口唇部はヨコナデ、体部上半はヘラケズリのちナデ、体部下半はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、体部から底部はナデ。	㊨　橙褐色 ㊨暗橙褐色	残　60% 焼　良 Fe・片・石㊦ 角　㊧

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
5	鉢	ko (13.2) h 5.2	口唇部はやや内湾する。 体部中位に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ。	㊎㊐橙褐色	残　50% 焼　普 片・Fe・白粒・角 ㊅ 雲 ㊇
6	鉢	ko 10.7 t 3.2 h 5.4	口唇部は内側にわずかに内湾する。 全体的に歪みが著しい。 体部両側面に黒斑あり。	外側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部上位はヘラケズリのちナデ、体部下位及び底部はヘラケズリ。 内側は口辺部及び体部上位は木口状工具によるヨコナデ、体部下位はナデ。	㊎㊐淡褐色	残　80% 焼　普 Fe・片 ㊅ 角・雲 ㊇
7	鉢	ko 12.0 t 5.8 h 7.3	口縁部は大きく外反する。 体部中位やや下に最大径をもつ。	外側は口縁部はヨコナデ、頸部から体部上端は木口状工具によるヨコナデ、体部上半はヘラケズリのちナデ、体部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㊎淡橙褐色 ㊐暗橙褐色	残　60% 焼　普 片・石・チャ ㊍
8	壺	ko 8.7 t 6.1 h 7.5	口縁部はやや外反気味に直立し、口唇部でわずかに内湾する。 胴部全体及び底部に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリのちナデ。	㊎暗赤褐色 ㊐　淡褐色	残　90% 焼　普 片・石 ㊍ Fe・角・白粒 ㊅
9	坏	ko 13.0 h 4.6	口縁部はやや直線的に開く。	外側は口縁部はヨコナデ、底部上半はヘラケズリのちナデ、下半はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのち放射状暗文を施す。	㊎㊐ 暗橙褐色	残　80% 焼　普 Fe ㊍ 片・石・角・砂粒 ㊅
10	坩	ko —— t 4.0 h 〈12.7〉	胴部下位に最大径をもち偏平である。	外側は胴部はヘラケズリのちナデ、胴部下位及び底部はヘラケズリ。 内側は胴部上位は指頭による押捺ナデ、胴部下位及び底部はナデ。	㊎㊐淡褐色	残　50% 焼　普 砂粒 ㊆ Fe・片 ㊅
11	高　坏	ko 15.7 t —— h 6.3	口端部は丸い。 口縁部は屈曲しつつ外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部上半はナデ、口縁部下位から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊎㊐橙褐色	残　50% 焼　良 Fe・砂粒 ㊍ 片・石・角 ㊅
12	高　坏	ko (14.0) h 〈 7.1〉	坏口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。 脚部以下欠損。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口縁部は工具によるヨコナデのち指頭によるナデ、底部から脚部はヘラケズリのちナデ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部から底部は工具によるナデのちナデ。	㊎㊐淡褐色	残　20% 焼　普 Fe・白粒 ㊅ 雲・角・石・片 ㊇

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
13	高　坏	ko ―― t ―― h 〈 8.3〉	坏口縁部と坏底部の境目は鈍い稜をなす。 脚部はやや張る。 脚部内面上位に絞り込み痕あり。	外側は坏底部はハケのち軽いナデ、脚部はハケのちナデ。 内側は坏底部はナデ、脚部下位はヘラケズリ。	⑭⑭橙褐色	残　30% 焼　普 砂粒・Fe ⑨

表－12　第13号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	残存率	特　徴
14	球状土製品	径 1.0~1.1	完	指腹で回転させながら球状に整えている。色調は暗褐色を呈する。焼成は良好で、非常に堅緻である。胎土中には白色粒子・砂粒・角閃石が微量含まれる。

表－13　第14号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko 19.3 t 5.2 h 34.7	口端部は外側に肥厚する。 口縁部は大きく外反する。 胴部下位に最大径をもつ。 凹底を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	⑭淡橙褐色 ⑭　淡褐色	残　80% 焼　普 片・石・チャ・Fe ⑩ 角　⑨
2	甕	ko (16.3) t ―― h 〈28.8〉	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部中位やや下に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	⑭⑭ 暗橙褐色	残　40% 焼　普 片・石・砂粒 ⑩ Fe・角　⑨
3	甕	ko 17.3 t 6.3 h 33.7	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部中位やや下に最大径をもつ。 被熱により器外面が荒れている。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	⑭⑭橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・Fe ⑩ 白粒　⑨
4	甕	ko 16.4 t 5.8 h 30.5	口端部は外側にわずかに面をなす。 口縁部は直線的に開く。 胴部下位に最大径をもつ。 底部中央がわずかに凹む。 横位の状態で2次焼成を受けたものと思われ、胴部に円形のススが付着しており、かつ全体に器表面の剥落も顕著で	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるナデのちナデ、胴部中位から底部は木口状工具によるナデのち丁寧なナデ。	⑭　橙褐色 淡褐色 暗褐色 ⑭　橙褐色 淡褐色	残　80% 焼　悪 片・石・砂粒 ⑩ Fe・角　⑨

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
			ある。			
5	鉢	ko (28.2) t 7.4 h (17.1)	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。 体部上半は直線的に開く。	外側は口縁部はヨコナデ、体部及び底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部上位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部下位から底部はナデ。	㋐㋑暗褐色	残　30% 焼　良 片・石・砂粒 ㋐ Fe・角 ㋑
6	鉢	ko 12.2 t 7.7 h 17.3	口端部はやや尖り直立する。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部中位やや上に最大径をもつ。 器外面は被熱による荒れが顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は縦位ヘラケズリのちナデ、胴部下半は斜位ヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上半は木口状工具による斜位ナデのちナデ、胴部下半から底部は木口状工具による放射状のナデのちナデ。	㋐淡暗褐色 ㋑ 暗褐色 淡橙褐色	残　80% 焼　普 片・Fe ㋐ 石・角・チャ ㋑
7	甕	ko (24.5) t (11.9) h 30.8	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ。	㋐ 暗褐色 橙褐色 ㋑暗橙褐色	残　30% 焼　普 Fe・砂粒 ㋐ 片・石・角 ㋑
8	台付甕	ko (13.7) t 11.3 h 20.7	口端部は丸い。 口縁部は直立気味に開く。 肩部はやや強く張る。 台部はゆるやかに開き下端部はわずかに内屈する。 器表面は荒れている。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部から台部上位はヘラケズリのちナデ、台部中位はナデ、台部下位はヨコナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部中位から底部はナデ、台部上位はナデ、台部中位から下位は木口状工具によるヨコナデ、台部下端はヨコナデ。	㋐ 淡褐色 淡橙褐色 ㋑淡暗褐色	残　40% 焼　普 片・石・砂粒 ㋐ Fe・角 ㋑
9	甕	ko 14.9 t 6.0 h 13.7	口唇部は大きく外反する。 胴部最大径をやや下位にもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はヘラケズリのちナデ、胴部中位はヘラケズリ、胴部下位はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㋐ 橙褐色 淡褐色 ㋑暗橙褐色	残　完 焼　良 片・石・チャ ㋐ Fe・角 ㋑
10	甕	ko 13.2 t (6.3) h 12.1	器形の歪みが大きい。 口端部は外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	㋐ 淡褐色 暗褐色 ㋑ 暗褐色	残　50% 焼　普 片・石 ㋐ 砂粒 ㋑

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
11	甕	ko 13.1 t 8.1 h 10.2	器形の歪みが著しい。 肩部が強く張る。 底部は内側からの打撃による穿孔の可能性あり。	外側は口辺部はヨコナデ、胴部・底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㋑ 橙褐色 ㋺ 黒褐色	残　80% 焼　普 片・石 ㋑ 角・チャ ㋺
12	坏	ko 12.0 h 4.7	口端部はわずかに外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㋑㋺橙褐色	残　70% 焼　悪 砂粒・片 ㋑
13	坏	ko 12.5 h 4.3	稜の一部にヘラケズリの痕跡あり。 底部に黒斑あり。	外側は口縁部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ。	㋑㋺橙褐色	残　70% 焼　普 雲・角・片㋑ Fe・チャ ㋥
14	坏	ko 13.0 h 4.4	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口縁部から体部はヨコナデ、底部はナデ。	㋑ 橙褐色 ㋺ 暗褐色	残　60% 焼　普 片・石 ㋑ Fe・角 ㋥
15	坏	ko 14.6 h 5.1	口唇部内側は面をなす。 底部中央のみヘラケズリ。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部上半はナデ、底部下半はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部下位はナデ。	㋑㋺暗褐色	残　90% 焼　普 片・石・Fe㋑ 角・雲 ㋥
16	坏	ko 11.2 h 4.8	口端部は内側に面をもちやや尖る。 口辺部はゆるやかに外反する。 口辺部の一部に黒斑あり。	外側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部から底部はナデ。	㋑㋺橙褐色	残　80% 焼　普 片・Fe ㋑ 雲・角 ㋥
17	坏	ko 13.8 h 4.0	口端部は内傾する面をもつ。 口縁部は内傾気味に立ち上がる。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口縁部から体部中位まではヨコナデ、底部はナデ。	㋑淡橙褐色 ㋺ 橙褐色	残　60% 焼　良 片・石 ㋑ Fe ㋺
18	坏	ko 13.2 h 4.1	口端部は内傾する面をもつ。 口縁部は内傾するが口唇部はわずかに外反する。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口縁部から体部中位まではヨコナデ、底部はナデ。	㋑㋺暗褐色	残　80% 焼　良 片・石・Fe㋑
19	高　坏	ko 13.8 t —— h 〈 5.8〉	口端部は外側に肥厚する。 口辺部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部上端はヨコナデ、体部はヘラケズリ、脚部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から体部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㋑㋺ 淡橙褐色	残　70% 焼　普 片・石・チャ・ Fe ㋑

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
20	土製支脚	t　6.6 h　〈7.4〉	脚体部は直線的。 下端部はやや開く。 中実。 被熱による外面の剥落顕著。	脚体部はヘラケズリのちナデ、下端部はナデ。	㊎ 橙褐色	残　40% 焼　良 片・雲・白粒 ㊦ Fe ㊎

表－14　第14号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	残存率	特　徴
21	鉄製鎌	長　5.6 幅　3.0 厚　0.3	30%	着柄部は大きく折り返されている。着柄角度は直角に近い。全体に錆化が進み遺存状態は悪い。

表－15　第15号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	高　坏	ko　17.5 t　—— h　〈6.2〉	口唇部はわずかに内湾する。 坏口縁部と坏底部の境目は鈍い稜をなす。	外側は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。	㊎橙褐色 ㊍暗褐色	残　20% 焼　悪 砂粒・白粒・ 石 ㊥ 片 ㊦ Fe ㊎

表－16　第16号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	坩	ko　(10.6) t　3.1 h　8.0	口辺部は中位にやや張りをもち、外反気味に開く。 胴部は偏平気味である。 凹底を呈する。	外側は口端部から口縁部中位は指腹によるヨコナデ、口縁部中位から肩部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、肩部から胴部中位はナデ、胴部中位から胴部下位はヘラケズリのちナデ、胴部下位から底部はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部は指頭によるナデ。	㊎㊍ 淡橙褐色	残　70% 焼　普 片・石・Fe・ 白粒 ㊥
2	坩	ko　9.2 t　—— h　6.9	口縁部はわずかに内屈しながら外反する。 丸底を呈する。 外面胴部下位の一部に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部から口縁部中位はヨコナデ、口縁部下半は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部は指頭によるナデ。	㊎㊍橙褐色	残　完 焼　普 片・石 ㊦ 角・Fe ㊎

表－17　第17号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko 13.4 t —— h 〈16.1〉	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部は直線的に外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部中位は木口状工具によるヨコナデ、口縁部下位はヘラケズリのち木口状工具によるヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下位はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は指頭によるナデツケのちナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊎㊎橙褐色	残　70% 焼　良 片・石　㊍ Fe・角　㊍
2	甕	ko 18.6 t —— h 〈 7.0〉	口端部は外側に肥厚する。 口縁部は直線的に開く。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ。	㊎㊎橙褐色 暗褐色	残　10% 焼　悪 片・石・砂粒 ㊍
3	甕	ko 21.1 t 6.1 h 21.2	口唇部は複合状をなして立ちあがる。 器内面に輪積痕顕著。	外側は口縁部から胴部上位はヨコナデ、胴部はヘラケズリ、胴部下位はヘラケズリのちナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上半は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部下半は木口状工具によるナナメナデのちナデ、下端部はヘラケズリによる面トリ。	㊎㊎ 淡橙褐色	残　60% 焼　普 Fe・片・石㊍
4	壺	ko 10.7 t 3.7 h 13.8	口端部は丸い。 口縁部はわずかに内湾しながら開く。 胴部中位に最大径をもつ。 凹底状を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデのち軽いタテミガキ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位は指頭によるナデ、胴部から底部はナデ。	㊎㊎橙褐色	残　完 焼　普 砂粒　㊍ Fe・片・石・角　㊍
5	壺	ko 〈 8.5〉 t —— h 〈 7.2〉	口端部は丸い。 口縁部は直線的に開く。 肩部がやや張る。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は指頭による押捺ナデ。	㊎㊎橙褐色	残　10% 焼　普 砂粒・Fe　㊍ 片　㊍ 「貯蔵穴内出土」
6	壺	ko 12.1 t 5.1 h 7.1	口縁部はゆるやかに内湾する。 肩部がやや張る。 凹底を呈する。	外側は口辺部は指頭によるヨコナデ、体部上半はヘラケズリのちナデ、体部下半はヘラケズリ。 内側は口縁部は指頭によるヨコナデ、体部上半はヨコナデ、体部下半から底部はナデ。	㊎㊎橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・雲　㊍
7	壺	ko 10.6	口縁部はゆるやかに内湾する。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、体部は	㊎㊎橙褐色	残　80%

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
		h 6.4	器形の歪みが著しい。 体部下半から底部の一部に黒斑あり。	ヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、体部上位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部下位から底部はナデ。		焼 普 雲・角・Fe ㊥ 片 ㊞
8	埦	ko 12.5 t 7.2 h 5.2	器形の歪みが著しい。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊥淡橙褐色 ㊥ 橙褐色	残 70% 焼 良 片・石 ㊥ Fe・角 ㊥
9	鉢	ko 9.1 t 4.2 h 4.3	口縁部・体部ともに直線的に立ち上がる。 外側に一部黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、体部上位から中位はヘラケズリのちナデ、下位はヘラケズリ。 内側は口縁部から体部はヨコナデ、底部はナデ。	㊥ 赤褐色 ㊥ 赤褐色 暗褐色	残 95% 焼 良 石・Fe・白粒 ㊥ 角・Mn ㊥ 片 ㊞ 「貯蔵穴内出土」
10	高坏	ko —— t 11.6 h 〈6.9〉	脚裾部は大きく開く。	外側は坏底部はナデ、脚部はヘラナデのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は坏底部はナデ、脚部はヘラケズリのちナデ、脚裾部はヨコナデ。	㊥㊥橙褐色	残 40% 焼 悪 片・砂粒 ㊥
11	高坏	ko —— t 10.9 h 6.4	脚部はわずかに張る。 裾端部は緩やかに反り上がる。 脚部内面をヘラケズリで整えた後に裾部を貼り付けている。	外側は脚部はヘラケズリのちナデ、裾部はヨコナデ。 内側は脚部はヘラケズリ、裾部はヨコナデ。	㊥㊥ 淡橙褐色	残 60% 焼 悪 砂粒・片 ㊥

表－18　第18ａ号住居址出土遺物観察表

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
1	甕	ko (16.7) t 5.4 h 27.7	口端部は面を成す。 口唇部はわずかに内湾する。 胴部中位に最大径をもつ。 底部はやや上げ底状である。 器外面胴部から胴部下位に黒斑あり。 器内面胴部下位から底部にかけては器表面の剥落顕著。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上半は木口状工具によるヨコナデ、胴部下半は木口状工具によるタテナデのちナデ。	㊥ 橙褐色 淡橙褐色 ㊥ 橙褐色	残 70% 焼 良 片・石・チャ・Fe ㊥ 角 ㊥ 「カマド内出土」
2	甕	ko 17.1 t 6.0 h 26.9	口端部は外側にわずかに肥厚する。 口縁部は直線的に外反する。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工	㊥ 橙褐色 ㊥ 淡褐色	残 95% 焼 普 Fe・片・石・チャ ㊥

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
			凹底状を呈する。 器内面胴部下位の接合部に指頭圧痕顕著。 器外面の一部に黒斑あり。	具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上半は木口状工具によるタテナデのちナデ、胴部下半から底部はナデ。		角　㉙ 「カマド内出土」
3	甕	ko　13.4 t　5.6 h　16.5	口縁部は大きく外反する。 口縁部から胴部下半にかけて一部黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのち比較的丁寧なナデ、胴部下半はヘラケズリ、胴部最下位はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	⑯淡橙褐色 ⑰　橙褐色	残　90% 焼　普 片・石　⑭ Fe・角・雲㉙ 「カマド内出土」
4	甕	ko　17.6 t　6.3 h　12.0	口端部は面をなすが、これは製作途中に逆位に置いたためと思われる。 単孔。 胴部下半から底部にかけて黒斑あり。	外側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は縦位ヘラケズリ、胴部下半は縦位及び横位ヘラケズリ、穿孔部はヘラケズリによる面トリ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ。	⑯　淡褐色 ⑰　橙褐色	残　完 焼　良 Fe・片・石⑭ チャ・角・Mn ㉙ 「カマド内出土」
5	甕	ko　13.2 t　(6.7) h　12.9	器形の歪みが大きい。 口縁部は直線状に外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	⑯⑰ 暗橙褐色	残　60% 焼　悪 片・石　㉙ 「カマド内出土」
6	甕	ko　12.6 t　(6.6) h　11.8	口端部はわずかに外側に肥厚する。 肩部はやや張る。 器表面の荒れ顕著。	外側は口縁部から頸部はヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部から肩部はヨコナデ、胴部から胴部下位は木口状工具によるナデのちナデ、底部はナデ。	⑯　暗褐色 淡褐色 ⑰　暗褐色 淡橙褐色	残　60% 焼　良 片・石・Fe㉙ 「カマド内出土」
7	鉢	ko　12.9 t　—— h　6.3	口縁部はゆるやかに外反する。 丸底を呈する。 体部外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部は木口状工具による不規則なナデのちナデ。	⑯⑰ 淡橙褐色	残　完 焼　普 片・石・チャ⑭ Fe　㉙ 「カマド内出土」
8	坏	ko　13.0 h　5.4	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内湾する。 口辺部は直線的に開く。 器内面赤彩。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	⑯⑰橙褐色	残　90% 焼　普 砂粒　㉙ Fe・角　⑱ 「カマド内出土」

表－19　第18ａ・ｂ号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　20.7 t　8.6 h　23.7	口端部は凹線を巡らしている。 口縁部はやや直線的に開く。	外側は口端部は凹線を巡らしたのちにヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はヘラケズリのちナデ、胴部中位から下位はヘラケズリ。 内側は口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、下端部はヘラケズリによる面トリ。	㋑㋒暗褐色	残　80% 焼　良 片・石・チャ・Fe　㋐

表－20　第19号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　11.0 t　5.1 h　12.2	器形の歪みが大きい。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はヘラケズリのちナデ、中位はヘラケズリ、下端部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㋑㋒橙褐色	残　完 焼　普 片・石・チャ・Fe　㋐ 角　㋒
2	甕	ko　10.9 t　6.0 h　10.9	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部は直線的に外反する。 胴部中位やや上に最大径をもつ。 被熱による器表面の荒れが著しい。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部及び底部はナデ。	㋑淡橙褐色 ㋒　暗褐色 橙褐色	残　90% 焼　普 片・石・Fe　㋐ 「カマド内出土」
3	台坏鉢	ko　11.7 t　7.0 h　10.2	口縁部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部はやや内傾する。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ、台部上位はナデ、台裾部はヨコナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ、台部はヨコナデ。	㋑㋒橙褐色	残　60% 焼　良 片・Fe・砂粒　㋐ 角　㋒
4	高　坏	ko　13.1 t　8.8 h　9.0	被熱による器表面の剥落が著しい。 口端部は内側に肥厚する。 脚裾部は大きく開く。 カマド支脚に転用。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ、脚部はナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ、脚部はヨコナデ。	㋑㋒橙褐色	残　90% 焼　普 Fe　㋐ 砂粒　㋒ 「カマド内出土」
5	坏	ko　12.2 h　5.0	口縁部及び体部ともに直線的に立ち上がり、底部はゆるやかに内湾しながら立ち上がる。	外側は口縁部及び体部はヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部及び体部はヨコナデ、底部はナデ。	㋑　橙褐色 黒褐色 ㋒　橙褐色	残　50% 焼　良 Fe　㋐ 片・白粒　㋒ 雲・石・角　㋓

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
6	鉢	ko 9.6 t 3.5 h 4.4	口辺部はゆるやかに内湾する。	外側は口唇部はヨコナデ、体部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、体部及び底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊃㊃橙褐色	残　60% 焼　良 Fe・砂粒 ㊀ 片 ㊁ 「貯蔵穴内出土」
7	手　捏	ko 6.9 t 5.3 h 3.0	口縁部はゆるく外反する。	外・内手捏ね成形。	㊃㊃淡褐色 橙褐色	残　完 焼　普 砂粒 ㊀ 片 ㊁
8	ミニチュア鉢	ko 4.1 t 1.6 h 2.1	全体に粗雑な作り。 体部中位で屈曲し大きく開く。	外・内手捏ね成形。	㊃淡橙褐色 ㊃暗橙褐色	残　30% 焼　普 片・砂粒 ㊁

表－21　第20号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko 19.2 t (6.0) h 〈32.5〉	口端部は外側に面をもち、かつ肥厚する。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部下位から底部はナデ。	㊃㊃ 暗橙褐色	残　70% 焼　普 Fe ㊀ 片・石・砂粒 ㊁
2	甕	ko 15.1 t —— h 〈11.2〉	口端部は外側に肥厚する。 口縁部は直線的に外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㊃㊃橙褐色	残　30% 焼　普 片・石・チャ・ Fe ㊀
3	甕	ko 14.0 h 〈15.4〉	口縁部はゆるやかに外反し、口端部はわずかに肥厚する。 体部内側における調整の傾向から、分割成形の可能性あり。 胴部上半に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部はヨコナデのちナデ、胴部は木口状工具によるナデ。	㊃ 淡褐色 ㊃ 暗褐色	残　40% 焼　普 雲・Fe・白粒 ㊀ 角・片 ㊂
4	甕	ko (15.8) t (6.2) h 13.2	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 肩部の張りは弱く、胴部中位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、肩部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヨコナデ、底部はナデ。	㊃ 淡褐色 ㊃ 暗褐色 橙褐色	残　60% 焼　普 片・石・チャ㊀ Fe・角 ㊂
5	甕	ko 13.2	口縁部は直線的に外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工	㊃㊃橙褐色	残　90%

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
		t　5.7 h　12.2	最大径を胴部中位やや上にもつ。 わずかに凹底を呈する。	具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部及び胴部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部中位は木口状工具による斜位のナデのちヨコナデ、胴部下位から底部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。		焼　普 片・石・チャ・Fe　㊙
6	鉢	ko　15.4 h　7.7	口唇部はわずかに外反する。	外側は口辺部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部上位は木口状工具によるヨコナデ、体部下位から底部はナデ。	㊍暗橙褐色 ㊎　橙褐色	残　完 焼　良 片・石・チャ・Fe　㊐ 角　㊑
7	鉢	ko　14.7 h　7.2	口縁部は内湾しながら立ち上がり、器内面では受口状を呈する。 底部器外面に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、頸部は工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部は木口状工具によるタテナデのちナデ。	㊍㊎橙褐色	残　90% 焼　普 片・石・Fe　㊑
8	鉢	ko　10.0 t　6.0 h　5.2	口縁部は内向しつつ口唇部で直立気味に開く。 底部に黒斑あり。	外側は口辺部はヨコナデ、胴部上半はナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部はヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ。	㊍　淡褐色 ㊎　橙褐色	残　90% 焼　普 片　㊐ 石　㊑ 角・Fe　㊓ 「カマド内出土」
9	坏	ko　12.8 h　4.6	口端部はやや尖る。 口唇部は大きく外反する。	外側は口辺部はヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部はヨコナデ、底部はナデ。	㊍㊎淡褐色	残　60% 焼　悪 砂粒　㊑
10	坏	ko　12.1 h　5.1	口唇部はゆるやかに外反する。 胎土は比較的やわらかい。	外側は口縁部はヨコナデ、口辺部はナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口辺部はヨコナデ、底部はナデ。	㊍㊎橙褐色	残　95% 焼　普 Fe　㊓ 片　㊒ 雲　㊓
11	鉢	ko　10.3 t　5.6 h　6.4	器形の歪みが著しい。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ、体部下位はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部から体部上位は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具によるナデ、底部はナデ。	㊍暗橙褐色 黒褐色 ㊎暗橙褐色	残　完 焼　普 Fe・片　㊒ 石・Mn・角　㊑
12	高　坏	ko　12.0 t　(8.3) h　7.9	口端部は外側に肥厚する。 口辺部はゆるやかに外反する。 脚裾部は大きく開く。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ、脚体部はナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上	㊍㊎橙褐色	残　90% 焼　悪 Fe　㊑ 砂粒　㊓

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部はナデ、脚裾部はヨコナデ。		
13	土製支脚	t　7.0 h　9.6	上・下端部が張り、鼓状を呈する。 下半部に黒斑あり。	胴部はヘラケズリのちナデ。	㊍ 赤褐色	残　完 焼　普 片・雲・石㊍ チャ・角 ㊎ 「カマド内出土」

表－22　第21号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　—— t　8.0 h　(24.7)	胴部中位に最大径をもつ。 底部は凸底気味である。	外側は頸部はヨコナデ、胴部及び底部はヘラケズリ。 内側は胴部上位は木口状工具によるナナメナデのちナデ、胴部中位は丁寧なナデ、胴部下位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部は丁寧なナデ。	㊍ 淡褐色 暗褐色 ㊌ 淡褐色	残　40% 焼　普 砂粒　㊍ 片・石・角 ㊎
2	鉢	ko　27.6 t　7.8 h　14.6	口端部は外側に肥厚する。 口縁部は大きく外反する。 体部上位がやや強く張る。 器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部及び底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㊍㊌橙褐色	残　60% 焼　普 片・石・Fe㊍ 角・雲　㊎
3	埦	ko　(15.2) h　(7.6)	器形の歪みが著しい。 口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反し、頸部内面に鈍い稜をもつ。	外側は口辺部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部はヨコナデ、体部はナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊍㊌ 暗橙褐色	残　40% 焼　普 片・砂粒 ㊍ Fe・角　㊎

表－23　第22号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	壺	ko　(12.4) t　5.6 h　18.6	口端部は尖る。 口縁部は中位の鈍い稜を介し屈曲しながら開く。 胴部は中位に最大径をもつ。 凹底を呈する。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上半は指頭による押捺ナデ、胴部下半から底部はナデ。	㊍淡橙褐色 淡褐色 ㊌ 淡褐色	残　80% 焼　普 片・石・砂粒 ㊍ 角　㊎
2	壺	ko　(10.0) t　4.3 h　15.8	口端部はやや尖り気味である。 口唇部は内湾する。 胴部は中位に最大径をもち偏平である。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上半は指頭に	㊍暗橙褐色 橙褐色 ㊌ 淡褐色	残　60% 焼　普 砂粒　㊎

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
			底部は凹底を呈する。	よる押捺ナデ、胴部下半から底部はナデ。		
3	壺	ko ―― t ―― h 〈11.1〉	胴部中位に最大径をもち偏平である。 頸部内面に絞り込み痕あり。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上半は指頭による押捺ナデ、胴部下半はナデ。	㋑㋒ 淡暗褐色	残　30% 焼　普 砂粒　㋐
4	甕	ko 14.2 t (5.7) h 18.2	口縁部はゆるやかに外反する。 最大径を胴部中位にもつ。 胴部器外面の一部に黒斑あり。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部は工具によるナデのちナデ。	㋑㋒ 暗橙褐色	残　50% 焼　普 白粒　㋑ Fe・片　㋒ 角　㋐ 雲　㋓
5	甕	ko 18.4 t 6.4 h 26.6	口唇部はわずかに立ち上がる。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部最大径を中位にもつ。 底部は凹底を呈する。 器外面にススの付着顕著。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ、胴部下位はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㋑　暗褐色 淡橙褐色 ㋒　淡褐色	残　80% 焼　普 片・Fe・砂粒 ㋐
6	甕	ko 33.6 t 8.0 h 30.7	口端部は丸い。 口縁部はわずかに内湾しながら開く。 肩部がやや強く張る。 胴部中位からやや下にかけてスス付着。 底部中央がわずかに窪む。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部中位から下位はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は木口状工具によるナナメナデ、胴部下半から底部は丁寧なナデ。	㋑淡橙褐色 淡褐色 暗橙褐色 ㋒　橙褐色 暗橙褐色	残　80% 焼　普 砂粒　㋐ Fe・片・角㋑
7	甕	ko 23.8 t 11.5 h 27.2	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部はやや直線的に大きく外反する。 胴部中位に最大径をもつ。 器外面は被熱により荒れている。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上半は木口状工具による強いヨコナデのちナデ、胴部下半は木口状工具による強いタテナデのちナデ、下端部はヘラケズリ。	㋑　橙褐色 ㋒暗橙褐色	残　70% 焼　普 砂粒　㋐ 片・石・Fe㋑
8	甕	ko 18.0 t 4.6 h 11.3	口唇部はやや外反する。 胴部下半の器厚はやや薄い。 単孔。 胴部外面に黒斑あり。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、胴部上半はカキトリに近いヘラケズリ、胴部下半から底部はヘラケズリ、穿孔部はヘラケズリによる面トリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㋑㋒ 明橙褐色	残　95% 焼　良 片・石・Fe㋐ 角・Mn　㋑

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
9	壺	ko (15.2) t 4.7 h 5.3	口唇部は内側に内湾する。 口辺部は直線的に開く。 体部はゆるやかな弧を描きながら立ち上がる。	外側は口辺部はヨコナデ、体部及び底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部から体部はヨコナデ、底部はナデ。	㊉㊉暗褐色 暗橙褐色	残　30% 焼　悪 砂粒　㊍
10	壺	ko 14.4 t 6.9 h 5.4	口端部は尖り気味である。 口辺部は内湾しながら開く。 体部はゆるやかな弧を描きながら立ち上がる。	外側は口辺部は指頭によるヨコナデ、体部及び底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部及び体部はヨコナデ、底部はナデ。	㊉㊉橙褐色 暗橙褐色	残　70% 焼　悪 砂粒　㊍
11	坏	ko 13.5 t 3.9 h 5.0	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部はやや直線的に外反する。 底部は凹底状を呈する。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はナデ。 内側は口縁部から体部中位はヨコナデ、体部下位から底部はナデ。	㊉淡橙褐色 ㊉暗橙褐色	残　70% 焼　普 白粒・石　㊉ Fe　㊍
12	鉢	ko 8.9 t 3.2 h 3.9	口端部はやや内湾し、体部は直線的に立ち上がる。	外側は口縁部はヨコナデ、体部及び底部はヘラケズリ。 内側は口縁部及び体部はヨコナデ、底部はナデ。	㊉暗橙褐色 ㊉　淡褐色 橙褐色	残　50% 焼　悪 片・Fe　㊉ 白粒　㊍ 石・雲　㊎
13	高　坏	ko 19.7 t 17.5 h 16.9	口端部は直立気味にやや尖る。 口縁部は大きく外反する。 口縁部と底部の境目は稜状をなす。 脚体部は直線的に開く。 裾部中位は凸帯状に突出し段をなす。 裾端部は内屈する。	外側は口端部は工具によるヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、口縁部と底部の境目は工具横アテによるヨコナデ、底部上位はヨコナデ、底部中位から脚体部との接合部付近まではヘラケズリのちナデ、脚体部はナデ、裾部凸帯はツマミながらヨコナデ、裾部下位はヨコナデ、裾端部は工具によるヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口唇部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、口縁部から底部上位はヨコナデ、底部はナデ、脚体部はヘラケズリ、裾部上位は木口状工具によるヨコナデ、裾部中位から下位はヨコナデ、裾端部は木口状工具によるヨコナデ。	㊉㊉橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・Fe㊉ 角・Mn　㊍
14	高　坏	ko 20.6 t —— h (11.9)	口端部は外側に面をなす。 口縁部はゆるやかに外反する。 口縁部と底部の境目は明瞭な稜をもつ。 脚体部はわずかに張る。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、口縁部と底部の境目はツマミながらのヨコナデ、底部はナデ、脚体部はヘラナデのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口縁部は指頭によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	㊉㊉橙褐色	残　60% 焼　悪 砂粒　㊍ Fe　㊎
15	高　坏	ko (18.0) t 12.9 h 13.7	口端部は丸い。 口縁部はわずかに内湾しながら立ち上がる。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、口縁部下位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ、脚体部はヘ	㊉㊉ 暗橙褐色	残　50% 焼　普 砂粒　㊍

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
			脚体部は直線的に開く。 脚裾部は大きく開き、裾端部は反り上がる。	ラナデのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口縁部は指頭によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部上半はナデ、脚体部下半はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。		
16	高　坏	ko　17.4 t　13.0 h　15.1	器形の歪みが著しい。 口端部は丸い。 口唇部はわずかに内湾する。 口縁部はゆるやかに内湾する。 脚体部はやや張りをもつ。 脚裾部は大きく開き、下端部はわずかに反り上がる。	外側は坏口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、坏底部はヘラケズリのちナデ、脚体部はヘラナデのちナデ、脚裾部はヘラナデのちヨコナデ。 内側は坏口縁部から底部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、脚体部はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	㊎㊐橙褐色	残　80% 焼　良 片・Fe・砂粒 ㊦
17	高　坏	ko　15.8 t　(11.4) h　12.0	口端部は尖り気味である。 口唇部は内傾する。 口縁部はわずかに内湾しながら立ち上がる。 脚体部はやや張りをもつ。 脚裾部は大きく開き、下端部はわずかに反り上がる。 脚体部上位器内面に絞り込み痕あり。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ、脚体部はヘラナデのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部下位はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	㊎㊐橙褐色	残　70% 焼　悪 Fe・砂粒 ㊦
18	高　坏	ko　19.6 t　—— h　14.8	口唇部の外側は内傾する面をもち、口端部は内側に肥厚する。 口縁部は直線的に開く。 坏口縁部と坏底部の境目は稜状をなす。 脚体部は直線的にやや開く。 脚体部内面に絞り込み痕あり。	外側は口唇部は工具によるヨコナデ、坏口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、坏口縁部と坏底部の境目は指頭によるヨコナデ、坏底部はハケ状工具によるタテナデのち一部ナデ、脚体部はヘラナデのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、坏口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、坏底部はナデ、脚体部下半はナデ。	㊎㊐橙褐色	残　60% 焼　普 片・石・Fe ㊦ 雲・角　㊧
19	高　坏	ko　(16.7) t　12.6 h　13.0	口端部はわずかに外側に面をもち尖り気味である。 口縁部はゆるやかに内湾しながら立ち上がる。 脚体部はわずかに張りをもつ。 脚裾部は大きく開き、裾端部はわずかに内屈する。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、底部はヘラケズリ、脚体部はヘラナデのちナデ、脚裾部上位はヘラナデのちヨコナデ、脚裾部下位はヨコナデ。 内側は口縁部は指頭によるヨコナデ、底部はナデ、脚体部上位はナデ、脚体部中位から下位はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	㊎㊐橙褐色	残　70% 焼　悪 Fe・砂粒 ㊦
20	高　坏	ko　16.6 t　13.2 h　13.4	口端部はわずかに内湾する。 口縁部は内湾気味に立ち上がる。 脚体部はゆるやかに張る。 脚裾部下端は反り上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ、脚体部はヘラケズリのちナデ、脚裾部上位はヨコナデ、下位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、下端部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ、	㊎㊐ 暗橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・Fe ㊦ 角　㊧

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				脚体部上位は指頭によるナデ、脚体部中位から下位はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。		
21	台付鉢	ko　16.4 t　11.4 h　14.3	口端部は外側に面をなす。 口縁部はゆるやかに外反する。 台部下位は大きく開く。	外側は口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、体部と台部の接合部はナデ、台部はヘラナデのちナデ、台部下位はヨコナデ。 内側は口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部上位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部中位から底部はナデ、台部上半は指頭によるナデ、台部下位はヨコナデ。	㊎㊐淡褐色	残　60% 焼　良 Fe・砂粒 ㊥ 片・石 ㊦
22	須恵器 甕	ko　—— t　—— h　〈8.9〉	器形はやや不均整である。 頸部は大きく外反する。 肩部がやや張る。 外上方から内下方へ円孔を穿つ。 器外面に布目痕あり。	外側は頸部から胴部はロクロナデ、底部は回転ヘラ切りのちナデ。 内側は頸部はロクロナデ、頸基部は指頭によるナデツケ、胴部から底部はロクロナデ。	㊎㊎ 淡青灰色	残　60% 焼　良 石・白粒・Mn ㊦

表－24　第25号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	坏	ko　(13.2) t　3.0 h　(4.7)	口端部はやや尖る。 口辺部は内傾する。 底部は凹底を呈する。	外側は口辺部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部はヨコナデ、体部から底部はナデ。	㊎㊎ 淡橙褐色	残　40% 焼　普 片・石・Fe・砂粒 ㊦

表－25　第26号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　(23.7) t　(10.0) h　(26.4)	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部上位に最大径をもつ。 器表面の荒れが著しい。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、下端部はヘラケズリ。	㊎㊐橙褐色	残　40% 焼　普 砂粒 ㊥ Fe・片・白粒 ㊦ 「カマド内出土」
2	甕	ko　(20.0) t　7.6 h　23.2	口端部は直立気味に尖る。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部及び下端部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、下端部はヘラケズリ。	㊎ 橙褐色 ㊐暗橙褐色	残　60% 焼　普 Fe ㊥ 片・石 ㊦ 「カマド下土壙内出土」

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
3	甕	ko (15.2) t —— h 〈13.6〉	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊎㊐淡褐色	残　20% 焼　普 片・石 ㊍ Mn・白粒 ㊐ 「カマド内出土」
4	甕	ko 16.3 t —— h 〈 8.1〉	口端部は丸い。 口縁部は直線的に開く。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部はナデ。	㊎㊐淡褐色	残　20% 焼　普 砂粒 ㊍ 片・石・Fe ㊐ 「カマド内出土」
5	甕	ko (12.9) t (6.0) h 13.1	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 肩部に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部はナデ。	㊎㊐淡褐色	残　50% 焼　普 片・石・Fe ㊐ 角 ㊎ 「カマド内出土」
6	台付鉢	ko 13.0 t (7.7) h 14.2	口端部は外側に肥厚する。 肩部がやや張る。 台端部はわずかに開く。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ(上位のみナデ)、台部はヨコナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部から底部は木口状工具によるナデ、台部は木口状工具によるナデ、台端部はヨコナデ。	㊎暗橙褐色 ㊐　暗褐色	残　90% 焼　普 片・石・角 ㊐ Fe ㊎ 「カマド内出土」
7	高　坏	ko 12.1 t —— h 6.2	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口辺部は直線的に開く。	外側は口端部及び口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部上端はヘラケズリ、体部中位はナデ、体部と脚部の接合部はヘラケズリ、脚部はナデ。 内側は口端部から体部下位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ、脚部は木口状工具によるヨコナデ。	㊎㊐ 淡橙褐色	残　80% 焼　良 片・石・チャ・Fe ㊍ 角 ㊐
8	坏	ko 12.7 h 3.4	口縁部はゆるやかに内湾する。 体部から底部にかけて黒斑あり。	外側は口縁部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部から底部はナデ。	㊎㊐橙褐色	残　90% 焼　普 雲・片・角 ㊎ 「カマド下土壙内出土」

表－26　第27号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko (17.7)	口端部は丸い。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ	㊎淡暗褐色	残　60%

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
		t 6.9 h 24.5	口縁部は直線的に大きく外反する。 胴部中位に最大径をもつ。	のちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半は木口状工具によるナデのちナデ、胴部下半から底部はナデ。	橙褐色 ㋩淡橙褐色	焼普 砂粒 ㋐ Fe・片 ㋒
2	甕	ko (17.2) t 6.2 h (23.5)	器形の歪みが著しい。 口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ、胴部中位から底部はナデ。	㋭㋩暗褐色 淡暗褐色	残 50% 焼普 砂粒 ㋒ Fe・片 ㋙
3	坩	ko 15.5 t —— h 15.6	口唇部はわずかに内湾する。 器内面胴部上位に絞り込み痕あり。 器外面に黒斑あり。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部はナデのち暗文状のミガキ、頸部はヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部はナデ、胴部上位は指頭によるナデ、胴部中位はナデ、胴部下位から底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㋭淡橙褐色 ㋩ 橙褐色	残 70% 焼普 片・石 ㋒ Fe・角 ㋙
4	坩	ko (7.9) t —— h 〈 6.3〉	口端部はやや尖る。 口縁部は直線気味に開く。 胴部下位に最大径をもち偏平である。	外側は口縁部はヨコナデ、頸部から胴部上位は縦位のヘラナデのちナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は指頭によるナデ、胴部下位はナデ。	㋭㋩暗褐色	残 30% 焼普 砂粒 ㋙
5	鉢	ko (11.6) t —— h 〈 7.0〉	口縁部はゆるやかに内湾する。 体部は半球状を呈する。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部は指頭によるヨコナデ、体部はナデ。	㋭ 橙褐色 ㋩ 橙褐色 淡褐色	残 30% 焼普 砂粒 ㋒ Fe・石・片 ㋙
6	高坏	ko 17.1 t 13.1 h 14.6	口唇部はゆるやかに外反する。 脚体部はやや張りながら開く。 脚体部内面の絞り込み痕顕著。	外側は口唇部はヨコナデ、坏部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ、脚体部はヘラケズリのちナデ、裾部はヨコナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、坏部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ、脚裾部はヨコナデ。	㋭㋩橙褐色	残 完 焼普 片・石・雲㋒ Fe・角 ㋙ 「貯蔵穴内出土」
7	高坏	ko (21.7) t —— h 〈 6.7〉	口端部は丸い。 口唇部はわずかに内湾する。	外側は口縁部はヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。	㋭㋩ 暗橙褐色	残 30% 焼普 砂粒・白粒 ㋒ Fe・雲 ㋙
8	高坏	ko 19.3 t —— h 〈 7.2〉	口端部は丸い。 口縁部は直線的に開く。 口縁部中位に凹線を巡らしている。	外側は口縁部はヨコナデ、口縁部中位は工具をアテ、凹線を巡らしている。 内側は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。	㋭㋩橙褐色 淡褐色	残 40% 焼普 砂粒 ㋒ 片・Fe ㋒

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
9	高　坏	ko ―― t (14.7) h 〈10.5〉	脚体部は張りをもって開く。 脚裾部は大きく直線的に開く。	外側は脚体部はヘラナデのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は脚体部上位は指頭によるタテナデ、脚体部下位は指頭によるナデ、脚裾部はヨコナデ。	㊃㊃橙褐色	残　30% 焼　悪 砂粒・白粒㊀ Fe・片　㊂ 「貯蔵穴内出土」
10	器　台	ko ―― t 9.9 h 〈 5.0〉	非常に雑なつくり。 器受部・脚部はともに直線的に大きく開く。	外側は器受部はヘラケズリのちナデ、脚部はナデ。 内側は器受部はナデ、脚部はナデ。	㊃㊃　褐色	残　40% 焼　普 片・石・雲㊂

表－27　第28号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko 14.3 t ―― h 13.2	口縁部はわずかに内湾する。 肩部がやや張る。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部及び胴部はハケナデ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部はハケによるヨコナデ、頸部はヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるナナメナデ、胴部下位はナデ。	㊂　暗褐色 ㊃　橙褐色	残　60% 焼　良 片・石・Fe・砂粒　㊁ 角・雲　㊀
2	甕	ko (16.2) t ―― h 〈 6.8〉	口端部は尖る。 口唇部は内湾する。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、胴部はナナメハケ。 内側は口縁部は指頭によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるナナメナデ。	㊂　暗褐色 ㊃　褐色	残　10% 焼　普 片・石・Fe㊀ 角　㊂
3	壺	ko (8.8) t ―― h 〈 8.8〉	全体に粗雑なつくりで器形も歪む。 口端部は丸い。 口縁部は直立気味に立ち上がる。 肩部はやや強く張る。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部は軽いヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊂暗橙褐色 ㊃　暗褐色	残　20% 焼　良 砂粒・白粒㊀ Fe・片　㊂
4	台付甕	ko ―― t 9.7 h 〈 5.9〉	台部は直線的に開く。 被熱による器表面の剥落が著しい。	外側はハケのちナデ。 内側はナデ。	㊃㊃橙褐色	残　10% 焼　悪 砂粒　㊀ Fe・片　㊁

表－28　第29号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	坏	ko (12.3) h 4.0	口端部は内側に面をもち尖る。	外側は口辺部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から体部はヨコナデ、底部はナデ。	㊃㊃橙褐色	残　40% 焼　普 砂粒・白粒㊁ 片　㊂

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
2	坏	ko (13.6) h　3.8	口端部はわずかに尖る。 口辺部はわずかに内湾しながら開く。	外側は口辺部はヨコナデ、体部から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部から体部はヨコナデ、底部はナデ。	Ⓐ 橙褐色 Ⓑ 橙褐色 暗褐色	残　30% 焼　普 砂粒・白粒Ⓐ Fe・片　Ⓑ
3	坏	ko (13.5) h 〈 2.7〉	口端部は丸い。 口辺部はゆるやかに内湾しながら立ち上がる。	外側は口辺部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口辺部及び体部はヨコナデ。	ⒷⒷ淡褐色	残　10% 焼　普 砂粒・白粒Ⓐ 片　Ⓑ

表－29　第30号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　18.6 t　—— h 〈18.9〉	口唇部はわずかに内湾する。 口縁部は大きく外反する。 器内面の剥落顕著。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部はナデ。	ⒷⒷ 淡暗褐色	残　30% 焼　普 片・石　Ⓑ 砂粒・Fe・Mn Ⓐ
2	甕	ko　17.5 t　—— h 〈11.4〉	口端部は外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部上位は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、口縁部下位は木口状工具によるナナメナデのちヨコナデ、胴部は木口状工具によるナナメナデ。	Ⓑ 橙褐色 Ⓐ 淡褐色 暗褐色	残　30% 焼　良 片・Fe・白粒 Ⓐ
3	甕	ko　17.4 t　—— h 〈23.4〉	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	ⒷⒷ暗褐色	残　70% 焼　良 砂粒　Ⓐ 片・石　Ⓑ
4	甕	ko (16.9) t　—— h 〈 5.4〉	口端部は外側に面をなし尖る。 口縁部中位にやや鋭い稜をもつ。 口縁部中位器内面はわずかに窪む。 口縁部は大きく外反する。	外側は口端部から口縁部中位はヨコナデ、口縁部中位は工具によりヨコナデし稜をつくりだしている。口縁部下位はヨコナデ。 内側は口端部から口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデのちヨコナデ。	ⒷⒷ橙褐色	残　5% 焼　普 砂粒・白粒　Ⓑ
5	甕	ko (15.9) t　—— h 〈16.6〉	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部はやや直線的に開く。 肩部がやや強く張る。 胴部器内面の輪積痕顕著。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は指頭による軽いナデ。	ⒷⒷ淡褐色	残　20% 焼　普 砂粒・白粒Ⓐ Fe・片　Ⓑ

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
6	甕	ko 14.9 t —— h 7.7	口端部はわずかに外側に肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるナナメナデのちヨコナデ、胴部上位は指頭よる押捺ナデ、胴部は木口状工具によるナナメナデのちナデ。	㋑㋐ 淡橙褐色	残 20% 焼 普 砂粒・白粒 ㋑ Fe ㋒
7	甕	ko (19.6) t —— h 〈14.0〉	口端部は丸い。 口縁部は直線的に開く。	外側は口端部から胴部上位はヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのち丁寧なナデ。	㋑㋐ 淡暗褐色	残 20% 焼 良 Fe・片・白粒 ㋒
8	鉢	ko 20.0 t —— h 〈16.9〉	口縁部はわずかに開く。 器形の歪みが著しい。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はタテハケのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部中位から胴部上位はナナメハケのちヨコナデ、胴部中位はナデ、胴部下位はナナメハケのちナデ。	㋑㋐橙褐色	残 40% 焼 良 片・Fe・白粒 ㋒ 砂粒 ㋓ 「貯蔵穴内出土」
9	甑	ko 14.4 t 6.3 h 6.4	口端部はわずかに内湾し、体部は内湾しながら立ち上がる。 底部に焼成前穿孔あり。 口縁部器外面の一部に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部はナデ。	㋑ 淡褐色 ㋒ 黒褐色	残 60% 焼 良 石・Fe ㋑ 片・Mn・白粒 ㋒ 雲 ㋓
10	高坏	ko (18.5) t —— h 〈 6.4〉	口端部はやや尖る。 口縁部はわずかに内湾しながら開く。	外側は口縁部はヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。	㋑㋐ 暗橙褐色	残 30% 焼 普 白粒・砂粒 ㋒
11	高坏	ko 17.9 t —— h 〈 7.0〉	口端部はやや尖り気味に直立する。	外側は口縁部上半はヨコナデ、口縁部下半はヘラケズリのちヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、底部はナデ。	㋑㋐淡褐色	残 50% 焼 普 砂粒 ㋑ Fe・片 ㋒
12	高坏	ko (17.2) t —— h 〈 5.9〉	口縁部は直線的に大きく開く。	外側は口縁部はヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	㋑ 淡褐色 ㋒ 橙褐色	残 40% 焼 悪 片・石・Fe・白粒 ㋒
13	特殊器台	ko —— t —— h 〈12.0〉	口縁部は大きく開く。 口縁部には円形の透かしが施されている。 脚部はやや張りをもって開く。	外側は坏口縁部はヨコナデ、坏底部はヘラケズリのちナデ、脚体部はヘラナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は坏口縁部はヨコナデ、坏底部はナデ、脚体部はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	㋑㋐淡褐色	残 30% 焼 普 片・Fe・白粒・砂粒 ㋒ 角 ㋓
14	壺	ko —— t 7.1 h 10.1	胴部中位に最大径をもち偏平である。 底部はやや凸底気味である。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部上位はヘラケズリのちナデ、胴部中位はヘラケズリ、胴部下位はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズ	㋑ 橙褐色 ㋒ 橙褐色 暗橙褐色	残 60% 焼 普 片・石・Fe・

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				リ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭によるナデ、胴部中位はナデ、胴部下位から底部は木口状工具によるナデのちナデ。		白粒　㊥ 角　㊦
15	壺	ko　—— t　6.2 h　〈 6.7〉	器形の歪みが著しい。 胴部は偏平である。 凹底を呈する。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位はナデ、胴部中位から底部は木口状工具によるナデ。	㊨　淡褐色 ㊧　橙褐色	残　60% 焼　普 片・Fe・白粒・雲　㊦ 「柱穴内出土」
16	壺	ko　8.3 t　3.0 h　8.9	口縁部はわずかに内湾する。 胴部中位に最大径をもち偏平である。 底部はわずかに凹底状を呈する。	外側は口唇部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はヘラケズリのちナデ、胴部中位から下位はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ、胴部中位から底部はナデ。	㊨㊧ 暗橙褐色	残　90% 焼　普 Fe　㊥ 石・白粒・角 ㊦
17	壺	ko　—— t　2.8 h　〈 4.9〉	胴部中位に最大径をもち偏平である。 凹底を呈する。	外側は口縁部下位はヨコナデ、胴部上位から中位はヘラケズリのちナデ、胴部下位はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口縁部下位はヨコナデ、胴部から底部は指頭によるナデ。	㊨㊧橙褐色	残　50% 焼　普 砂粒・白粒㊦ Fe・片・角㊩
18	壺	ko　—— t　4.2 h　〈 4.6〉	肩部がやや張り偏平である。 凹底を呈する。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部上位から中位はヘラケズリのちナデ、胴部下位はヘラケズリ、底部はナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部は指頭によるナデ。	㊨㊧淡褐色	残　60% 焼　良 Fe・片・砂粒 ㊦ 「貯蔵穴内出土」
19	壺	ko　—— t　4.4 h　〈 4.7〉	最大径を胴部下位にもち偏平である。 凹底を呈する。	外側は胴部上位から中位はヘラケズリのちナデ、胴部下位及び底部はヘラケズリ。 内側は胴部から底部は指頭によるナデ。	㊨㊧橙褐色	残　60% 焼　普 Fe・片・石・白粒　㊥ Mn　㊦
20	鉢	ko　(11.6) t　4.8 h　6.3	口縁部はわずかに内湾しながら開く。 体部は半球状を呈する。 凹底を呈する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部上位は木口状工具による横位ナデ、体部中位はヘラケズリのちナデ、体部下位から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部は木口状工具によるナナメナデ、底部はナデ。	㊨　淡褐色 暗褐色 ㊧　淡褐色 暗茶褐色	残　40% 焼　良 片・砂粒　㊦ Fe・白粒　㊩
21	鉢	ko　(10.9) t　〈 5.7〉 h　〈 6.1〉	口端部はやや丸い。 口縁部はわずかに内湾する。 体部上位がやや張る。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部から底部はナ	㊨　淡褐色 ㊧　暗褐色	残　30% 焼　普 Fe・砂粒　㊦

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				デ。		片・白粒 ㉔
22	鉢	ko 12.1 t 6.2 h 4.9	口唇部はゆるやかに外反し、口縁部は直線的に外反する。体部は直線的に立ち上がる。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㊀㊁淡褐色	残　80% 焼　良 片・石・Fe ㊁ 白粒　㉔ 角・雲　㊇ 「貯蔵穴内出土」
23	鉢	ko 9.7 t 5.0 h 7.5	口端部に指頭圧痕あり。口唇部はわずかに内湾する。体部中位で弱く屈曲する。	外側は口辺部はヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部はヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㊀㊁明橙褐色	残　完 焼　普 Fe・片・石・角　㉔
24	壺	ko 11.6 t —— h 5.9	口縁部はやや内湾しながら立ち上がる。 凹底状を呈する。	外側は口縁部はヨコナデ、体部上半はヘラケズリのちナデ、体部下半はヘラケズリ。 内側は口縁部から体部中位はヨコナデ、底部はナデ。	㊀ 橙褐色 ㊁ 淡褐色	残　95% 焼　普 片・石・チャ ㉔
25	坏	ko (13.6) h 〈 5.0〉	口端部は尖る。 口辺部は直立気味である。	外側は口辺部はヨコナデ、底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口辺部から底部中位はヨコナデ、底部はナデ。	㊀ 淡褐色 暗褐色 ㊁ 橙褐色	残　40% 焼　普 砂粒・白粒 ㊇
26	ミニチュア	ko (5.0) t 1.9 h 2.1	口端部は丸い。 半球状を呈する。	外側は口縁部はヨコナデ、体部は指頭によるナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部は指頭によるナデ。	㊀㊁淡褐色	残　40% 焼　普 砂粒・Fe・角　㉔
27	ミニチュア	ko (4.4) t 1.8 h 2.3	口端部は丸い。 口辺部はわずかに内湾する。	外側は口端部はヨコナデ、体部は指頭によるナデ。 内側は口辺部はヨコナデ、体部は指頭によるナデ。	㊀㊁橙褐色	残　50% 焼　普 砂粒　㉔

表－30　第30号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	残存率	特　徴
28	石製模造品	長 5.6 幅 2.2 厚 0.6	80%	剣形石製模造品。覆土中より出土。滑石製。淡灰緑色を呈する。全体を刃物状工具により主要な面を整えた後に簡単な研磨を行っている。特に外周端部の研磨は丁寧である。鏑は先端の一部のみ表現され、刃部中央は面をなす。無孔。
29	石製模造品	長 4.5 幅 2.5 厚 0.8 孔 0.1	90%	剣形石製模造品。覆土中より出土。滑石製。淡茶褐色を呈する。外形を刃物状工具により整えた後に簡単な研磨を行っている。鏑は刃部中央まで表現されている。穿孔は2回試みられ2回目で貫孔している。

番号	分　類	大きさ（cm）	残存率	特　徴
30	石製模造品	長　2.7 幅　1.8 厚　0.4 孔　0.1	90%	剣形石製模造品。覆土中より出土。滑石製。濃緑色を呈する。外形を刃物状工具により整えた後に簡単な研磨を行っている。鎬は先端のみ表現され、刃部中央は面をなす。穿孔は表面から。

表－31　第31号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ（cm）	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　16.9 t　5.9 h　27.7	口縁部は直線状に開き、口唇部はやや外側に肥厚する。 肩部はわずかに張りをもち、胴部中位の最大径へと続き、胴部下位で急激にすぼまり底部へと続く。 器表面はやや荒れている。 胴部下位の接合痕が顕著である。	外側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位はヘラケズリ、胴部下位はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㋑　橙褐色 暗橙褐色 ㋺　橙褐色 淡橙褐色	残　70% 焼　普 片・石・チャ ㋑ Fe・Mn・角 ㋺ 「カマド内出土」
2	甕	ko　13.5 t　6.8 h　21.9	口端部は外側にわずかに肥厚する。 最大径を胴部やや下位にもつ。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口縁部から頸部下位は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、頸部から胴部下位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部下位から底部はナデ。	㋑　橙褐色 暗橙褐色 ㋺暗橙褐色	残　70% 焼　良 片・石　㋺ 角　㋩ 「カマド内出土」
3	甕	ko　(18.3) t　—— h　〈27.4〉	口端部は外側に肥厚する。 口縁部は大きく外反する。 器内・外表面の剥落顕著。 鉢の可能性あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデか。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちナデか、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデか。	㋑㋺淡褐色	残　35% 焼　普 片・石・チャ ㋺ Fe・角　㋩ 「カマド内出土」
4	甕	ko　13.9 t　—— h　〈12.1〉	口唇部はやや内湾する。 肩部はやや張る。	外側は口縁部はヨコナデ、頸部は工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㋑㋺橙褐色	残　30% 焼　良 片・石・チャ ㋺ Fe・角　㋩
5	甕	ko　11.3 t　5.8 h　17.1	口縁部はやや内湾気味に開く。 胴部最大径はやや上位にある。 胴部下位器外面に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、頸部は指頭による押捺のちナデ、胴部から底部はナデ。	㋑淡橙褐色 暗褐色 ㋺淡橙褐色	残　70% 焼　普 片・石・チャ・雲　㋺ Fe・角　㋩ Mn　㋥

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
6	甕	ko (13.3) t 7.2 h 12.2	口縁部はやや直線的に外反し、口唇部で大きく外反する。 器形はやや歪んでいる。 底部器外面に黒斑あり。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部から底部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ。	(外)暗橙褐色 (内) 暗褐色	残 60% 焼 普 片・石・チャ (中) 角・Fe (少) 「貯蔵穴内出土」
7	甕	ko 12.3 t 5.2 h 10.9	口端部は外側にわずかに肥厚する。 口縁部はゆるやかに外反する。 最大径を胴部中位やや上にもつ。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるヨコナデ・ナナメナデのちナデ、胴部下位から底部はナデ。	(外)(内) 暗橙褐色	残 70% 焼 良 片・石・チャ (中) 角 (少) 「カマド内出土」
8	甕	ko 12.5 t —— h 〈10.7〉	口縁部はゆるやかに外反し、口端部は直立気味に立ち上がる。 頸部内面は稜をなす。 胴部最大径はわずかに上位にある。 器外面は二次被熱のためアバタ状を呈する部分あり。 カマド内支脚に転用。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部は指頭による押捺ナデのちナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、胴部下位はナデ。	(外) 橙褐色 明黄褐色 (内) 橙褐色	残 60% 焼 普 片・石・チャ (中) Fe・角 (少)
9	鉢	ko 13.9 t 6.7 h 8.7	器形の歪みが大きい。 口端部は外側に肥厚する。 頸部内面に稜をもつ。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はヘラケズリのちナデ、胴部中位から底部はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	(外)(内) 暗橙褐色	残 70% 焼 普 片・石・チャ (中) Fe・角 (少)
10	鉢	ko 14.1 t 6.6 h 7.9	口唇部はやや強く外反する。 器外面底部付近に黒斑あり。	外側は口縁部は指頭によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	(外)(内)橙褐色 暗橙褐色	残 60% 焼 良 片・石・チャ (中) Fe・角 (少) 「貯蔵穴内出土」
11	鉢	ko (13.2) t (6.2) h 8.5	口端部は外側に肥厚する。 器外面に黒斑あり。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部は木口状工具によるナデのちナデ。	(外)(内)橙褐色	残 40% 焼 良 片・砂粒・白粒 (中) Fe・角 (少)

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
12	鉢	ko (13.7) t 6.4 h 7.9	口辺部は直立気味に立ち上がる。	外側は口辺部はヨコナデ、体部上位から中位はヘラケズリのちナデ、体部下位から底部はヘラケズリ。 内側は口辺部はヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㋑㋒橙褐色 暗褐色	残　30% 焼　良 片・石・砂粒 ㋓ Fe・角・雲 ㋗ 「貯蔵穴内出土」
13	鉢	ko 11.9 t 5.1 h 7.0	器形の歪みが大きい。 口唇部は外反する。	外側は口端部から頸部はヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	㋑ 淡褐色 ㋒ 橙褐色	残　95% 焼　良 片・石 ㋓ 角・チャ ㋗ 「カマド内出土」
14	高　坏	ko —— t 8.3 h 〈 6.6〉	脚裾部は大きく開く。 坏部内面及び器外面は赤彩を施す。	外側は口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリのち軽いナデ、坏部と脚部の接合部はナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は口辺部から坏部上位は木口状工具によるヨコナデ、坏部中位から底部は木口状工具によるナデのちナデ、脚部上位はナデ、脚部下位はヘラケズリ、脚裾部はヨコナデ。	㋒ 暗褐色	残　60% 焼　良 砂粒・白粒・雲 ㋗ 「貯蔵穴内出土」

表－32　第32号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko 18.5 t —— h 〈 9.2〉	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㋑ 橙褐色 ㋒ 橙褐色 暗褐色	残　20% 焼　普 片・石・白粒 ㋓ Fe・角 ㋗ 「カマド内出土」
2	甕	ko 11.1 t —— h 〈 9.8〉	口縁部はゆるやかに外反する。 肩部はなだらか。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ。	㋑㋒ 暗橙褐色	残　30% 焼　良 片・石・チャ ㋓ 角 ㋗ Fe ㋭ 「カマド内出土」
3	鉢	ko 22.9 t 7.5 h 11.8	口端部は外面をもちつつ立ち上がり、また凹線が巡る。 口縁部は直線的に外反する。 肩部に最大径をもつ。 器外面は被熱により荒れが顕著である。	外側は口端部はヨコナデのち工具により凹線を巡らしている。口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㋑淡橙褐色 ㋒暗橙褐色	残　完 焼　普 片・石・チャ ㋓ Fe・角 ㋗ 「貯蔵穴内出土」

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
4	坏	ko (13.2) h 〈 4.4〉	口端部は外側に肥厚し、内側に面をもつ。 口辺部は直立気味に立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、体部はナデ。	㊍ 橙褐色 暗茶褐色 ㊊ 暗褐色 淡褐色	残　20% 焼　普 砂粒・白粒・Fe ㊎ 「カマド内出土」
5	埦	ko 12.8 t 3.7 h 5.5	口縁部は直線的に外反し、頸部内面に稜をもつ。	外側は口縁部はヨコナデ、体部上半はヘラケズリのちナデ、体部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部から底部はナデ。	㊍㊍橙褐色	残　70% 焼　普 片・石・Fe ㊎ 角　㊌ 「カマド内出土」
6	鉢	ko 7.6 t 4.4 h 6.5	器形の歪みが大きい。 器外面に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部から底部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㊍㊍橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・チャ ㊎ Fe ㊌ 「カマド内出土」

表－33　第33a号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	壺	ko —— h 〈12.6〉	口縁部は直線的に開く。 胴部は中位に最大径をもち偏平である。 丸底を呈する。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭によるナデ、胴部中位から底部はナデ。	㊍㊍橙褐色	残　80% 焼　普 Fe・微砂粒・雲　㊎
2	坩	ko —— t —— h 〈 6.0〉	器形の歪みが大きい。 胴部器外面に黒斑あり。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部から底部は指頭によるナデ。	㊍ 橙褐色 ㊍暗橙褐色	残　60% 焼　悪 片・石　㊎
3	甕	ko (16.5) t —— h 〈 6.8〉	口唇部は大きく外反する。	外側は口唇部はヨコナデ、口縁部はナナメハケのちヨコナデ、胴部はナナメハケ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部はナナメハケのちヨコナデ、胴部はナデ。	㊍ 橙褐色 ㊍ 淡褐色	残　5% 焼　普 片・石・チャ ㊎ Fe ㊌

表－34　第33b号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	壺	ko (13.5) t 5.3 h 18.8	口端部は丸い。 口縁部は大きく外反する。 頸部は直立気味に立ち上がる。 胴部は中位に最大径をもち、算盤玉状を呈する。	外側は口縁部から頸部中位はヨコナデ、頸部下位は工具によるヨコナデか、胴部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部から頸部はヨコナデ、胴部上半はナデ、胴部下半から底部はヘラミガキ。	㊍ 灰黄色 淡暗灰色 ㊍ 灰黄色	残　70% 焼　普 微砂粒　㊎ Fe・Mn ㊌

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
			胎土は灰黄色を呈し、極めて緻密。 搬入品の可能性が高い。			
2	甕	ko　12.9 t　5.9 h　21.3	口唇部はわずかに内傾する。 胴部中位に最大径をもつ。 胴部上位器内面に輪積痕を残す。 頸部にはヨコナデ調整が弱いため、成形時の指頭の圧痕がわずかに残る。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部から底部はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるナナメナデのちヨコナデ、胴部中位から下位は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	⑤⑥橙褐色	残　80% 焼　普 白粒　㊥ Fe　㊦ 雲・片・チャ㊧
3	甕	ko　12.9 t　(6.6) h　16.5	口縁部は直線的に外反する。 胴部中位に最大径をもつ。 器内面肩部に木口状工具の痕跡を残す。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部は縦位及び横位のヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、頸部はヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ。	⑤⑥橙褐色	残　70% 焼　良 片・石・チャ㊥ Fe・角・雲㊦ 「カマド内出土」
4	甕	ko　18.4 t　—— h　〈9.5〉	口端部は外側にやや肥厚する。 口縁部は直線的に開く。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	⑤⑥橙褐色	残　10% 焼　良 砂粒・白粒㊥ Fe・片　㊦ 「カマド内出土」
5	坏	ko　13.3 h　5.2	口縁部は直立気味に立ち上がり、口唇部でわずかに外反する。 口端部は面をなす。 底部器外面に黒斑あり。	外側は口唇部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部下位はナデ。	⑤⑥橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・角・チャ　㊦ Fe　㊧ 「カマド内出土」
6	坏	ko　(11.6) h　〈5.6〉	口辺部は直立気味に立ち上がる。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。	⑤⑥橙褐色	残　40% 焼　普 Fe・砂粒・白粒　㊦
7	坏	ko　14.4 h　〈4.7〉	口端部は外側に肥厚する。	外側は口端部はヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデか、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具によるヨコナデか、底部はナデ。	⑤⑥橙褐色	残　30% 焼　普 Fe　㊦ 「カマド内出土」
8	坏	ko　(13.2) h　5.6	全体に器壁が厚く粗雑なつくり。	外側は口端部から口辺部中位はヨコナデ、口辺部下位は木口状工具によるヨコナデ、底部はヘラケズリ。	⑤⑥橙褐色	残　40% 焼　普 砂粒・白粒㊦

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				内側は口端部はヨコナデ、口辺部から底部中位は木口状工具によるヨコナデ、底部はナデ。		Fe ㊥
9	鉢	ko 11.8 t 5.8 h 6.6	口縁部はわずかに内湾する。 凹底を呈する。 器形の歪みが大きい。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㊦暗橙褐色 ㊥ 橙褐色 暗橙褐色	残　80% 焼　普 片・石・Fe・白粒 ㊦
10	鉢	ko —— t 5.9 h 〈5.7〉	体部はやや張りをもって立ち上がる。 底部はわずかに凹底を呈する。	外側は体部上位はヘラケズリのちナデ、体部下位はヘラケズリ。 内側は体部はナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㊦㊦ 暗橙褐色	残　60% 焼　普 片・砂 粒・Fe ㊦ 「カマド内出土」
11	鉢	ko 8.6 h 4.0	器形は半球型を呈し、やや歪んでいる。 体部下位の一部に黒斑あり。	外側は口辺部はヨコナデ。 内側は底部はヘラケズリ。	㊦㊦橙褐色	残　完 焼　普 チャ・Fe・石 ㊥ 雲・角 ㊦
12	鉢	ko 6.5 t 5.2 h 4.3	全体に歪な台形を呈しており、口縁部は内側にやや内湾する。 底部に黒斑あり。	外側は口縁部はナデ、体部はヘラケズリのちナデ。 内側は口縁部はヘラ状工具によるナデ、底部はナデ。	㊦㊦橙褐色	残　完 焼　普 チャ・石・雲・Fe・白粒 ㊦

表－35　第34号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	台付甕	ko (16.5) t (10.4) h (28.1)	口端部はやや尖る。 口縁屈曲部の稜はやや鈍い。 脚台部下端内側は折り返しあり。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部上位はナナメハケ、台部上位はナナメハケ、台部中位から下位はナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ、底部はナデ、台部上位は指頭による押捺ナデ、台部中位はナデ、台部下端は指頭による押捺ナデ。	㊦㊦ 灰黄褐色	残　10% 焼　普 砂粒 ㊥ 片 ㊦
2	台付甕	ko —— t 9.1 h 〈27.1〉	肩部が張る。 脚台部は中位がやや張る。 脚台部下端内側は折り返しあり。	外側は胴部上位はナナメハケ、胴部下半は縦位に近いナナメハケ、胴部下位は縦位に近いナナメハケのちナデ、脚台部はナナメハケのちナデ、脚台部下端はヨコナデ。 内側は胴部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ、脚台部はナデ。	㊦淡灰褐色 淡褐色 ㊦淡灰褐色	残　50% 焼　普 砂粒 ㊥ 白粒・Fe ㊥
3	甕	ko (15.0) t —— h 〈21.5〉	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。 胴部中位に最大径をもつ。	外側は口縁部はナナメハケのちヨコナデ、胴部上位はナナメハケのちナデ、胴部中位から下位はハケのち丁寧なナデ。	㊦㊦淡褐色	残　40% 焼　普 Fe ㊥

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				内側は口縁部はヨコハケのちヨコナデ、胴部はナデ。		砂粒・白粒・ 雲　㋐ 片　㋑
4	壺	ko　—— t　—— h　13.0	頸部には断面三角形の凸帯が巡る。	外側は口縁部下位はタテハケのちナデ、頸部はヨコナデ、凸帯上はハケによる刻みを施す。 胴部は木口状工具によるナデのちナデ。 内側は口縁部下位はヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ、胴部は指頭によるナデ。	㋭暗橙褐色 ㋬暗茶褐色	残　20% 焼　良 片・石・砂粒 ㋐ Fe　㋐

表－36　第35号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko　20.6 t　—— h　〈5.6〉	口端部は丸い。 口縁部はゆるやかに外反する。	外側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口端部はヨコナデ、口縁部は木口状工具によるヨコナデ、胴部はナデ。	㋭㋬橙褐色	残　10% 焼　普 片・石・Fe・ チャ・砂粒　㋐ 雲・角　㋑ 「柱穴内出土」
2	鉢	ko　13.6 t　5.2 h　6.7	口縁部・体部ともに直線的に立ち上がる。	外側は口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、体部はナデ、底部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㋭㋬橙褐色	残　60% 焼　良 Fe・石・砂粒 ㋐ 白粒・Mn・片 ㋐ 角　㋑
3	鉢	ko　(11.2) t　5.0 h　6.2	口縁部はゆるやかに外反する。 肩部がやや張る。	外側は口縁部はヨコナデ、体部・底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、体部は木口状工具によるヨコナデ、底部は木口状工具によるナデのちナデ。	㋭㋬橙褐色	残　60% 焼　普 片・石・チャ・ Fe　㋐ 「カマド内出土」
4	高　坏	ko　—— t　(12.8) h　〈9.6〉	脚体部は張りをもつ。 脚裾部は大きく開く。 脚体部内面には絞り込み痕あり。	外側は脚体部はヘラナデのちナデ、脚裾部はヨコナデ。 内側は脚体部はナデ、脚裾部はヨコナデ。	㋭淡橙褐色 ㋬　暗褐色 褐色	残　30% 焼　普 Fe・白粒・片 ㋐ 砂粒　㋐ 角　㋑
5	手　捏	ko　(4.5) t　2.5 h　5.4	口縁部は不整形な波状を呈する。	外内指頭によるナデ。	㋭　暗褐色 淡橙褐色 ㋬　暗褐色	残　70% 焼　普 砂粒・Fe・片 ・石　㋐ 白粒　㋐

表－37　第36号住居址出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	甕	ko (19.1) t —— h 〈20.1〉	口端部は外側に面をもつ。 口縁部中位に輪積痕あり。 胴部は下位が張る。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は木口状工具によるナナメナデのちナデ、胴部はナデ。	㊍ 淡褐色 ㊎ 暗褐色	残　30% 焼　普 Fe・片・石㊍ 砂粒・白粒㊐
2	甕	ko 13.0 t —— h 〈16.7〉	口縁部は中位よりゆるやかに外反する。 胴部はやや偏平である。 胴部下位外面に黒斑あり。	外側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はヨコナデ、胴部上半はヘラケズリのちナデ、胴部下半はヘラケズリ。 内側は口端部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㊍ 橙褐色 ㊎ 淡褐色	残　50% 焼　普 Fe・片　㊍ 石・角・チャ㊐
3	鉢	ko 13.2 t 6.7 h 9.8	口唇部は大きく外反する。	外側は口端部から肩部はヨコナデ、肩部から胴部中位はナデ、胴部下位は木口状工具によるナナメナデのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、口縁部中位から頸部は木口状工具によるナナメナデのちヨコナデ、胴部はヘラ状工具によるナナメナデ、底部はヘラ状工具によるヨコナデ。	㊍ 橙褐色 ㊎ 淡褐色	残　90% 焼　良 Fe　㊎ 片・石・チャ・ 角　㊐
4	鉢	ko 12.8 t 4.2 h 6.5	口縁部は大きく外反する。 器外面に黒斑あり。	外側は口唇部は木口状工具によるヨコナデのち指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、胴部上半は主にヘラケズリのちナデ、胴部下半から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部は木口状工具によるヨコナデのち指頭によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのちナデ、底部はナデ。	㊍㊎暗褐色	残　完 焼　普 Fe　㊎ 片・チャ・石・ 角　㊐ 「貯蔵穴内出土」
5	鉢	ko 11.6 t 5.0 h 5.5	口唇部は外側に外反し、内側には鈍い稜を有する。	外側は口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、口端部は指頭によるヨコナデ、胴部上位はナデ、胴部下位はヘラケズリのちナデ、底部はヘラケズリ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、胴部は木口状工具によるヨコナデのち丁寧なヨコナデ、底部は木口状工具によるヨコナデのちナデ。	㊍㊎暗褐色	残　95% 焼　良 片・チャ・石・ Fe　㊐ 角　㊍
6	壺	ko 9.1 t —— h 7.2	口縁部は直線的に開く。 底部は丸底を呈する。	外側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、肩部はヨコナデ、胴部上位はナデ、胴部中位から底部はヘラケズリ。 内側は口唇部はヨコナデ、口縁部から頸部は木口状工具によるヨコナデ、胴部上位はヘラ	㊍㊎ 淡暗橙褐色	残　95% 焼　良 片・石・角・ 白粒　㊐

番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
				ケズリ、胴部中位から底部はヘラナデ。		
7	高　坏	ko 19.6 t 14.3 h 17.4	器形の歪みが大きい。 口縁部は直線的に開き、口唇部はわずかに内湾する。 脚部はやや張りをもち、裾端部はわずかに反り上がる。 脚部内面に絞り込み痕あり。	外側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具よるヨコナデのちヨコナデ、坏底部はヘラケズリのちナデ、接合部はヨコナデ、脚部は緩位ヘラナデのちナデ、脚下部は下から上へのヘラナデ、裾部はヨコナデ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口辺部から底部上位は木口状工具よるヨコナデ、底部はナデ、脚部下半はヘラケズリ、裾部はヨコナデ。	㊎㊐橙褐色	残　80% 焼　良 片・石　㊅ Fe・チャ・角㊍
8	高　坏	ko 17.5 t 13.4 h 14.4	口唇部は内屈する。 坏部内面の一部には放射状暗文が観察される。 坏口辺部と底部の境目に鈍い稜をもつ。 脚部下位から裾部にかけて粘土貼付による補修あり。 補修部上にはハケメ調整が施されている。 器内外面に黒斑あり。	外側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部は木口状工具によるヨコナデ、接合部はヨコナデ、脚部上半はタテハケのちナデ、脚部下位から裾部上位はタテハケ、裾部はヨコナデ。 内側は口唇部は指頭によるヨコナデ、口辺部は木口状工具によるヨコナデのちヨコナデ、底部はナデ、脚部はナデ、裾部はヨコナデ。	㊎㊐ 暗橙褐色	残　80% 焼　普 片・チャ・Fe㊁ 雲　㊇
9	ミニチュア 甕	ko 4.3 t 1.1 h 3.3	下端部分は粘土紐を輪状にしたものを貼付け、さらに下から上へと穿孔している。	外内手捏ね整形。	㊎㊐淡褐色	残　80% 焼　良 片・石・チャ㊁ Fe　㊇

表－38　第36号住居址その他の出土遺物観察表

番号	分　類	大きさ(cm)	残存率	特　徴
10	石製紡垂車	大径 4.8 厚 0.6 孔 0.8	完	滑石製。濃緑色を呈するが一部淡緑色の部位あり。大円端部・小円端部ともに研磨により滑らかな面を形成。側面は刃物状工具によって整えた後に簡単な研磨を行っている。側面端部は研磨により仕上げられている。

表－39　第37号住居址出土遺物観察表

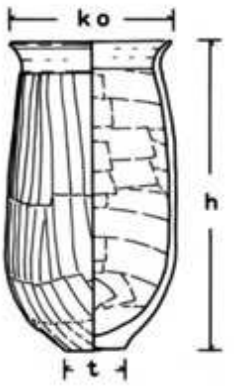
番号	分　類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色　調	胎土・備考
1	台付甕	ko (15.7) t (9.2) h 〈25.0〉	口端部は丸味をもつ。	外側は口端部はヨコナデ、胴部上位はナナメハケ、胴部下位はタテハケ、台部はナデ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ、胴部下位はナデ、台部上位は指頭による押捺ナデ、台部中位から下位はナデ。	㊍暗灰褐色 ㊎　淡褐色	残　10% 焼　普 砂粒・片　㊍

番号	分類	大きさ(cm)	器形及び形成手法の特徴	調整手法の特徴	色調	胎土・備考
2	台付甕	ko (15.4) t —— h 〈 4.7〉	口端部は尖り気味である。 口縁屈曲部の後はやや鈍い。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部上位はナナメハケ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部上位は指頭による押捺ナデ。	㊧㊨ 淡橙灰褐色	残 5% 焼 普 砂粒・白粒㊥ 片・石・角㊦
3	高 坏	ko —— t —— h 〈 9.8〉	脚体部は中実。	外側は脚体部はヘラナデ。	㊧㊨橙褐色	残 20% 焼 普 砂粒・白粒㊤
4	甕	ko (15.5) t —— h 〈 5.4〉	口端部は外側に面をもつ。 口縁部は大きく外反する。	外側は口縁部はヨコナデ、胴部はタテハケ。 内側は口縁部はヨコナデ、胴部は指頭によるナデ。	㊧㊨ 淡橙灰褐色	残 10% 焼 普 砂粒 ㊥

(大熊季広)

凡　例

1. 観察表における番号は各遺構の出土遺物番号・写真図版番号・遺構平面図中の遺物番号に対応している。
2. 表中における大きさの略号は、koは口径、tは底径、hは器高を表わしている。また、(　)は推定値、〈　〉は残存値、——は計測不能を示している。
3. 色調欄における㊧は器外面を、㊨は器内面を表わしている。
4. 胎土・備考欄の鉱物等の略号は以下のとおりであり、その含有量については多量、中量、少量、微量をそれぞれ㊦、㊥、㊤、㊟で表わしている。
   片：片岩粒　　石：石英粒　　チャ：チャート　　白粒：白色粒子　　角：角閃石　　雲：雲母粒
   Fe：鉄斑粒　　Mn：マンガン粒
5. 遺物実測図の縮尺はそれぞれ図に示してあるが原則として土器は1/4、その他は2/3である。



第Ⅳ章　ま と め －第９号住居址の遺物出土状態をめぐって－

はじめに

古墳時代後期を主体に多くの遺構・遺物が出土した本遺跡の中で特筆されるのは、火災住居址である第９号住居址から遺骨が検出されたことである（註）。この遺骨が人骨であるならば、古墳時代の竪穴式住居址から人骨が検出された例としてはきわめて希である。類例を求めるとすれば火災住居址からの検出ではないが埼玉県深谷市の城北遺跡（山川、1995）の例をあげられることができよう。その他、本町内にある後張遺跡Ｄ地点（1989年調査）で検出された古墳時代後期の火災住居址のカマド付近からも骨片が数片検出されたが、詳細なデータは得られなかった。この様な状況に於て現段階では資料の比較検討をする状況には至っていないと思われる。従って本稿では、調査時において遺構および遺物などの状態及び状況について気付いたことなどを中心に提示をし、今後資料の増加を待って改めて比較検討したい。

１．第９号住居址について

本住居址は、主軸をＮ－73°－Ｅにとり東壁中央部よりやや南寄りにカマドを構築しており、住居址の平面形態は一辺が約4.95ｍの隅丸方形を呈する。壁は、床面より垂直に立ち上がり、床面までは確認面より深さ30㎝を測る。床面は、貼り床状を呈し、ほぼ水平に整えられていたが土質が湿潤と乾燥を繰り返したため残存状態は良好ではなかった。

カマドは、上部および煙道部が開墾等により破壊されていたものの本体の残存状態は良好であった。第３層はカマドの天井部と推定され、状況から甕がかけられていたまま自然に天井部が下方に落下したものであると推定され、外的及び人為的破壊の痕跡は見受けられなかった。その他、カマドからは支脚が備え付けられていたと思われるピットが検出されているが、住居廃絶の時には抜きさられている。

貯蔵穴の構造

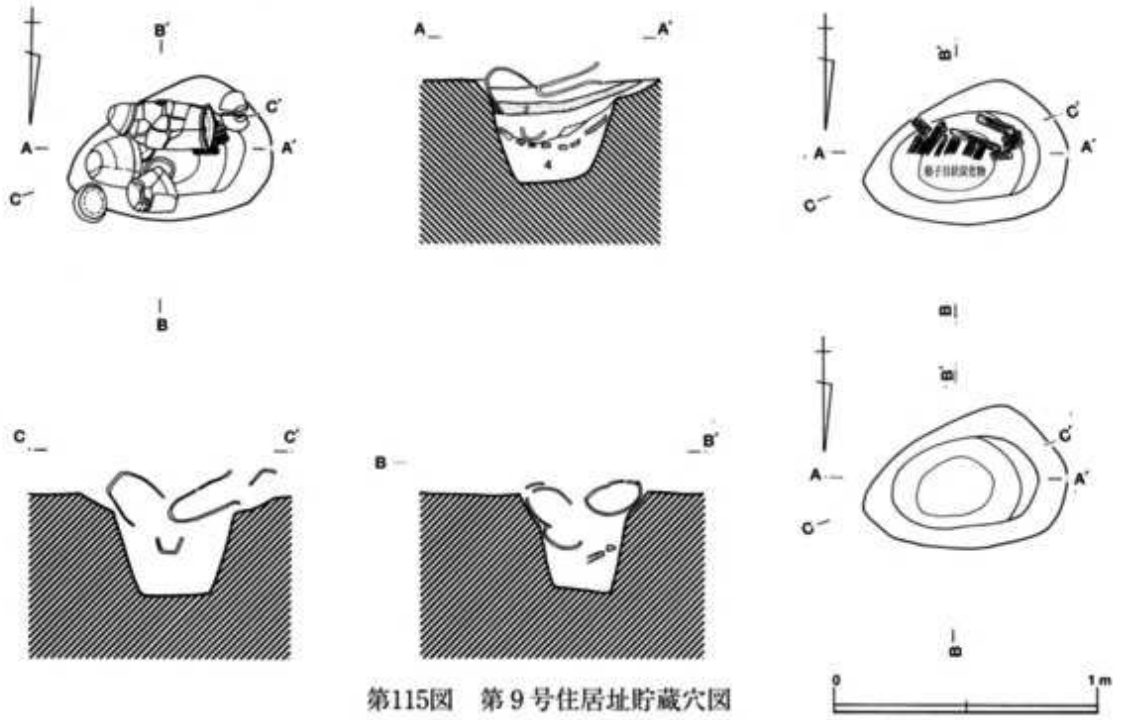
貯蔵穴は住居址内南東部に中位に段を持つ構造をなして検出されている。特に第２層は木炭によって構成された層であった。この層は板状のものが木炭化したもので当時蓋として使用されていたと推定できる。更にこの第２層直上にはカヤ製の敷物が敷かれており、その上部には甕などの完形品が数点が置かれた状態にあった（第115図）。また、第４層の上部からも炭化材が検出された。この炭化材の平面形態を観察すると格子目状に配置されており、当時は中位の段の位置に簀子状の中蓋として使用されていたと考えられる（第115図）。これらのことから第９号住居址の貯蔵穴は、簀子状の中蓋を仕切りとして上室と下

室とが分かれている構造をした貯蔵穴であったと推定している。第115図の断面図に掛かった坏は中蓋に接して出土しており上室に置かれていた物である可能性が高い。しかし、このような二重構造の貯蔵穴の類例は現時点では確認できていない。今後、類例の発見に期待したい。

その他の付属施設は、壁溝が部分的ではあるが検出されている。また、住居址の東壁及び西壁の壁溝から延びる間仕切り状の溝が検出できた。特に、壁溝は板状の木材が打ち込まれていたと推定され板の腐った跡にできた空洞には肌理の細かい粘質土が詰まっていた。更に、主柱穴が4本検出されており、燃え残った基部については腐って溶けており、空洞をなしていた。

火災の意義

前述のように本住居址は火災住居であり、焼土塊や炭化した梁や垂木・柱等の建築材が床面から部分的に検出でき、その一部は壁溝上部にまで入っていた。特に、南西の壁が著しく焼けており非常に長く壁面に焔があたっていたと認められる。こうした状況を推論するならば、本住居址は、調査を行った集落で最も新しい時期に当たる為、住人が家屋を焼却して集落を放棄したとも考えることができる。この事に類似する行為は、火災住居址ではないという相違があるものの「城北遺跡」の事例を巡り、山川氏によって「人骨が出土した住居は集落最後の時期にあたるため、これらの屋内葬が各住居の廃絶だけではなく、集落全体の廃絶にもかかわった可能性が考えられる。」（山川、1996）という指摘がなされている。本住居址と最も時期が近い本遺跡第14号住居址も所謂「火災住居址」であることを付け加えておきたい。



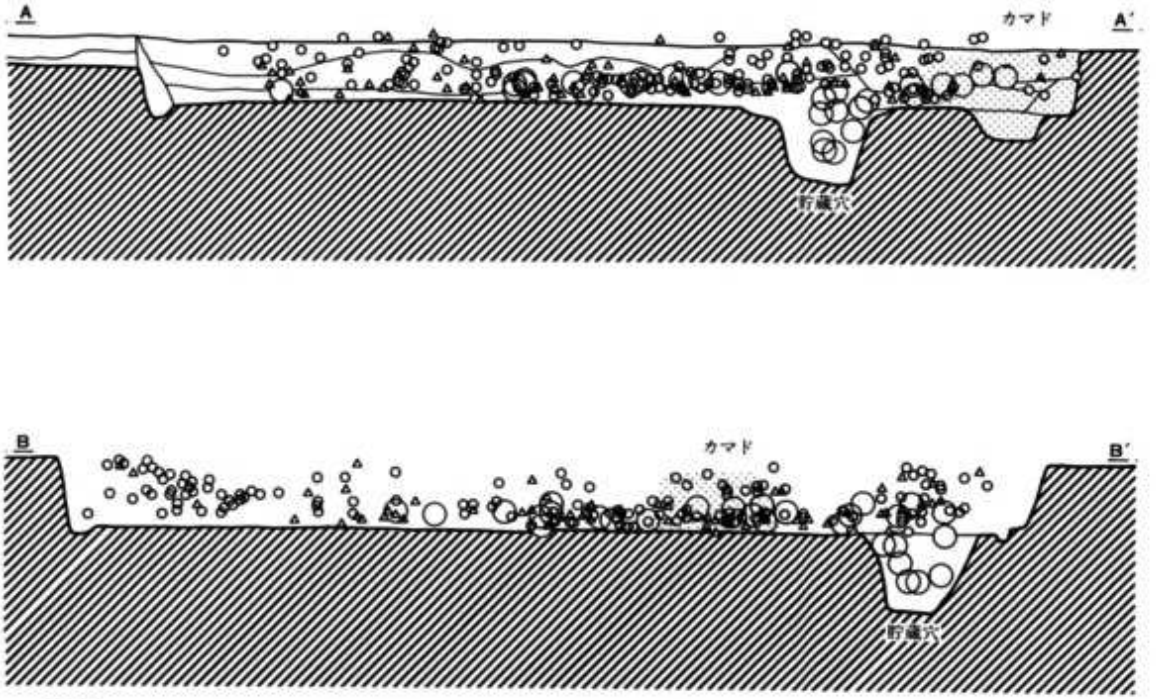
第115図　第9号住居址貯蔵穴図

2．第９号住居址の遺骨・遺物について

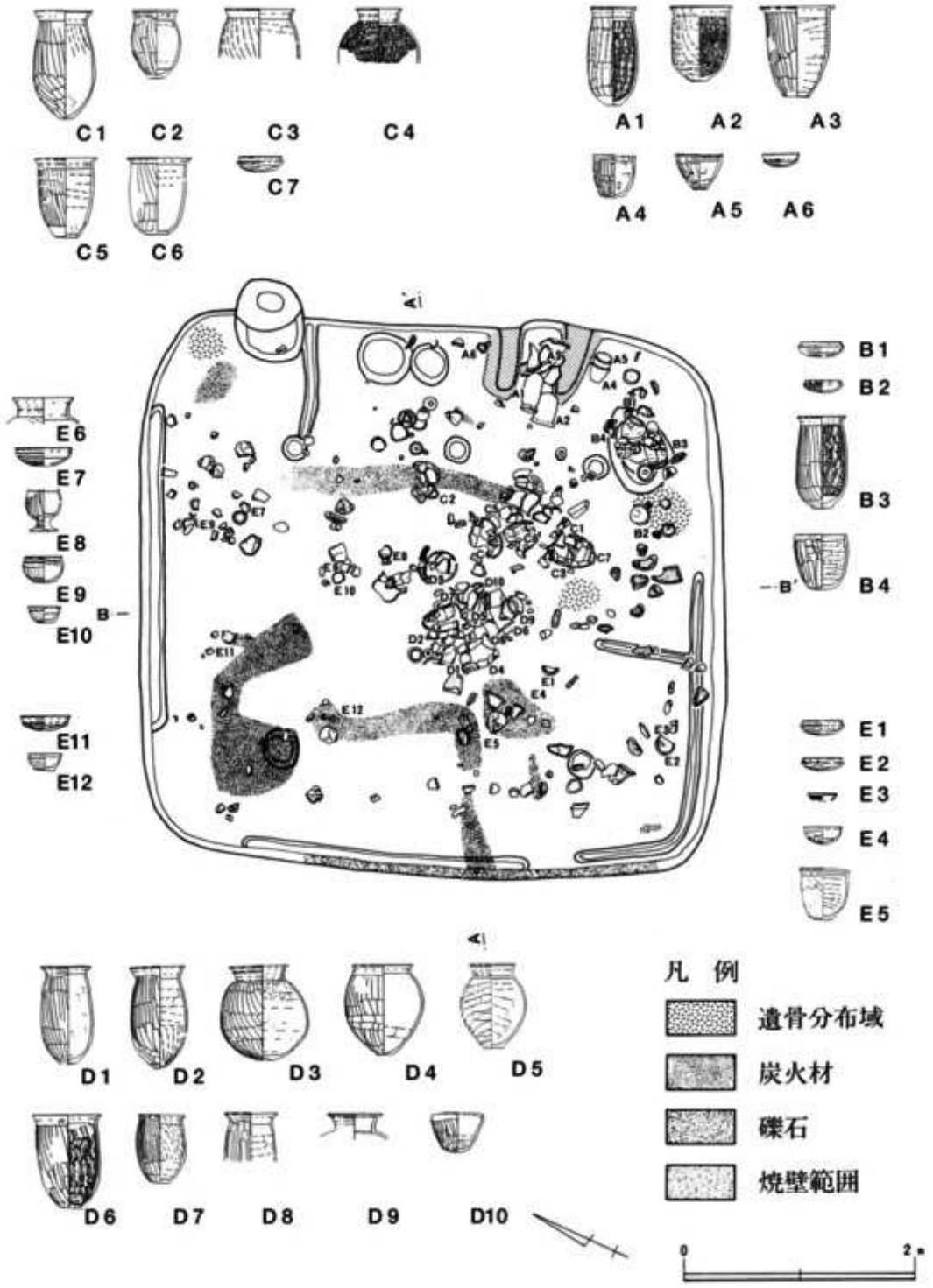
出土遺物の状況

遺骨は潰れていて非常に薄い板状を呈しており、床面に張り付くように検出された。頭骨の一部は貯蔵穴上に延びていてやや離れて足骨と推定できる部分が住居中央にむかって延びていた。住居址床面は非常にぬかるんでおり、遺骨検出状況は良好とはいえない。副葬品といえるようなものの出土はなかったが、石製紡錘車が１点出土している。しかし明確な出土位置については、把握することができなかった。又、住居址北東隅付近からも小骨片が検出されたが本遺骨が拡散したのか別物であるかは明らかになっていない。本遺構においては、遺骨が火災にあったため偶然に骨が残ったものであると推定されるが、骨が残る条件にない環境にあってもこのような事例がある可能性があり、発掘調査にあたっては遺物の出土状況に注意すべきである。

出土遺物については、甕を主体に多くの遺物が出土している。特に甕の出土量は一世帯での甕の使用量としては多すぎると考えられる。又、出土場所も集中する傾向があることからなんらかの儀礼的行為が関係していると推定できよう（第116図）。尚、遺物の時期については、若干古い様相を残す個体もあるものの鬼高Ⅱ式の範疇に収まるものである



第116図　第９号住居址断面透視図



第117図　第９号住居址遺物分布図

3．小　結

前述のように第９号住居址は火災住居から遺骨が出土した点で注目すべき遺構である。ただし、検出した骨についての専門家の鑑定がまだ行われていないこともあり、人骨という確証がないので仮定の上に基づいて論を進めることにお許しをいただき、推論をのべることで小結にしたいと思う。

遺物分布の状態

この住居址の大きな特徴は住居址内の土器の分布状態についてである。土器は大きく分けて二形態の分布状態のあることが第117図より見て取ることができる。第一はカマド、貯蔵穴および、壁周辺から出土したものであり、（第117図Ａ・Ｂ・Ｅ群）土器の器種は多岐にわたっている。住居が廃絶される以前の生活用品として原位置を留めた土器群であったと考えられる。特に壁に沿って小型の土器が多い傾向にある。第二はカマド西側と住居址中央付近（第117図Ｃ・Ｄ群）にまとまって出土しているものであり、これらは甕を主体としている。住居址の断面観察や床面からはそれに伴う後の掘込みは検出していない。このことから前記の二形態には大きな時間差がないと推定できる。また後者の形態は出土量の多さから生活用品として使用されていた甕ではなく、廃棄時またはそれ直後になんらかの理由で再配置されたものと推測される。更に甕集中地点は二カ所（Ｃ．Ｄ群）に存在しており、同時期ないしは数日から数週間という短い時間差の間に二度にわたり配置されたと考えられる。又、住居址内の遺物にはすべてに灰が覆っており、火災が土器の配置後に起きたのは確実である。この火災が起きた原因は、偶然の失火ではなく何らかの思惟が関与した人為的な放火であったことを示唆するものである。更に、出土遺物は手捏、臼玉等の祭祀的遺物は皆無であり、かつ甕集中区からの坏の出土も少ない。

第９号住の意義

以上のことから、この住居址の廃棄形態については一般の神事に伴う祭祀ではなく、死者を葬う「殯」的要素を含んだ葬送儀礼の形態であったのではないかと推測している。この結果は、山川氏が城北遺跡（山川、1995）の人骨が出土した住居の考察より結論付けた結果と類似するものであった。更に本住居址の特徴として前述の城北遺跡検出の住居址とは、次のような共通した要素があることが明らかになった。１．人骨が床面にあり被覆土・埋め戻し・掘込みがない。２．カマド及び周辺に完形土器が放置されている。３．上屋が架かっている状態で遺体が置かれている。４．屋内葬のような葬送儀礼が行われている。５．集落最終期の住居である。以上のような共通要素の中でやはり着目しなければならないことは、「屋内葬のような葬送儀礼が行われている」という仮説が成り立つことであり、今後、藤塚遺跡や城北遺跡のような検出例が増加すれば、あまり明らかにされていない古墳時代後期における一般民衆の葬送儀礼についてもある程度復元することが可能になるであろう。　　（徳山寿樹）

註

出土した遺骨の詳細な分析が行われないまま当時（1991年）の新聞報道や第24回埼玉県遺跡発掘調査報告会（徳山、1991）で出土した遺骨が人骨であると発表されるに至った経過については、現場担当者の観察に基づくものであり専門家の鑑定を経ていないことは資料を取り扱う上で注意をして頂きたい。ついては、できるだけ早く専門家に分析を依頼しその結果を報告する所存である。又、現地において遺骨取り上げの指導をして頂いた岩本克昌氏ならびに埼玉県立埋蔵文化財センターに感謝の意を表したい。

引用・参考文献

大屋道則　(1995)「5．土器(1) 模倣坏の製作痕跡と製作過程」『城北遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第150集

大屋道則　(1994)「Ⅳ　結語（鬼高期から真間期の遺物について）」『清水上遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第152集

恋河内昭彦(1990)『真鏡寺後遺跡Ⅲ』 児玉町文化財調査報告書　第14集

恋河内昭彦(1993)『川越田遺跡Ⅱ』 児玉町遺跡調査会報告書　第5集

恋河内昭彦(1995)『飯玉東Ⅱ・高縄田・樋越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴巻・毛無し屋敷・石橋』 児玉町文化財調査報告書　第17集

田村誠他　(1994)『庚申塚遺跡・愛染遺跡・安保氏館跡・諏訪ノ木古墳』 神川町教育委員会文化財調査報告　第11集

篠崎潔也　(1995)『真下境西・反り町・八荒神北・八荒神南遺跡』 神川町教育委員会文化財調査報告　第12集

菅谷浩之他(1990)『秋山古墳群』 児玉町史資料調査報告　古代第2集

鈴木徳雄他(1983)『阿知越遺跡』 児玉町文化財調査報告書　第3集

鈴木徳雄　(1989)「九郷用水の開鑿年代」『九郷用水関係資料集』 児玉町史資料調査報告第12集

鈴木徳雄他(1993)『辻ノ内・中下田・塚畠・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第15集

徳山寿樹　(1991)「児玉町藤塚遺跡B地点の調査」『第24回遺跡発掘調査報告会発表要旨』 埼玉考古学会他

徳山寿樹他(1994)『平塚・左口・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書　第16集

徳山寿樹他(1995)『堀向・藤塚A・柿島・内手B・C・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書　第18集

長滝歳康　(1991)『白石古墳群・羽黒山古墳群』美里町遺跡発掘調査報告書　第7集

長滝歳康　(1992)『後山王遺跡－B・C地点－』美里町遺跡調査会報告書　第1集

増田一裕　(1992)『女堀川条里今井地区前田甲遺跡発掘調査報告書－遺構編－』 本庄市埋蔵文化財調査報告　第20集　第1分冊

山川守男他(1995)『城北遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第150集

山川守男　(1996)「人骨を伴う古墳時代後期の住居跡－埼玉県深谷市城北遺跡－」『すまいの考古学－住居の廃絶をめぐって』 山梨県考古学協会1996年度研究集会　資料集

図　　版

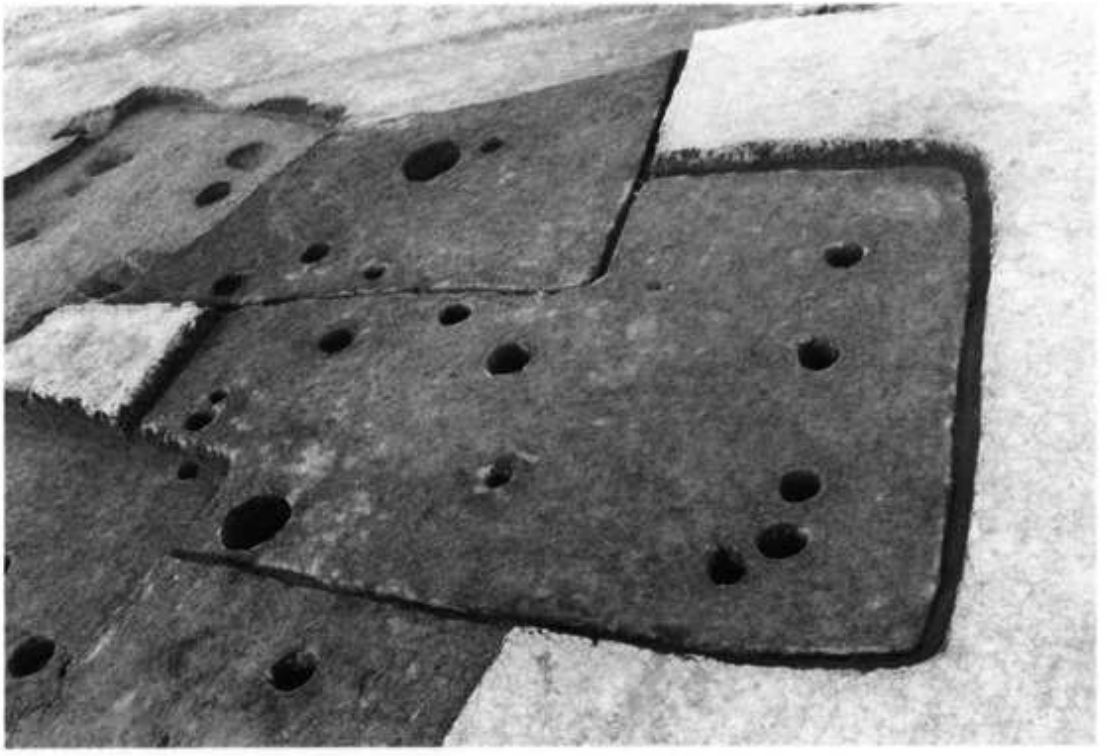
図版1

1．調 査 前 近 景

2．表 土 除 去 作 業

図版2

1．第3号住居址（北西より）



2．第4号住居址（南東より）

図版3

1．第5号住居址（南西より）

2．第5号住居址遺物出土状態（南西より）

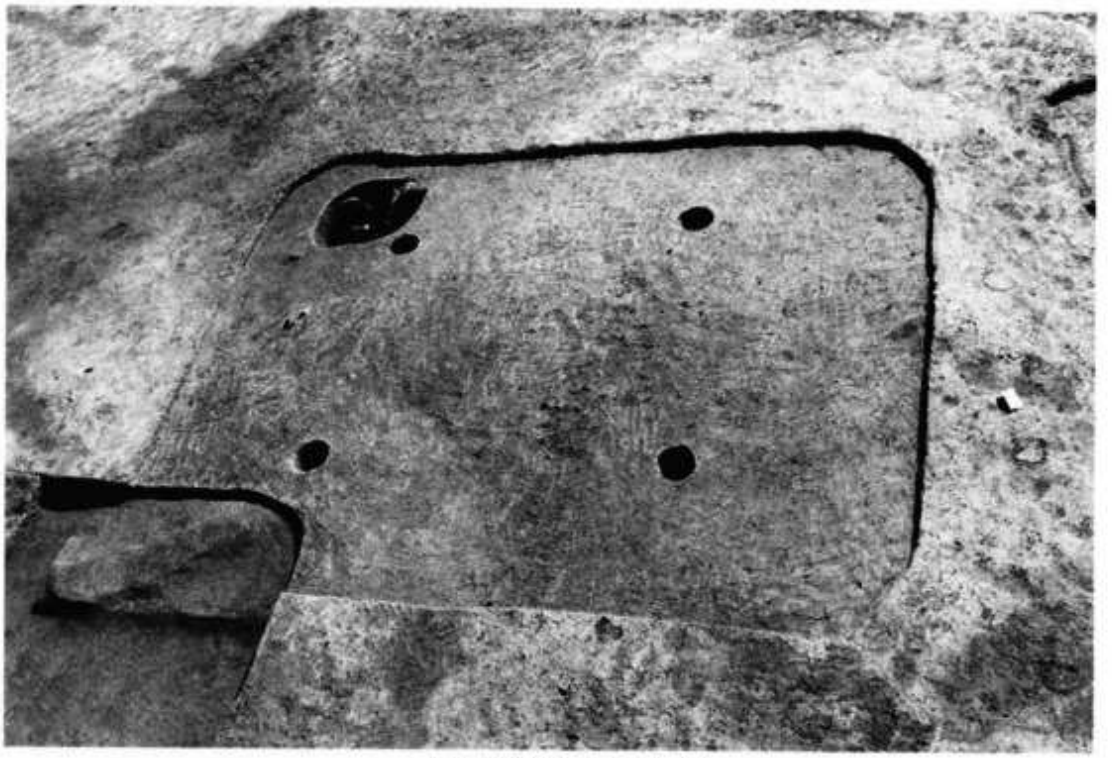
図版4

1．第5号住居址カマド（南西より）

2．第5号住居址貯蔵穴

図版5

1．第6号住居址（南東より）



2．第7号住居址（北西より）

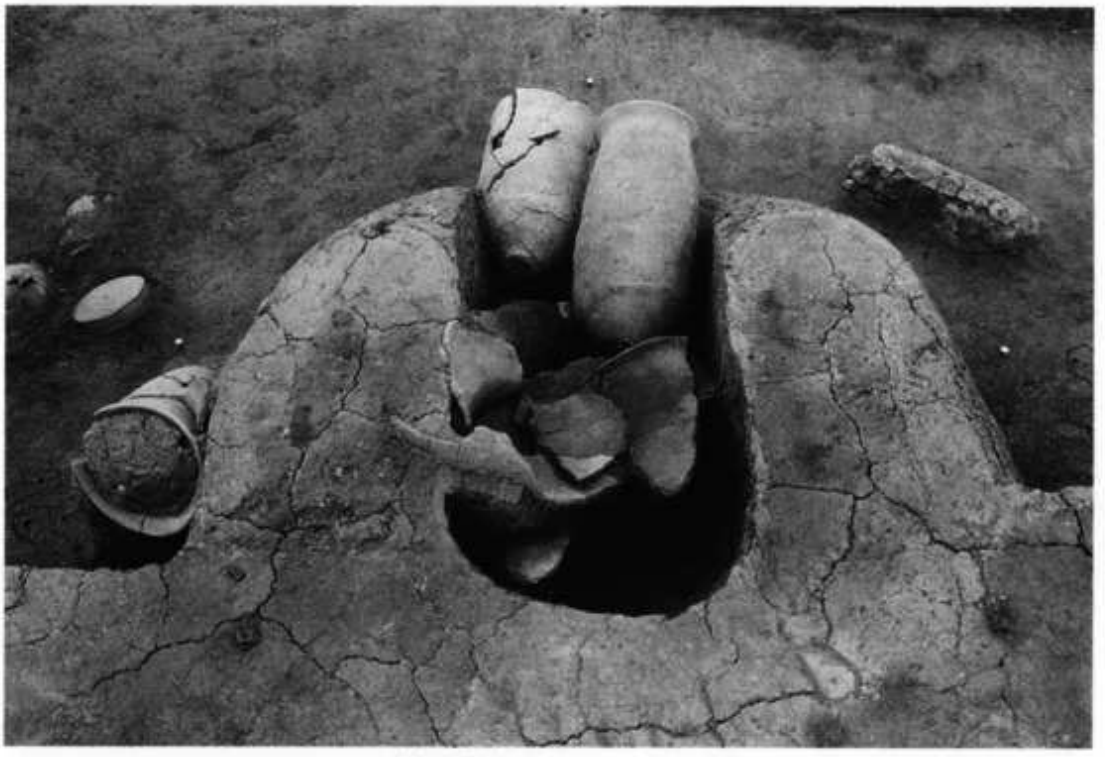
図版6

1．第8・9号住居址（南より）

2．第8号住居址遺物出土状態（南より）

図版7

1．第9号住居址遺物出土状態（南より）



2．第9号住居址カマド（東より）

図版8

1．第9号住居址カマド（西より）

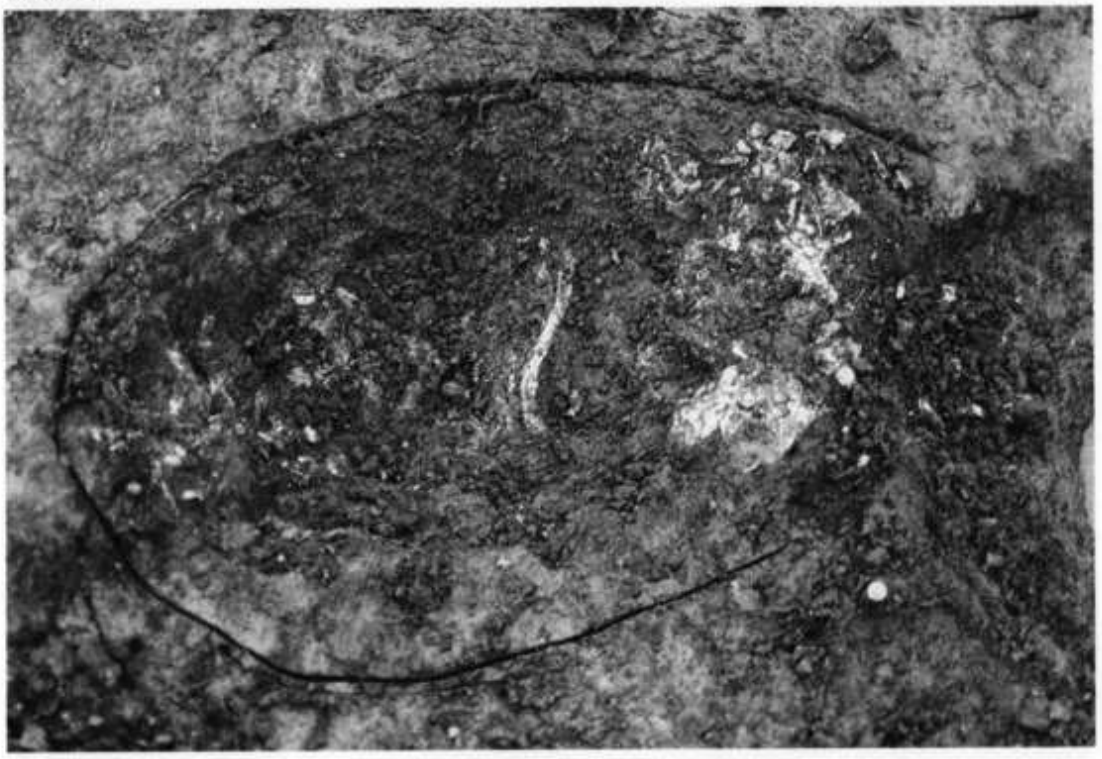
2．第9号住居址貯蔵穴

図版9

1．第9号住居址遺物出土状態

2．第9号住居址遺物出土状態

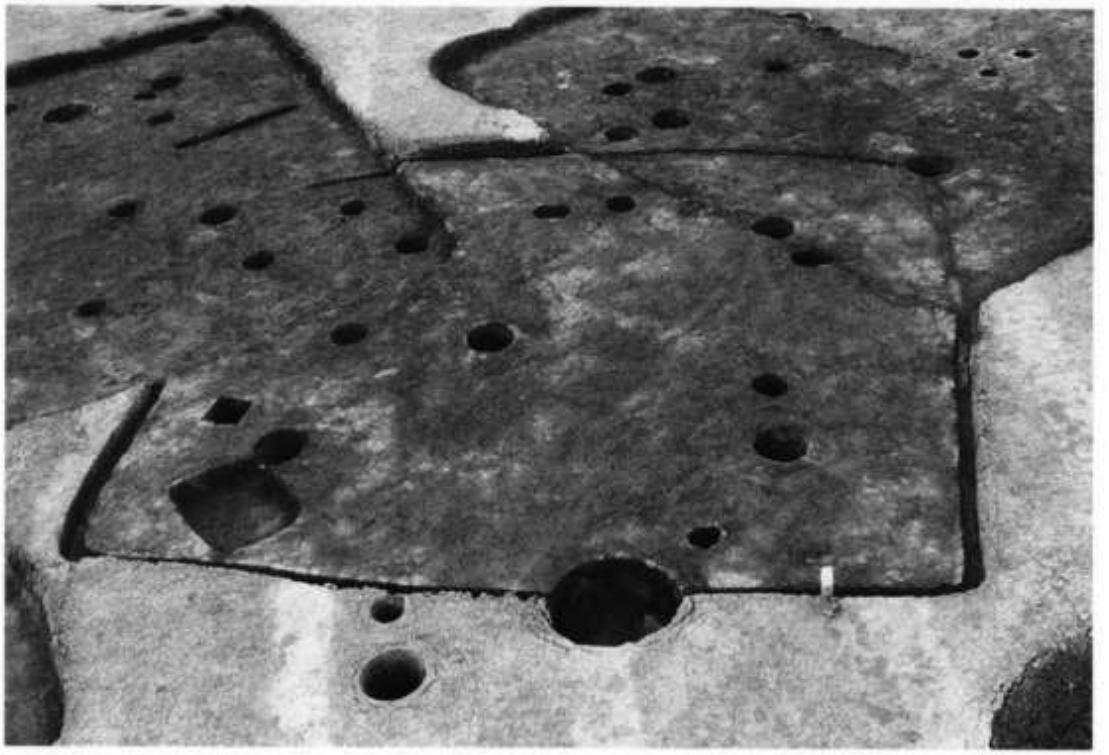
図版10



1．第9号住居址遺骨出土状態

2．調　査　風　景

図版11



1．第11号住居址（東より）

2．調 査 風 景

図版12

1．第13号住居址（東より）

2．第13号住居址遺物出土状態（東より）

図版13

1．第14号住居址（北より）

2．第14号住居址遺物出土状態（東より）

図版14

1．第14号住居址カマド（西より）

2．調　査　風　景

図版15

1．第17号住居址（西より）

2．第17号住居址遺物出土状態

図版16

1．第18a・18b号住居址（東より）

2．第18a号住居址遺物出土状態

図版17

1．第18a号住居址カマド（東より）

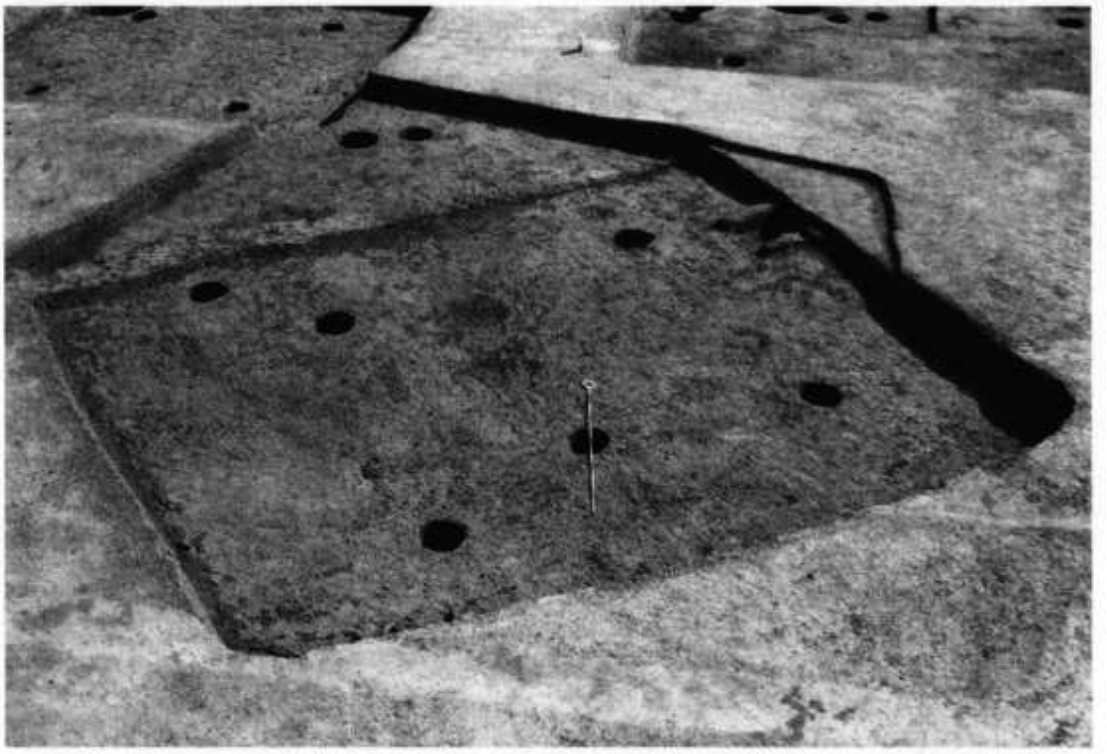
2．第18a号住居址貯蔵穴

図版18

1．第19号住居址（西より）

2．第19号住居址カマド（西より）

図版19

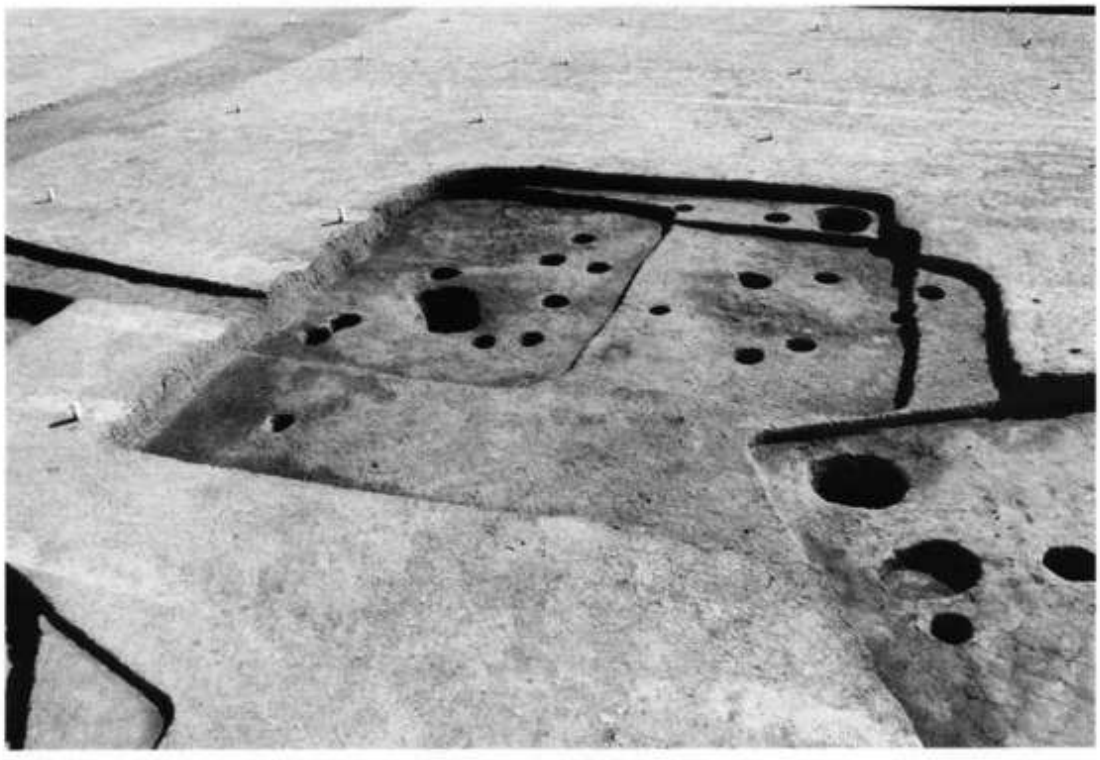


1．第20・21号住居址（北より）

2．第20号住居址カマド（北東より）

図版20

1．第22号住居址遺物出土状態（西より）



2．第22·23·24·25号住居址（北より）

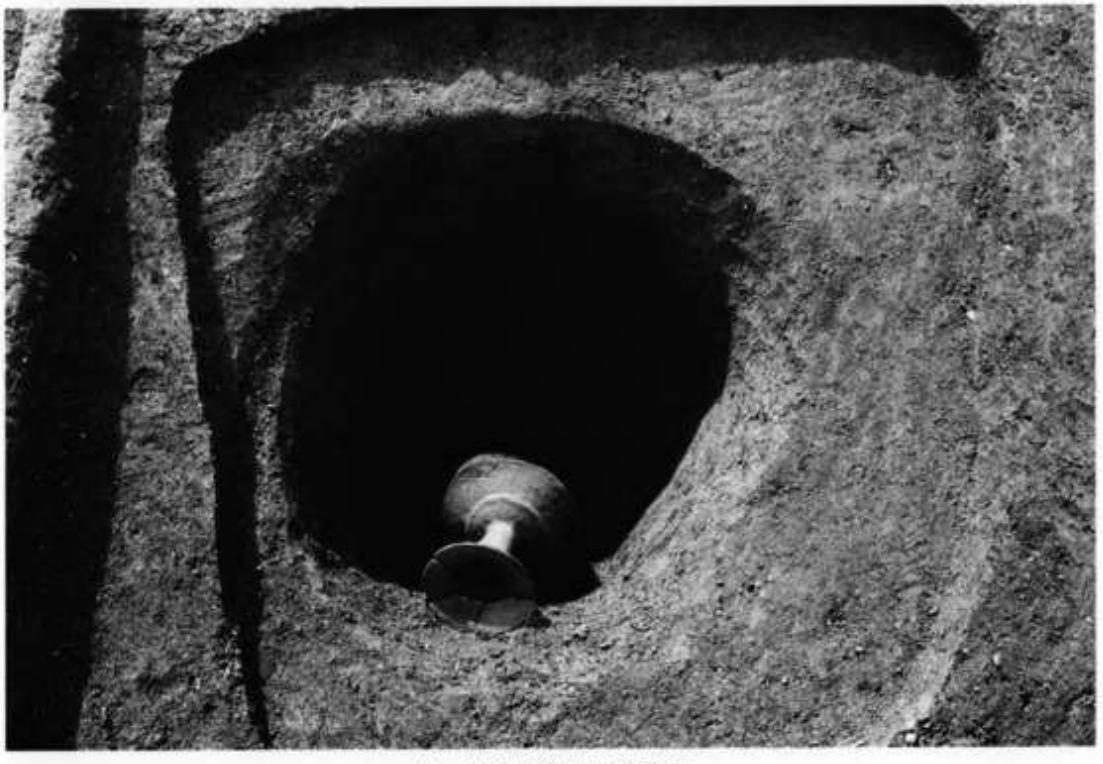
図版21

1．第26·27号住居址（北東より）

2．第26号住居址カマド（東より）

図版22

1．第26号住居址カマド下土壙



2．第27号住居址貯蔵穴

図版23

1．第28・29・30号住居址（南東より）

2．第30号住居址遺物出土状態

図版24

1．第30号住居址（北東より）

2．第31·37号住居址（西より）

図版25

1．第31号住居址カマド（西より）

2．第33a・b号住居址（西より）

図版26

1．第33a号住居址カマド（西より）

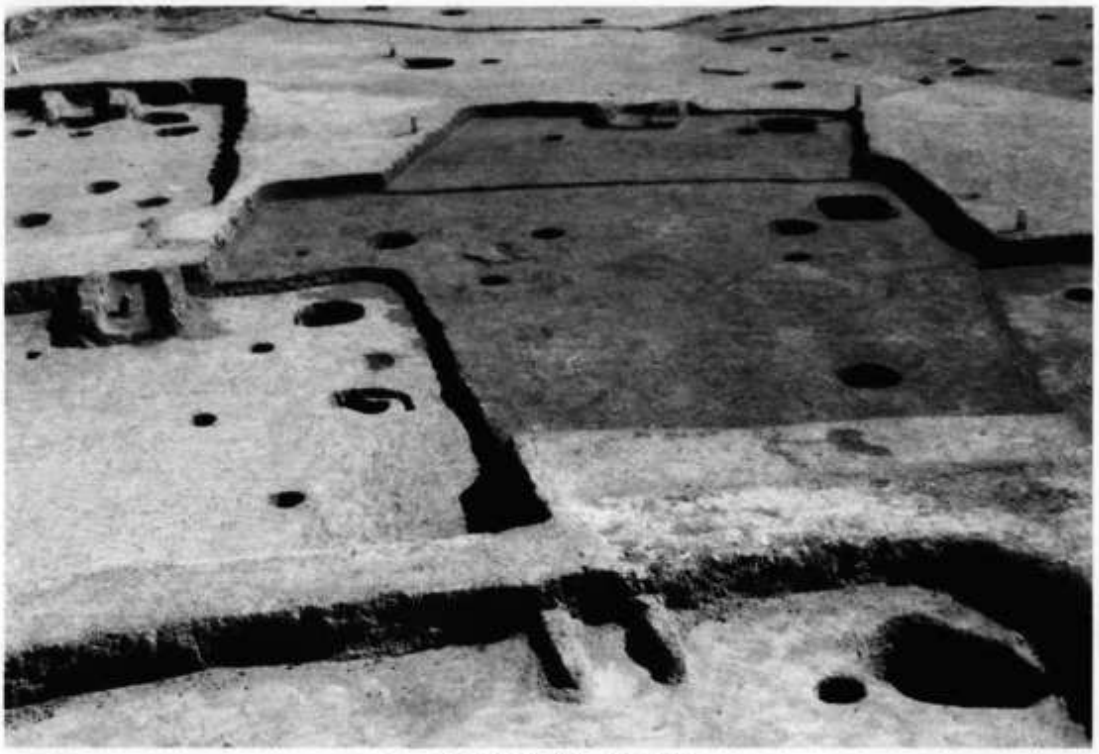
2．調　査　風　景

図版27

1．第9・10・26・27号住居址（南より）

2．調　査　風　景

図版28



1．第34号住居址（西より）

2．第35・36号住居址（南西より）

図版29

1．全　　景（西より）

2．全　　景（東より）

図版30

3－1

4－1

5－8

5－5

5－9

5－10

5－12

5－15

5－13

5－16

5－18

第3・4・5号住居址出土遺物

図版31

5－1

5－3

5－2

5－4

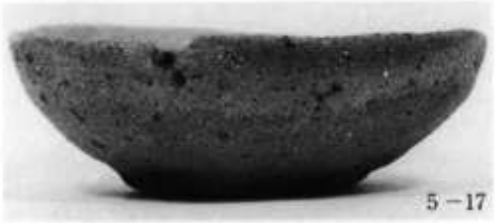
5－7

5－11

5－13

第5号住居址出土遺物(2)

図版32


5－17

6－2

7－1

8－2

8－1

9－15

9－32

第5・6・7・8・9号住居址出土遺物

図版33

9－2

9－5

9－6

9－37

9－10

第9号住居址出土遺物(2)

図版34

9－3

9－4

9－9

9－22

第9号住居址出土遺物(3)

図版35

9－8

9－12

9－13

9－11

9－19

第9号住居址出土遺物(4)

図版36

9－14

9－20

9－16

9－21

9－33

9－36

9－39

第9号住居址出土遺物(5)

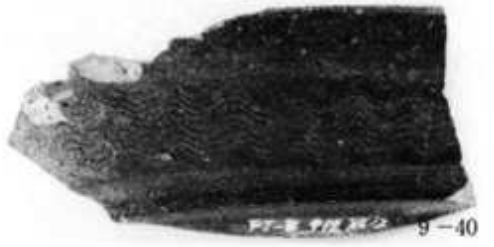
図版37

9－23

9－24

9－35

9－25



9－40

11－1

第9・11号住居址出土遺物

図版38

11－2

11－5

11－3

13－1

13－2

13－9

第11・13号住居址出土遺物

図版39

13－3

13－4

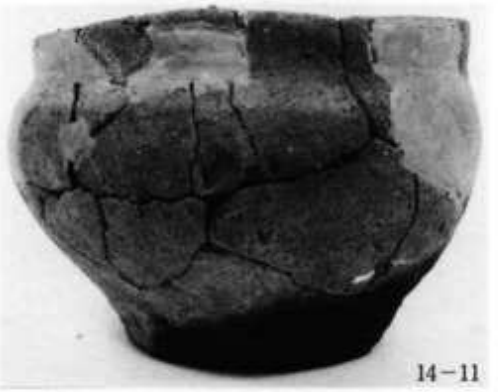
13－6

13－7

13－8

13－10

14－9


14－11

第13・14号住居址出土遺物

図版40

14－1

14－3

14－8

14－12

14－13

14－17

第14号住居址出土遺物(2)

図版41

14－4

14－10

14－19

14－14

14－15

14－20

14－16

14－18

第14号住居址出土遺物(3)

図版42

16－1

17－1

17－4

17－3

17－6

17－7

17－8

17－9

第16・17号住居址出土遺物

図版43

17－10

17－11

18a－2

18a－1

18a－3

18a－6

第17・18a号住居址出土遺物

図版44

18a－4

18a－5

18a－7

18a－8

18a·b－1

19－5

19－7

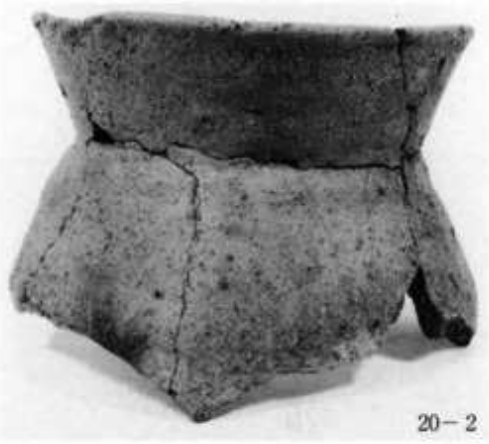
19－8

第18a・b・19号住居址出土遺物

図版45

19－1

19－2


20－2

19－3

19－4

20－6

20－7

第19・20号住居址出土遺物

図版46

20－1

20－4

20－11

20－5

20－8

20－13

第20号住居址出土遺物(2)

図版47

20－9

21－2

20－10

22－5

22－4

22－7

22－6

第20・21・22号住居址出土遺物

図版48

22－8

22－20

22－11

22－21

22－13

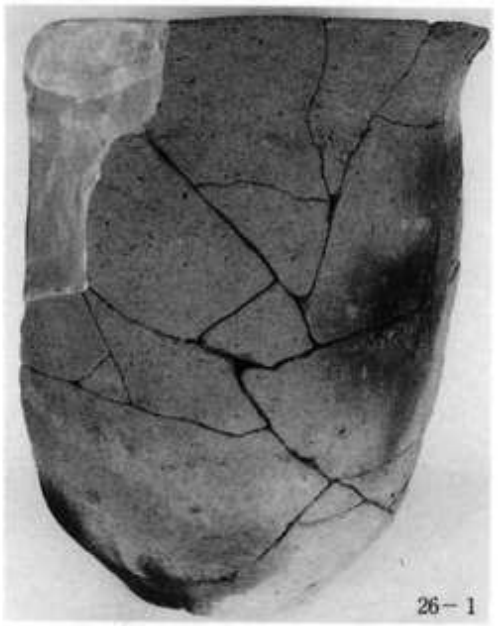
22－22

22－18

26－8

第22・26号住居址出土遺物

図版49

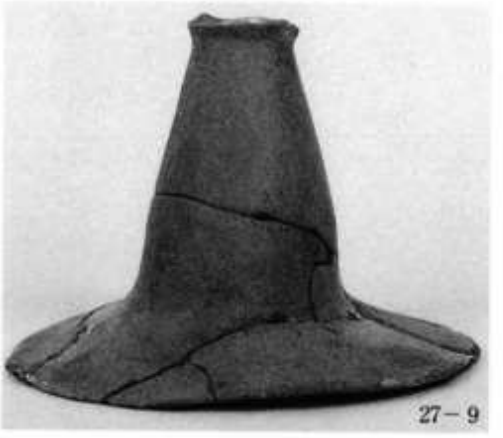

26－1

26－2

26－5

27－6

26－7


27－9

第26・27号住居址出土遺物

図版50

27－2

27－3

30－3

30－8

30－17

30－16

第27・30号住居址出土遺物

図版51

30－9

30－20

30－14

30－19

30－15

30－22

30－23

30－24

31－10

第30・31号住居址出土遺物

図版52

31－1

31－2

31－4

31－6

31－9

31－13

第31号住居址出土遺物(2)

図版53

31－3

31－5

31－7

31－8

32－5

32－3

第31・32号住居址出土遺物

図版54

32－2

32－6

33a－1

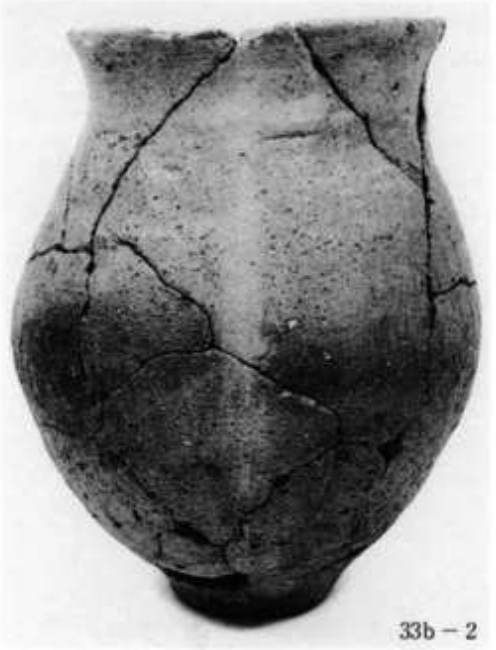
33a－2

33b－1

33b－3

第32・33a・b号住居址出土遺物

図版55


33b－2

33b－10

33b－11

33b－5

33b－12

33b－6

33b－9

34－1

第33b・34号住居址出土遺物

図版 56

34－2

34－3

35－3

35－5

36－2

36－6

第34・35・36号住居址出土遺物

図版57

36－3

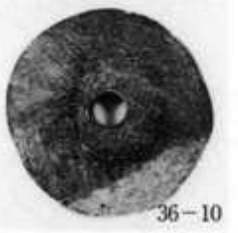
36－4

36－5

36－7

36－9

9－41


36－10

30－29

30－30

4－2

13－14

第4・9・13・30・36号住居址出土遺物

報告書抄録

フリガナ	フジヅカイセキ B２ チテン		
書　名	藤塚遺跡B２地点		
副書名	町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書	巻　次	17
シリーズ	児玉町文化財調査報告書	巻　次	第22集
編集者	徳　山　寿　樹		
編集機関	児玉町教育委員会		
所在地	〒367－02　埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368番地　TEL 0495(72)1331		
発行日	1996(平成８）年３月21日		

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯 (°′″)	東経 (°′″)	調査期間	調査面積 m²	調査原因
フジヅカイセキ 藤塚遺跡 （B２チテン B２地点）	コダマグンコダママチオオアザ 児玉郡児玉町大字 ヒルカワアザカシマ 蛭川字柿島他	113824	017	36°12′43″	139°9′5″	19890925 ～ 19900316	2,081	県営 圃場整備

所収遺跡	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
藤塚遺跡 （B２地点）	集落	縄　文		土器片	付近に包含層
		古墳前期	竪穴住居４	土器	
		古墳中期	竪穴住居９	土器	
		古墳後期	竪穴住居18	土器・遺骨	火災住居より遺骨が出土
		古墳時代	竪穴住居７		詳細な時期不明
		平安時代	竪穴住居１	土器	
			土壙・溝・井戸		詳細な時期不明

児玉町文化財調査報告書第22集

藤塚遺跡Ｂ２地点

町内遺跡発掘調査に伴う発掘調査報告書

平成８年３月21日印刷

平成８年３月21日発行

発行者　児玉町教育委員会
埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368

印刷所　たつみ印刷株式会社
埼玉県深谷市東大沼356